



労働政策研究報告書 No. 87

2007

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

中学生、高校生の職業レディネスの発達

— 職業レディネス・テスト標準化調査の分析を通して —

労働政策研究・研修機構

中学生、高校生の職業レディネスの発達

— 職業レディネス・テスト標準化調査の分析を通して —

まえがき

「職業レディネス・テスト」は、1972年に、当研究機構の前身である職業研究所によって開発された検査である。中学生、高校生の職業的な発達の準備度、すなわち「職業レディネス」を測定することを目的としており、公表以来、中学校、高等学校での進路指導、職業指導に広く活用されるようになった。

初版の発行にともなってまとめられた職業研究所の研究紀要には、研究開発の目的と背景として次のようなことが書かれている。「1970年代は、激しい変化の時代であるといわれる。個人の欲求は多様化し、変容する。一方、職業の世界も、質、量両面にわたって変化を遂げていく。このような多様化と変化のときこそ、進路指導（職業指導）の真価が問われるときであり、進路指導の基本理念にそった実践活動の展開が期待される時代でもある」（職業研究所,1974）。この後、検査の改訂は1989年に実施されたが、初版から35年、改訂版の発行からも18年を経て、ここで述べられた1970年代の時代の変化は一層その傾向を強めて今日に至っている。特に近年のめざましい情報化社会の発展は、産業や職業の世界を大きく変化させただけでなく、若者の生活スタイルや価値観や行動にも大きな影響を及ぼしている。早期離職、非正規就業の増大など、若者と職業選択をめぐるさまざまな問題が起こっている。

「職業レディネス・テスト」の改訂は、このような社会全体、若者の意識の変化を踏まえ、2003年の秋から着手された。そして、2006年に完成、公表された。開発理念は「自己理解を通じて職業探索へ、職業探索を通じて自己理解へ」であり、これは初版、第2版を通して一貫して不変である。ただ、時代の流れとともに、中学生、高校生という早い時期からの進路指導や職業意識を啓発するような試みが必要な時代になっている。

本報告書は、3年半にわたって実施された「職業レディネス・テストの改訂に関する研究」の過程で得られた資料を標準化調査の分析を中心としてまとめたものである。標準化調査では、サンプリングの手続きを踏まえた後、全国の中学生約11,000名、高校生約17,000名のデータを収集した。このような形で中学生、高校生の職業興味を扱った大規模な調査は近年、他に実施されていないことから貴重なデータである。現代の中学生、高校生の職業興味あるいは職業レディネスの現状をありのままに捉え、伝えることができれば幸いである。

最後になるが、「職業レディネス・テスト」の改訂に際してご協力をいただいた全国各地の中学校、高等学校、その他関係者各位に対し、深甚なる謝意を表するものである。

2007年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 小 野 旭

執筆担当者（執筆順）

氏 名	所 属	執 筆 章
館 暁夫	西南学院大学 人間科学部 教授	第 1 章
室山 晴美	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 主任研究員	概要、第 2～4 章、 9 章、総括
上市 貞満	労働政策研究・研修機構 労働大学校 助教授	第 5 章
岩脇 千裕	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 研究員	第 6 章、7 章
安達 智子	大阪教育大学 教養学科 講師	第 8 章
松本 純平	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 統括研究員	第 10 章
笹 のぶえ	東京都立稔ヶ丘高等学校 主幹	第 11 章
杉森 共和	東京都立葛飾総合高等学校 教諭	第 12 章
本間 啓二	日本体育大学 体育学部 助教授	第 13 章

「職業レディネス・テスト改訂のための委員会」（委員会委員一覧 作業部会別）

<手引き部会>

館 暁夫	西南学院大学 人間科学部 教授	(座長)
上市 貞満	労働政策研究・研修機構	労働大学校 助教授
松本 純平	労働政策研究・研修機構	職業相談・就職支援部門 統括研究員
岩脇 千裕	労働政策研究・研修機構	職業相談・就職支援部門 研究員 (2006.4～)

<尺度部会>

安達 智子	大阪教育大学 教養学科 講師
室山 晴美	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 主任研究員
亀井 美弥子	首都大学東京大学院 (臨時研究協力員 2004.6～2004.9)
劉 濱	東京工業大学大学院 (臨時研究協力員 2005.2～2005.9)

<ワークシート部会>

本間 啓二	日本体育大学 体育学部 助教授
笹 のぶえ	東京都立稔ヶ丘高等学校 主幹
杉森 共和	東京都立葛飾総合高等学校 教諭

<オブザーバー>

山形 時雄	社団法人 雇用問題研究会 相談指導部 部長
-------	-----------------------

目 次

概要	3
第 I 部 改訂の概要	
第 1 章 研究の背景・目的	9
1-1 「職業レディネス・テスト」とは	9
1-2 改訂の背景	10
1-3 目標の設定	11
1-4 方法	12
第 2 章 予備調査の概要	14
2-1 予備調査 I (大学生調査)	14
2-2 予備調査 II (中学生、高校生調査)	16
第 3 章 標準化調査の概要	18
3-1 目的	18
3-2 方法	18
3-3 結果	19
第 4 章 「職業レディネス・テスト第 3 版」の完成	25
4-1 手引き、問題用紙、回答用紙、ワークシートの作成	25
4-2 「職業レディネス・テスト第 3 版」の内容	25
4-3 第 2 版からの主な改訂点	30
第 II 部 基礎分析編	
第 5 章 中学生の職業レディネス	33
5-1 本章の目的	33
5-2 分析の対象	33
5-3 分析方法と結果	33
5-4 まとめ	40
第 6 章 高校生の職業レディネス	45

6-1	本章の目的	45
6-2	分析の対象	45
6-3	分析方法と結果	45
6-4	まとめ	53
第7章	第2版と比較した高校生の職業レディネスの変化	59
7-1	本章の目的	59
7-2	分析対象	59
7-3	分析方法と結果	60
7-4	まとめ	69
第8章	A、B、C検査における各尺度の関連性、および、興味と自信の差異	71
8-1	本章の目的	71
8-2	分析の対象	71
8-3	分析方法と結果	71
8-4	まとめ	81
第9章	職業興味の発達指標としての分化度の検討	82
9-1	本章の目的	82
9-2	分析対象	82
9-3	分析方法と結果	83
9-4	まとめ	90
第10章	特別集計に関する分析	93
10-1	本章の目的	93
10-2	分析対象	94
10-3	分析方法と結果	94
10-4	まとめ	105
第Ⅲ部	応用分析編	
第11章	高等学校における学科と職業志向性、基礎的志向性の関連の検討	109
11-1	本章の目的	109
11-2	分析対象	109
11-3	分析方法と結果	110

11-4	まとめ	122
第 12 章	好きな科目、嫌いな科目と職業興味との関連の検討	124
12-1	本章の目的	124
12-2	分析対象	124
12-3	調査方法と結果	124
12-4	まとめ	140
第 13 章	進路決定度、希望職業の有無と分化度との関連の検討	142
13-1	本章の目的	142
13-2	分析対象	142
13-3	分析方法と結果	142
13-4	まとめ	156
総括	得られた知見と今後の課題	158
付録		
1	調査票、調査項目	165
(1)	職業レディネス・テスト標準化調査票	165
(2)	標準化調査回答用紙	177
(3)	職業レディネス・テスト第 3 版検査項目	179
2	基礎統計資料	181
(1)	標準化規準集団の構成	181
(2)	各尺度における学校、学年、男女別平均値と標準偏差	182
(3)	第 3 版各検査項目に対する中学生の全体、学年別、男女別の回答度数	184
(4)	第 3 版各検査項目に対する高校生の全体、学年別、男女別の回答度数	192

概 要

概 要

1 研究の背景と目的

「職業レディネス・テスト」は、中学生、高校生の職業的な発達の準備度、すなわち「職業レディネス」を測定する検査である。この検査の初版は、1972年に公表され、中学校、高等学校での進路指導、職業指導に広く活用されるようになった。

その後、1989年に、第2版の「新版 職業レディネス・テスト」が公表された。この時には、初版の開発意図を引き継ぎつつも、当時、日本に紹介された米国のホルランドの職業選択理論についての考え方を導入した改訂が行われている。

第2版の公表後から今日に至るまでの間、中学校、高等学校の進学率の上昇、就学期間の長期化など、教育の場の状況も大きく変化した。また、情報化技術の発展とともに、職業の世界も大きく様変わりした。こういった教育、社会生活の変化が、中学生、高校生の進路選択や職業選択の考え方に大きな影響を及ぼしている可能性は高い。また、検査そのものについても、各尺度の項目を構成している職業の表現が不的確になったり、理解されにくくなっていることも想定された。

そこで、2003年の秋から改訂の研究を進める準備を行い、2004年から正式に改訂のための研究をスタートした。改訂にあたっては、検査を構成する尺度そのもの見直し、現在の中学生、高校生による規準データの作成、解釈に役立てられるワークシートの開発という3つの目標をたてた。そして、「職業レディネス・テスト 第3版」の問題用紙、回答用紙、ワークシート、手引きの完成をめざすこととした。

2 研究の進め方

(1) 研究期間：平成15年9月～平成19年3月

(2) 委員会の組織：改訂のための委員会を組織し、研究所内外から9名の委員、及びオブザーバーが参加した。委員会の中を手引き部会、尺度部会、ワークシート部会の3つの作業部会に分け、作業を分担した。

(3) 改訂の進行

委員会のメンバー全員で集まる全体会を年に3回程度、作業部会をそれぞれ年に3回程度開催した。全体会で改訂の方針を決め、その後は各作業部会の進捗状況等の報告を行なうなどして、研究を進めた。3年半に行った研究の流れをまとめると以下ようになる。

①改訂方針の決定

②予備調査（大学生、中学生、高校生）の実施

③標準化調査用の検査項目の作成

- ④標準化調査の実施
- ⑤検査項目の決定
- ⑥ワークシートの作成
- ⑦手引きの作成
- ⑧検査一式の完成（印刷、発行）
- ⑨その他（カードソート法等について）の検討

3 改訂の内容

改訂の際に設定した3つの目標に沿って、主な改訂の内容を以下にまとめた。

（1）尺度の改訂

A検査（職業興味）とC検査（職務遂行の自信度）については、新しい項目と差し替えた。第2版で使用していた54項目のうち、12項目に変更があった。10項目が新規に追加され、興味領域が変更となったものが2項目ある。

B検査については第2版までに使われている基礎的志向性という枠組みはそのまま維持した。ただし、問題検査の内容を全面的に作り直した。

（2）換算点の変更

標準化調査によって収集した中学生、高校生のデータを使って、規準を新たに作成した。第2版では換算表は男女別のみとしていたが、第3版では、換算表を中学生、高校生以上用の2種類に分け、その中でそれぞれ男女別に換算点を確認する形式をとるようにした。

また、第2版では標準得点として、尺度毎に母集団の粗点平均値を50、標準偏差を10に換算した数値を用いていたが、第3版ではパーセンタイル順位を採用した。

（3）ワークシートの改訂

第3版では、授業時間内に中学生、高校生が自分で結果の整理をしながら解釈を深められるようなワークシート（A4サイズ見開き6ページ分）を開発した。

ワークシートの中身はWORK1～WORK3という基礎ワークおよびWORKプラスという発展ワークの4つで構成されている。

4 成果の公表

平成18年3月に、第2版の改訂版として「職業レディネス・テスト第3版」の手引き、問題用紙、回答用紙、ワークシートを完成させた。平成18年6月に新聞発表をし、公表した。また、研究の過程で集めたデータを分析し学会で発表したり、「職業レディネス・テスト第3版」の紹介記事を雑誌に掲載した（発表内容は本章末の参考文献を参照）。

5 本報告書の概要

本報告書は第Ⅰ部、第Ⅱ部、第Ⅲ部という3つの部分で構成されている。第Ⅰ部では、第1章から第4章において、改訂の背景や目的、方法、結果、改訂版として完成した「職業レディネス・テスト第3版」の内容を紹介し、今回の改訂に関する研究全体を概観する。

第Ⅱ部と第Ⅲ部は、2005年に実施した標準化調査で得られたデータを分析した結果をまとめたものである。第Ⅱ部は、検査項目そのものをいろいろな観点から分析した結果をまとめた。第5章では中学生を対象として、A検査、B検査、C検査の結果をもとに、職業興味、基礎的志向性、職務遂行の自信度に関する学年や男女差等を検討した。第6章は、高校生に関して、第5章と同じ分析を行ない、中学生、高校生の比較を行った。第7章では、今回の改訂で選択された項目を使い、第2版との回答傾向の違いを検討した。第8章は、A検査、B検査、C検査の下位尺度間の関連や、A検査とC検査の結果のずれを検討した。第9章は、一人の生徒において各検査で最も得点の高かったところと低かったところの差を算出し、それを「分化度」して定義し、「分化度」における学年や男女間で差を比較した。第10章は、検査の結果を深く解釈するために用意されている「特別集計」の部分に関して、標準化データの分析結果からわかることを検討した。

第Ⅲ部は、検査項目への回答に加えて、標準化の際に検査と一緒に回答してもらったアンケート項目（好きな科目、嫌いな科目、進路への準備度など）や、検査項目への回答と生徒の所属する学科との関連をみたものである。第11章では、高校生を対象として、所属する学科により職業興味、基礎的志向性、職務遂行の自信度がどのように違うかを検討した。第12章では、中学生、高校生を対象として、学校の授業の好きな科目、嫌いな科目と職業興味との関連を検討した。第13章では、将来の進路や仕事をどの程度考えているかというアンケート項目への回答が、「分化度」とどのように関連するかを検討した。

最後の付録には、改訂にあたって算出した統計資料や、参考となる基礎資料をまとめて掲載した。

なお、本報告書は各章を分担執筆で作成した。そこで、尺度の名称や説明の表記に関して、統一をはかることを検討したが、例えばホルランドの職業興味の「現実的領域」については、正式名称で書いた方がわかりやすい場合と、図表の解釈のようにR領域と略称で表記した方が読みやすい場合がある。そのため、各章での表記の統一はあえて行っていない。下記に検査名や尺度名の表記をまとめたので、お読みになるときの参考にしていただきたい。

また、本報告書では標準化調査の分析に重点をおいているため、第Ⅰ部で検査の内容については触れているものの、検査の実施方法や解釈の方法等など、検査自体の内容に関しては、詳しく解説していない。これらについて詳しく知りたい方は、「職業レディネス・テスト第3版」の手引きをご参照いただきたい。

図表 1-1 表記名の対応

検査名の表記	職業レディネス・テスト→VRT (Vocational Readiness Test の略)
	A 検査→A テスト、B 検査→B テスト、C 検査→C テスト
尺度名の表記	現実的領域→R 領域、R 尺度、研究的領域→I 領域、I 尺度など
	対情報関係志向→D 志向、対人関係志向→P 志向など

<参考文献>

- Holland,J.L. 1985 Making Vocational Choices,2nd.ed. Prentice-Hall. (渡辺三枝子・松本純平・館 暁夫 共訳 1990 「職業選択の理論」 雇用問題研究会)
- 雇用職業総合研究所 1989 新版職業レディネス・テスト関連資料集 職研資料シリーズ II-33
- 松本純平・室山晴美・館 暁夫・安達智子・上市貞満・本間啓二・笹のぶえ・杉森共和・亀井美弥子・山形時雄 2004 「職業レディネス・テスト」の改訂に関する研究Ⅰ—改訂の経緯 日本進路指導学会第 26 回研究大会論文集,104-105.
- 松本純平・室山晴美 2005 「職業レディネス・テスト」の標準化調査の分析Ⅰ —標準化調査の概要」 日本キャリア教育学会第 27 回研究大会論文集,71-72.
- 松本純平・室山晴美 2006 職業レディネス・テスト第 3 版の開発Ⅰ 日本キャリア教育学会第 28 回研究大会発表論文集, 98-99.
- 室山晴美 2006 職業レディネス・テスト「第 3 版」の開発 職業研究 p.48-53. 雇用問題研究会
- 室山晴美・松本純平・館 暁夫・安達智子・上市貞満・本間啓二・笹のぶえ・杉森共和・亀井美弥子・山形時雄 2004 「職業レディネス・テスト」の改訂に関する研究Ⅱ—新しい B 検査の作成に向けた予備調査の実施と結果—」 日本進路指導学会第 26 回研究大会発表論文集,106-107.
- 室山晴美・松本純平 2005 「「職業レディネス・テスト」の標準化調査の分析Ⅱ —新しい B 検査の信頼性と高校生の基礎的志向性の検討—」 日本キャリア教育学会第 27 回研究大会発表論文集,73-74.
- Muroyama,H. & Matsumoto,J. 2006 The Change of Vocational Interests among Junior and High School Student. Japan Labor Review, vol.3, No.2, 74-90.
- 室山晴美・松本純平 2006 職業レディネス・テスト第 3 版の開発Ⅱ 日本キャリア教育学会第 28 回研究大会発表論文集, 100-101.
- 労働政策研究・研修機構 2006 「職業レディネス・テスト第 3 版手引」 雇用問題研究会
- 職業研究所研究紀要 7 1974 職業研究所

第 I 部 改訂の概要

第 I 部では、「職業レディネス・テスト」の改訂の背景や方法を報告した上で、最終的に開発された「職業レディネス・テスト第 3 版」の概要を紹介する。なお、第 I 部の内容は、「職業レディネス・テスト第 3 版手引」における記述に加筆、修正等の編集を行い、作成した。

第1章 研究の背景・目的

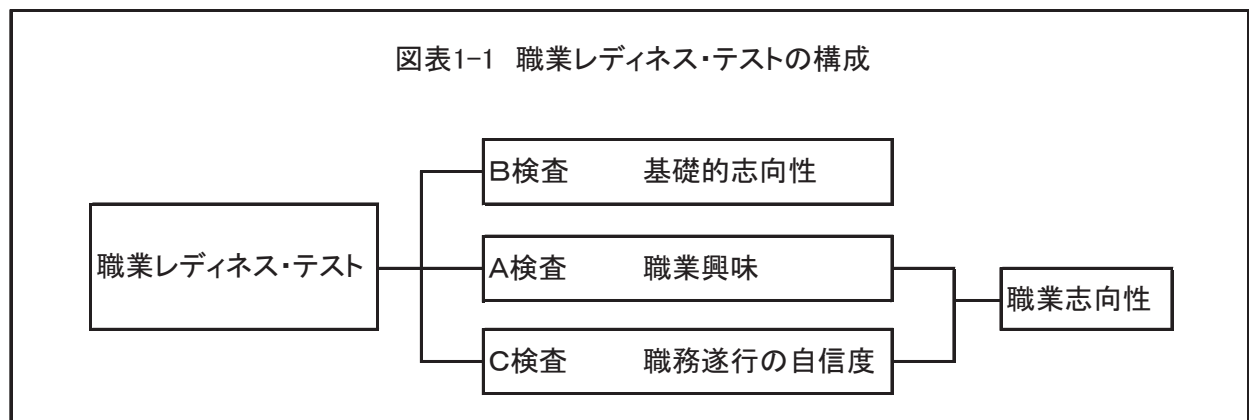
1-1 「職業レディネス・テスト」とは

「職業レディネス・テスト (Vocational Readiness Test)」の「レディネス」とは、準備(用意)ができているということ、という意味であるが、心理学では、ある発達段階でのいろいろな課題を解決するために必要とされる個人的な条件を問題とするときに使われる概念である。したがって、「職業レディネス」は、職業的発達における準備の程度を示す概念であり、一言でいえば「個人の根底にあつて、将来の職業選択に影響を与える心理的な構え」と定義することができる。

「職業レディネス」には、いわゆる態度的な側面(職業に対する興味、職務遂行の自信度、職業選択に対する認知のパターン、職業観など)のほかに、能力的側面(職業に関する情報の取得度、選択課題解決能力、意思決定のパターンなど)が含まれる。

そこで、「職業レディネス・テスト」では、職業に対する興味、関心を測るとともに、その職業に関する職務遂行の自信度についても捉え、総合的に解釈を行う。また、興味や自信がどの程度分化しているか、全体的なレベルはどうかという観点からの解釈も行い、生徒の職業興味の発達という観点からその全体像を理解するような視点も含むものである。このように、ただ単に興味の特徴だけを捉えて職業とのマッチングを行うのではなく、総合的な観点から個人の特徴を捉えようとする意図を含んでいることから、「職業レディネス・テスト」は、単なる興味検査ではなく、職業レディネスを測るための検査として位置づけられる。

そこで、「職業レディネス・テスト」は、職業興味を測定するA検査、基礎的志向性(日常生活場面での興味の方向)を測定するB検査、職務遂行の自信度を測定するC検査で構成される(図表1-1)。



1-2 改訂の背景

職業レディネス・テストの初版は 1972 年に開発され、それ以来、中学生、高校生の職業的な発達の準備度、すなわち「職業レディネス」を測定する検査として、広く活用されてきた。

「職業レディネス」を A 検査から C 検査までの 3 つの検査で捉えるという点は、現在に至るその後の版と共通であるが、初版では職業興味を測定する A 検査と職務遂行の自信度を測定する C 検査が 8 つのクラスターで構成されていた点が特徴である（職業研究所研究紀要，1974）。

その後、1989 年に、第 2 版の「新版 職業レディネス・テスト」が公表された。この時には、初版の開発意図を引き継ぎつつも、当時、日本に紹介された米国のホルランドの職業選択理論についての考え方を導入し(Holland, 1985)、A 検査と C 検査は、ホルランドによる職業興味 の 6 領域の枠組みで構成されるという改訂が行われた。

なお、B 検査の基礎的志向性については、対情報関係志向(Data)、対人関係志向(People)、対物関係志向(Thing)という 3 つの枠組みでの整理が採用されている。これは、初版も第 2 版も同一である。検査結果の整理の枠組みを図表 1-2 に示す。

図表 1-2 検査結果の整理の枠組み

A 検査、C 検査：職業興味（Holland の職業興味 の 6 領域）	
現実的興味領域(Realistic)	機械や物を対象とする具体的で実際的な仕事や活動を好む
研究的興味領域(Investigative)	研究や調査などのような研究的、探索的な仕事や活動を好む
芸術的興味領域(Artistic)	音楽、美術、文芸など芸術的領域での仕事や活動を好む
社会的興味領域(Social)	人に接したり、奉仕したりする仕事や活動を好む
企業的興味領域(Enterprising)	企画や組織運営、経営などのような仕事や活動を好む
慣習的興味領域(Conventional)	定まった方式や規則に従って行動するような仕事や活動を好む
B 検査：基礎的志向性	
対情報関係志向(Data)	知識、情報、概念、データなどを取り扱うのを好む
対人関係志向(People)	人と直接関わっていくような活動を好む
対物関係志向 (Thing)	機械や道具など、物を取り扱うことや戸外での活動を好む

さて、第 2 版の公表後、今日に至るまでの間、中学校、高等学校の進学率は年々上昇し、就学期間も長期化するなど教育の場の状況も大きく変化した。また、情報化技術のめざましい発展に伴い、多くの職業、職場において、情報化、自動化が進み、職業の世界も大きく様変わりした。こういった教育、社会生活の変化が、中学生、高校生の進路選択や職業選択の

考え方に大きな影響を及ぼしている可能性は高い。また、検査そのものについても、各尺度の項目を構成している職業の表現が不的確になったり、理解されにくくなっていることも想定される。以上のような背景を踏まえ、改訂のための準備を 2003 年 9 月に着手し、2004 年 4 月から正式に改訂のための研究をスタートさせた。

1-3 目標の設定

改訂にあたっては以下に示す 3 つの目標を設定した。

(1) 尺度の見直し

第 1 の目標は、検査を構成する尺度の見直しである。「職業レディネス・テスト」では、具体的な職業を想定した職務内容に関する説明を示し、それに対して興味の有無や自信度を回答させる。しかし、その記述が古くなっていたり、現代の中学生や高校生に理解できなくなっていたりすると正しい回答が得られない可能性が含まれる。そこで、そのような事がなかろうか、あるとしたらどんな項目で起こっているかを確認し、項目の差し替えや修正を行う。また、場合によっては尺度全体の見直しも行う。

(2) 規準データの収集

第 2 の目標は、現在の中学生、高校生による規準データの収集である。「職業レディネス・テスト」では、個人の得点をほぼ同年齢で同じ性別の多くの人たちから得られた規準の得点と比較する。第 2 版では、その規準となるデータが平成元年に公表された時点のものであるため、当時の中学生、高校生の平均値と現在の中学生、高校生の平均値が変わっている可能性がある。そこで、現在の中学生、高校生による多くのデータを集めて、新しい規準を作る必要がある。

(3) ワークシートの開発

第 3 の目標は、ワークシートの開発である。近年、キャリア教育の重要性が指摘されるようになり、中学校や高等学校で生徒の職業意識を啓発するような授業の役割が見直されている。第 2 版での回答結果の整理は、興味や自信のプロフィールの作成にとどまっていたが、今回の改訂では、中学生や高校生が自分自身で採点した上で、結果を解釈したり、職業と結びつける手がかりを提供できるような形式にする。

本研究では、上記の 3 点を目標として研究を進め、最終的には第 2 版から新しく改訂された「職業レディネス・テスト」の問題用紙、回答用紙、ワークシート、手引きの完成をめざした。

1-4 方法

(1) 改訂委員会の設置と運営方法

労働政策研究・研修機構内に改訂委員会を設置した。委員は9人の委員と数名のオブザーバーから構成された^{注 1-1}。各委員は、手引き部会、尺度部会、ワークシート部会の作業部会にそれぞれ分かれ、年間2～3回の作業部会を開催した。手引部会では、手引の構成や検査構成・理論・提供される職業・進路情報の検討、尺度部会では、検査構成と実際の第3版に使用する検査項目の作成、ワークシート部会では、検査結果を進路指導の中で効果的に活用するための結果の表示およびそれに使用するワークシートの開発を分担し検討を行った。この他、全委員による研究会である全体会を年間に3回程度開催し、改訂の方針の決定、各部会の進捗状況の確認等を行った。

(2) 第2版の利用状況とニーズ

委員会において第2版についての利用状況とニーズについての報告と議論があった。主な論点は以下のようなものである。

- ①職業レディネス・テストの利用者は、年間23～30万人程度で中学校や高等学校に対し、それなりの影響力を持っている。
- ②第2版以降検査構成や尺度に関する大きな問題点は利用者からは特に指摘されていない。
- ③いわゆるフリーターなど若年者の非正規就労化の問題等をめぐって、中学生・高校生など早期進路指導の充実が求められている現在、学校の進路指導の中で職業レディネス・テストを具体的にどのように活用できるかという点が問われている。

(3) 第2版についての問題点の検討

第2版についての問題点としては以下のような議論があった。

- ①第2版が公表されてからかなりの年月が経っているので、規準が変更している可能性がある。
- ②大学生などでA検査を使って尺度の構成を検討したところ、一部の項目が第2版で分類されている興味領域よりも他の領域との関連が強いことが確認されているため、尺度の見直しが必要となる。
- ③A検査の職務内容の記述として古めかしい表現がみられるものがある。
- ④B検査については、一番あてはまるのと一番あてはまらないものを選ばせるが、回答にとまどったり間違えたりする者がいるようだ。
- ⑤B検査については、問題が長い割には、プロフィールは基礎的志向性(DPT)の3つについて表示されるだけで情報量としては少ないのではないか。

(4) 改訂方針の決定

全体会において、第2版についての問題点についての議論を行った結果、検査の構成については、第2版を踏襲することとなった。B検査については、内容に関する様々な議論があ

^{注 1-1} 参加メンバーは時期によって多少の変動がある。

ったが、A 検査や C 検査のように職業についての記述内容から好き嫌いや自信を回答させる方式では答えられない生徒も、身近な日常生活を通して行動の傾向をたずねる B 検査では何とか回答ができ、その生徒の興味の方向がつかめることがあるという意見があった。そこで、日常生活から興味の方向を探るという B 検査の特徴は踏襲することとした。また DPT という枠組みも引き続き利用するが、回答のスタイルを簡単にし、加えて、DPT に関する情報量を増やすために、DPT の中にいくつかの下位尺度の概念を取り入れることとした。

改訂の方針についての検討の結果をまとめると以下ようになる。

- ①検査の下位検査構成は、第 2 版のものを踏襲する。すなわち、職業興味（A 検査）、基礎的志向性（B 検査）、職務遂行の自信度（C 検査）とする。
- ②A～C 検査の尺度構成は、第 2 版のものを踏襲する。すなわち、A・C 検査に関しては、第 2 版の 6 領域、B 検査に関しては、第 2 版の 3 尺度とする。なお、第 2 版については 6 領域の並び順が RIASEC となっているが、第 3 版では RIASEC に改める。これは、興味の 6 領域についての枠組みを構築したホランド(Holland,J.L.)の理論が RIASEC の順になっていること、成人向けの職業興味検査である VPI 職業興味検査も RIASEC の順となっているので整合性を保つこと、という理由による。
- ③A～C 検査の検査項目は、全面的に吟味する。すなわち、A、C 検査に関しては、新しい職業についての職務記述を含めて検査項目を全面的に吟味する。B 検査に関しては、検査項目作成の視点を、日常行動だけでなく、日常生活場面をもとに、「行動・考え方」、「性格」、「好き嫌い」、「得意不得意」という 4 つの観点から問題を作成するとともに、第 2 版のような、3 つの選択肢の中から、「もっとも合っているもの」と「もっとも合っていないもの」を 1 つずつ選択するという回答法の持つ問題点に改善を加える。
- ④検査問題の変更に沿って、問題用紙、回答用紙、結果票を全面的に改訂する。ただし、生徒が自分で採点できるという自己管理式の検査様式は、踏襲する。
- ⑤各検査間の理論構成を検討して、解釈や活用に生かしていく。
- ⑥手引を新たな検査構成に沿って変更し、統計的な関連資料についても最新のデータで更新する。
- ⑦新たな検査構成にそって、第 2 版の「結果票・結果の見方」を全面的に改訂し、ワークシート方式を採用する。すなわち、検査結果を、進路指導の様々な機会に活用できるような用具として整備する。
- ⑧全国の中학생と高校生用の検査として妥当性と信頼性を持った検査として完成するため、数回の予備調査を実施した後、全国規模の規準集団を抽出し、標準化調査を実施する。
全体の研究会において、上記の基本方針にそって検討を進めることを確認した上で、それぞれの作業部会ごとに具体的な改訂の作業に入った。改訂のためには、データを集め、検討するための尺度作りが最初の目標となる。そこで、2 回の予備調査を経て、標準化のために使う調査票の設計を実施した。予備調査の概要は第 2 章に述べる。

第2章 予備調査の概要

2-1 予備調査 I (大学生調査) ^{注 2-1}

(1) 目的

今回の改訂では、A 検査、C 検査の項目の差し替えと B 検査の開発を行なうこととした。A 検査、C 検査の検査項目をそれぞれ新しい項目に入れ替えて確定するためには、従来使われていた項目に加えて、新たな差し替え候補の項目を追加し、調査を実施する必要がある。A 検査や C 検査はそれぞれ 54 個の項目を選定するため、差し替え候補の項目を加えるとかなりの項目への反応を調べることになる。また、A 検査、C 検査は、職務の記述から「好き」、「嫌い」、「どちらでもない」という 3 段階での評価を求めるため、たくさんの項目への回答は、中学生、高校生には負担が大きいことが推察された。そこで、中学生、高校生よりも多くの項目への回答に負担が少ないと考えられる大学生を対象として予備調査を実施した。この調査の目的は、尺度としての一貫性の検証、興味領域などの下位尺度を構成する項目のまとめり方の検証を行い、次の調査に向けた項目を絞り込むことである。

(2) 方法

①実施時期 平成 16 年 4 月～9 月

②調査対象者 東京都内の 3 つの大学、大阪、広島、福岡県内各 1 つの大学に在学する学生 1,155 名 (男 768 名、女 387 名)。

③調査票の作成 職業レディネス・テストの第 2 版の項目 (B 検査項目以外) に、改訂のための新項目を追加した調査票を作成した。A 検査は、第 2 版の 54 項目に加え、新規に 48 項目を加えた全 102 項目の尺度を用意した。追加する項目の選定にあたっては、若年層にとって比較的親しみやすいと思われる職業、近年よく聞くようになった新しい職業などを意識して取り上げ、領域毎に数項目ずつ追加することを目標とした。C 検査も同様とした。B 検査は後述する新しい形式の尺度を組み込んだ。

④B 検査尺度の作成 B 検査は第 2 版で用いている 3 つの基本的志向性、すなわち D (対情報関係志向)、P (対人関係志向)、T (対物関係志向) のそれぞれに対応した質問項目を用意した。項目を作成する際には、日常生活場面を素材として、「行動・考え方」、「性格」、「好き嫌い」、「得意不得意」という 4 つの視点を取り入れた。各項目について、「あてはまる場合に ○ をつける」、「あてはまらない場合には何も印をつけない」という回答方法をとった。3 つの志向性について各 25 問、全 75 問の項目を用意した。

⑤手続き 調査は大学の授業時間内に調査票を配布し、回答してもらうという方法をとった。

^{注 2-1} 予備調査 I については、日本進路指導学会第 26 回研究大会(2004 年)において発表した。

なお、回答結果は、データ整理後に採点し、実施の教員を通して学生個人に返却した。

(3) 結果

①分析対象 調査対象となった1,155名のうち、115名はB検査の回答形式に誤りがあったため、データから削除し、1,040名のデータを分析の対象とした。

②A検査、C検査の分析 A検査とC検査は同一の項目のため、分析ではA検査の回答結果のみを用いた。最初に第2版の54項目を用いて因子分析を行った。その結果、研究的領域（I領域）や慣習的領域（C領域）については、第2版の項目が高い負荷を示したが、その他の領域間で、いくつかの項目に関して、想定していた領域と異なる領域への負荷が高い項目が見られた。例えば、「ミシンを使って洋服を作る」（縫製工）は第2版では現実的領域（R領域）に分類されるが、調査の結果では芸術的領域（A領域）への負荷が高くなった。また、「俳優やタレントに演技の指導をする」（舞台演出家）については、第2版では芸術的領域（A領域）であるが、調査の結果では、企業的領域（E領域）の因子に高い負荷を示した。

③B検査の分析 新たに作成した75項目について因子分析を行った結果、3因子での解釈が可能となり、想定していたD（対情報関係志向）、P（対人関係志向）、T（対物関係志向）の概念に関連する項目が各因子に対応して分かれた。続いて、D、P、Tの各因子別に主成分分析を行って構造を調べた。その結果、DとPについては各3つ、Tについては2つの因子が抽出された。Dの対情報関係志向には、3つの因子が確認され、計画を立てて慎重に実行する堅実さを示す因子、情報を集めることを好む因子、様々な知識を吸収したいとする因子が確認された。Pの対人関係志向は4つの因子に分かれた。すなわち、グループで行動するのを好む因子、誰とでも仲良くできる社交性を示す因子、自分を人前で表現できる因子、他人に対する面倒見の良さを示す因子である。Tの対物関係志向は2つの因子に分かれた。一つは、ものを作るのを好む因子、もう一つは、戸外で活動したり自然を好む因子となった。

(4) 検討事項

調査の結果を全体会で報告、委員全体で検討した。この結果、A検査の項目については、第2版と異なる領域へ負荷が高いものについては、負荷の高い領域に読み替えても構わないという方針が確認された。また、追加候補で、第2版の項目よりも各尺度に対して負荷が高いものについては、できるだけ中学生、高校生がよく知っている、社会で一般に良く認知されている職業を入れることという差し替えの方針が出された。

B検査については、日常生活に関連する行動をDPTの大きな3つの枠組みで捉えることはほぼ確認できたので、尺度としてはこの方向でよいということになった。ただし、下位尺度が示す内容に関しては、A検査との関連を含め、結果としてどのように使えるのかをよく検討する必要があるということが課題として確認された。また、下位尺度を作成するのであれば、項目数を揃える必要があることも含め、項目が少ない尺度についてはそれを補う必要

があることも指摘された。

2-2 予備調査Ⅱ（中学生、高校生調査）

（1）目的

大学生の調査結果を元に調査票を若干作り直した上で、中学生、高校生に実施し、標準化調査に先立つ資料を収集することを目的とした。

（2）方法

①実施時期 平成17年2月～3月

②調査対象者 東京都内の1つの中学校(1年男子65名、1年女子58名、2年男子55名、2年女子63名、計241名)、2つの高等学校(2年男子185名、2年女子167名、計352名)。計593名。

③調査票の作成 職業レディネス・テストの第2版の項目（B検査項目以外）に、改訂のための新項目を追加した調査票を作成した。ただし、大学生を対象とした調査の結果を踏まえ、A検査は、第2版の54項目のままとしたが、新規の項目を24項目とし、計78項目とした。C検査も同様とした。B検査はDPTに含まれる下位検査の項目数を整えるため、項目数を増やす必要があり、大学生調査よりも多く108項目となった。ただし、B検査は日常生活について尋ねる内容であること、質問が短いこと、「あてはまる場合に○をつける」という簡単な回答形式であることから、問題数が増えても負担はそれほど大きくはないと考えた。

④手続き 調査は学校の授業時間内に調査票を配布し、担任の教員に実施してもらう方法をとった。結果については、データ整理後、各生徒についての個人別の結果票を作成し、教員を通して返却した。

（3）結果

①分析対象 回答に不備のあった者を除き、中学で男子88名、女子100名、高校で男子162名、女子152名、計502名（男子250名、女子252名）の回答について分析した。

②A検査、C検査の分析 まず第2版の54項目について因子分析を行った。その結果、大学生調査と同様に、研究的領域（I領域）と慣習的領域（C領域）についてはほぼ第2版の構造を維持した。しかし、その他の領域に関して、いくつかの項目が想定した領域と異なる領域に高い負荷を示した。全体として大学生で得られた結果を支持する因子構造が得られた。

③B検査の分析 大学生調査から新規に追加した項目があったので、全体で因子分析を行い、3因子を抽出した。想定した通り、DPTの3つの因子に分かれた。因子毎に主成分分析を行ったところ、D（対情報関係志向）とT（対物関係志向）は項目数がそれぞれ若干増え、想定した通りの因子にまとまった。P（対人関係志向）に関しては、大学生調査では4因子

となったが、中学生、高校生調査では4因子で回転させると、項目のまとまりが悪くなった。他人に対する面倒見の良さに関する因子と自分を人前で表現できる因子については、ほぼ同じ項目が集まったが、社交性とグループでの行動を志向する因子に関連する項目が混ざってしまった。そこで、3因子で回転させたところ、4因子の時よりも解釈が可能な構造となったため、中学生、高校生では3因子を想定して尺度を構成することとした。また、B検査については厳密には評定尺度ではないため、クラスター分析も実施した。その結果、因子分析で実施した場合と同様の項目のまとまりが得られた。

(4) 検討事項

中学生、高校生を対象とした予備調査の結果、A検査、C検査については、大学生と同様にほぼ想定した通りの結果となったため、標準化の際には、第2版に若干の項目を追加して実施することとした。B検査については、DPTに関しては大学生調査とほぼ共通の結果が得られた。しかし、Pの下位尺度に関して因子のまとまり方が変わったため、職業レディネス・テストが中学生、高校生を対象とした検査であることを考慮し、中学生、高校生の調査に基づいた因子構造を優先させることとした。したがって、標準化の際には、対人関係志向については3尺度であるという想定のもとに、項目を選定することとした。

第3章 標準化調査の概要

3-1 目的

標準化調査は、2回にわたる予備調査の結果を踏まえて実施された。標準化調査の大きな目的は、改訂版として開発する職業レディネス・テストが、我が国の中学生と高校生用の検査として妥当性と信頼性を保証できるようにすることである。

3-2 方法

(1) 規準集団の抽出

規準データの作成のため、学校基本調査(平成16年度)に基づき、次の手順で対象校を選定した。

◆中学校

- A. 全国を「北海道・東北」、「関東」、「東海・中部・北陸」、「近畿」、「中国・四国」、「九州・沖縄」の6地域ブロックに分ける。
- B. 学校のタイプを生徒数300人以上、300人未満の2群に分ける。
- C. 全国で6,000サンプル収集を目指し、Bの分布に基づきブロック別に学校数を決定する。

◆高等学校

- A. 中学校と同様に全国を6地域ブロックに分ける。
- B. 学校のタイプを学科により7群(「普通科進学率70%未満」、「普通科進学率70%以上」、「農業・水産科」、「工業・情報科」、「商業科」、「家庭・看護・福祉」、「その他・総合」)に分け、学校数・生徒数分布を作る。
- C. 全国で8,000サンプル収集を目指し、Bの分布に基づきブロック別、学校タイプ別に学校数を決定する。

ブロック別、学校タイプ別学校数を基に文部科学省・厚生労働省の協力を得て、該当する学校を推薦してもらい、推薦校に関して、原則各学年1クラス全員を対象とした調査の実施を依頼した。

(2) 調査時期 平成17年6月～9月 平成18年3月(追加調査)

(3) 調査票の作成

中学生・高校生調査で用いた調査票を元に、標準化調査のための調査票を作成した。なお、案として作成された調査票については、項目が中学生にも理解できるかどうかについて専門

家による確認を事前に行ない、その結果に基づいて表現などをわかりやすく改めた。

標準化のための調査票には、A検査、C検査には各72項目(第2版54項目+代替18項目)、B検査には96項目が用意され、A4版12頁の小冊子とした。この他、回答用紙の最後にアンケートとして、将来やってみたい職業、好きな科目、嫌いな科目、将来の進路がどの程度決まっているか、将来の仕事についてどの程度考えているかを尋ねる項目を加えた。回答用紙はA4版で両面刷りとした。

(4) 手続き 対象校には、調査票・回答用紙及び実施マニュアルを送付した。調査の実施は、対象校の進路指導部等の教員に依頼した。回答用紙は回収後、個人別に採点し、結果票の形式にして出力し、返却を行った。

3-3 結果

3-3-1 項目の選定と尺度の確定

(1) 対象校と対象者

調査依頼に対し、全国の各地域から、中学校38校、高等学校62校の協力が得られた(図表3-1)。ただ、調査の対象者に関しては、各学年原則1クラスというよりも複数のクラスに実施したいという希望も多くあったため、実際の対象者が予定よりも上回った。最終的に中学生10,966名(男子5,596名、女子5,370名)、高校生17,104名(男子8,409名、女子8,695名)のデータが集まった。中学校、高等学校における学年別、男女別対象者数の内訳を図表3-2に示す。また、中学校の学校規模別、男女別の人数の内訳を図表3-3に、高等学校における学科別、男女別人数の内訳を図表3-4にそれぞれ示す。

図表 3-1 調査対象校の内訳

学校・学科タイプ		中学校(38校)		高校 (62校)						
		300人未満	300人以上	普通 進学率 70%未満	普通 進学率 70%以上	農業・ 水産	工業・ 情報	商業	家庭・ 看護 福祉	その他・ 総合
地域	北海道・東北	3	3	5	4	0	0	0	1	0
	関東	4	6	6	6	1	1	4	2	1
	東海・中部・北陸	4	4	4	2	1	2	1	0	1
	近畿	2	4	4	1	0	1	1	1	0
	中国・四国	3	1	2	1	0	0	0	0	0
	九州・沖縄	1	3	4	2	1	1	0	1	0
合計		17	21	25	16	3	5	6	5	2

図表 3-2 生徒数の学年別、男女別構成 (人)

		計	男	女
中 高 計		27,092	13,675	13,417
中 学 校	計	10,966	5,596	5,370
	1年生	3,721	1,905	1,816
	2年生	3,616	1,825	1,791
	3年生	3,629	1,866	1,763
高 校	計	17,104	8,409	8,695
	1年生	6,561	3,244	3,317
	2年生	6,584	3,185	3,399
	3年生	3,959	1,980	1,979

図表 3-3 学校規模別男女別構成(中学生)(人)

	計	男	女
計	10,966	5,596	5,370
300人未満	2,677	1,394	1,283
300人以上	8,289	4,202	4,087

図表 3-4 学科別男女別構成(高校生) (人)

	計	男	女
計	17,104	8,409	8,695
普通科進学率70%未満	7,668	3,723	3,945
普通科進学率70%以上	4,441	2,210	2,231
農業+水産	786	429	357
工業+情報	1,818	1,566	252
商業	1,032	236	796
家庭+看護+福祉	778	8	770
その他+総合	581	237	344

(2) 尺度の構造、信頼性の検討

得られたデータについて、項目分析、因子分析など尺度の構造を確認する統計的な処理を行った。尺度の構造の検討に関しては、規準値の作成とは異なり、特に学校規模や学科等の分布を考慮しなくてもよいため、データとして集まった全数を用いて分析した。

①A検査、C検査の分析 最終的に各領域9項目ずつ、合計54項目を選定した^{注3-1}。第2版の職業レディネス・テストの項目で、領域も元のままで維持されたものが42項目で12項目

注3-1 具体的な項目については付録を参照のこと。

が差し替えとなった。若干の表現の変更はあるものの、第2版の項目が差し替えとなった数は、領域別に、R領域3項目、I領域1項目、A領域4項目、S領域3項目、E領域1項目、C領域は差し替え無しとなった。12項目のうち新規に追加された項目は10項目であり、残りの2項目は第2版では違う領域に分類されていた項目である（RからA、AからE）。

②B検査の分析 因子分析、クラスター分析等の統計的な分析を行った。まず、D、P、Tの3つの因子が抽出されることを確認してから、因子毎に、下位尺度の構造を検討した。その結果、Dについては3因子、Pについては3因子、Tについては2因子が抽出された。下位尺度については、因子の構造を検討し、また、生徒のアンケートを参考にし、わかりにくい表現を含む項目をできる限り排除するようにして各8項目を選定した。その結果、8つの下位尺度での項目数は合計で64項目となった。

（3）換算表の作成

中学校については、最初に想定したサンプリングの構造と実際に収集されたデータの構造に大きな違いがなかったため、全数を標準化の規準データとして利用した。高等学校については、普通科のデータが想定を大幅に上回ってしまったため、当初の予定とは学科のバランスが崩れてしまうことがわかった。そこで、平成18年3月に不足していた商業科のデータを追加で収集し、規準集団となるデータを構成した。

なお、中学生と高校生の間で尺度毎に平均値に差があるかどうかを調べるための検定を行った。その結果、多くの尺度で統計的に意味のある差が検出された。また、男子の平均値と女子の平均値に関しても尺度間で差が検出された。そこで、換算表は中学、高校別、さらに男女別を作成した。このように中学生、高校生で換算表を分けたことについては、男女別のみの換算表を利用する第2版と大きく異なる点である。

3-3-2 A検査、C検査の得点と第2版との比較^{注3-2}

換算表の作成にともない、標準化調査で集めたデータについて学校別、男女別に平均値を算出したが、新たに作成した興味の6領域の尺度に関して、1991年に開発された第2版に比べ、全般に平均値の低下が見られた。そこで、このような平均値の違いが、第3版での項目の入れ替えにともなって発生したものなのか、それとも項目の差し替えに関わらず2005年に収集したデータの特徴なのかを検証するために、第2版で使っていた項目と同じ項目で職業興味と職務遂行の自信度に関する6領域の平均値を算出し、比較を行った。以下に、分析の方法と主な結果を述べる。

^{注3-2} この分析結果については、松本・室山(2005)および、Muroyama & Matsumoto(2006)で発表した。ただし、この発表データの後、高校生の追加調査を実施したので、今回は追加調査を含むデータで平均値を算出し直している。

(1) 分析の方法と目的

標準化調査の際には、A検査とC検査に関して第2版で使用していた54項目に追加して、代替18項目を入れ、計72項目で調査を行った。そこで、第3版を作成するための項目の差し替え候補の選定と同時に、第2版と同一の54項目を使い、今までの枠組みで興味の6尺度の得点化を使って、中学生、高校生の職業興味や職務遂行の自信度の得点の変化を検討した。同一の項目を使っているため、第2版の職業レディネス・テストが作成された1991年当時に収集した中学生、高校生の興味や自信度の得点が、約15年を経過した2005年の調査時点での中学生、高校生の興味や自信度とどの部分でどの程度違うかを明らかにすることができる。

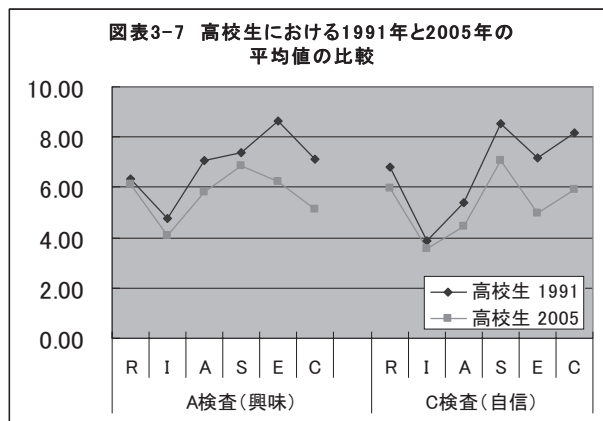
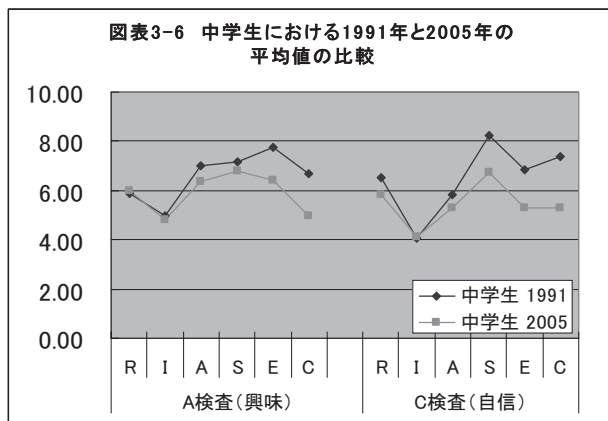
(2) 同一項目による6尺度の1991年と2005年の平均値の比較

図表3-5は、1991年の中学生、高校生のA検査（職業興味）およびC検査（自信）の平均値と標準偏差をまとめたものである。また、この表の数値に基づいて中学生の結果を図表3-6に、高校生の結果を図表3-7にまとめた。

図表3-5 同一項目を使った職業興味(A検査)と職務遂行の自信度(C検査)に関する1991年と2005年データの比較

		1991年				2005年			
		中学生(n=4752)		高校生(n=8489)		中学生(n=10966)		高校生(n=17104)	
		mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
A検査 (興味)	R	5.87	3.72	6.32	3.91	5.97	3.98	6.10	4.20
	I	4.96	4.83	4.74	4.81	4.79	4.69	4.09	4.49
	A	6.99	4.70	7.09	4.72	6.38	4.65	5.81	4.37
	S	7.19	4.46	7.36	4.40	6.78	4.45	6.85	4.44
	E	7.75	4.47	8.65	4.59	6.41	4.38	6.24	4.52
	C	6.69	4.76	7.10	5.04	4.98	4.39	5.14	4.39
C検査 (自信)	R	6.51	4.04	6.83	4.16	5.82	4.24	5.98	4.39
	I	4.09	4.51	3.86	4.33	4.11	4.57	3.56	4.26
	A	5.83	4.28	5.41	4.10	5.32	4.45	4.46	4.07
	S	8.25	4.35	8.56	4.30	6.76	4.44	7.07	4.39
	E	6.84	4.44	7.17	4.56	5.28	4.43	4.95	4.27
	C	7.39	5.03	8.16	5.17	5.31	4.80	5.93	4.88

注: mean(平均値)、SD(標準偏差)



中学生、高校生のどちらのグラフをみても、職業興味の6領域に関する平均値の高低すなわちプロフィールの形は、全体として1991年も2005年もそれほど大きく変わっていないことがわかる。これは興味も自信も同じである。

ただ、1991年と2005年を比べて目につく大きな変化としてあげられるのは、中学生も高校生も1991年に比べて2005年の方が、全体として平均値が低くなっている点である。とりわけ中学生ではE領域やC領域への興味が低くなり、自信についてはこの他にS領域も低くなっている。高校生に関しては、興味についてA領域、E領域、C領域が下がり、自信についてはS領域、E領域、C領域が低くなっている。

ここで、興味のランクがどのように変わったかをみると、91年の中学生のデータでは、平均値が高い順に、E、S、A、C、R、Iであった。高校生では、E、S、C、A、R、Iであった。2005年では、中学生では、S、E、A、R、C、Iとなり、高校生では、S、E、R、A、C、Iとなっている。91年に比べて、E領域やC領域の順位が低くなり、S領域やR領域の順位が高くなっている。R領域やI領域への興味や自信は1991年と2005年でそれほど大きく変化していない。

興味の平均値については、生徒の職業に対する「やりたい」という気持ちを反映している指標でもあるので、91年から2005年の10年余りの間に、得点が低下傾向にあることは大きな特徴である。特に、組織の運営や経営、企画、立案に関する興味を反映している企業的領域（E領域）やホワイトカラー事務系のような定型的な業務への興味と関連する慣習的領域（C領域）への興味の低下は、会社や組織の中で定着して仕事をしていくことに対する志向性が弱くなっていることを示す。これと同様の傾向は、1989年から2005年にかけての年次変化を分析した丹羽(2005)においても報告されている。他方、手工技能系や身体作業に関連するR領域や研究・開発に関連するI領域は、時間の隔たりにかかわらず一定であるので、技術、専門的な仕事に関しては、大きな変化は見られないといえる。

1991年の中学生や高校生に比べて2005年の生徒たちが会社や組織の中での仕事に興味をもてなくなったという背景には、90年代初頭に起こった企業におけるリストラ、終身雇用制の崩壊、あるいは産業や雇用のあり方の変化に影響を受けている可能性もある。社会の動きや大人たちの働き方をみて、会社で長く働くことや独立して事業を興すことが現代の中学生や高校生にとっては魅力的でなくなったのかもしれない。

ただ、得点が低くなった領域があったとしても、その逆に目立って得点が高くなっている領域があるかといえばそうではないという点が気がりである。職業レディネス・テストの興味や自信のレベルを示す各領域の得点は、その個人のもつエネルギーや好奇心を反映する指標としても解釈される。全体的な興味や自信の平均値のレベルが低下していることは、現代の中学生、高校生が様々な職業や社会的な活動に生き生きとした好奇心をもって動機づけられていないことを映し出している結果である可能性も考慮しておく必要がある。

<参考文献>

松本純平・室山晴美 2005 「職業レディネス・テスト」の標準化調査の分析 I —標準化調査の概要— 日本キャリア教育学会第27回研究大会論文集,71-72.

Harumi Muroyama & Junpei Matsumoto 2006 The Change of Vocational Interests among Junior and High School Student. Japan Labor Review, vol.3, No.2, 74-90.

丹羽敬子 (2005) 愛知県勤労会館職業サービスセンターにおける「新版職業レディネス・テスト」判定データの経年分析 日本キャリア教育学会第27回研究大会論文集 p.115-116.

第4章 「職業レディネス・テスト第3版」の完成

4-1 手引き、問題用紙、回答用紙、ワークシートの作成

各検査の尺度が決まったところで、手引き、問題用紙、回答用紙、ワークシートの作成を行った。

手引きの作成に際しては、第2版の内容のうち、手引きの構成、検査の趣旨、A検査、C検査の尺度の構成に関する記述など、特に変更の必要がない部分についてはできる限り踏襲した。これは第2版の利用者が第3版を利用したときに違和感なく使えるようにするためである。

問題用紙についても第2版の形式を踏襲した。ただ、A検査、C検査の項目の順序については、第3版を作成する際に収集したデータの分析結果を反映させた。B検査に関しては、D、P、Tの枠組みは第2版と同じであるが、質問の形式や項目をすべて変更したため、第3版では新規の作成となった。

回答用紙は、基本的には今までの形式を踏襲し、表面に回答用紙、裏面に換算表を掲載し、標準得点が算出できるようにした。また、自己採点しやすいようにデザイン上の工夫をした。また、換算表を中学生、高校生以上用の2種類作成したことから、回答用紙も2種類になった。中学生用は青、高校生以上用はオレンジとした。

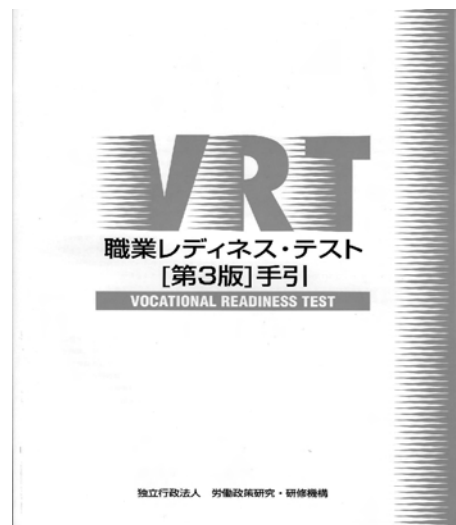
ワークシートは、従来は、各検査のプロフィールを作成する「結果票」と結果の解釈の仕方を解説した「結果のみかた」がB5版の用紙の両面に印刷されたシートを用いていた。第3版のワークシート「結果の見方・生かし方」は、A4版で3枚、両面で6ページ分の内容をもりこみ、結果の解釈を助けるための様々な工夫をした。

なお、手引き、問題用紙、回答用紙、ワークシートのすべてに関して、大きさはA4版で統一した。以下にそれぞれの内容を簡単に紹介するが、詳しい内容は、市販されている「職業レディネス・テスト」の手引き、問題用紙、回答用紙、ワークシートを参照していただきたい。

4-2 「職業レディネス・テスト第3版」の内容

(1) 手引き

全体で6章構成とし、「職業レディネス・テスト」の概要の他、検査の構成、実施および採点方法、解釈、進路指導における活用法、改訂の考え方と方法を解説する。巻末に、統計資料が付録として添付されている。



図表 4-1 職業レディネス・テスト手引き

(2) 問題用紙

問題用紙は、A検査、B検査、C検査の裏表紙まで含めて16ページで構成される。表紙には検査についての説明と氏名を記入する欄が設けられている(図表4-2)。

A検査(職業興味の測定)は、職業・仕事の内容を記述した54項目の質問からなっており、各質問に対して、好みの程度をそれぞれ3段階で評定させることによって、職業興味を測定する。この形式は第2版までと同一である。

【例】 ペットの犬の毛をカットしたり、洗ったりする。

やりたい
どちらともいえない
やりたくない

B検査(基礎的志向性の測定)は、日常の生活行動や意識について記述した64項目からなっており、各質問に対して、あてはまるか、あてはまらないかを評定させることによって、基礎的志向性を測定する。

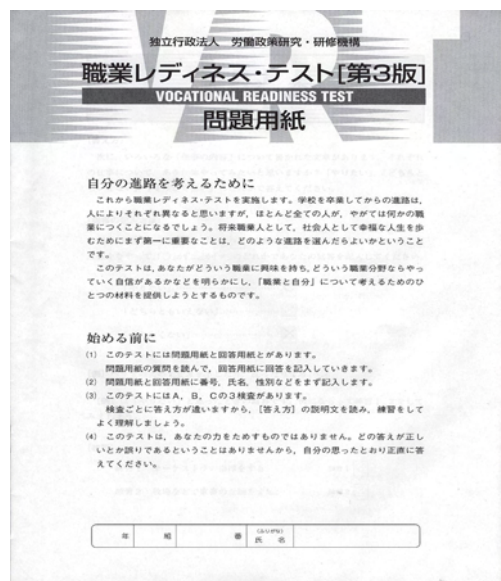
【例】 学校の宿題でわからないことは参考書で調べる。

あてはまる
あてはまらない

C検査(職務遂行の自信度の測定)は、職業・仕事の内容を記述した54項目の質問からなっており、各質問に対して、自信の程度をそれぞれ3段階で設定させることによって、職務遂行の自信度を測定する。

【例】 ペットの犬の毛をカットしたり、洗ったりする。

自信がある
どちらともいえない
自信がない



図表 4-2 問題用紙の表紙

(3) 回答用紙

検査は、問題用紙に書かれた質問項目を読み、それに対して回答用紙に答えを記入するという紙筆検査の回答形式をとる。回答用紙は中学生用と高校生以上用の2種類がある。

回答終了後、回答用紙の表、右側にある「整理欄」を使い、それぞれの結果の採点を行う(図表4-3)。中学生、高校生でも自分で採点できる形式(自己採点方式)をとっている。

回答用紙表の「整理欄」の記入がすんだ時点で、回答用紙を裏返し、換算表を使って標準得点を算出する(図表4-4)。第2版では換算表は男女別のみとしていたが、第3版では、換算表を中学生用、高校生以上用の2種類に分け、その中でそれぞれ男女別に換算点を確認する形式をとるようにした。また、第2版では標準得点として、尺度毎に母集団の粗点平均値を50、標準偏差を10に換算した数値を用いていたが、第3版ではパーセンタイル順位を採用した。パーセンタイル順位とは、個人の得点が規準集団の中で、どのあたりに位置づけられるかを明らかにするものである。例えばパーセンタイル順位が80の時は、100人の得点を並べた場合、個人の得点が低い方から数えて80番目にあたることを示す。偏差値を使う表現に比べて、自分の得点がほぼ同年齢の人たちで構成される大きな集団の中でどのあたりに位置するかを感覚的に理解しやすい。

図表 4-3 回答用紙の「整理欄」

図表 4-4 標準得点の算出

(4) ワークシート

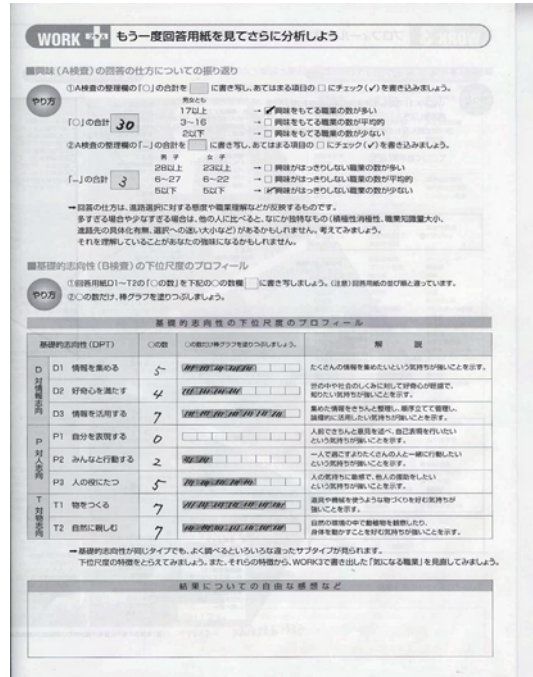
第3版では、検査を実施した後に、中学生、高校生が自らの採点結果を踏まえて、より深く自己理解を進めることができるよう、ワークシートを作成した(図表4-5)。

ワークシートの中身は以下のような4つのワークで構成されている。

①WORK1 : A、B、C各検査のプロフィールを作成し、それぞれ興味や自信が高い領域や志

とりわけ WORK 3 では、これまで手引きの中でしか記述されていなかった具体的な職業名との関連づけができるようになったので、利用者にとっては自らの興味や志向性に関連する職業にたどり着けるといって意味で極めて有効であるし、これを素材として職業に対する視野を広げることも可能であろう。

さらに、WORK プラスは発展的な内容であるためオプションで用意されているワークであるが、基礎的志向性の内容を下位尺度に分解して検討することができる。そこで、自らの行動の特徴を具体的に理解するために役立てることができる。例えば「対人関係志向性が高い」といっても、人との関わり方にはいろいろなやり方がある。P の対人関係志向の場合、下位尺度には、「自分を表現する」、「みんなと行動する」、「人の役にたつ」という特性が含まれるが、P の得点が高くてもこれらのすべてが高いとは限らない。例えば「みんなと行動する」と「人の役にたつ」は高いが、「自分を表現する」は低いということもあり得る。下位尺度に関する得点を見ることによって、その人のもつ対人行動の特徴をより詳しく検討することができる。基礎的志向性の下位尺度の内容を図表 4-10 にまとめた。



図表 4-9 WORK プラスの内容

図表 4-10 B 検査の下位尺度の内容

DPT	下位尺度	内 容
対情報関係志向 (D 志向)	D1 (情報を集める)	たくさんの情報を集めたいという気持ちの強さ
	D2 (好奇心を満たす)	世の中や社会の仕組みに対する好奇心の強さ
	D3 (情報を活用する)	集めた情報を整理し、管理し、有効活用したいという気持ちの強さ
対人関係志向 (P 志向)	P1 (自分を表現する)	人前で意見を述べ、自己表現を行いたいという気持ちの強さ
	P2 (みんなと行動する)	一人で過ごすよりたくさんの人と行動したいという気持ちの強さ
	P3 (人の役にたつ)	他の人の援助をしたいという気持ちの強さ
対物関係志向 (T 志向)	T1 (物をつくる)	道具や機械を使うような物づくりを好む気持ちの強さ
	T2 (自然に親しむ)	自然の中で動植物の観察や、身体を動かすことを好む気持ちの強さ

4-3 第2版からの主な変更点

以上、改訂の経緯や方法、各尺度やワークシート等の作成についてまとめたが、標準化調査に関する統計的な資料については付録に一括して掲載したので必要があれば参照していただきたい。なお、今回発行した第3版における主な改訂点は以下の通りである。

(1) 尺度の改訂

①A検査（職業興味）とC検査（職務遂行の自信度）の改訂

第2版で使用していた54項目のうち、12項目を変更。新規追加は10項目で、2項目は第2版と異なる興味領域に変更。

②B検査（基礎的志向性）の改訂

問題と回答方法を全面的に変更。DPTは踏襲するが、その中に下位尺度を想定して尺度を作成。

(2) ワークシートの開発

「結果の見方・生かし方」をワークシートとして充実。A4サイズ見開き6ページ分で作成。

(3) 換算表等の変更

換算表を中学生、高校生以上用の2種類にわけ、その中でそれぞれ男女別に換算点を確認する形式を採用。標準得点にはパーセンタイル順位を採用。

第Ⅱ部 基礎分析編

第Ⅱ部では、標準化調査で集められたデータのうち、「職業レディネス・テスト」のA、B、C検査への回答を使った基礎的な分析を中心として得られた結果を報告する。

第5章 中学生の職業レディネス

5-1 本章の目的

第5章では、中学生の職業レディネスについて分析した結果を報告する。最初に A 検査、B 検査、C 検査の各領域や志向性の平均値に関して、全体的な傾向をみる。さらに、男女別、学年別に平均値を整理し、傾向の違いがあるかどうかを検討する。

また、A 検査、C 検査の項目は特定の職業についての職務内容の記述と対応するため、54項目を職業名に置き換えてみたときに、どのような回答傾向が見られるのかについても検討する。54項目という限られた数の職業ではあるが、この分析によって、現代の中学生が関心をもつのはどのような職業なのか、自信をもつと回答しているのはどんな職業なのかを検討したい。

5-2 分析の対象

調査の方法は第3章「標準化調査の概要」に準ずる。本章では中学生のデータのみを取り上げる。分析の対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

標準化調査に協力した全国38校の中学1年～3年生。38校のうち学校規模が300人未満の学校が17校、300人以上の学校が21校である。

人数の内訳は以下の通り。中学生計10,966名（1年男子1,905名、1年女子1,816名、2年男子1,825名、2年女子1,791名、3年男子1,866名、3年女子1,763名）。

5-3 分析方法と結果

5-3-1 各検査における平均値の比較

(1) 得点化の方法

本章の分析では、「職業レディネス・テスト第3版」として最終的に確定した A 検査、B 検査、C 検査の項目を使った。A 検査と C 検査は各54項目、B 検査は64項目である。A 検査では、「やりたい」を2点、「どちらともいえない」を1点、「やりたくない」を0点として採点した。B 検査では、「あてはまる」を1点、「あてはまらない」を0点とした。C 検査では、「自信がある」を2点、「どちらともいえない」を1点、「自信がない」を0点とした。

A 検査と C 検査は興味の6領域が各9項目によって構成されるため、0～18点の範囲の値をとる。B 検査は、対情報関係志向（D 志向）と対人関係志向（P 志向）はそれぞれ24項目なので0～24点の範囲をとり、対物関係志向は16項目のため、得点は0～16点の範囲とな

る。

(2) 中学生全体の傾向

まず、A 検査、B 検査、C 検査について、各興味領域、志向性毎に中学生全体の平均値と標準偏差(SD)を算出した。その結果を図表 5-1 に示す。平均値は、個人の各領域の合計点を中学生全体で合計し、全体の人数で除して算出している。

職業興味を測定する A 検査をみると、平均値が高い方から順に A→S→E→R→C→I となる。このうち 6.00 以上なのは A、S、E の 3 領域で、中学生全体として見た時、芸術的領域 (A)、社会的領域 (S)、企業的領域 (E) に関心が高いことがわかる。

同じ項目を使って職務遂行の自信度を調べる C 検査の平均値を見ると、高い方から順に、S→A→R→C→E→I 領域となっている。興味と比べると自信の順位には領域によってずれがある。社会的領域 (S) が高いのはほぼ一致するが、芸術的領域 (A) とは順位が入れ替わっている。芸術的領域は興味に比べ、自信の平均値が低い。また、企業的領域 (E) は興味に比べると自信が低くなる。逆に、手工技能系の仕事や作業に関連する現実的領域 (R) や事務作業などの定型的な仕事や作業に関連する慣習的領域 (C) は興味に比べると自信が高くなる。研究的領域 (I) はどちらも低い。

基礎的志向性を測定する B 検査の結果をみると、対情報関係志向 (D) が 10.24、対人関係志向 (P) は 14.85、対物関係志向 (T) は 7.51 となっている。ただし、D 志向と P 志向は 24 項目、T 志向は 16 項目なので、単純に比較はできないが、仮に T 志向を 1.5 倍した値を算出してみると 11.27 となり、P 志向が他に比べて少し高くなっていることがわかる。

図表 5-1 中学生全体の各尺度の平均値と標準偏差(SD)

領域	R 領域	I 領域	A 領域	S 領域	E 領域	C 領域	D 志向	P 志向	T 志向
A 検査	5.47 (5.01)	4.94 (4.80)	6.82 (4.82)	6.44 (4.63)	6.34 (4.38)	4.97 (4.39)			
B 検査							10.24 (4.97)	14.85 (5.05)	7.51 (3.87)
C 検査	5.34 (5.10)	4.37 (4.72)	5.74 (4.57)	6.50 (4.68)	5.25 (4.44)	5.31 (4.80)			

※ () 内は標準偏差

(3) 男女間の平均値の比較

次に、職業興味の 6 類型 (RIASEC) について、男女別に平均値を算出した結果を検討する。各領域の A 検査、C 検査の平均値を、男女別に算出した結果を図に示した (図表 5-2、図表 5-3)。まず、図表 5-2 と図表 5-3 を比べて言えることは、プロフィールの形状をみると明確なように、男子と女子では、興味の 6 領域の傾向がかなり違っているということである。

男女別に特徴をみると、男子は R 領域が興味 (A 検査)・自信 (C 検査) とともに突出している。続いて、興味では、E→I→A→C→S の順、自信では、I→E→C→S→A の順になって

いる。R の他はほぼ横並びで、それほど大きな違いはない(図表 5-2)。女子は A・S 領域が興味 (A 検査)・自信 (C 検査) とともに突出し、E・C 領域は男子と同程度、R・I 領域は男子に比べて著しく低い(図表 5-3)。

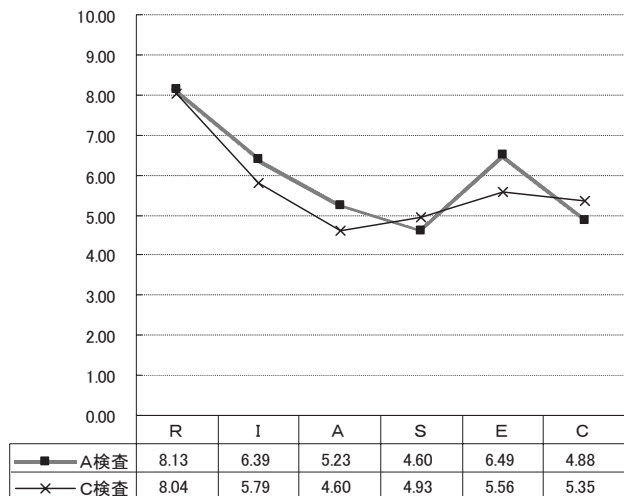
さらに、興味 (A 検査) と自信 (C 検査) の傾向の違いをみる。I・A・E 領域では男女ともに自信 (C 検査) より興味 (A 検査) の値が高い。男子では、逆に、S・C 領域で興味 (A 検査) より自信 (C 検査) の値が若干高くなっている。また男女ともに、R 領域では興味 (A 検査) と自信 (C 検査) がほぼ一致する。

基礎的志向性 (DPT) については、男女の結果をまとめて図表 5-4 に示した。P 志向の得点は男子より女子で高く、T 志向の得点は僅差だが男子の方が高い。D 志向については男女ともほぼ同程度であった。

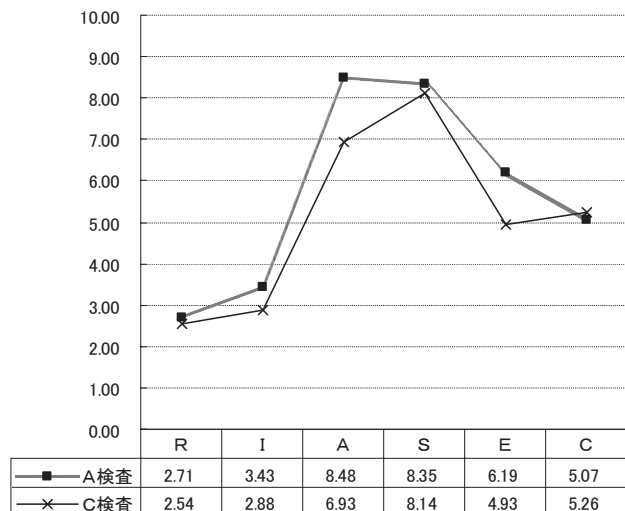
以上の結果は中学生に特有の特徴であるかどうか懸念されるため、高校生の男女別の平均値を参照してみた

(高校生の結果の詳細は第 6 章で述べる)。その結果、全般的な傾向は中学生も高校生も似ているが、男子では I 領域において興味 (A 検査)・自信 (C 検査) とともに高校生より中学生が高く、女子では A 領域において興味 (A 検査)・自信 (C 検査) とともに高校生より中学生が高く、C 領域において興味 (A 検査)・自信 (C 検査) とともに高校生より中学生が低くなっていた。

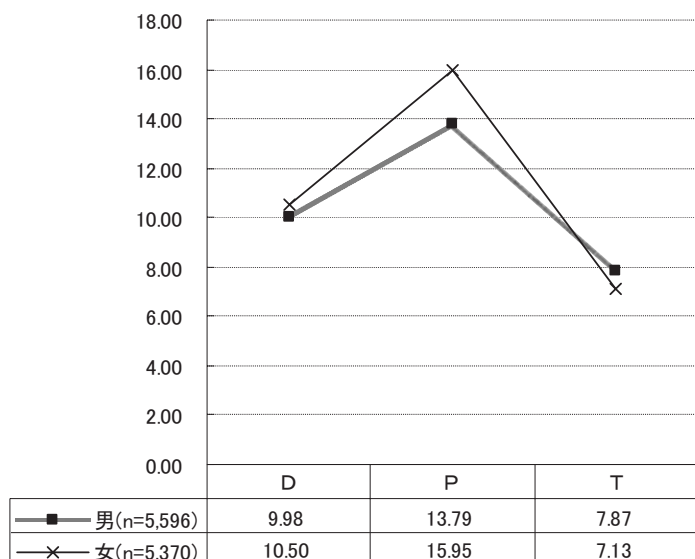
図表5-2 中学校 A検査、C検査の男子の平均値(n=5,596)



図表5-3 中学校 A検査、C検査の女子の平均値(n=5,370)



図表5-4 中学校 B検査の男女別平均値



(4) 学年間の平均値の比較

職業興味の6類型(RIASEC)について学年別に平均値を算出した結果を検討する。各領域のA検査、C検査の平均値を、学年別に算出した結果を図に示した(図表5-5、図表5-6、図表5-7)。

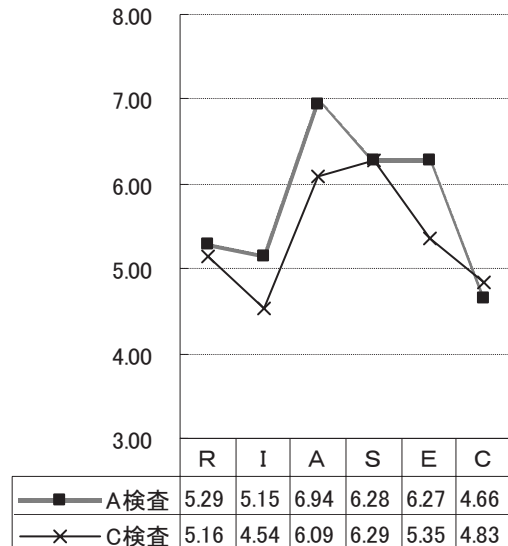
中学校1年生ではA検査の職業興味をみると、高い順に、A→S→E→R→I→Cとなっている。他方、C検査の自信は、S→A→E→R→C→Iとなっている。R領域、S領域、C領域は興味も自信もほぼ同程度であるが、A領域、E領域、I領域は自信よりも興味の方が高くなっている(図表5-5)。

中学2年生では、A検査の興味は高い順にA→S→E→R→C→Iとなっている。C検査の自信は高い順に、S→A→R→E、C→Iとなっている。2年生も1年と同様に、興味と自信がほぼ一致しているのがR領域、S領域、C領域で、A領域、E領域、I領域は興味の方が、自信よりも高い(図表5-6)。

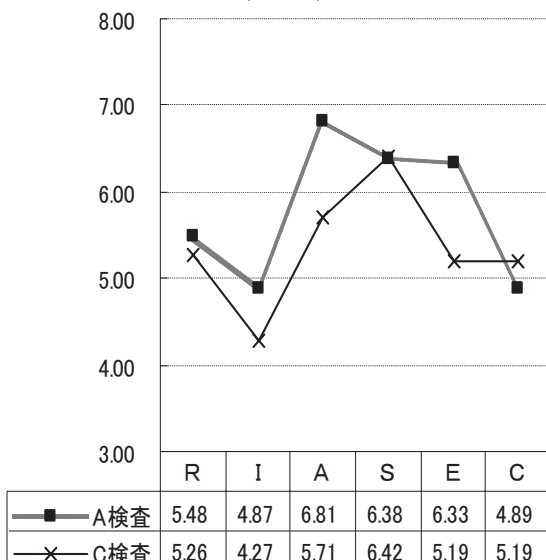
中学3年生では、A検査の興味では、高い順にA→S→E→R→C→Iである。C検査の自信では、S→C→R→A→E→Iとなっている。興味と自信の一致度の傾向は、1年生、2年生と同様である(図表5-7)。

各学年の結果を踏まえて、A検査、C検査の検査別に3学年を比較したグラフが図表5-8

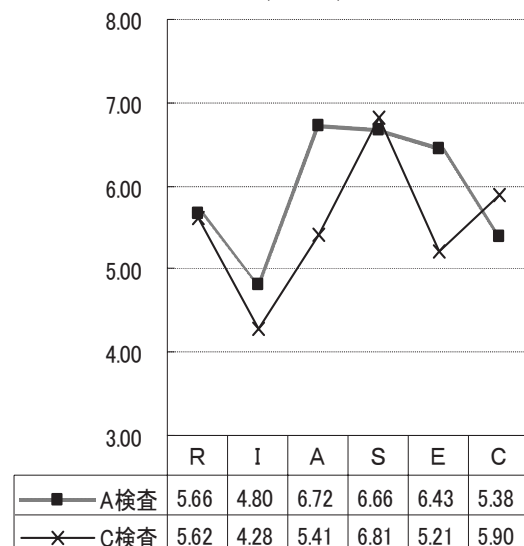
図表5-5 A検査C検査 中学校1年生の平均値 (n=3721)

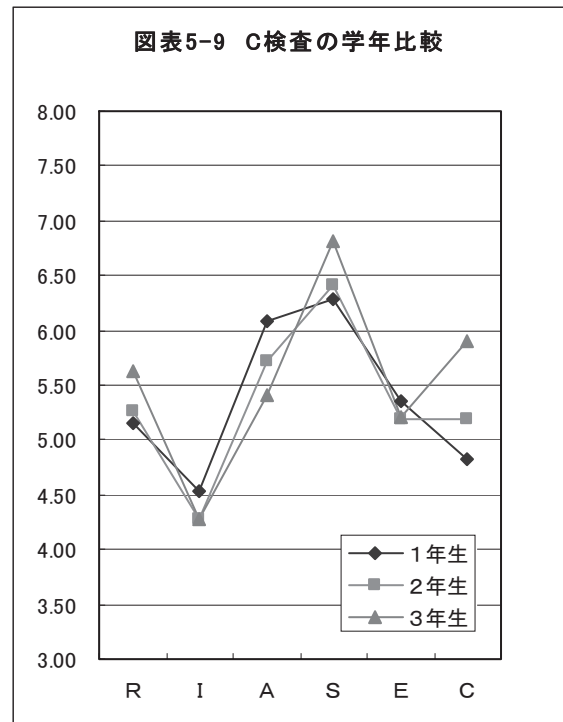
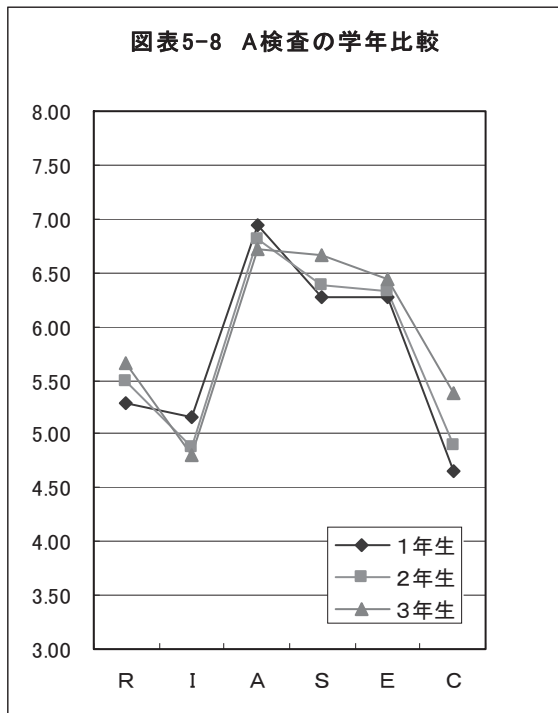


図表5-6 A検査C検査 中学校2年生の平均値 (n=3616)



図表5-7 A検査C検査 中学校3年生平均値 (n=3629)



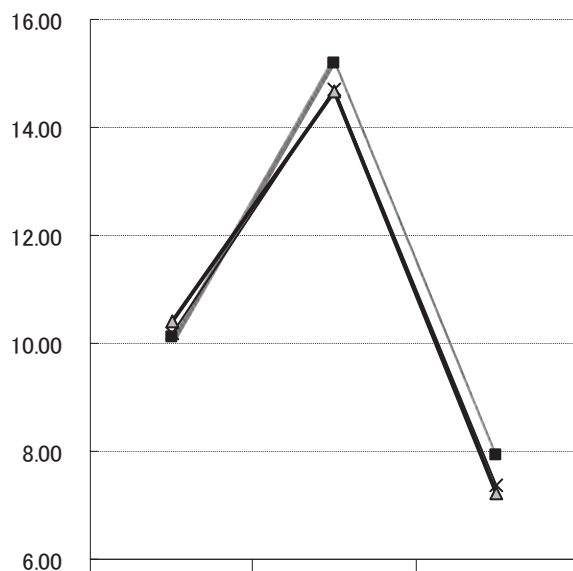


および図表 5-9 である。職業の 6 領域に関して、興味、自信とも学年による大きな違いはみられない。ただ、領域毎に学年での変化をみると、R 領域、S 領域、C 領域は、学年を追って、興味も自信も高くなる。

特に C 領域において中学 3 年生は 1 年生及び 2 年生より自信が高くなっている。I 領域や A 領域のような専門性の高い仕事が多く含まれる領域に関しては、1 年生より 2 年生、3 年生で興味も自信も低くなる。これは学年が上になるとともに現実的になることが回答に反映されているようで興味深い点である。

次に、B 検査の基礎的志向性について 3 学年の平均

図表5-10 B検査 中学校 学年別平均値



	D	P	T
■ 1年生(n=3721)	10.12	15.19	7.92
× 2年生(n=3616)	10.18	14.69	7.36
▲ 3年生(n=3629)	10.41	14.67	7.22

値を一つのグラフにまとめた結果が図表 5-10 である。D 志向、P 志向、T 志向に関して学年による大きな差はみられない。なお、少しずつではあるが、D 志向は学年とともに高くなるが、P 志向と T 志向は 1 年生が最も高く、2 年生、3 年生になるにつれて低くなることが示

されている。

5-3-2 職業興味と自信からみた職業名の並び順の比較

(1) 分析方法

A 検査と C 検査を構成している 54 項目は、それぞれ個別の職業についての職務内容を反映している。そこで、各項目を職業名におきかえ、職業名毎に、興味については、「やりたい」、「どちらともいえない」「やりたくない」の各回答の度数、自信については、「自信がある」、「どちらともいえない」、「自信がない」の各回答の度数を算出した。

職業興味や自信については、5-3-1 における分析の結果から、学年間の変化よりも男女間の違いの方が大きいことがわかったので、やりたい職業、自信のある職業に関して、男女で傾向の違いを比較した。

(2) 男女間の比較

A 検査と C 検査のそれぞれにおいて、「やりたい」、「自信がある」という回答の頻度が高かった順に項目を並べ替えた。項目は職業名に置き換えている。A 検査に関する男子の結果が図表 5-11、女子の結果が図表 5-12、C 検査の男子の結果が図表 5-13、女子の結果が図表 5-14 である。なお、すべての図表において、「やりたい」と回答した割合が平均以上の職業を灰色に網掛けし、その上で「自信がある」と回答した割合が平均以上の職業を斜体で示している。これらの図表は本章末に掲載した。

まず、A 検査の職業興味の結果をもとに、「やりたい」－「やりたくない」職業について男女の違いを比較してみよう。A 検査についての男子の回答（図表 5-11）をみると、男子は上位に「機械組立工」、「建築大工」、「漁師」など R 領域の職業が多い。下位には「行政書士」、「一般事務員」など C 領域の職業と、「看護師」、「航空客室乗務員」、「介護福祉士」など S 領域の職業が並ぶ。他方の女子は（図表 5-12）、上位に「保育士」、「航空客室乗務員」、「ホテルフロント係」など S 領域の職業と、「服飾デザイナー」、「インテリアデザイナー」、「イラストレーター」など A 領域の職業が並ぶ。下位には、「自動車整備工」、「トラック運転手」、「建設機械オペレーター」など R 領域の職業と、「植物学研究者」、「研究者」、「海洋学研究者」など I 領域の職業が並ぶ。

次に、C 検査の自信度の結果にもとづき、「自信がある」－「自信がない」職業について男女を比較する。男子の回答をみると（図表 5-13）、上位に「機械組立工」、「建築大工」、「漁師」など R 領域の職業が並ぶ。下位には「行政書士」、「一般事務員」など C 領域の職業と、「看護師」、「医師」など S 領域の職業と、「文芸作家」、「シナリオライター」など A 領域の職業が入り混じっている。他方の女子は（図表 5-14）、上位に「保育士」、「ホテルフロント係」、「介護福祉士」など S 領域の職業が並ぶ。下位には「自動車整備士」、「航空機整備士」など

R の要素が強い職業と、「研究者」、「植物学研究者」、「海洋学研究者」など I 領域の職業が並ぶ。

さらに、「やりたい」—「やりたくない」職業（図表 5-11、図表 5-12）と、「自信がある」—「自信がない職業」（図表 5-13、図表 5-14）とを比較する。

まず、男子について図表 5-11 をみると、「やりたい」と回答した人の割合が平均以上である 23 の職業のうち「自信がある」と回答した人の割合も平均以上である職業は 16 あり、1 位から 13 位までの全てを含む。その多くは既に見たように R 領域の職業である。逆に「やりたい」人は平均以上だが「自信がある」人が平均以下の職業には、「会社社長」、「チームリーダー」、「放送ディレクター」などの E 領域の職業が多い。同様の手順で図表 5-13 をみると、「自信がある」人は平均以上だが「やりたい」人が平均以下の職業には、「経理事務員」、「庶務係事務員」など C 領域の職業が多い。また「自信がある」人の割合も「やりたい」人の割合も平均以下の職業は、図表 5-13 の下から 15 位までの職業全てが該当し、「文芸作家」、「シナリオライター」など A 領域の職業と、「看護師」、「医師」、「旅行会社添乗員」など S 領域の職業と、「行政書士」、「一般事務員」など C 領域の職業が並んでいる。

次に、女子について図表 5-12 をみると、「やりたい」と回答した人の割合が平均以上である 24 の職業のうち「自信がある」と回答した人の割合も平均以上である職業は 20 あり、1 位から 20 位までの全てを含む。その多くは先に見たように S 領域の職業と A 領域の職業である。逆に「やりたい」人は平均以上だが「自信がある」人は平均以下の職業には、「マンガ家」、「文芸作家」、「シナリオライター」など A 領域の職業が多い。同様の手順で図表 5-14 をみると、「自信がある」人は平均以上だが「やりたい」人が平均以下の職業には、「一般事務員」、「庶務係事務員」、「銀行出納係」など男子と同じく C 領域の職業が多い。また「自信がある」人も「やりたい」人も平均以下の職業は、図表 5-14 の下から 25 位までの職業全てが該当し、「自動車整備士」、「航空機整備士」、「建設機械オペレーター」など R 領域の職業と、「研究者」、「植物学研究者」、「海洋学研究者」など I 領域の職業が多い。

（3）職業名からみた男女比較に関するまとめ

以上により、男女で共通する傾向を述べる。「やりたい」人が多い職業と「自信がある」人が多い職業、また「やりたくない」人が多い職業と「自信がない」人が多い職業とはほぼ一致していた。その一致度は女子の方が高いように思われる。また、「やりたい」人は少ないが「自信がある」人が多い職業は、男女ともに C 領域、すなわち一定の規則や決まりに従い同じことを繰り返す作業や活動が多い職業で多くみられた。

逆に、男女で異なる傾向は以下のとおりである。まず「やりたい」人も「自信がある」人も平均以上の職業は、男子では R 領域、女子では S 領域と A 領域の職業に多い。次に「やりたい」人は平均以上だが、「自信がある」人は平均以下の職業は、男子では E 領域が多いが、女子では A 領域の職業が多かった。E 領域は管理、経営、企画といったリーダーシップ

や独立心が求められる活動を多く含む職業であるため、興味はあっても自信が伴わないようである。A 領域は芸術的な要素が強く、独創性が求められる仕事で、興味は高くても、やはり才能や専門性ということを考え、自信が低くなるのであろう。また、「やりたい」も「自信がある」も平均以下となった職業には、男子では A 領域と S 領域の職業が多く、女子では R 領域と I 領域の職業が多かった。A 検査でも C 検査でも、やりたい、あるいは自信のある職業とやりたくない、自信がないという職業の領域は、前述した RIASEC の各領域の平均値にみられる男女差を反映している。

5-4 まとめ

本章では、職業レディネス・テストで測定された A 検査、B 検査、C 検査の結果をもとに、中学生の職業興味、基礎的志向性、職務遂行の自信度の平均値や回答傾向を分析した。

男女間の違い、学年間の違いという視点から各興味領域や志向性について平均値等を比較したが、学年間の違いよりは、男女間の違いが明確に示された結果となった。また、基礎的志向性よりは職業興味や職務遂行の自信度で男女差が明確にみられた点は興味深い。つまり日常生活の行動レベルでは男女の差はそれほど大きくないが、職業活動という観点からみると、男子が好む仕事、女子が好む仕事が中学生のときから既にはっきりと分かれていることがわかった。すなわち、男子は R 領域にみられる機械やものを扱う仕事、あるいは I 領域のような研究的な活動、E 領域のような管理、企画関係の仕事を好み、女子は S 領域のような対人サービスを多く含む仕事や A 領域のような芸術的領域の仕事を好む。

他方、興味と自信との関連であるが、6 つの職業領域についての平均値や選択者の度数を検討したところ、興味と自信が一致する領域、不一致の領域があることがわかった。男女の違いはあるが、おおむね、R、I、S 領域は興味と自信が一致するようである。それに対して、A 領域や E 領域は興味が自信よりも高く、C 領域は興味よりは自信の方が高くなる。A 領域や E 領域には、専門的なスキルあるいは才能が求められる仕事が多く含まれるが、こういった場合には、興味に比べ、自信は低くなるようである。一方、慣習的領域としての C 領域の項目には、パソコンを扱った事務的な仕事が多く含まれる。現代の中学生はパソコンに慣れているので、この種の仕事には十分に自信をもてるのであろう。

男女間での職業興味の違いが、高校生、あるいはそれ以上になって同じような傾向を見せるのか、あるいは変化するのかという問題、また、中学生でみられた興味と自信の関係が高校生以上になってどのようなレベルの変化をみせるのか、発達的に検討すると大変興味深い問題であると思われる。

なお、本報告書では、第 6 章で高校生を対象とした分析を行ない、興味と自信との差については第 8 章で詳しく検討する。

図表 5-11 A 検査「やりたい職業」全項目頻度 男子(n=5,596)

A検査 順位	C検査 順位	職業名	項目 番号	興味 の 6 類型	A検査(%)			C検査(%)
					やりたい	どちらとも	やりたくない	自信ある
					平均 17.7% SD 8.2	30.8%	51.5%	17.4% 7.4
1	1	機械組立工	1	R	44.5	29.8	25.7	41.4
2	5	古生物学者	2	I	36.3	26.8	36.9	29.7
3	2	建築大工	13	R	35.8	36.1	28.2	33.8
4	11	商店経営者	5	E	34.1	37.2	28.7	24.4
5	3	漁師	49	R	29.8	32.0	38.2	31.5
6	7	自動車整備工	37	R	28.9	32.2	38.9	29.2
7	12	花火師	7	R	28.2	32.1	39.8	23.1
8	10	消防士	19	R	27.6	32.8	39.6	25.0
9	6	建設機械オペレーター	25	R	24.4	32.1	43.5	29.3
10	13	店長	47	E	23.4	33.1	43.5	19.8
11	16	科学研究者	50	I	22.9	30.4	46.7	18.4
12	4	トラック運転手	31	R	22.5	33.1	44.4	30.7
13	9	コンピュータ・オペレータ	6	C	22.2	29.7	48.1	25.7
14	29	会社社長	41	E	22.1	34.3	43.6	15.2
15	35	薬学者	38	I	20.8	27.4	51.8	14.0
16	14	事務機器操作員	36	C	19.4	33.4	47.2	18.7
17	15	学芸員	44	I	18.8	31.3	50.0	18.6
18	25	チームリーダー	23	E	18.7	32.3	49.0	16.0
19	38	作曲家	39	A	18.6	30.0	51.4	13.1
20	20	航空機整備士	43	R	18.6	31.7	49.8	17.1
21	39	放送ディレクター	11	E	18.5	36.6	44.9	12.9
22	18	海洋学研究者	20	I	18.5	31.3	50.3	17.8
23	23	WEBデザイナー	33	A	18.1	28.8	53.2	16.0
24	26	営業課長	53	E	17.5	32.4	50.1	16.0
25	8	保育士	4	S	17.5	33.2	49.3	28.5
26	21	化学試験分析員	8	I	17.5	39.2	43.4	16.9
27	32	研究者	26	I	17.4	29.8	52.8	14.7
28	34	細菌学研究者	32	I	17.4	26.2	56.4	14.3
29	30	インテリアデザイナー	3	A	17.1	36.7	46.2	14.9
30	44	マンガ家	27	A	17.0	27.2	55.8	11.6
31	31	商業カメラマン	15	A	15.3	31.0	53.7	14.8
32	21	コンピュータ・プログラマー	42	C	15.2	23.4	61.5	16.9
33	36	アナウンサー	35	E	14.8	28.3	56.9	13.8
34	33	販売促進員	17	E	13.8	36.0	50.2	14.5
35	41	植物学研究者	14	I	12.6	32.6	54.8	12.4
36	17	経理事務員	12	C	12.4	33.7	53.9	18.0
37	49	シナリオライター	21	A	12.3	28.1	59.6	10.2
38	45	服飾デザイナー	45	A	12.2	23.7	64.2	11.5
39	47	イラストレーター	51	A	11.8	24.6	63.6	10.8
40	23	銀行出納係	24	C	11.7	34.4	53.9	16.0
41	27	給与事務員	54	C	11.4	28.4	60.2	15.9
42	52	文芸作家	9	A	11.1	26.6	62.4	8.4
43	46	新聞記者	29	E	11.0	31.3	57.8	11.0
44	28	ホテルフロント係	22	S	10.4	35.1	54.5	15.6
45	19	庶務係事務員	18	C	10.4	28.7	61.0	17.4
46	51	医師	40	S	10.2	28.8	61.0	8.7
47	43	児童相談員	46	S	10.2	30.8	59.0	11.8
48	40	指圧マッサージ師	10	S	10.1	27.1	62.7	12.7
49	48	旅行会社添乗員	16	S	10.0	27.6	62.4	10.3
50	42	介護福祉士	34	S	9.8	33.4	56.9	11.8
51	37	航空客室乗務員	52	S	9.0	28.8	62.2	13.8
52	53	看護師	28	S	6.8	27.8	65.4	8.1
53	50	一般事務員	48	C	5.8	27.4	66.8	9.8
54	54	行政書士	30	C	3.9	24.1	72.0	5.9

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

図表 5-12 A 検査「やりたい職業」全項目頻度 女子 (n=5,370)

A検査 順位	C検査 順位	職業名	項目 番号	興味の 6類型	A検査(%)			C検査(%)
					やりたい	どちらとも	やりたくない	自信ある
					平均 18.5%	26.5%	55.1%	15.7%
					SD 12.5	7.6	17.9	11.0
1	1	保育士	4	S	60.3	23.5	16.2	61.5
2	2	服飾デザイナー	45	A	55.4	27.2	17.4	40.0
3	6	インテリアデザイナー	3	A	43.9	36.3	19.9	29.3
4	7	イラストレーター	51	A	36.2	27.1	36.7	29.1
5	15	作曲家	39	A	32.5	34.5	32.9	20.4
6	5	航空客室乗務員	52	S	31.2	33.3	35.5	29.5
7	12	WEBデザイナー	33	A	30.5	29.4	40.2	23.5
8	12	商業カメラマン	15	A	30.5	31.3	38.2	23.4
9	3	ホテルフロント係	22	S	30.4	38.2	31.3	33.2
10	8	児童相談員	46	S	29.9	33.9	36.2	28.8
11	24	商店経営者	5	E	29.2	38.6	32.2	15.8
12	9	看護師	28	S	27.4	31.1	41.6	25.8
13	4	介護福祉士	34	S	27.0	39.0	34.0	29.7
14	11	旅行会社添乗員	16	S	25.5	30.5	44.0	24.3
15	10	コンピュータ・オペレータ	6	C	24.7	29.3	46.0	25.4
16	22	医師	40	S	23.2	30.1	46.7	16.9
17	14	事務機器操作員	36	C	23.2	32.7	44.2	21.5
18	17	販売促進員	17	E	22.9	38.7	38.4	19.3
19	19	アナウンサー	35	E	22.9	28.6	48.6	18.2
20	21	営業課長	53	E	22.7	34.1	43.2	17.4
21	28	マンガ家	27	A	20.8	23.9	55.3	13.6
22	26	文芸作家	9	A	20.5	27.6	51.9	13.8
23	29	放送ディレクター	11	E	20.2	35.7	44.2	12.4
24	27	シナリオライター	21	A	20.0	29.9	50.2	13.7
25	20	指圧マッサージ師	10	S	17.1	30.7	52.1	17.8
26	30	店長	47	E	15.9	31.9	52.2	11.9
27	23	銀行出納係	24	C	14.5	35.1	50.5	16.6
28	18	庶務係事務員	18	C	14.4	30.2	55.4	18.6
29	16	一般事務員	48	C	13.8	31.0	55.2	19.6
30	40	薬学者	38	I	13.6	22.0	64.5	7.1
31	32	古生物学者	2	I	12.7	16.9	70.4	9.9
32	25	経理事務員	12	C	12.0	28.3	59.6	13.9
33	42	花火師	7	R	11.9	21.8	66.3	6.5
34	33	新聞記者	29	E	10.7	29.6	59.7	9.4
35	47	会社社長	41	E	10.6	27.3	62.1	6.1
36	46	科学研究者	50	I	10.3	18.7	71.0	6.3
37	34	学芸員	44	I	10.0	20.6	69.5	9.3
38	45	細菌学研究者	32	I	9.9	17.1	73.0	6.3
38	31	給与事務員	54	C	9.9	25.2	64.8	11.5
40	36	チームリーダー	23	E	9.2	26.2	64.6	8.0
41	38	化学試験分析員	8	I	8.8	29.2	61.9	7.7
42	43	消防士	19	R	8.7	22.0	69.2	6.4
43	35	コンピュータ・プログラマー	42	C	8.3	15.1	76.6	8.3
44	41	建築大工	13	R	8.1	22.2	69.8	6.7
45	37	機械組立工	1	R	8.1	18.9	73.0	7.9
46	49	海洋学研究者	20	I	7.2	17.0	75.8	5.7
47	39	行政書士	30	C	6.7	25.8	67.5	7.6
48	43	漁師	49	R	6.4	14.0	79.6	6.4
49	51	研究者	26	I	6.3	16.5	77.3	4.8
50	50	植物学研究者	14	I	5.2	17.5	77.3	4.9
51	53	航空機整備士	43	R	4.7	18.9	76.4	3.8
52	52	建設機械オペレーター	25	R	4.4	10.4	85.2	4.4
53	48	トラック運転手	31	R	4.4	13.3	82.4	5.9
54	54	自動車整備工	37	R	2.8	10.8	86.4	2.8

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

図表 5-13 C検査「自信がある職業」全項目頻度 男子(n=5,596)

C検査 順位	A検査 順位	職業名	項目 番号	興味の 6類型	C検査(%)			A検査(%) やりたい 8.2 17.7%
					自信ある 平均 17.4% SD 7.4	どちらとも 28.7% 3.1	自信ない 53.9% 9.1	
1	1	機械組立工	1	R	41.4	28.0	30.5	44.5
2	3	建築大工	13	R	33.8	31.7	34.6	35.8
3	5	漁師	49	R	31.5	32.6	35.9	29.8
4	12	トラック運転手	31	R	30.7	32.2	37.1	22.5
5	2	古生物学者	2	I	29.7	30.3	40.0	36.3
6	9	建設機械オペレーター	25	R	29.3	31.4	39.3	24.4
7	6	自動車整備工	37	R	29.2	30.3	40.5	28.9
8	25	保育士	4	S	28.5	25.2	46.3	17.5
9	13	コンピュータ・オペレータ	6	C	25.7	25.7	48.6	22.2
10	8	消防士	19	R	25.0	29.6	45.4	27.6
11	4	商店経営者	5	E	24.4	34.1	41.5	34.1
12	7	花火師	7	R	23.1	33.8	43.2	28.2
13	10	店長	47	E	19.8	31.1	49.1	23.4
14	16	事務機器操作員	36	C	18.7	25.5	55.8	19.4
15	17	学芸員	44	I	18.6	30.4	51.0	18.8
16	11	科学研究者	50	I	18.4	28.3	53.3	22.9
17	36	経理事務員	12	C	18.0	27.3	54.7	12.4
18	22	海洋学研究者	20	I	17.8	31.9	50.3	18.5
19	45	庶務係事務員	18	C	17.4	26.1	56.5	10.4
20	20	航空機整備士	43	R	17.1	31.4	51.5	18.6
21	26	化学試験分析員	8	I	16.9	33.0	50.1	17.5
21	32	コンピュータ・プログラマー	42	C	16.9	22.8	60.2	15.2
23	40	銀行出納係	24	C	16.0	33.2	50.7	11.7
23	23	WEBデザイナー	33	A	16.0	28.0	56.0	18.1
25	18	チームリーダー	23	E	16.0	27.0	57.0	18.7
26	24	営業課長	53	E	16.0	32.1	51.9	17.5
27	41	給与事務員	54	C	15.9	30.9	53.2	11.4
28	44	ホテルフロント係	22	S	15.6	31.3	53.1	10.4
29	14	会社社長	41	E	15.2	29.2	55.6	22.1
30	29	インテリアデザイナー	3	A	14.9	30.8	54.3	17.1
31	31	商業カメラマン	15	A	14.8	31.9	53.4	15.3
32	27	研究者	26	I	14.7	29.6	55.7	17.4
33	34	販売促進員	17	E	14.5	32.3	53.3	13.8
34	28	細菌学研究者	32	I	14.3	25.7	60.1	17.4
35	15	薬学者	38	I	14.0	26.2	59.8	20.8
36	33	アナウンサー	35	E	13.8	25.5	60.8	14.8
37	51	航空客室乗務員	52	S	13.8	31.9	54.3	9.0
38	19	作曲家	39	A	13.1	27.5	59.4	18.6
39	21	放送ディレクター	11	E	12.9	29.0	58.1	18.5
40	48	指圧マッサージ師	10	S	12.7	27.1	60.2	10.1
41	35	植物学研究者	14	I	12.4	30.0	57.7	12.6
42	50	介護福祉士	34	S	11.8	26.0	62.2	9.8
43	47	児童相談員	46	S	11.8	28.7	59.6	10.2
44	30	マンガ家	27	A	11.6	26.3	62.2	17.0
45	38	服飾デザイナー	45	A	11.5	23.2	65.4	12.2
46	43	新聞記者	29	E	11.0	28.8	60.2	11.0
47	39	イラストレーター	51	A	10.8	24.5	64.7	11.8
48	49	旅行会社添乗員	16	S	10.3	29.6	60.1	10.0
49	37	シナリオライター	21	A	10.2	23.3	66.5	12.3
50	53	一般事務員	48	C	9.8	28.7	61.5	5.8
51	46	医師	40	S	8.7	25.1	66.2	10.2
52	42	文芸作家	9	A	8.4	22.5	69.1	11.1
53	52	看護師	28	S	8.1	26.1	65.8	6.8
54	54	行政書士	30	C	5.9	25.9	68.3	3.9

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

図表 5-14 C 検査「自信がある職業」全項目頻度 女子 (n=5,370)

C検査 順位	A検査 順位	職業名	項目 番号	興味 の6類 型	C検査(%)			A検査(%)
					自信ある	どちらとも	自信ない	やりたい
					平均 15.7% SD 11.0	25.4%	58.9%	18.5% 12.5
1	1	保育士	4	S	61.5	20.8	17.7	60.3
2	2	服飾デザイナー	45	A	40.0	34.2	25.8	55.4
3	9	ホテルフロント係	22	S	33.2	34.9	32.0	30.4
4	13	介護福祉士	34	S	29.7	32.0	38.4	27.0
5	6	航空客室乗務員	52	S	29.5	36.0	34.4	31.2
6	3	インテリアデザイナー	3	A	29.3	37.2	33.5	43.9
7	4	イラストレーター	51	A	29.1	28.5	42.4	36.2
8	10	児童相談員	46	S	28.8	33.5	37.7	29.9
9	12	看護師	28	S	25.8	29.6	44.6	27.4
10	15	コンピュータ・オペレータ	6	C	25.4	26.6	48.0	24.7
11	14	旅行会社添乗員	16	S	24.3	33.4	42.3	25.5
12	8	商業カメラマン	15	A	23.4	35.9	40.7	30.5
12	7	WEBデザイナー	33	A	23.5	31.0	45.5	30.5
14	17	事務機器操作員	36	C	21.5	25.8	52.7	23.2
15	5	作曲家	39	A	20.4	34.6	45.1	32.5
16	29	一般事務員	48	C	19.6	30.4	49.9	13.8
17	18	販売促進員	17	E	19.3	34.4	46.3	22.9
18	28	庶務係事務員	18	C	18.6	26.2	55.2	14.4
19	19	アナウンサー	35	E	18.2	28.1	53.7	22.9
20	25	指圧マッサージ師	10	S	17.8	30.6	51.6	17.1
21	20	営業課長	53	E	17.4	33.2	49.4	22.7
22	16	医師	40	S	16.9	27.7	55.4	23.2
23	27	銀行出納係	24	C	16.6	34.7	48.7	14.5
24	11	商店経営者	5	E	15.8	31.1	53.1	29.2
25	32	経理事務員	12	C	13.9	23.5	62.6	12.0
26	22	文芸作家	9	A	13.8	25.3	60.9	20.5
27	24	シナリオライター	21	A	13.7	27.5	58.8	20.0
28	21	マンガ家	27	A	13.6	24.9	61.6	20.8
29	23	放送ディレクター	11	E	12.4	29.9	57.7	20.2
30	26	店長	47	E	11.9	29.5	58.6	15.9
31	38	給与事務員	54	C	11.5	28.2	60.3	9.9
32	31	古生物学者	2	I	9.9	19.2	70.9	12.7
33	34	新聞記者	29	E	9.4	27.3	63.3	10.7
34	37	学芸員	44	I	9.3	21.7	69.0	10.0
35	43	コンピュータ・プログラマー	42	C	8.3	17.4	74.3	8.3
36	40	チームリーダー	23	E	8.0	21.6	70.4	9.2
37	45	機械組立工	1	R	7.9	17.2	74.9	8.1
38	41	化学試験分析員	8	I	7.7	21.9	70.4	8.8
39	47	行政書士	30	C	7.6	26.3	66.1	6.7
40	30	薬学者	38	I	7.1	19.0	73.9	13.6
41	44	建築大工	13	R	6.7	17.9	75.3	8.1
42	33	花火師	7	R	6.5	20.6	72.8	11.9
43	42	消防士	19	R	6.4	17.7	75.9	8.7
43	48	漁師	49	R	6.4	17.8	75.8	6.4
45	38	細菌学研究者	32	I	6.3	16.4	77.3	9.9
46	36	科学研究者	50	I	6.3	15.9	77.9	10.3
47	35	会社社長	41	E	6.1	21.2	72.6	10.6
48	53	トラック運転手	31	R	5.9	16.9	77.2	4.4
49	46	海洋学研究者	20	I	5.7	18.1	76.2	7.2
50	50	植物学研究者	14	I	4.9	16.7	78.4	5.2
51	49	研究者	26	I	4.8	15.7	79.5	6.3
52	52	建設機械オペレーター	25	R	4.4	13.4	82.2	4.4
53	51	航空機整備士	43	R	3.8	19.3	76.9	4.7
54	54	自動車整備工	37	R	2.8	11.6	85.6	2.8

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

第6章 高校生の職業レディネス

6-1 本章の目的

本章では、高校生の職業レディネスについて学年別および男女別の傾向を述べる。

職業への興味や自信は、様々な経験や環境の変化によって変化していく。学校から職業の世界へ移行する時期が近づくにつれて、子どもたちの職業に対する意識はより現実的なものに変化するはずである。本章の6-3-1では、高校生の職業への興味や自信は中学生と比べて、あるいは学年を上がることでどのように変化するか明らかにすることで、職業意識の発達過程を明らかにしたい^{注6-1}。

また、看護師がつい最近まで「看護婦」とよばれていたように、職業の中には、性別によって就くことが多い職業と少ない職業とがある。中学生（村松 2004）や高校生（尾嶋 2001、片瀬 2005 など）の進路選択にもジェンダーによって違いがあることが多くの研究で指摘されている。本章の6-3-2では、高校生の職業に対する志向性や、興味のある職業・自信のある職業を男女で比較することで、職業への興味や自信におけるジェンダー間の相違点を考察したい。

6-2 分析の対象

調査の方法は第3章「標準化調査の概要」に準ずる。本章では分析の対象として高校生のデータを取り上げた。分析の対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

<分析対象>

標準化調査に協力した全国62校の高等学校の1年生～3年生。

人数の内訳は以下の通り。高校生計17,104名（1年男子3,244名、1年女子3,175名、2年男子3,185名、2年女子3,399名、3年男子1,980名、3年女子1,979名）。

6-3 分析方法と結果

6-3-1 分析方法

はじめに、学年別にA検査（職業への興味）、B検査（基礎的志向性）、C検査（職業への自信）の平均値の得点パターンを比較し、その結果を第5章で明らかにされた中学生の結果と比較する。次に、男女別にA検査・B検査・C検査の平均値の得点パターンと「やりたい

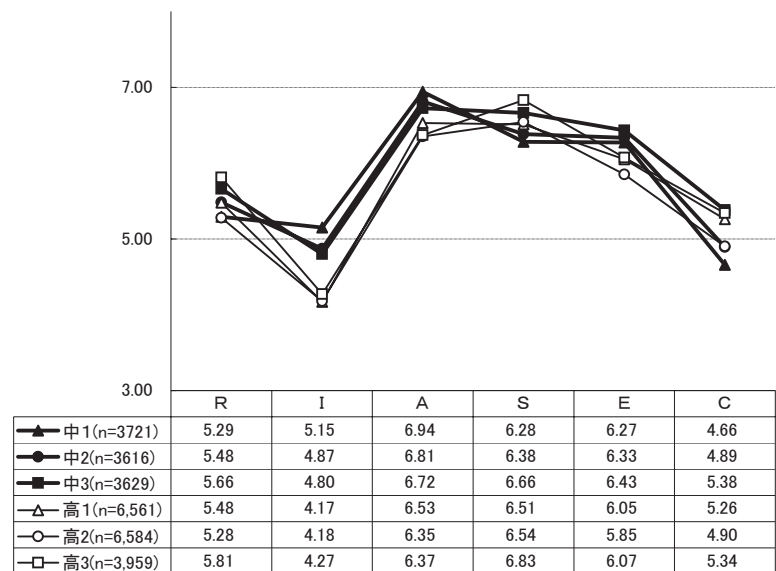
^{注6-1} 厳密に発達過程をみるためには、一つのコーホートをパネルとした調査が必要である。本調査のデータは横断的データであるため、同時点における複数のコーホートを比較することで、暫定的に発達過程について論じたい。

職業（A 検査）」と「自信がある職業（C 検査）」の順位を男女で比較する。

得点パターンの比較の際に用いる平均値は、以下の手順で算出された。A 検査と C 検査では、具体的な職業名ではなく大まかな仕事内容を提示し、被験者に「やってみたい（自信がある）」項目には「○」（2 点）、「やりたくない（自信がない）」項目には「×」（0 点）、「どちらともいえない」項目には「_」（1 点）を記入してもらう。その結果、各項目に 0～2 点の得点が与えられる。A 検査と C 検査の 54 の検査項目は 9 項目ずつ、R 領域（現実的領域）、I 領域（研究的領域）、A 領域（芸術的領域）、S 領域（社会的領域）、E 領域（企業的領域）、C 領域（慣習的領域）の 6 つの領域に分けられる。よって各領域に被験者 1 名あたり 0～18 点の得点が与えられる。図表 6-1、図表 6-2、図表 6-4、図表 6-5 に示された平均値は、6 領域それぞれについて全被験者の得点を合計したものを有効回答数で除したものである。同様に B 検査では日常の様々な活動について、「あてはまる」項目には「○」（1 点）、「あてはまらない」項目には「×」（0 点）を記入してもらう。その結果、各項目に 0～1 点の得点が与えられる。B 検査の 64 の検査項目は 24 項目が D 志向（対情報関係志向）、24 項目が P 志向（対人関係志向）、16 項目が T 志向（対物関係志向）の 3 つの志向に分けられる。よって被験者 1 名あたり D 志向・P 志向は 0～24 点、T 志向は 0～16 点の得点が与えられる。図表 6-3 と図表 6-6 に示された平均値は、3 つの志向それぞれについて全被験者の得点を合計したものを有効回答数で除したものである。全ての検査において、各項目に何も記入されなかった場合は欠損値とした^{注 6-2}。

6-3-2 学年別の傾向

本節では、高校生の職業志向性と基礎志向性を学年別に、また中学生と比較することで、高校生の職業意識の発達のありようを明らかにしたい。



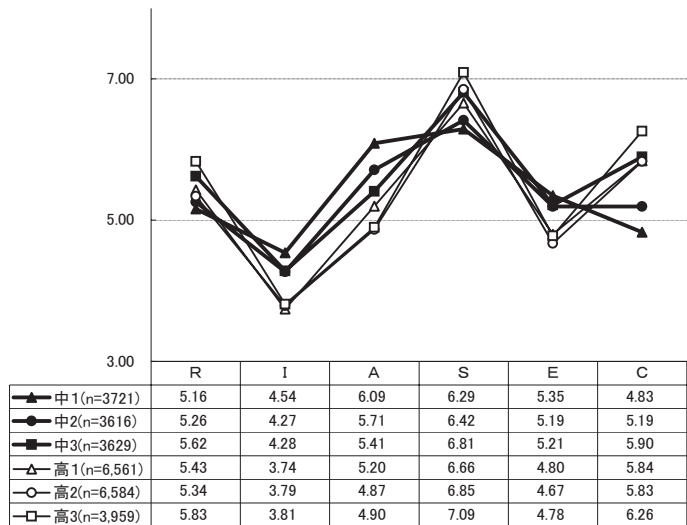
図表6-1 A検査 学年別中学・高校平均値

注 6-2 なお、次節から示す分析結果を導くために、平均値の比較を行う際には、学年別、男女別、検査年別に t 検定を実施したところ、ほぼ全ての組み合わせにおいてわずかな差であっても有意になった。

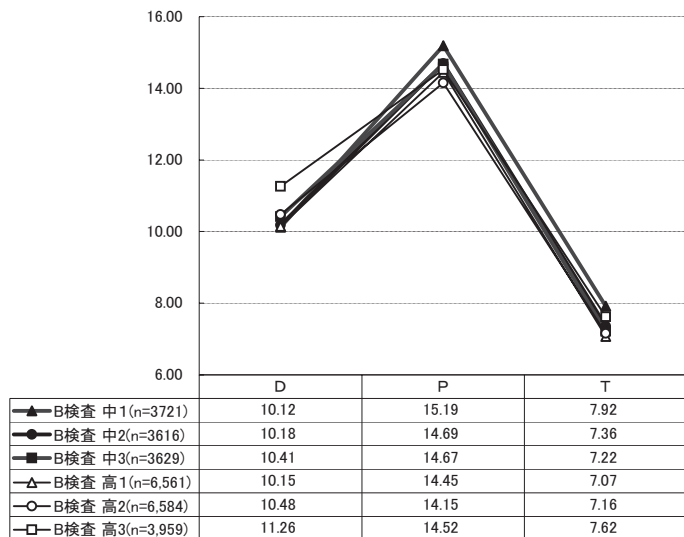
(1) 第3版の得点パターン

はじめに、高校生のみに
ついて大まかな傾向をみて
みよう。図表 6-1～図表 6-3
をみると、職業への興味と
自信、基礎的志向性の全て
において、どの学年もよく
似た形状となる。職業への
興味 (A 検査) は、A 領域

(芸術的領域)と S 領域(社
会的領域)がもっとも高く、
次いで E 領域(企業的領域)
と R 領域 (現実的領域)、
やや離れて C 領域 (慣習的
領域)と続き、I 領域 (研
究的領域)が最も低い。自信 (C 検査) は S 領域が突
出して高く、次いで C 領域、
R 領域、やや離れて A 領域
と E 領域が拮抗し、I 領域
が最も低い。興味 (A 検査)
と自信 (C 検査) とを比較
すると、I 領域・A 領域・E
領域は興味、S 領域・C 領



図表6-2 C検査 学年別中学・高校平均値



図表6-3 B検査 学年別中学・高校平均値

域は自信の方が高く、R 領域は興味と自信がほぼ一致する。基礎的志向性は、グラフをみるとどの学年も P 志向、D 志向、T 志向の順に高い。ただし、T 志向は項目数が少ないので、便宜的に得点を 2 分の 3 倍すると D 志向の平均値とそれほど変わらず、P 志向のみが高いことがわかる。学年別に見ると、どの検査においても全体に 3 年生の得点がやや高めだが、1、2 年生との差はそれほど大きくはなく、1 年生と 2 年生との差はごくわずかである。

しかし中学生と比較すると、高校生ならではの特徴が見える。まず職業への興味と自信(図表 6-1、図表 6-2)については、I 領域 (研究的領域)・A 領域 (芸術的領域)・E 領域 (企業的領域)は興味も自信も中学生の方が高く、S 領域 (社会的領域)は興味も自信も高校生の方が高い。R 領域 (現実的領域)と C 領域 (慣習的領域)は自信のみ高校生の方が高く、興味にはあまり違いがみられない。更に図表 6-1 と図表 6-2 を比較すると、高校生が興味と自信との間に違いが見られるのに対し、中学生のグラフは興味も自信も良く似た形状を示す。

基礎的志向性（図表 6-3）については、P 志向は全体に中学生の方が高く、D 志向はあまり違いが見られない。T 志向は中学では高学年ほど低くなり、高校では高学年ほど高くなる。

（2）考察

以上の結果を考察する。高校生のみで学年間の比較を行った場合は得点差があまりみられず、高校での3年間における発達について、それほどめだった傾向を見出すことはできなかった。しかし、中学生と高校生との比較を行った場合、いくつかの興味領域で大きな得点差が見出された。

中学生の方が職業への興味（A 検査）も自信（C 検査）も高かった I 領域・A 領域・E 領域には、高い学歴を必要とする研究職（I 領域）、「会社社長」や「商店経営者」のような人の上に立つ職業（E 領域）、「デザイナー」や「作曲家」といった華やかな世界の著名人（A 領域）を想像させる項目が多く含まれる。中学生の職業意識はいまだ憧れの段階にあるといえるだろう。

また、中学生も高校生も3つの基礎的志向性のうち P 志向が飛びぬけて高かった。中学生は、P 志向の値はむしろ高校生より高いにもかかわらず、S 領域の職業への自信は他領域と比べてさほど高くない。他方、高校生は職業への自信も興味も、対人サービス職業が多く含まれる S 領域（社会的領域）が最も高い値を示した。

更に、職業への自信について高校生の方が高い得点を示した R 領域や C 領域には、機械の操作や乗り物の運転、書類作成やコンピュータでのデータ処理など、専門学科の高校で学ぶスキルの使用が検査項目の文言に含まれる職業が多い。

以上より、高校生は職業への興味や自信を、自身の日常的な志向性や学校で学んだスキルと関連させて判断する傾向が中学生より高いといえる。また、特別な才能や多大な努力が必要な職業が多い I 領域・A 領域・E 領域の得点が中学生より低いことから、高校生が実際に就くことが可能かどうかという基準で、職業への興味や自信を判断している可能性も伺われる。高校生は中学生と比べると、職業への興味や自信についてより現実的で客観的な判断を下していることが示唆される。

6-3-3 男女別の傾向

本節ではまず、男女の職業志向性および基礎志向性を比較することによって、高校生の志向する職業が男女間でどのように異なるのかを明らかにする。

（1）職業への興味と自信の平均点

図表 6-4 と図表 6-5 より、職業への興味（A 検査）と自信（C 検査）について職業領域ごとの平均値を男女で比べると、大きな差がみられたのは R 領域（現実的領域）・I 領域（研究的領域）・A 領域（芸術的領域）・S 領域（社会的領域）である。興味と自信ともに R 領域と

I 領域は男子、S 領域は女子の方が高い。また女子の方が A 領域への興味が高かった。逆に男女差が最も小さいのは E 領域（企業的領域）への興味と C 領域（慣習的領域）への自信である。更に、興味（A 検査）と自信（C 検査）の得点の差を男女で比べると、男女とも I 領域・A 領域・E 領域は自信より興味が、C 領域は興味より自信が高く、R 領域は両者がほぼ一致する。S 領域でのみ男女で異なる傾向がみられ、女子は興味と自信がほぼ一致するが、男子は自信の方が高い。

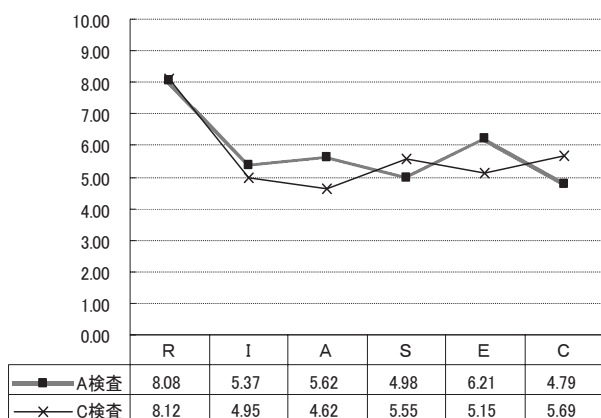


図6-4 高等学校 男子の平均値(n=8,409)

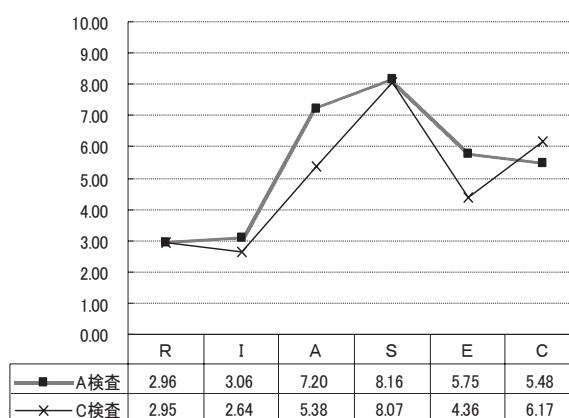


図6-5 高等学校 女子の平均値(n=8,695)

次に、基礎的志向性（B 検査）について平均値を男女で比較すると（図表 6-6）、男女ともに P 志向、D 志向、T 志向の順に高い。D 志向は男女がほぼ一致した。T 志向は男子、P 志向は女子の方が高い。

以上をまとめる。職業への興味、自信、基礎的志向性すべてにおいて、男子は物を扱うこと（R 領域、T 志向）、女子は対人関係に関する指標（S 領域、P 志向）で高い得点を示した。物事を

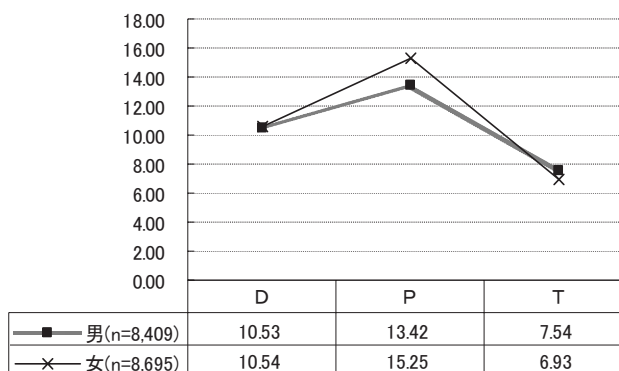


図6-6 高等学校 男女別平均値(B検査)

企画・運営・管理する職業（E 領域）への興味や、決まりに従い同じことを繰り返す職業（C 領域）への自信、情報を扱うことへの志向性（D 志向）には男女であまり差がみられなかった。

（2）「やりたい」職業・「自信がある」職業

個々の職業に目を向けた場合、どのような男女の違いや共通点がみえるだろうか。図表 6-7～図表 6-10（本章末に一括して掲載）は A 検査（職業への興味）と C 検査（職業への自信）

の結果を男女別に示したもので、54の検査項目が表す職業を、図表6-7と図表6-8では「やりたい」と答えた者の割合が高い順に、図表6-9と図表6-10では「自信がある」と答えた者の割合が高い順に並べた。各項目のパーセンテージは「やりたい」「自信がある」と答えた者の数を各項目の有効回答数で除したものである。また、それぞれの職業を「やりたい」と答えた者の割合が平均以上の場合は網掛け、「自信がある」と答えた割合が平均以上の場合は斜体で示した。

①職業興味（A検査）の並び順

はじめに、個々の職業への興味を男女で比較する（図表6-7、図表6-8）。54の職業の仕事内容を「やりたい」と答えた割合の平均（男子16.9%、女子17.4%）に大きな差はないが、ばらつきは女子の方が大きい（SD：男子7.8、女子11.0）。また、男子では「やりたい」と答えた割合が47位まで10%以上であるのに対し、女子ではその割合が37位で10%を下回る。男子の場合、下位層の職業に対しても「やりたい」と答える者が相当数いるが、女子の場合、ほとんどの者が下位層の職業には興味を持たないことがわかる。

次に順位をみると、男子は、上位に「機械組立工」「建築大工」「自動車整備工」などR領域（現実的領域）の職業が並ぶ。下位には「行政書士」「一般事務員」「庶務係事務員」などC領域（慣習的領域）の職業と、「看護師」「航空客室乗務員」「旅行会社添乗員」などS領域（社会的領域）の職業が並ぶ。S領域の職業には主に女性が就く職業が多数含まれるが、同じくS領域の職業でかつ女性が就くことが多い「保育士」へは4人に1人が「やりたい」と回答している^{注6-3}。

女子は、上位に「保育士」「ホテルフロント係」「児童相談員」などS領域の職業と、「服飾デザイナー」「インテリアデザイナー」「商業カメラマン」などA領域（芸術的領域）の職業が並ぶ。下位には「自動車整備工」「航空機整備士」「建設機械オペレーター」などR領域の職業と、「研究者」「植物学研究者」「海洋学研究者」などI領域（研究的領域）の職業が並ぶ。下位に並ぶR領域の職業はいずれも男性が多いブルーカラーの職業である。

②職業への自信（C検査）の並び順

次に、職業への自信について男女を比較しよう（図表6-9、図表6-10）。54の職業を「自信がある」と答えた者の割合の平均（女子14.0%、男子15.8%）に大きな差はないが、ばらつきは女子の方が大きい（SD：男子7.5、女子10.2）。また「自信がある」の割合が20%以上の職業は男子（10）より女子（15）で多く、10%を下回る職業も男子（12）より女子（25）で多い。職業への興味と同様、男子はどんな職業にも相当数「自信がある」と答える者がいるが、女子では多くの者が「自信がある」職業と、ほとんどの者が「自信がある」と答えない職業とに明確に分かれる。女子の職業への興味や自信は、男子に比べて画一的だといえよ

^{注6-3} 「保育士」の検査項目の文中には「保育園」という言葉が入っているので、単純に子供と遊ぶことが好き・得意ということだけでなく、職業としての選好が反映されている。

う。

職業の並び順をみていこう。男子は、上位に「機械組立工」「トラック運転手」「建設機械オペレーター」など R 領域（現実的領域）の職業が並ぶ。下位には「マンガ家」「文芸作家」「シナリオライター」など A 領域（芸術的領域）の職業が並ぶ。これらは全て物語を考え文章にする力を要する職業である。同じ A 領域の職業でも文章ではなく絵や立体のかたちで表現する「インテリアデザイナー（17位）」「服飾デザイナー（23位）」は比較的上位にある。

女子は、上位に「保育士」「ホテルフロント係」「介護福祉士」など S 領域（社会的領域）の職業が並ぶ。下位には「自動車整備士」「航空機整備士」など R 領域の職業と、「研究者」「植物学研究者」「化学研究者」など I 領域（研究的領域）の職業が並ぶ。両者とも理工系の知識や技術を必要とする職業が多い。同じ I 領域の職業でも「歴史・民族などの資料を集め、研究する」という文言で問われた「学芸員」は 27 位（10.6%）と中位にある。

③職業への興味（A 検査）と自信（C 検査）との関連

最後に、「やりたい」職業（図表 6-7、図表 6-8）と、「自信がある」（図表 6-9、図表 6-10）とを比較する。図表 6-7～図表 6-10 全てにおいて、「やりたい」と回答した割合が平均以上の職業を網掛し、「自信ある」と回答した割合が平均以上の職業を斜体で示した。そして、54 の職業を以下の 4 グループへ分類した。（ ）内は該当する項目数である。

ア)「人気が高いし得意な者も多い職業」:「やりたい」と回答した者の割合が平均以上でかつ「自信がある」と回答した者の割合も平均以上の職業〔網掛×斜体〕

イ)「人気は高いが得意な者が少ない職業」:「やりたい」と回答した者の割合が平均以上でかつ「自信がある」と回答した者の割合が平均未満の職業〔網掛のみ〕

ウ)「得意な者が多いが人気は低い職業」:「やりたい」と回答した者の割合が平均未満でかつ「自信がある」と回答した者の割合が平均以上の職業〔斜体のみ〕

エ)「得意な者が少なく人気も低い職業」:「やりたい」と回答した者の割合が平均未満でかつ「自信がある」と回答した者の割合も平均未満の職業〔文字飾りなし〕

まず、男子について図表 6-7 をみると、「人気が高いし得意な者も多い職業（15）」は R 領域（現実的領域）の職業に多い。逆に「人気は高いが得意な者が少ない職業（8）」は、「作曲家」「服飾デザイナー」「商業カメラマン」などの A 領域（芸術的領域）と、「店長」「会社社長」「営業課長」「放送ディレクター」などの E 領域（企業的領域）に多い。次に図表 6-9 より、「得意な者が多いが人気は低い職業（4）」は「庶務係事務員」「経理事務員」「銀行出納係」などの C 領域（慣習的領域）に多い。最後に「得意な者が少なく人気も低い職業（27）」には I 領域（研究的領域）と S 領域（社会的領域）が中心である。

次に女子について図表 6-8 をみると、「人気が高いし得意な者も多い職業（17）」は S 領域に多い。逆に「人気は高いが得意な者が少ない職業（3）」は「商店経営者」「作曲家」「医師」と様々な領域に分布している。次に図表 6-10 より、「得意な者が多いが人気は低い職業（5）」

は「一般事務員」「庶務係事務員」「銀行出納係」などの C 領域に限られる。また「得意な者が少なく人気も低い職業 (29)」には R 領域・I 領域・E 領域が多くを占める。

(3) 考察

まず、男女の共通点を述べる。平均点の比較 (図表 6-4~図表 6-6) では、E 領域 (企業的領域) への興味と C 領域 (慣習的領域) への自信、D 志向は男女でほぼ同一の得点が得られた。注目したいのは自信と興味のズレである。男女ともに、高い学歴を要する職業が多い I 領域 (研究的領域)、横文字の華やかにみえる職業が多い A 領域 (芸術的領域)、組織のトップに立つ職業が多い E 領域は自信より興味が高く、比較的就くことが容易な職業が多い C 領域は興味より自信が高い。この結果は、高校生が回答の際に、単純に「やりたい」かどうか、「自信がある」かどうかだけでなく、実際にそれらの職業へ就くために越えなくてはならない社会的なハードルの高さを認識し、考慮した上で回答している可能性を示す。

次に、男女の相違について考察を加える。職業への興味と自信、基礎的志向性、いずれにおいても、どんな方法で分析しても、男子は R 領域 (現実的領域) や T 志向といった、道具や機械を扱うことに対する志向性が突出して高く、女子は S 領域 (社会的領域) や P 志向といった対人関係に関する志向性が突出して高い。そして男子は S 領域 (社会的領域)、女子は R 領域 (現実的領域) の職業への興味と自信が他方の性と比べて著しく低い。この、男子 = 対物関係志向、女子 = 対人関係志向という傾向が、男女間の相違をもっとも顕著に示す特徴といえる。

以上の結果から「男子は物を扱うことが好き・得意であり、女子は人と接することが好き・得意なので、職業も各自の嗜好・適性にあわせて選んでいる」と結論付けることは危険である。男子が忌避する S 領域の職業には「看護師」「客室乗務員」など女性が多くを占める職業が多数含まれており、人と接する仕事への関心が低いというより、女性が多い職業に就きたくないためにこれらの職業を忌避した可能性がある。女子が忌避する R 領域の職業についても男性が多くを占めるブルーカラー職が多数含まれており、同様の可能性が伺われる。ただし、これらの可能性を検証するためには、男子・女子それぞれで下位となった職業について、高校生がどのようなイメージを抱いているのか分析する必要があるだろう。

以上より、職業に付随するジェンダー・イメージが高校生の職業への興味・自信に影響を与えている可能性が示唆された。しかし今回、わずかではあるが、彼らが従来のジェンダー・イメージに左右されずに職業への興味や自信を判断していることを示す結果もえられた。S 領域に分類される職業でかつ女性が多くを占める「保育士」は、男子の「やりたい職業」の第 8 位、「自信がある職業」の第 2 位に位置した。職業に付随するジェンダー・イメージの影響力は絶対的なものではないことが示唆される。

もう一つ、男女で明確な違いがみられたのが、回答のばらつき具合である。個々の職業への興味・自信をみた場合、男子では下位層の職業に対しても「やりたい」「自信がある」と答

える者が相当数いるのに対し、女子では多くの者が「やりたい・自信がある」と答える職業（S領域・A領域）と、ほとんどの者が「やりたい・自信がある」と答えない職業（R領域・I領域）とに明確に分かれる。男子には、職業への興味や関心において様々な志向性をもつ者がいるのに対し、女子の興味や自信は画一的だといえる。また男子と比べて、女子は「人気は高いが得意な者が少ない職業」が極めて少なく、「やりたい職業」と「自信のある職業」とがより合致していた。また日常生活での基礎的な志向性（P志向 対人関係志向）と職業への志向性（S領域 社会的領域）もより合致していた。すなわち、女子はある職業をやりたいか否か尋ねられた場合に、その仕事内容を自分の日常的な活動と照らし合わせて、それを好きかどうか、得意かどうかという点から判断している可能性がある。以上の結果は女子の選択肢の狭さを表すと同時に、彼女たちの職業に対する意識が男子と比べてより現実的であることの現れといえるかもしれない。

6-4 まとめ

本章の分析結果からは、次のような作業仮説を得ることができた。

まず、職業への志向性がいまだ憧れの段階にある中学生と比べて、高校生は職業への興味や自信についてより現実的で客観性の高い判断を下していた。また職業志向性の平均点を比較すると、高校生の3学年の間ではあまり著しい得点差がみられなかったが、中学生と高校生との間ではいくつかの興味領域で大きな得点差が見出された。以上の結果は、高校受験という進路選択のイベントを経験することが、生徒の職業意識に少なからず影響を及ぼした可能性を示唆する。今回の調査は公立高校のみを対象としているため、この可能性を検証するためには、六年制の中高一貫教育を行う学校の生徒を対象に調査を行い今回のデータと比較することが必要だろう。

次に、男女間の相違点についてまとめる。高校生の職業への興味と自信は、日本社会の労働市場における男女の配置図とよく似た分布を示した。実際の労働市場においても、男子生徒が好み自信も高いブルーカラー職業には男性が、女子生徒が好み自信も高い対人サービス職業には女性が就くことが多い。就業経験のない高校生が自身の職業に対する興味や自信を判断する際には、自分と同じ属性をもつ人々を未来予想図として参考にするだろう。彼・彼女らの回答がこうしたジェンダーバイアスに影響されている可能性は否めない。また、女子は職業への興味や自信について男子より現実的かつ客観的な判断を下す傾向が高く、人気のある職業とそうでない職業、自信がある者が多い職業と著しく少ない職業とがはっきりと分かれた。男子は様々な志向性をもつ者が混在する一方で、日常活動における志向性と職業志向性との、および職業への興味と自信との連続性が女子ほど高くはなかった。女子生徒に対しては、彼女たちが想定していなかった選択肢も併せて提示することが、視野を広げる助けとなるかもしれない。男子生徒に対しては日常生活での自分の行動と職業とを、また「やり

たい仕事」と「自信がある仕事」とを対照させて考えるよう促すことが有効かもしれない。いずれにしても、若者への職業指導を行う際には、こうしたジェンダーによる偏りを十分考慮した上で、彼らの適性を見極める必要があるといえるだろう。

今後は、以上の作業仮説を検証していくことによって、本章が冒頭に掲げた問題意識である、若年者の職業意識の発達過程や、職業への興味・自信におけるジェンダー間の相違を明らかにしていくことが課題となろう。

<参考文献>

尾嶋史章編 2001『現代高校生の計量社会学——進路・生活・世代』、ミネルヴァ書房。

片瀬一男 2005『夢の行方——高校生の教育・職業アスピレーションの変容』、東北大学出版会。

雇用職業総合研究所 1989『新版職業レディネス・テスト関連資料集』、職研資料シリーズⅡ-33、雇用職業総合研究所。

村松泰子編 2004『理科離れしているのは誰か:全国中学生調査のジェンダー分析』、日本評論社。

日本労働研究機構 1989『新版職業レディネス・テスト手引』、雇用問題研究会。

労働政策研究・研修機構 2006『職業レディネス・テスト第3版手引』、雇用問題研究会。

図表 6-7 A 検査「やりたい職業」全項目頻度 男子 (n=8,409)

A検査 順位	C検査 順位	職業名	項目 番号	興味の 6類型	A検査(%)			C検査(%)
					やりたい	どちらとも	やりたくない	自信ある
					平均 16.9% SD 7.8	31.1% 3.9	52.0% 10.2	15.8% 7.5
1	1	機械組立工	1	R	43.8	30.8	25.4	38.8
2	5	建築大工	13	R	34.3	35.9	29.8	29.8
3	6	自動車整備工	37	R	34.0	31.7	34.3	29.3
4	11	商店経営者	5	E	32.3	39.9	27.9	19.9
5	10	花火師	7	R	26.9	31.6	41.5	20.5
6	4	建設機械オペレーター	25	R	25.7	34.0	40.3	31.3
7	12	古生物学者	2	I	25.4	28.2	46.4	19.8
8	2	保育士	4	S	24.2	35.9	39.9	34.4
9	9	消防士	19	R	23.8	34.4	41.8	22.5
10	3	トラック運転手	31	R	23.3	34.9	41.7	33.0
11	31	作曲家	39	A	23.3	30.5	46.2	13.0
12	17	インテリアデザイナー	3	A	23.1	39.3	37.5	17.5
13	8	漁師	49	R	22.0	32.3	45.7	24.1
14	18	航空機整備士	43	R	20.9	32.9	46.2	17.1
15	21	店長	47	E	20.5	33.7	45.8	15.7
16	7	コンピュータ・オペレータ	6	C	20.4	32.0	47.6	25.1
17	23	服飾デザイナー	45	A	20.4	28.8	50.9	15.0
18	38	会社社長	41	E	19.4	33.2	47.4	11.8
19	27	営業課長	53	E	18.1	34.7	47.2	13.4
20	14	事務機器操作員	36	C	18.0	36.0	46.1	18.8
21	40	放送ディレクター	11	E	17.9	35.8	46.3	10.4
22	35	科学研究者	50	I	17.6	27.3	55.1	12.5
23	30	商業カメラマン	15	A	17.4	31.0	51.6	13.2
24	47	薬学者	38	I	16.6	29.1	54.3	9.3
25	31	WEBデザイナー	33	A	16.6	30.2	53.2	13.0
26	37	チームリーダー	23	E	16.0	32.2	51.8	12.4
27	29	販売促進員	17	E	14.9	36.9	48.2	13.2
28	22	指圧マッサージ師	10	S	14.0	29.8	56.2	15.4
29	34	学芸員	44	I	13.9	28.9	57.2	12.7
30	33	化学試験分析員	8	I	13.6	35.2	51.2	12.8
31	44	細菌学研究者	32	I	13.4	24.9	61.7	9.7
32	26	コンピュータ・プログラマー	42	C	13.3	23.7	63.0	13.5
33	25	児童相談員	46	S	13.2	29.8	57.1	14.3
34	36	海洋学研究者	20	I	13.1	30.0	56.9	12.4
35	15	ホテルフロント係	22	S	13.0	36.7	50.2	17.9
36	48	研究者	26	I	12.7	28.7	58.6	9.2
37	50	シナリオライター	21	A	12.4	28.5	59.1	8.0
38	41	イラストレーター	51	A	12.4	24.8	62.8	10.4
39	53	マンガ家	27	A	11.6	24.9	63.6	7.1
40	52	文芸作家	9	A	11.4	26.0	62.6	7.2
41	19	銀行出納係	24	C	11.3	36.9	51.8	16.4
42	16	経理事務員	12	C	10.9	33.8	55.3	17.5
43	45	植物学研究者	14	I	10.8	30.6	58.6	9.5
44	46	アナウンサー	35	E	10.6	27.4	62.1	9.5
45	24	介護福祉士	34	S	10.3	31.0	58.7	14.4
46	51	医師	40	S	10.2	29.4	60.4	7.8
47	39	旅行会社添乗員	16	S	10.1	27.2	62.7	11.1
48	20	給与事務員	54	C	9.4	30.2	60.4	15.7
48	13	庶務係事務員	18	C	9.4	31.4	59.2	18.8
50	49	新聞記者	29	E	8.9	30.4	60.7	8.2
51	28	航空客室乗務員	52	S	8.2	28.7	63.1	13.3
52	43	看護師	28	S	7.7	27.4	65.0	9.7
53	42	一般事務員	48	C	4.8	25.8	69.4	10.1
54	54	行政書士	30	C	4.6	25.2	70.2	6.6

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

図表 6-8 A 検査「やりたい職業」全項目頻度 女子(n=8,695)

A検査 順位	C検査 順位	職業名	項目 番号	興味の 6類型	A検査(%)			C検査(%)
					やりたい	どちらとも	やりたくない	自信ある
					平均 17.4%	25.6%	33.3%	14.0%
					SD 11.0	7.6	19.3	10.2
1	1	保育士	4	S	54.4	25.5	29.0	55.9
2	6	服飾デザイナー	45	A	46.3	31.3	37.6	27.3
3	14	インテリアデザイナー	3	A	39.7	38.2	22.1	20.7
4	2	ホテルフロント係	22	S	36.4	36.8	39.7	34.7
5	5	児童相談員	46	S	32.2	32.4	16.8	27.3
6	17	商業カメラマン	15	A	29.6	29.2	12.4	18.4
7	24	商店経営者	5	E	29.0	37.9	15.8	11.9
8	7	航空客室乗務員	52	S	27.4	32.2	27.6	25.6
9	16	イラストレーター	51	A	27.0	25.3	25.5	19.4
10	10	事務機器操作員	36	C	26.3	34.0	75.9	23.9
11	9	旅行会社添乗員	16	S	26.2	30.4	59.9	24.3
12	3	介護福祉士	34	S	25.5	34.9	30.2	28.6
13	4	コンピュータ・オペレータ	6	C	25.0	31.6	58.5	28.4
14	26	作曲家	39	A	24.7	31.3	16.6	10.8
15	12	看護師	28	S	24.1	29.8	32.6	23.1
16	22	営業課長	53	E	23.1	34.1	20.1	14.0
17	20	WEBデザイナー	33	A	22.9	28.6	26.2	15.9
18	19	販売促進員	17	E	22.9	37.6	33.2	16.4
19	13	指圧マッサージ師	10	S	22.6	29.9	14.0	21.2
20	23	医師	40	S	19.8	27.0	10.0	13.3
21	32	放送ディレクター	11	E	17.3	32.8	36.8	8.5
22	15	銀行出納係	24	C	16.8	35.5	68.1	20.4
23	11	庶務係事務員	18	C	16.6	32.6	26.3	23.2
24	33	文芸作家	9	A	16.6	24.9	36.4	8.5
25	25	アナウンサー	35	E	16.2	27.6	37.9	10.9
26	29	店長	47	E	16.0	30.5	39.6	10.0
27	8	一般事務員	48	C	15.9	31.9	16.6	25.4
28	18	経理事務員	12	C	14.5	30.2	26.8	17.2
29	38	花火師	7	R	14.4	21.4	54.4	6.7
30	36	シナリオライター	21	A	14.0	26.2	24.4	7.1
31	37	マンガ家	27	A	12.3	18.8	5.9	6.9
32	31	古生物学者	2	I	12.2	16.8	35.5	8.8
33	47	薬学者	38	I	12.1	18.2	22.2	4.7
34	27	学芸員	44	I	11.9	18.8	50.8	10.6
35	21	給与事務員	54	C	11.6	27.9	16.2	15.0
36	35	建築大工	13	R	10.0	22.2	39.7	7.3
37	49	会社社長	41	E	9.8	24.1	16.1	4.5
38	34	機械組立工	1	R	8.8	19.3	6.0	8.5
39	41	消防士	19	R	8.7	22.0	81.8	6.3
40	49	科学研究者	50	I	8.4	15.8	38.2	4.5
41	40	新聞記者	29	E	8.4	25.5	24.9	6.3
42	46	細菌学研究者	32	I	8.2	14.3	17.3	5.0
43	44	チームリーダー	23	E	8.1	23.8	49.9	6.2
44	28	行政書士	30	C	8.1	25.5	14.5	10.3
45	45	化学試験分析員	8	I	7.5	24.4	8.4	5.9
46	41	コンピュータ・プログラマー	42	C	6.7	15.7	77.9	6.3
47	30	トラック運転手	31	R	6.6	16.5	32.8	8.8
48	39	漁師	49	R	6.1	15.0	22.9	6.5
49	48	海洋学研究者	20	I	6.0	14.1	55.3	4.6
50	51	植物学研究者	14	I	6.0	16.1	34.0	4.3
51	43	建設機械オペレーター	25	R	5.9	12.4	7.5	6.2
52	54	研究者	26	I	5.1	13.2	56.2	3.1
53	52	航空機整備士	43	R	5.1	18.3	47.6	3.9
54	53	自動車整備工	37	R	3.6	10.9	67.9	3.2

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

図表 6-9 C 検査「自信がある職業」全項目頻度 男子 (n=8,409)

C検査 順位	A検査 順位	職業名	項目 番号	興味の 6類型	C検査(%)			A検査(%)
					自信ある 平均 15.8% SD 7.5	どちらとも 31.5%	自信ない 52.7%	やりたい 16.9%
1	1	機械組立工	1	R	38.8	32.4	28.8	43.8
2	8	保育士	4	S	34.4	28.9	36.7	24.2
3	10	トラック運転手	31	R	33.0	36.2	30.8	23.3
4	6	建設機械オペレーター	25	R	31.3	35.2	33.5	25.7
5	2	建築大工	13	R	29.8	36.2	34.0	34.3
6	3	自動車整備工	37	R	29.3	35.3	35.4	34.0
7	16	コンピュータ・オペレータ	6	C	25.1	30.6	44.3	20.4
8	13	漁師	49	R	24.1	35.9	40.0	22.0
9	9	消防士	19	R	22.5	33.9	43.6	23.8
10	5	花火師	7	R	20.5	37.5	42.0	26.9
11	4	商店経営者	5	E	19.9	36.8	43.3	32.3
12	7	古生物学者	2	I	19.8	33.7	46.5	25.4
13	48	庶務係事務員	18	C	18.8	32.0	49.2	9.4
14	20	事務機器操作員	36	C	18.8	30.1	51.1	18.0
15	35	ホテルフロント係	22	S	17.9	33.1	49.0	13.0
16	42	経理事務員	12	C	17.5	30.8	51.7	10.9
17	12	インテリアデザイナー	3	A	17.5	33.9	48.7	23.1
18	14	航空機整備士	43	R	17.1	36.3	46.6	20.9
19	41	銀行出納係	24	C	16.4	37.3	46.3	11.3
20	48	給与事務員	54	C	15.7	34.7	49.6	9.4
21	15	店長	47	E	15.7	34.2	50.2	20.5
22	28	指圧マッサージ師	10	S	15.4	33.1	51.6	14.0
23	17	服飾デザイナー	45	A	15.0	28.5	56.6	20.4
24	45	介護福祉士	34	S	14.4	28.8	56.8	10.3
25	33	児童相談員	46	S	14.3	31.0	54.7	13.2
26	32	コンピュータ・プログラマー	42	C	13.5	26.4	60.1	13.3
27	19	営業課長	53	E	13.4	35.6	51.0	18.1
28	51	航空客室乗務員	52	S	13.3	35.0	51.7	8.2
29	27	販売促進員	17	E	13.2	34.9	51.9	14.9
30	23	商業カメラマン	15	A	13.2	34.1	52.7	17.4
31	11	作曲家	39	A	13.0	29.4	57.5	23.3
31	25	WEBデザイナー	33	A	13.0	31.2	55.7	16.6
33	30	化学試験分析員	8	I	12.8	33.8	53.3	13.6
34	29	学芸員	44	I	12.7	33.6	53.8	13.9
35	22	科学研究者	50	I	12.5	27.7	59.8	17.6
36	34	海洋学研究者	20	I	12.4	33.6	54.0	13.1
37	26	チームリーダー	23	E	12.4	27.2	60.4	16.0
38	18	会社社長	41	E	11.8	30.6	57.7	19.4
39	47	旅行会社添乗員	16	S	11.1	31.6	57.3	10.1
40	21	放送ディレクター	11	E	10.4	30.4	59.2	17.9
41	38	イラストレーター	51	A	10.4	25.5	64.1	12.4
42	53	一般事務員	48	C	10.1	32.8	57.2	4.8
43	52	看護師	28	S	9.7	29.5	60.8	7.7
44	31	細菌学研究者	32	I	9.7	27.6	62.7	13.4
45	43	植物学研究者	14	I	9.5	31.0	59.5	10.8
46	44	アナウンサー	35	E	9.5	25.6	64.9	10.6
47	24	薬学者	38	I	9.3	27.4	63.2	16.6
48	36	研究者	26	I	9.2	31.1	59.8	12.7
49	50	新聞記者	29	E	8.2	31.1	60.6	8.9
50	37	シナリオライター	21	A	8.0	25.0	67.0	12.4
51	46	医師	40	S	7.8	27.8	64.4	10.2
52	40	文芸作家	9	A	7.2	22.6	70.2	11.4
53	39	マンガ家	27	A	7.1	23.9	69.0	11.6
54	54	行政書士	30	C	6.6	29.4	64.0	4.6

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

図表 6-10 C検査「自信がある職業」全項目頻度 女子(n=8,695)

C検査 順位	A検査 順位	職業名	項目 番号	興味の 6類型	C検査(%)			A検査(%)
					自信ある 平均 14.0% SD 10.2	どちらとも 26.7% 7.6	自信ない 59.3% 16.2	やりたい 17.4% 11.0
1	1	保育士	4	S	55.9	23.7	20.4	54.4
2	4	ホテルフロント係	22	S	34.7	36.9	28.4	36.4
3	12	介護福祉士	34	S	28.6	33.8	37.6	25.5
4	13	コンピュータ・オペレータ	6	C	28.4	30.2	41.5	25.0
5	5	児童相談員	46	S	27.3	36.9	35.8	32.2
6	2	服飾デザイナー	45	A	27.3	38.4	34.4	46.3
7	8	航空客室乗務員	52	S	25.6	37.0	37.4	27.4
8	27	一般事務員	48	C	25.4	33.9	40.7	15.9
9	11	旅行会社添乗員	16	S	24.3	35.6	40.2	26.2
10	10	事務機器操作員	36	C	23.9	30.1	46.0	26.3
11	23	庶務係事務員	18	C	23.2	32.3	44.6	16.6
12	15	看護師	28	S	23.1	32.8	44.1	24.1
13	19	指圧マッサージ師	10	S	21.2	34.3	44.5	22.6
14	3	インテリアデザイナー	3	A	20.7	39.3	40.0	39.7
15	22	銀行出納係	24	C	20.4	38.5	41.1	16.8
16	9	イラストレーター	51	A	19.4	27.2	53.4	27.0
17	6	商業カメラマン	15	A	18.4	35.8	45.7	29.6
18	28	経理事務員	12	C	17.2	28.9	53.9	14.5
19	18	販売促進員	17	E	16.4	37.0	46.7	22.9
20	17	WEBデザイナー	33	A	15.9	31.5	52.6	22.9
21	35	給与事務員	54	C	15.0	33.5	51.5	11.6
22	16	営業課長	53	E	14.0	36.6	49.4	23.1
23	20	医師	40	S	13.3	28.0	58.7	19.8
24	7	商店経営者	5	E	11.9	33.4	54.7	29.0
25	25	アナウンサー	35	E	10.9	26.4	62.8	16.2
26	14	作曲家	39	A	10.8	30.5	58.7	24.7
27	34	学芸員	44	I	10.6	23.8	65.7	11.9
28	44	行政書士	30	C	10.3	30.4	59.3	8.1
29	26	店長	47	E	10.0	32.1	57.9	16.0
30	47	トラック運転手	31	R	8.8	22.7	68.5	6.6
31	32	古生物学者	2	I	8.8	21.3	70.0	12.2
32	21	放送ディレクター	11	E	8.5	26.8	64.7	17.3
33	24	文芸作家	9	A	8.5	22.8	68.6	16.6
34	38	機械組立工	1	R	8.5	20.0	71.5	8.8
35	36	建築大工	13	R	7.3	19.8	72.9	10.0
36	30	シナリオライター	21	A	7.1	22.7	70.1	14.0
37	31	マンガ家	27	A	6.9	18.8	74.2	12.3
38	29	花火師	7	R	6.7	24.9	68.4	14.4
39	48	漁師	49	R	6.5	20.6	72.9	6.1
40	41	新聞記者	29	E	6.3	26.1	67.6	8.4
41	39	消防士	19	R	6.3	20.3	73.4	8.7
41	46	コンピュータ・プログラマー	42	C	6.3	18.3	75.4	6.7
43	51	建設機械オペレーター	25	R	6.2	18.5	75.3	5.9
44	43	チームリーダー	23	E	6.2	20.1	73.7	8.1
45	45	化学試験分析員	8	I	5.9	21.6	72.6	7.5
46	42	細菌学研究者	32	I	5.0	14.9	80.1	8.2
47	33	薬学者	38	I	4.7	16.4	78.9	12.1
48	49	海洋学研究者	20	I	4.6	18.5	76.9	6.0
49	37	会社社長	41	E	4.5	19.8	75.7	9.8
49	40	科学研究者	50	I	4.5	14.2	81.3	8.4
51	50	植物学研究者	14	I	4.3	16.9	78.8	6.0
52	53	航空機整備士	43	R	3.9	20.5	75.5	5.1
53	54	自動車整備工	37	R	3.2	12.8	84.0	3.6
54	52	研究者	26	I	3.1	14.2	82.8	5.1

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

第7章 第2版と比較した高校生の職業レディネスの変化

7-1 本章の目的

第3章「標準化調査の概要」において、第2版と同一の項目を使って、ホルランドの6領域の興味や自信の得点がどう変化するかを、第2版作成時の1991年に収集した値と2005年の標準化調査から算出した値で比較を行った。本章では、第3版で新たに選択された項目も含めて、高校生の職業レディネスについて、第2版（1998年）との比較を行う。

従来日本の学校教育は職業意識を育ててこなかったといわれる。特に中等教育段階では高学歴化の影響もあり、職業についての進路決定は先延ばしにされてきた。1990年代に入ると、進学しない場合も、非正規の職に就く者や無業となる者が増えてきた。その要因としては、高校新卒者に対する求人質的・量的な低下や、学校経由の就職というシステムの機能不全など多々あるが^{注7-1}、その一つに、生徒自身の職業に対する意識が十分に発達していないことも挙げられる。こうした状況を背景に政府は、若者の進路決定に対する意欲・関心を高めるためのキャリア教育へ力を入れ始めたが^{注7-2}、その効果は現れているのだろうか。

また、これまでの章で明らかになったように、職業への興味や自信のありようは男女で異なる。しかし今日、日本の女子労働力率は上昇傾向にあり、女性の活躍の場は広がったといわれる。管理職に占める女性の割合は1988年の4.6%から2001年の8.3%まで拡大し^{注7-3}、従来は男性（女性）が就くことが多かった職業へ女性（男性）が就くケースも増えている。こうした労働市場における男女配置図の変化は、これから職業の世界へ旅立とうとする高校生に対しても、ジェンダーバイアスを和らげる方向へと影響を及ぼしたのではないだろうか。

そこで本章では、第2章の結果を第2版（1988年）と比較することで、日本の後期中等教育が生徒の職業意識に与えた影響を考察すると同時に、この17年間で高校生の職業意識における男女間の相違が縮小したか否かを検証したい。

7-2 分析対象

調査の方法は第3章「標準化調査の概要」に準ずる。本章では分析の対象として高校生のデータを取り上げた。分析の対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

<1991年> 全国41校の高等学校の1年生～3年生。人数の内訳は以下の通り。高校生計8,489名（1年男子1,315名、1年女子1,336名、2年男子1,886名、2年女子1,651名、3年男子1,121名、3年女子1,180名）。

<2005年> 標準化調査に協力した全国62校の高等学校の1年生～3年生。

注7-1 本田（2005）、小杉編（2005）、安田（2003）など。

注7-2 高等学校におけるキャリア教育の導入と展開については竹内（2002）に詳しい。

注7-3 井上輝子・江原由美子編（2005）。

人数の内訳は以下の通り。高校生計 17,104 名（1 年男子 3,244 名、1 年女子 3,175 名、2 年男子 3,185 名、2 年女子 3,399 名、3 年男子 1,980 名、3 年女子 1,979 名）。

7-3 分析方法と結果

7-3-1 分析方法

以下の手順で、第 2 版（1988 年）との比較を行う。はじめに、学年別に A 検査（職業への興味）と C 検査（職業への自信）の平均値を二時点で比較する。次に高校生全体について「やりたい職業（A 検査）」と「自信がある職業（C 検査）」の順位を比較する。最後に、男女別に A 検査と C 検査の平均値を二時点で比較する。分析に用いる平均値の算出方法については、第 5 章において述べたとおりである。なお、B 検査は第 3 版において全面的に新規作成したため第 2 版との比較は行わない^{注 7-4}。

また、第 2 版と比較する際に注意すべき点がある。A 検査・C 検査において第 3 版では検査項目の入れ替えを行っている。そこで以下では、第 2 版から用い続けている 42 項目を「旧項目」、第 3 版で新しく導入された 10 項目と第 2 版とは異なる領域に分類された 2 項目を「新項目」とする。結果を考察する際には、明らかになった変化が高校生の意識の変化によるものなのか、検査項目の入れ替えに起因するものなのか区別するよう考慮が必要である^{注 7-5}。平均点の比較においては、旧項目のみについての平均点を算出することができなかつたため、第 2 版（1988 年）は第 3 版で除外された 12 項目と旧項目を合わせた 54 項目、第 3 版（2005 年）は新項目と旧項目とを合わせた 54 項目についての得点を用いた。「やりたい職業」と「自信がある職業」の順位の比較においては、旧項目のみについて比較する。

7-3-2 高校生全体にみられる変化

本節では、高校生の職業志向性について、職業への興味（A 検査）・自信（C 検査）の平均点を第 2 版（1988 年）と比較することで、90 年代以降の日本の後期中等教育が、高校生の職業意識に与えた影響を考察したい。

（1）職業志向性の変化

はじめに、A 検査（職業への興味）と C 検査（職業への自信）の平均点を、第 2 版（1988 年）と比較する。図表 7-1 と図表 7-2 に A 検査、図表 7-3 と図表 7-4 に C 検査の結果を示した。

まず目に付くことは、C 検査における 1、2 年生の I 領域（研究的領域）を除くと、職業へ

^{注 7-4} 分析結果を導くために、全ての平均値について学年別、男女別、検査年別に t 検定を実施したところ、ほぼすべての組み合わせにおいて有意となった。

^{注 7-5} 厳密な比較を行うためには 42 の旧項目のみを取り出した平均値を算出する必要があるが、第 2 版における検査項目ごとの有効回答数のデータが残されていないため、今回は見送る。

の興味・自信ともに全ての学年の全ての領域において、1988年より2005年で平均点が低下している。その下がり幅は特に3年生で大きい。また両年のグラフの形状を比べると、職業への興味はM字型から逆N字型へ、自信はW型のグラフが右上がりから水平へと変化した。これらは主に、E領域（企業的領域）とC領域（慣習的領域）に対する興味と、E領域・S領域（社会的領域）・C領域に対する自信の著しい低下に起因するものである。更に、1988年では職業への興味・自信ともに2年生から3年生にかけて得点が急上昇するが、2005年では3年生も1、2年生とそれほど変わらぬ得点しか示さない。

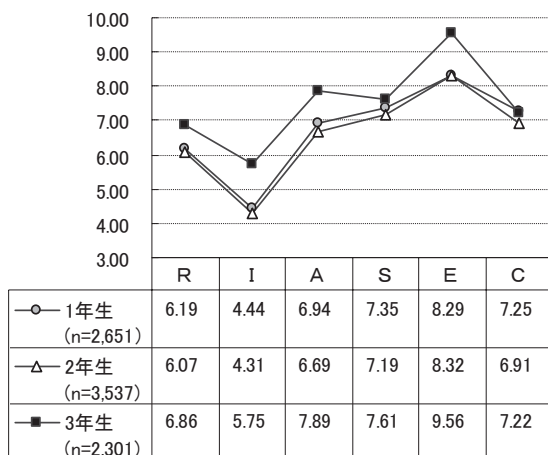


図7-1 1988年 学年別職業への興味(A検査)

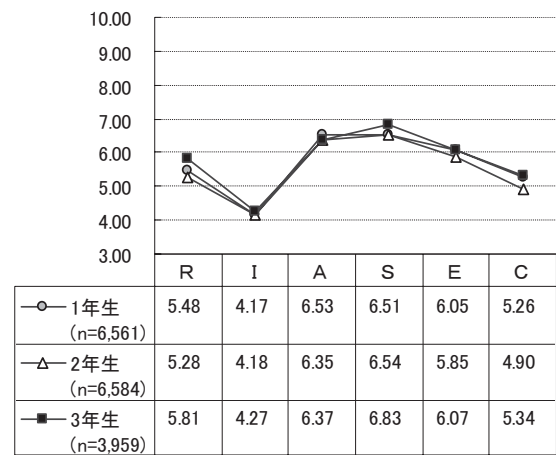


図7-2 2005年 学年別職業への興味(A検査)

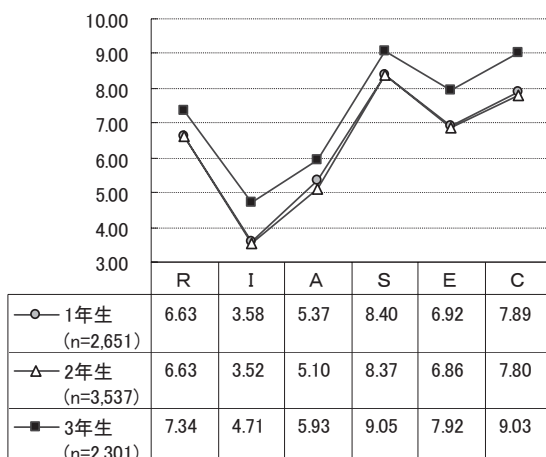


図7-3 1988年 学年別職業への自信(C検査)

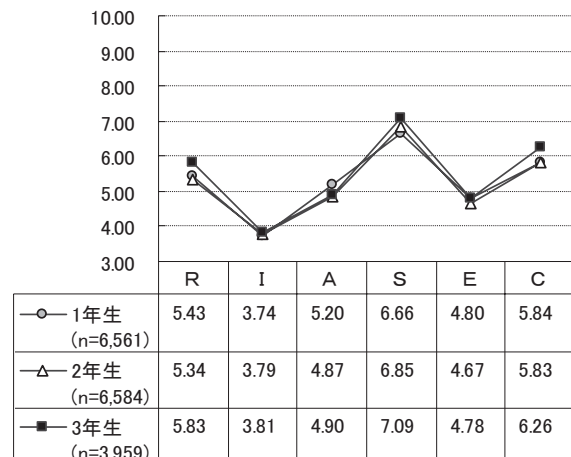


図7-4 2005年 学年別職業への自信(C検査)

ここで、1988年から2005年にかけての平均値の低下は、検査項目を入れ替えたためではないかという疑問が生じるが、図表7-1と図表7-2から1988年と共通の旧項目だけを取り出して、「やりたい」「自信がある」と回答した者の割合の平均値を両年で比較すると、A検

査は 1988 年で 22.4 % (SD : 9.4)、2005 年で 16.6 % (SD : 6.9)、C 検査は 1988 年で 20.6% (SD : 10.1)、2005 年で 15.0% (SD : 7.4) と大幅に低下している。よって 2005 年の平均値の低下は、高校生の職業に対する興味・自信の低下に起因すると考えてよいだろう。

(2) 「やりたい職業」・「自信がある職業」の変化

以上みてきた職業志向性に生じた変化は、どのような職業への興味や自信が高まった／低下した結果もたらされたものなのだろうか。次に、個々の職業に対する興味や自信の変化をみていこう。

①分析方法

図表 7-5 と図表 7-6 に、高校生全体の A 検査（職業への興味）と C 検査（職業への自信）の結果を項目別に示した。54 の検査項目が表す職業を、図表 7-5 では「やりたい」、図表 7-6 では「自信がある」と答えた者の割合が高い順に並べた。その割合を算出する際、第 2 版については検査項目ごとの有効回答数が分からないため、暫定的に総サンプル数を分母として用いた。また、表中の平均値と標準偏差 (SD) は旧項目のみについてのものである。

個々の職業への興味と自信が、第 2 版 (1988 年) と比べてどのように変化したのか明らかにするために以下の手続きをとった。42 の旧項目のみについて、2005 年に「やりたい」「自信がある」と回答した者の割合が 1988 年の 1 倍を超える項目を、人気や得意な者の割合が上昇した職業とみなし網掛で示した (A 検査 : 6 項目、C 検査 : 7 項目)。同様にその割合が 0.6 倍未満である項目を、人気や得意な者の割合が著しく低下した職業とみなし斜体で示した (A 検査 : 10 項目、C 検査 : 8 項目)。また、12 の新項目を強調した。更に、図表 7-5 と図表 7-6 で網掛で示された職業を図表 7-7 へ、斜体で示された職業を図表 7-8 へまとめた。図表 7-7 では 1 倍以上の倍率を、図表 7-8 では 0.6 倍未満の倍率を強調した。以上をふまえ、4 つの表が示す変化を読み取っていこう。

図表 7-5 A 検査「やりたい職業」全項目頻度 (1988年 n=8,489 2005年 n=17,104)

2005年 順位	1988年 順位	職業名	項目 番号	やりたい(%)		2005年 /1988年 平均 0.78 SD 0.25	興味の 6類型
				2005年 平均 16.6% SD 7.0	1988年 22.4% 9.5		
1	6	保育士	4	39.5	35.6	1.11	S
2	9	服飾デザイナー	45	33.5	31.5	1.06	A
3	3	インテリアデザイナー	3	31.6	40.1	0.79	R→A
4	1	商店経営者	5	30.6	52.0	0.59	E
5	10	機械組立工	1	26.0	30.6	0.85	R
6	4	ホテルフロント係	22	24.9	37.8	0.66	S
7	22	作曲家	39	24.0	25.1	0.95	A
8		商業カメラマン	15	23.6			A
9		児童相談員	46	22.8			S
10	14	コンピュータ・オペレータ	6	22.7	29.2	0.78	C
11	2	事務機器操作員	36	22.2	42.3	0.52	C
12	29	建築大工	13	21.9	21.0	1.04	R
13	13	営業課長	53	20.6	30.1	0.69	E
14		花火師	7	20.6			R
15		WEBデザイナー	33	19.8			A
16	21	イラストレーター	51	19.8	25.6	0.77	A
17	11	販売促進員	17	18.9	30.4	0.62	E
18		古生物学者	2	18.7			I
19	16	自動車整備工	37	18.5	27.4	0.68	R
20		指圧マッサージ師	10	18.4			S
21		旅行会社添乗員	16	18.3			S
22	15	店長	47	18.2	28.3	0.64	E
23	48	介護福祉士	34	18.1	11.6	1.56	S
24	25	航空客室乗務員	52	17.9	22.6	0.79	S
25	7	放送ディレクター	11	17.6	32.9	0.53	E
26		消防士	19	16.1			R
27	40	看護師	28	16.0	17.2	0.93	S
28	51	建設機械オペレーター	25	15.6	11.2	1.39	R
29	38	医師	40	15.1	17.8	0.85	S
30	42	トラック運転手	31	14.8	16.6	0.89	R
31	12	会社社長	41	14.5	30.3	0.48	E
32	41	薬学者	38	14.3	16.7	0.86	I
33	27	銀行出納係	24	14.1	21.6	0.65	C
34	31	文芸作家	9	14.1	20.3	0.69	A
35	50	漁師	49	13.9	11.2	1.24	R
36	23	アナウンサー	35	13.4	24.0	0.56	A→E
37	26	シナリオライター	21	13.2	22.5	0.59	A
38	33	庶務係事務員	18	13.1	20.1	0.65	C
39	37	科学研究者	50	12.9	18.3	0.71	I
40	45	学芸員	44	12.9	13.7	0.94	I
41		航空機整備士	43	12.9			R
42	34	経理事務員	12	12.7	19.1	0.67	C
43	43	チームリーダー	23	12.0	16.3	0.73	E
44		マンガ家	27	12.0			A
45	47	細菌学研究者	32	10.7	11.7	0.92	I
46	36	給与事務員	54	10.5	19.0	0.55	C
47	53	化学試験分析員	8	10.5	10.6	0.99	I
48	18	一般事務員	48	10.5	26.2	0.40	C
49	30	コンピュータ・プログラマー	42	9.9	20.4	0.49	C
50	54	海洋学研究者	20	9.5	10.1	0.94	I
51	46	研究者	26	8.8	13.2	0.67	I
52	35	新聞記者	29	8.6	19.0	0.45	E
53	52	植物学研究者	14	8.4	10.7	0.78	I
54	49	行政書士	30	6.4	11.5	0.55	C

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

図表 7-6 C 検査「自信がある職業」全項目頻度 (1988年 n=8,489 2005年 n=17,104)

2005年 順位	1988年 順位	職業名	項目 番号	自信ある(%)		2005年 /1988年 平均 0.76 SD 0.20	興味の 6類型
				2005年 平均 15.0% SD 7.5	1988年 20.6% 10.3		
				1	2	保育士	
2	9	コンピュータ・オペレータ	6	26.8	29.6	0.90	C
3	1	ホテルフロント係	22	26.5	50.1	0.53	S
4	12	機械組立工	1	23.4	28.2	0.83	R
5	31	介護福祉士	34	21.6	19.0	1.14	S
6	5	事務機器操作員	36	21.4	34.9	0.61	C
7	25	服飾デザイナー	45	21.2	20.5	1.04	A
8	13	庶務係事務員	18	21.0	28.0	0.75	C
9		児童相談員	46	20.9			S
10	18	トラック運転手	31	20.7	27.5	0.75	R
11	8	航空客室乗務員	52	19.5	31.5	0.62	S
12	14	インテリアデザイナー	3	19.1	27.9	0.68	R→A
13	29	建設機械オペレーター	25	18.6	19.1	0.97	R
14	10	銀行出納係	24	18.4	28.7	0.64	C
15	32	建築大工	13	18.4	17.5	1.05	R
16		指圧マッサージ師	10	18.3			S
17	4	一般事務員	48	17.9	39.1	0.46	C
18		旅行会社添乗員	16	17.8			S
19	15	経理事務員	12	17.4	27.8	0.62	C
20	21	看護師	28	16.5	23.0	0.72	S
21	20	自動車整備工	37	16.0	23.3	0.69	R
22		商業カメラマン	15	15.9			A
23	7	商店経営者	5	15.9	31.7	0.50	E
24	17	給与事務員	54	15.4	27.8	0.55	C
25	37	漁師	49	15.2	15.3	0.99	R
26	30	イラストレーター	51	15.0	19.0	0.79	A
27	19	販売促進員	17	14.8	23.4	0.63	E
28		WEBデザイナー	33	14.5			A
29		消防士	19	14.3			R
30		古生物学者	2	14.2			I
31	23	営業課長	53	13.7	22.4	0.61	E
32		花火師	7	13.5			R
33	24	店長	47	12.8	20.5	0.62	E
34	43	作曲家	39	11.9	11.1	1.07	A
35	41	学芸員	44	11.6	12.0	0.97	I
36	39	医師	40	10.6	13.6	0.78	S
37		航空機整備士	43	10.4			R
38	33	アナウンサー	35	10.2	17.1	0.59	A→E
39	38	コンピュータ・プログラマー	42	9.8	15.2	0.65	C
40	22	放送ディレクター	11	9.5	22.8	0.41	E
41	52	化学試験分析員	8	9.3	8.2	1.13	I
42	42	チームリーダー	23	9.2	12.0	0.77	E
43	27	行政書士	30	8.5	19.8	0.43	C
44	47	海洋学研究者	20	8.5	9.3	0.91	I
45	46	科学研究者	50	8.4	9.8	0.86	I
46	36	会社社長	41	8.1	15.5	0.52	E
47	44	文芸作家	9	7.9	10.7	0.73	A
48	45	シナリオライター	21	7.5	10.6	0.71	A
49	54	細菌学研究者	32	7.3	6.8	1.07	I
50	40	新聞記者	29	7.3	13.1	0.55	E
51		マンガ家	27	7.0			A
52	53	薬学者	38	7.0	7.2	0.97	I
53	49	植物学研究者	14	6.9	8.6	0.80	I
54	51	研究者	26	6.1	8.4	0.72	I

※小数点第2位を四捨五入したため、順位が異なる職業について同一の平均点が表示される場合がある。

②分析結果

はじめに図表 7-7 をみると、「人気上昇」した職業と「得意な者の割合が上昇」した職業とはほぼ合致する。「人気上昇」したが「得意な者の割合は低下」した場合も、その低下は 0.9 倍程度にとどまる。逆もまたしかりである。

図表 7-7 人気・得意な者の割合が上昇した職業

順位		職業名	2005年/1988		興味の6類型
A検査	C検査		A検査	C検査	
53→47	52→41	化学試験分析員	0.99	1.13	I
47→45	54→49	細菌学研究者	0.92	1.07	I
22→7	43→34	作曲家	0.95	1.07	A
9→2	25→7	服飾デザイナー	1.06	1.04	A
48→23	31→5	介護福祉士	1.56	1.14	S
6→1	2→1	保育士	1.11	1.04	S
29→12	32→15	建築大工	1.04	1.05	R
50→35	37→25	漁師	1.24	0.99	R
51→28	29→13	建設機械オペレーター	1.39	0.97	R

図表 7-7 を第 6 章の図表 6-7～図表 6-10 と照合しながらみていこう。42 の旧項目のうち「人気上昇」した職業はわずか 6 項目、「得意な者の割合が上昇」した職業はわずか 7 項目であった。そのうち、人気も得意な者の割合もともに上昇した職業は 4 項目あり、第 6 章の結果と照合すると、R 領域の「建築大工」は男子、A 領域の「服飾デザイナー」と S 領域の「介護福祉士」は女子、S 領域の「保育士」は男女共に人気がありかつ得意な者も多い。次に、人気のみが上昇した職業は R 領域の「建設機械オペレーター」「漁師」で、ともに男子に人気が高い職業である。更に、得意な者の割合のみが上昇した I 領域の「細菌学研究者」、「化学試験分析員」と A 領域の「作曲家」は、他の職業と比べると 2005 年でも男女ともにそれほど得意な者の割合が高いわけではない。

次に図表 7-8 をみると、「人気著しく低下」した職業と「得意な者の割合が著しく低下」した職業とはほぼ合致する。42 の旧項目のうち、人気著しく低下した職業は 10 項目、得意な者の割合が著しく低下した職業は 8 項目であった。そのうち、人気も得意な者の割合も 0.6 倍未満と著しく低下した 7 つの職業は、全て E 領域と C 領域の職業である。この結果は先の平均点の比較から得られた結果と整合的である。これらのうち「商店経営者」をやりた

図表 7-8 人気・得意な者の割合が著しく低下した職業

順位		職業名	2005年/1988		興味の6類型
A検査	C検査		A検査	C検査	
26→37	45→48	シナリオライター	0.59	0.71	A
2→11	5→6	事務機器操作員	0.52	0.61	C
30→49	38→39	コンピュータ・プログラマー	0.49	0.65	C
18→48	4→17	一般事務員	0.40	0.46	C
49→54	27→43	行政書士	0.55	0.43	C
36→46	17→24	給与事務員	0.55	0.55	C
35→52	40→50	新聞記者	0.45	0.55	E
12→31	36→46	会社社長	0.48	0.52	E
7→25	22→40	放送ディレクター	0.53	0.41	E
1→4	7→23	商店経営者	0.59	0.50	E
4→6	1→3	ホテルフロント係	0.66	0.53	S

り高い。更に、人気のみが著しく低下した職業は A 領域の「シナリオライター」と C 領域の「事務機器操作員」「コンピュータ・プログラマー」であり、得意な者の割合のみが著しく低下した職業は S 領域の「ホテルのフロント係」である。これらのうち「事務機器操作

員」と「ホテルのフロント係」を「やりたい」女子の割合と「自信がある」男女の割合は、他の職業と比べると 2005 年時点でもかなり高い。

③考察

以上の結果を考察する。1988 年と比べて、2005 年の高校生の職業への興味や自信は全体に低下し、高校 3 年生という進路決定の時期を迎えても、職業に対する志向性が急上昇しなくなった。その一因は、高学歴化が進み高校 3 年生の時点で職業を決定しなくてはならない者が少なくなったためだろう。しかしそればかりが要因ではないだろう。

興味の 6 類型ごとの変化をみると、1・2 年生に限れば、R 領域・S 領域に対する興味、I 領域・A 領域に対する自信については平均点にわずかな低下しかみられなかった。また、全学年について個々の職業への興味や自信に目を向けると、むしろ人気の高さや得意な者の割合が上昇した職業がみられた。その多くは、特別な技能を要する職業（「漁師」「建築大工」「建設機械オペレーター」）や、福祉関連の準専門職（「保育士」「介護福祉士」）、高度な専門知識を要する研究・技術職（「化学試験分析員」「細菌学研究者」）、独自のセンスが問われる創造的な仕事（「服飾デザイナー」「作曲家」）など、特別なスキルや資格を必要とする職業である。会社組織でホワイトカラーとして働くよりも「手に職」を得たいという高校生の志向性の変化がうかがわれる。この結果は、高校生の専門職志向が高まっているという先行研究の成果とも整合性がとれている^{注 7-6}。

逆に、興味や自信が低下した職業は、企画・立案や組織の運営に携わる E 領域や、決まった方式や規則に従って行動する C 領域に多い。中でも人気と得意な者の割合がともに著しく低下した 7 つの職業のうち 6 つには、「リスクの高さ」という共通点が見出される。E 領域の「会社社長」「商店経営者」は自営独立の職業、「放送ディレクター」「新聞記者」は過酷な労働と社会的責任の重さで有名なマスコミ業界の職業である。また C 領域の「一般事務員」「給与事務員」はかつて高校新卒女子の就職先として最もメジャーであったが、今日では派遣労働者や契約社員といった非正規雇用者によって担われつつある^{注 7-7}。バブル経済崩壊後の先の見えない社会では、会社や店舗の倒産、過労死や社会的責務、解雇といったリスクが予想される職業は敬遠され、（実際はともかく）組織の都合に振り回されない、スキルや資格を活かした「手に職」的な職業が志向されるようになったのかもしれない。ただし、これらの可能性を検証するためには、男子・女子それぞれで下位となった職業について、高校生がどのようなイメージを抱いているのか分析する必要があるだろう。

以上をまとめると、高校生は自分の職業志向性を、純粋に「やりたい」という気持ちや職務の遂行そのものに対する自信だけでなく、生業として継続できるか否かといった観点から

^{注 7-6} 片瀬（2005）。

^{注 7-7} 厚生労働省が 2003 年に実施した「就業形態の多様化に関する総合実態調査」によれば、非正規雇用者に占める割合が最も大きい職種は「事務的な仕事（25.5%）」である。その傾向は特に女性や派遣社員で顕著である。

も判断している可能性がある。そう考えると、高校生の職業への興味や自信が低下したことは、彼／彼女らの客観性の高さの現れともいえよう。ただし、以上の考察はあくまで示唆を得たという程度のものであり、90年代以降のキャリア教育が高校生の職業意識に影響を与えたか否かについては、今回のデータのみからは結論を出せない。考察結果を作業仮説として、新たなサンプルについて検証を行う必要がある。

7-3-2 男女別にみた職業志向性の変化

次に、高校生の志向する職業が男女間でどのように異なるのか、またその相違は1988年と比べてどのように変化したのかを明らかにする。

(1) 分析結果

第2章で明らかになった男女の相違は以下の通りである。職業への興味と自信、基礎的志向性のいずれにおいても、男子は道具や機械を扱うことに対する志向性（R領域、T志向）が、女子は対人関係に関する志向性（S領域、P志向）が突出して高かった。この、男子＝対物志向、女子＝対人志向という傾向が、男女の相違をもっとも顕著に示す特徴といえる。また、女子は男子より現実的かつ客観的な判断を下す傾向が高いと同時に、その興味や自信のありようは画一的であった。男子は様々な志向性をもつ者が混在する一方で、日常活動における志向性と職業志向性、および職業への興味と自信との連続性が女子ほど高くなかった。

以上を第2版と比較しよう。図表7-9と図表7-10にA検査とC検査の平均点を第2版と第3版について示した。7-3-2で既に述べたとおり、職業への興味と自信はともに1988年と比べて大幅に低下している。男女別では特に女子でその傾向が著しい。女子（図表7-9）は興味・自信ともにR領域（現実的領域）・S領域（社会的領域）・E領域（企業的領域）・C領域（慣習的領域）が大幅に低下した。男子（図表7-10）は職業への興味・自信ともにE領域の下がり幅が最も大きく、次いでC領域も低下した。自信についてはE領域とC領域に加えS領域の低下も目立つ。

(2) 考察

こうした変化は、男女の職業意識の相違を縮める方向に生じているのだろうか。図表7-11に1988年と2005年のそれぞれについて女子と男子の得点差を示した。女子よりも男子の得点が高い場合を網掛し、男女間の得点差を絶対値が大きい方を強調した。まず、男女の得点差に両年であまり違いがみられないのはI領域（研究的領域）・A領域（芸術的領域）への興味と自信である。これは、I領域とA領域は1988年から2005年にかけての下がり幅が男女ともに小さいためである。次に、2005年で差が縮まったのは、S領域（社会的領域）・E領域（企業的領域）・C領域（慣習的領域）への興味と自信である。S領域とC領域は両年と

も女子の方が興味も自信も高い領域だが、女子の興味・自信が男子以上に低下したことによって差が縮まった。逆に E 領域は女子より男子の方が興味も自信も高い領域だが、男子の得点が女子より大幅に低下したことで差が縮まった。最後に 2005 年で差が広がったのは、R 領域への興味と自信である。先述のとおり、男女の最大の相違点は、男子は R 領域、女子は S 領域に対する興味や自信が強いということだった。男子の R 領域の得点がそれほど変わらないのに対し、女子の得点は著しく低下した。女子の、機械や道具を使う職業への興味や自信がますます低下した^{注 7-8}。

以上をまとめる。男女間の職業への興味と自信の相違は、全体としては縮まった。ただしその原因は、男子/女子が、かつての男子/女子が「やりたい」・「自信がある」と回答していた領域に対して興味や自信を低下させたという消極的なものである。よって、この結果をもって、高校生が自身の職業への興味・自信を判断する際に、女子/男子が「女/男らしさ」に縛られなくなったと結論付けることは難しい。

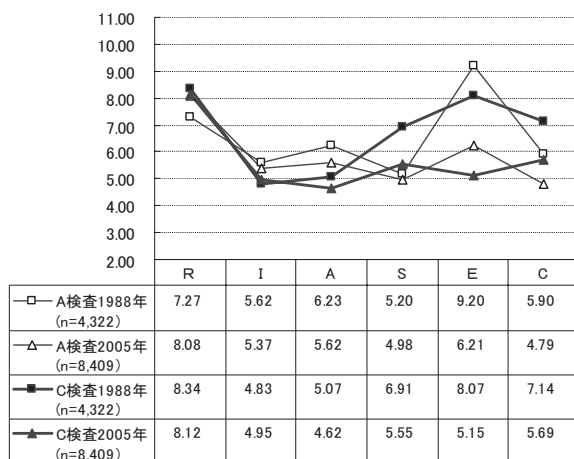


図7-9 職業への興味と自信 1988年・2005年(男子)

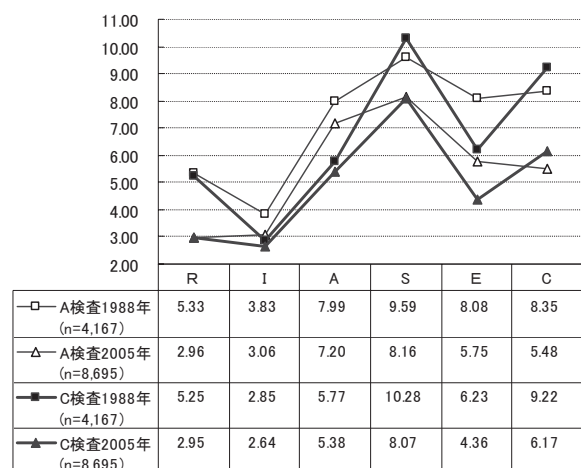


図7-10 職業への興味と自信 1988年・2005年(女子)

図表 7-11 A 検査・C 検査 男女間の得点差

	A検査(女-男)		C検査(女-男)	
	1988年	2005年	1988年	2005年
R(現実的領域)	-1.9	-5.1	-3.1	-5.2
I(研究的領域)	-1.8	-2.3	-2.0	-2.3
A(芸術的領域)	1.8	1.6	0.7	0.8
S(社会的領域)	4.4	3.2	3.4	2.5
E(企業的領域)	-1.1	-0.5	-1.8	-0.8
C(慣習的領域)	2.5	0.7	2.1	0.5

注 7-8 第 2 版では、高校生の男女別に検査項目ごとの回答頻度を集計した表が残されていないため、個々の職業に対する興味・自信の男女差については 1988 年との比較を行わない。

7-4 まとめ

本章では、高校生の職業レディネスについて第2版（1998年）と第3版（2005年）との比較を行うことで、日本の後期中等教育が生徒の職業意識に与えた影響を考察すると同時に、この17年間で高校生の職業意識における男女間の相違が縮小したか否かを検証しようとした。しかし今回のデータはこれらの問題に結論をだすために十分なものではない。

ただ、以上の分析をとおして新たな問題が提起された。それは、なにをもって職業意識の向上とみなすのかという問題である。1988年と比べて、高校生の職業への興味や自信は低下し、進路を決定する高校3年生になっても上昇しなくなった。しかし、この志向性の低下＝職業意識の低下と単純に結びつけることは危険である。なぜなら、彼・彼女らが興味や自信を低下させた職業は、今日の日本社会で安定して働き続けることが難しくなりつつある職業が多いからである。彼・彼女たちが自身をとりまく環境の変化を察知して、職業への興味や自信を変化させてきたのだとしたら、それは客観的で冷静な判断であり、職業意識が低いとはいえないだろう。

また、男女の相違が縮まったか否かについても結論は保留された。平均点の比較を行った結果、男女の職業志向性の差は小さくなっていった。しかしこの差の縮小は、男女それぞれが興味がある・得意だとしてきた領域について、興味・自信が低下した結果もたらされたものであった。しかし第2章で、「女性らしい」職業というイメージが強い「保育士」への男性の興味・自信が2005年で高いことが明らかになった。今回はデータの制約上かなわなかったが、個々の職業における人気や得意な者の割合の変化を男女で比較することで、新たな発見が得られるかもしれない。

以上、述べてきた考察は、本章が冒頭に掲げた仮説についての作業仮説とすることができる。今後は、これらの作業仮説を検証することで、日本の後期中等教育が生徒の職業意識に与えた影響や、高校生の職業意識のジェンダーバイアスの縮小を、検証していくことが課題となろう。

<参考文献>

本田由紀 2005『若者と仕事―「学校経由の就職」を超えて』東京大学出版会。

井上輝子・江原由美子編 2005『女性のデータブック第4版―性・からだから政治参加まで』、有斐閣、p.86-87。

片瀬一男 2005「職業アスピレーションの変容」『夢の行方―高校生の教育・職業アスピレーションの変容』第5章、東北大学出版会、p.139-168。

小杉礼子編 2005『フリーターとニート』、勁草書房。

雇用職業総合研究所 1989『新版職業レディネス・テスト関連資料集』、職研資料シリーズII-33、雇用職業総合研究所。

日本労働研究機構 1989『新版職業レディネス・テスト手引』、雇用問題研究会。

労働政策研究・研修機構 2006『職業レディネス・テスト第3版手引』、雇用問題研究会。

竹内常一 2002「「高校改革」と職業・労働の教育」『揺らぐ<学校から仕事へ>労働市場の変容と10代』、第11章、青木書店。

安田雪 2003『働きたいのに…高校生就職難の社会構造』、勁草書房。

第 8 章 A、B、C 検査における各尺度の関連性、および、興味と自信の差異

8-1 本章の目的

本章では、以下に示す 2 点について検討することを目的とした。まず 1 つ目は、3 つの検査をさまざまなかたちで組み合わせてその関係性をみていくことにより、A、B、C それぞれの検査の特徴を明確化することである。ここでは、① B 検査における 8 つの下位尺度間の相関、② A 検査と B 検査の相関、③ A 検査と B 検査における 8 つの下位尺度間の相関、④ A 検査と C 検査の相関という 4 つの点について、それぞれ中学生と高校生別に算出して検討を加える。

本章における 2 つ目の目的は、興味と自信の差異について検討することである。そこで、A 検査で測定される興味の得点から C 検査で測定される自信の得点を減じることによって、興味と自信の差異について詳しくみていきたい。この値がゼロに近いならば、興味と自信の程度はほぼ一致することになる。プラスを示すならば興味が自信を、マイナスならば自信が興味を上回ると解釈できる。こうして尺度毎、尺度間の関係性について詳しくみていくことで、記述統計では読み取ることのできない尺度の特徴や尺度間の差異を浮き彫りにすることができるだろう。

8-2 分析の対象

調査の方法は第 3 章「標準化調査の概要」に準じており、本章では中学生と高校生の全体のデータを分析に使用した。分析対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

標準化調査に協力した全国 38 校の中学 1 年～3 年生および 62 校の高等学校の 1 年生～3 年生で、詳しい内訳は以下の通りである。中学生計 10,966 名（1 年男子 1,905 名、1 年女子 1,816 名、2 年男子 1,825 名、2 年女子 1,791 名、3 年男子 1,866 名、3 年女子 1,763 名）。高校生計 17,104 名（1 年男子 3,244 名、1 年女子 3,175 名、2 年男子 3,185 名、2 年女子 3,399 名、3 年男子 1,980 名、3 年女子 1,979 名）。

8-3 分析方法と結果

8-3-1 B 検査下位尺度の内部相関

(1) 分析方法

今回の標準化調査のデータの分析では、B検査の下位尺度、すなわち、D（対情報関係志向）、P（対人関係志向）、T（対物関係志向）に関連する項目毎に因子分析を施した。その結果、Dについては、D1（情報を集める）、D2（好奇心を満たす）、D3（情報を活用する）の3因子が、Pについては、P1（自分を表現する）、P2（みんなと行動する）、P3（人の役にたつ）の3因子が、そして、Tについては、T1（物をつくる）とT2（自然に親しむ）の2因子が得られており、この結果にもとづき8つの尺度得点を算出することができる。得点化にあたっては、8つの下位尺度に含まれる各8項目について、あてはまる場合には1点、あてはまらない場合には0点とした。したがって、一つの下位尺度について、得点は0点～8点の範囲となる。本節では、このB検査における8つの下位尺度相互の間にどのような関係がみられるかを検討する。

（2）下位尺度間の相関の検討

B検査の下位尺度間の相関を中学生、高校生別に算出した結果を図表8-1および図表8-2に示す。中学生においても高校生においても、同じ関係志向の下位側面の間に中程度以上の正

図表 8-1 B検査下位尺度の内部相関(中学生)

の相関関係が認められる。つまり、D（対情報関係志向）の下位尺度であるD1、D2、D3の間には、中学生

下位尺度内容		D志向			P志向			T志向	
		D1	D2	D3	P1	P2	P3	T1	T2
B検査下位尺度	D1 情報を集める	1.00							
	D2 好奇心を満たす	0.47	1.00						
	D3 情報を活用する	0.39	0.37	1.00					
	P1 自分を表現する	0.28	0.10	0.09	1.00				
	P2 みんなと行動する	0.13	-0.03	0.08	0.46	1.00			
	P3 人の役にたつ	0.28	0.32	0.31	0.36	0.43	1.00		
	T1 物をつくる	0.15	0.21	0.21	0.05	0.05	0.09	1.00	
	T2 自然に親しむ	0.11	0.33	0.15	0.08	0.10	0.30	0.35	1.00

で $r=.37$ ～.47、高

注：無印… $p<.01$,*… $p<.05$,†… $p<.10$,ns…有意水準に達しない

校生では.32～.47の相関係数が得られ、P（対人関係志向）における下位尺度であるP1、P2、P3の間には、中学生で $r=.36$ ～.46、高校生では $r=.38$ ～.46の値が得られた。そして、T（対物関係志向）における下位尺度であるT1とT2の間には、中学生で $r=.35$ 、高校生では $r=.32$ の相関係数が得られた。すなわち、D（対情報関係志向）とP（対人関係志向）は3つの下位側面に、T（対物関係志向）は2つの下位側面に分けて考えることができるが、各々の下位尺度で測定される志向は、決して相反するものではなく、情報、人間、物という大きなくくりの下にまとまりをみせている。

図表 8-2 B 検査下位尺度の内部相関(高校生)

下位尺度内容		D 志向			P 志向			T 志向	
		D1	D2	D3	P1	P2	P3	T1	T2
B 検 査 下 位 尺 度	D1 情報を集める	1.00							
	D2 好奇心を満たす	0.47	1.00						
	D3 情報を活用する	0.38	0.32	1.00					
	P1 自分を表現する	0.23	0.08	0.02*	1.00				
	P2 みんなと行動する	0.07	-0.10	0.00ns	0.46	1.00			
	P3 人の役にたつ	0.22	0.28	0.25	0.38	0.41	1.00		
	T1 物をつくる	0.19	0.21	0.22	0.04	0.01*	0.06	1.00	
	T2 自然に親しむ	0.12	0.33	0.15	0.11	0.09	0.33	0.32	1.00

注: 無印… $p < .01$, *… $p < .05$, †… $p < .10$, ns…有意水準に達しない

次に、異なる志向の下位側面との間にみられる相関に着目すると、同じ志向の下位側面の間には得られた値よりもやや低い正の相関がみられる。これより、D（対情報関係志向）とP（対人関係志向）、D（対情報関係志向）とT（対物関係志向）、そして、P（対人関係志向）とT（対物関係志向）という異なる志向の下位側面同士は、弱いつながりによってゆるやかなまとまりをもつものと解釈できよう。なお、D2とP2の間には、中学生で $r = -0.03$ 、高校生で $r = -.10$ の負の相関がみられた。これらは、世の中の動きや仕組みを知りたいという知的側面からくる志向と、友人は多いほど楽しい、人とすぐに仲良くなれるといった社会的つながりに対する志向は、必ずしも共存するものではないことを示しているのだろう。

8-3-2 A 検査と B 検査の相関

A 検査によって測定される R（現実的領域）、I（研究的領域）、A（芸術的領域）、S（社会的領域）、E（企業的領域）、C（慣習的領域）の 6 つの職業領域に対する興味と、B 検査で測定される D（対情報関係志向）、P（対人関係志向）、T（対物関係志向）は、どのような関係にあるのだろうか。この点について明らかにするために、A 検査と B 検査の尺度得点の相関を算出したものを図表 8-3、図表 8-4 に示す。

図表 8-3 A 検査と B 検査の相関(中学生)

		A 検査					
		R	I	A	S	E	C
		現実的	研究的	芸術的	社会的	企業的	慣習的
B検査	D 対情報関係志向	0.08	0.32	0.33	0.23	0.35	0.36
	P 対人関係志向	0.00ns	-0.03	0.25	0.43	0.37	0.07
	T 対物関係志向	0.45	0.41	0.28	0.17	0.21	0.11

注:無印… $p < .01$,*… $p < .05$,†… $p < .10$,ns…有意水準に達しない

図表 8-4 A 検査と B 検査の相関(高校生)

		A 検査					
		R	I	A	S	E	C
		現実的	研究的	芸術的	社会的	企業的	慣習的
B検査	D 対情報関係志向	0.08	0.31	0.31	0.17	0.34	0.32
	P 対人関係志向	0.00ns	-0.07	0.17	0.44	0.35	0.02
	T 対物関係志向	0.48	0.42	0.35	0.18	0.22	0.09

注:無印… $p < .01$,*… $p < .05$,†… $p < .10$,ns…有意水準に達しない

A 検査における 6 つの職業領域毎にみていくと、R（現実的領域）は、T（対物関係志向）との間に比較的高めの正の相関を示しており（中学生 $r=.45$ 、高校生 $r=.48$ ）、組み立て、運転、修理、整備といった機械や部品を扱う現実的な職業領域の特徴がよく表れている。その一方で、R（現実的領域）は、P（対人関係志向）との間に有意な相関をみせておらず、物を対象とした仕事活動への興味と人との触れ合いを大切にしたいという志向は関係しないことが示された。

I（研究的領域）は、D（対情報関係志向）との間にやや高めの正の相関が（中学生 $r=.32$ 、高校生 $r=.31$ ）、T（対物関係志向）との間にも高めの正の相関（中学生 $r=.41$ 、高校生 $r=.42$ ）がみとめられ、研究的な興味や、情報への好奇心や収集、そして物を扱う活動への志向と関わりをもつことが示された。一方、P（対人関係志向）の間には低いながらも負の相関が示されたことから（中学生 $r=-.03$ 、高校生 $r=-.07$ ）、研究への興味と人間関係に対する志向は相反する傾向にあることがわかる。

A（芸術的領域）、S（社会的領域）、E（企業的領域）の 3 つは、D（対情報関係志向）、P（対人関係志向）、T（対物関係志向）のいずれの志向との間にも低～中程度の正の相関を示しており、情報、人間、物という 3 つの対象への志向すべてがこれらの領域に対する興味とつながりをもつことがわかる。C（慣習的領域）は、D（対情報関係

志向) (中学生 $r=.36$ 、高校生 $r=.32$)、および、T (対物関係志向) (中学生 $r=.11$ 、高校生 $r=.09$) との間に正の相関がみられた点は I (研究的領域) と同様である。それに加えて、P (対人関係志向) との間には弱いながらも正の相関がみられたことから、人間関係への志向とつながりをもつことがわかる。

8-3-3 A検査とB検査の下位尺度の相関

A検査によって測定されるR (現実的領域)、I (研究的領域)、A (芸術的領域)、S (社会的領域)、E (企業的領域)、C (慣習的領域) の6つの職業領域に対する興味と、B検査によるD (対情報関係志向)、P (対人関係志向)、T (対物関係志向) の関係性をさらに詳しくみていくために、A検査の6領域とB検査における8つの下位尺度の相関係数を算出したものを図表8-5、図表8-6に示す。

図表8-5 B検査(下位尺度)とA検査の相関(中学生)

		A検査					
		R 現実的	I 研究的	A 芸術的	S 社会的	E 企業的	C 慣習的
B検査 下位 尺度	D1 情報を集める	-0.00ns	0.17	0.34	0.19	0.35	0.33
	D2 好奇心を満たす	0.13	0.39	0.29	0.21	0.28	0.28
	D3 情報を活用する	0.07	0.18	0.15	0.14	0.18	0.23
	P1 自分を表現する	0.00ns	-0.04	0.20	0.24	0.37	0.00ns
	P2 みんなと行動する	0.03	-0.10	0.10	0.26	0.21	0.00ns
	P3 人の役にたつ	-0.03	0.05	0.28	0.53	0.28	0.14
	T1 物をつくる	0.45	0.29	0.23	0.00ns	0.18	0.10
	T2 自然に親しむ	0.28	0.39	0.23	0.29	0.16	0.08

注: 無印… $p<.01$, *… $p<.05$, †… $p<.10$, ns…有意水準に達しない

図表8-6 B検査(下位尺度)とA検査の相関(高校生)

		A検査					
		R 現実的	I 研究的	A 芸術的	S 社会的	E 企業的	C 慣習的
B検査 下位 尺度	D1 情報を集める	0.02	0.19	0.29	0.12	0.35	0.32
	D2 好奇心を満たす	0.09	0.36	0.32	0.17	0.28	0.22
	D3 情報を活用する	0.07	0.17	0.12	0.10	0.16	0.20
	P1 自分を表現する	-0.02	-0.08	0.18	0.26	0.37	-0.04
	P2 みんなと行動する	0.06	-0.12	0.01†	0.26	0.18	-0.00ns
	P3 人の役にたつ	-0.03	0.04	0.19	0.53	0.26	0.11
	T1 物をつくる	0.48	0.30	0.31	-0.01ns	0.19	0.07
	T2 自然に親しむ	0.29	0.39	0.25	0.33	0.17	0.08

注: 無印… $p<.01$, *… $p<.05$, †… $p<.10$, ns…有意水準に達しない

R（現実的領域）は、D（対情報関係志向）、T（対物関係志向）の下位尺度との間には、注目に値する相関を示しておらず、T（対物関係志向）における2つの下位側面との間に中程度の相関を示していた。そのうち、T2（自然に親しむ）との間にみられた値よりも（中学生 $r=.28$ 、高校生 $r=.29$ ）、T1（物をつくる）との間に得られた値のほうが強かった（中学生 $r=.45$ 、高校生 $r=.48$ ）。これより、現実的職業領域に対する興味は、ものを扱うことへの志向性と関りをもつこと、なかでも指先を使うことや壊れたものを修理することへの志向をもっともよく反映した傾向であるといえる。

I（研究的領域）は、P（対人関係志向）との間にわずかな負の相関がみられたが、Pを3つの下位尺度に分けて検討すると、P1（自分を表現する）、および、P3（人の役に立つ）との間にはほとんど相関がみられず、P2（みんなと行動する）との間に中学生で $r=-.10$ 、高校生では $r=-.12$ の負の相関がみられた。これより、研究的な職業領域への興味は、人間関係に対する志向のなかでも、グループで行動したり作業をするような集団での活動とは相容れない傾向であることが示された。

A（芸術的領域）、S（社会的領域）、E（企業的領域）と、D（対情報関係志向）、P（対人関係志向）、T（対物関係志向）のそれぞれの志向の間には、ほとんどの組み合わせにおいて正の相関が示された。これよりA（芸術的領域）、S（社会的領域）、E（企業的領域）の3領域は、3つの基礎的志向性をすべて反映した職業興味であるといえる。しかしながら、S（社会的領域）とT1（物をつくる）の間には、中学生、高校生ともに有意な相関がみられないことから、人に接したり助けたり教えたりする職業への興味は、物を組み立てるのが好きである、手先が器用であるという物作り志向とは関係をもたないことが分かる。また、A（芸術的領域）とP2（みんなと行動する）の間には、中学生では $r=.10$ という弱めの相関がみられるのに対して、高校生になると $r=.01$ というかなり低めの相関しかみられなくない。これは、芸術的な職業への興味が年齢や学年がすすむにつれて明確化され、グループ活動への志向とは関りをもたない興味傾向へと結晶化されていくためと考えられる。

C（慣習的領域を満たす）は、D（対情報関係志向）の下位尺度であるD1（情報を集める）、D2（好奇心を満たす）、D3（情報を活用する）との間には中程度の相関をみせており（中学生 $r=.23\sim.33$ 、高校生 $r=.20\sim.32$ ）、情報への関心や、好奇心、計画立案への志向とつながりをもつ興味であることが分かる。T（対物関係志向）の下位尺度T1（物をつくる）とT2（自然に親しむ）の間には、やや低めの相関がみられ（中学生 $r=.08$ と $r=.10$ 、高校生 $r=.07$ と $r=.08$ ）、物や自然への志向とは弱いつながりをもつことが示された。一方、P（対人関係志向）の下位尺度のうちP2（みんなと行動する）の間には、中学生、高校生ともに無相関、P1（自分を表現する）の間は、中学生では無相関、高校生では非常に低い負の相関（ $r=-.04$ ）が示されていた。よって、慣習的な職業への

興味は、グループでの行動や人との関わりに対する志向とは関係をもたないものといえるだろう。一方、P（対人関係志向）の下位尺度のうち P3（人の役に立つ）との間には、中学生、高校生ともに正の相関がみとめられたことから（中学生 $r=.14$ 、高校生 $r=.11$ ）、この領域への興味は、人を助けたり世話をするような愛他的傾向と関係をもつと理解できる。

8-3-4 A検査とC検査の相関

A検査によって測定されるR（現実的領域）、I（研究的領域）、A（芸術的領域）、S（社会的領域）、E（企業的領域）、C（慣習的領域）の6つの職業領域に対する興味と、同領域に対する自信の程度にはどのような関係性があるのだろうか。この点について明らかにするためにA検査とC検査の相関係数を算出したものを図表8-7、図表8-8に示す。これより、A検査による職業興味とC検査による自信は、さまざまな程度の相関関係にあることがわかる。

図表8-7 A検査とC検査の相関(中学生)

		A検査(興味)					
		R 現実的	I 研究的	A 芸術的	S 社会的	E 企業的	C 慣習的
C検査 (自信)	R 現実的	0.87	0.46	-0.00ns	-0.00ns	0.27	0.18
	I 研究的	0.46	0.85	0.08	0.09	0.23	0.28
	A 芸術的	0.04	0.11	0.83	0.32	0.49	0.17
	S 社会的	0.04	0.10	0.35	0.84	0.39	0.28
	E 企業的	0.24	0.21	0.45	0.29	0.79	0.22
	C 慣習的	0.18	0.28	0.19	0.25	0.31	0.78

注:無印… $p<.01$,*… $p<.05$,†… $p<.10$,ns…有意水準に達しない

図表8-8 A検査とC検査の相関(高校生)

		A検査(興味)					
		R 現実的	I 研究的	A 芸術的	S 社会的	E 企業的	C 慣習的
C検査 (自信)	R 現実的	0.85	0.43	0.11	0.04	0.26	0.12
	I 研究的	0.43	0.83	0.17	0.11	0.22	0.23
	A 芸術的	0.13	0.18	0.81	0.21	0.49	0.11
	S 社会的	0.09	0.13	0.25	0.82	0.38	0.26
	E 企業的	0.22	0.19	0.45	0.27	0.78	0.16
	C 慣習的	0.12	0.24	0.16	0.25	0.27	0.76

注:無印… $p<.01$,*… $p<.05$,†… $p<.10$,ns…有意水準に達しない

図表8-10 男女・学年別にみたA検査とC検査の得点差(中学生)

	変数	N	平均	標準偏差	最小値	最大値
中学生 1年男	R 現実的	1888	0.08	(3.06)	-18	14
	I 研究的	1893	0.62	(3.00)	-15	18
	A 芸術的	1873	0.43	(2.69)	-18	17
	S 社会的	1873	-0.22	(2.83)	-16	18
	E 企業的	1873	0.77	(3.06)	-14	17
	C 慣習的	1882	-0.33	(3.08)	-18	18
中学生 1年女	R 現実的	1799	0.18	(2.19)	-14	18
	I 研究的	1809	0.60	(2.39)	-13	18
	A 芸術的	1780	1.29	(2.75)	-10	18
	S 社会的	1804	0.21	(2.58)	-14	18
	E 企業的	1787	1.07	(2.79)	-16	18
	C 慣習的	1800	-0.02	(2.87)	-15	18
中学生 2年男	R 現実的	1807	0.19	(2.86)	-16	16
	I 研究的	1816	0.66	(2.85)	-17	15
	A 芸術的	1790	0.59	(2.54)	-12	15
	S 社会的	1805	-0.29	(2.57)	-13	09
	E 企業的	1793	0.96	(2.90)	-14	11
	C 慣習的	1801	-0.49	(3.17)	-17	09
中学生 2年女	R 現実的	1779	0.24	(2.02)	-12	10
	I 研究的	1780	0.56	(2.22)	-12	12
	A 芸術的	1769	1.63	(2.70)	-09	17
	S 社会的	1776	0.23	(2.58)	-15	09
	E 企業的	1773	1.35	(2.78)	-11	13
	C 慣習的	1777	-0.11	(2.86)	-16	12
中学生 3年男	R 現実的	1857	0.00	(3.04)	-15	14
	I 研究的	1861	0.55	(2.82)	-12	16
	A 芸術的	1836	0.89	(2.58)	-10	13
	S 社会的	1849	-0.47	(2.66)	-13	11
	E 企業的	1850	1.09	(2.88)	-14	13
	C 慣習的	1846	-0.61	(3.36)	-16	10
中学生 3年女	R 現実的	1752	0.08	(2.24)	-18	10
	I 研究的	1759	0.48	(2.30)	-18	13
	A 芸術的	1743	1.74	(2.74)	-18	17
	S 社会的	1754	0.18	(2.66)	-18	17
	E 企業的	1750	1.38	(2.81)	-18	14
	C 慣習的	1754	-0.42	(3.02)	-18	10

注 平均値はA検査からC検査を引いた値を示す

(1) 分析方法

職業興味を調べる A 検査と職務を遂行する自信の程度を調べる C 検査の関連については、中学生、高校生の結果をそれぞれ分析した第 5 章、第 6 章でも触れている。本章では、6 つの職業領域に対する興味と自信の関係性についてさらに詳しく分析するために、領域ごとに A 検査の興味得点から C 検査の自信得点を減じて興味と自信の差異得点を算出した。

図表 8-10、図表 8-11 は、それぞれ中学生と高校生の結果を学年、性別ごとに分類したものである。こうして、興味と自信の得点差を学年別、男女別に算出することで、発達の傾向や性差について検討することが可能になる。ここに示される平均値がプラスを示すならば、興味が自信を上回ることを意味しており、そうした活動をやってみたいとの思いが、上手くできるという自信よりも強いことになる。逆に、平均値がマイナスの値を示すならば、活動を成功裏に行う自信に比して、やってみたいとの興味はそれほど強くないといえる。

(2) 興味と自信の差について

得られた結果をみると、すべての対象に共通しているのは、C (慣習的領域) の値がマイナスを示していることである。すなわち、書類に記入したり、入力・転記のような事務的な作業について、多くの中高生がうまくできるであろうという自信を

図表8-11 男女・学年別にみたA検査とC検査の得点差(高校生)

	変数	N	平均	標準偏差	最小値	最大値
高校生 1年男	R 現実的	3213	0.03	(3.01)	-17	13
	I 研究的	3221	0.42	(2.81)	-18	13
	A 芸術的	3194	0.80	(2.66)	-16	17
	S 社会的	3213	-0.44	(2.68)	-18	09
	E 企業的	3201	1.06	(2.84)	-14	12
	C 慣習的	3205	-0.68	(3.21)	-18	12
高校生 1年女	R 現実的	3296	0.04	(2.31)	-12	14
	I 研究的	3305	0.44	(2.28)	-12	15
	A 芸術的	3281	1.82	(2.77)	-13	17
	S 社会的	3293	0.12	(2.74)	-13	15
	E 企業的	3290	1.43	(2.76)	-18	14
	C 慣習的	3290	-0.47	(3.11)	-18	16
高校生 2年男	R 現実的	3168	-0.06	(3.19)	-18	12
	I 研究的	3169	0.38	(2.84)	-18	18
	A 芸術的	3143	1.08	(2.76)	-16	15
	S 社会的	3160	-0.72	(2.84)	-18	11
	E 企業的	3155	1.00	(3.00)	-18	15
	C 慣習的	3156	-1.03	(3.39)	-18	14
高校生 2年女	R 現実的	3379	-0.06	(2.32)	-15	17
	I 研究的	3386	0.39	(2.31)	-12	18
	A 芸術的	3361	1.84	(2.75)	-09	17
	S 社会的	3383	0.07	(2.78)	-16	17
	E 企業的	3367	1.36	(2.72)	-14	14
	C 慣習的	3372	-0.83	(3.29)	-18	16
高校生 3年男	R 現実的	1966	-0.12	(3.23)	-18	18
	I 研究的	1970	0.49	(3.07)	-18	18
	A 芸術的	1954	1.15	(2.73)	-18	18
	S 社会的	1967	-0.60	(2.86)	-18	18
	E 企業的	1958	1.19	(2.90)	-18	18
	C 慣習的	1961	-1.02	(3.43)	-18	18
高校生 3年女	R 現実的	1972	0.08	(2.39)	-18	12
	I 研究的	1975	0.44	(2.31)	-18	16
	A 芸術的	1957	1.79	(2.77)	-18	16
	S 社会的	1970	0.06	(2.60)	-18	10
	E 企業的	1965	1.40	(2.71)	-18	12
	C 慣習的	1967	-0.81	(3.33)	-18	13

注 平均値はA検査からC検査を引いた値を示す

もつものの、それが興味につながっていないといえる。とくに男女に分けて値の変化を追っていくと、男子では、中学1年生-0.33、2年で-0.49、3年生-0.61、高校1年生-0.68、2年生-1.03、3年生-1.02、女子では、中学1年-0.02、中学2年-0.11、中学3年-0.42、高校1年-0.47、高校2年-0.83、高校3年-0.81と、学年の上昇にともない、興味と自信の間にみられるマイナス方向への開きが大きくなっている。すなわち、慣習的な活動では、発達的にみて早い段階から自信が興味を上回るが、その傾向は学年がすすむにつれて強くなることがわかる。

S（社会的領域）では、中学、高校を通じて男子はマイナスの、女子はプラスの値を示していた。すなわち、男子にとって世話をしたり相談にのったりという活動は、自信があっても興味につながるものではない。一方、女子においては、それほど高くないプラスの値がみられることから、人との関りを含む職業領域への自信がそのまま活動への興味につながるのだと解釈できる。

R（現実的領域）では、ほとんどの対象において低いプラスの値がみとめられた。この領域に対する興味の程度が低くなるという従来からの報告とあわせて考えると、今の中高生が、機械を作る、家を建てる、クレーンを運転するといった活動を日常生活のなかで経験する機会が少ないこと、さらに、そうした活動のプロセスを見聞きする経験も限られたものであることから、

興味、自信も似通った低い値にとどまっているのだと考えられる。

A（芸術的領域）では、すべての対象者でプラスの値がみとめられた。なかでも女子の得点はすべての学年で 1.00 を上回る高いものであった。これより、デザインしたり文やイラストを書くような活動をやってみたいとの興味が自信を大きく上回ること、そして、その傾向は女子においてとくに顕著であることがわかる。また、男子においても学年の上昇にともない得点が高くなる傾向にあることから、こうした活動への興味が発達とともに強くなるといえる。

E（企業的領域）においても、男女ともにプラスの高めの値が得られた。この領域では中学 1、2 年生の男子を除くとすべての対象者で 1.00 を超える高めの値が得られたことから、経営や企画、立案、取材を主とする企業的な仕事領域では、興味が自信の程度を大きく上回っていることがわかる。同領域に含まれる仕事活動は、中高生にとっては漠然としたイメージしかなく、関心や憧れを抱くものの、実際にそうした活動に触れる機会が少ないために、それほど強い自信をもてないでいるのかもしれない。あるいは、こうした活動への憧れや関心が強いために、できるか否かに関り無く、やってみたいとの気持ちが先にたつという解釈も成り立つ。

I（研究的領域）では、すべての対象者において低～中程度のプラスの値がみとめられ、年齢や性別による顕著な得点差はみられなかった。これより、調査や測定、分析などの活動を行う領域では、興味と自信の間にそれほど大きな開きはなく、興味がわずかに自信を上回る程度であると考えられる。

8-4 まとめ

以上、本章で行った尺度内外の相関分析から、A、B、Cそれぞれの検査がおおむね想定した通りの傾向を測定していることが示されたといえる。また、A検査とC検査の得点の差異について分析した結果、職業領域によって興味が自信を上回る場合と自信が興味を上回る場合があること、さらに、両得点に大きな差はみられない領域があることが明らかになった。また、ここで得られた差異得点のいくつかには、性別による違いや学年による変化がみられたことから、仕事活動に対する自信の程度と興味の程度は、すべての対象にとって一様なものではなく、性別や発達段階による違いを考慮しながら解釈していくことが望まれる。

第9章 職業興味の発達指標としての分化度の検討^{注9-1}

9-1 本章の目的

職業レディネス・テストが主な対象としている中学生、高校生は、成人に比べ、発達の途上にあり、職業志向性も基礎的志向性もだんだんと変化していく時期である。生徒の自分自身や職業に対する理解が深まるにつれて、検査で測定される尺度の値もそれに応じて変化することが考えられる。

職業レディネス・テストのA検査、C検査が理論的な枠組みとして用いているホルランドの理論では、職業興味が高い領域、低い領域がはっきり分かれているほど、職業意識の発達が進んでいるとみなす(Holland,1985)。つまり、職業意識の発達があまり進んでいない時には、自分がどんな活動や仕事が好きか嫌いかをうまく認識できていないので、高い領域と低い領域の差が大きくなる。しかし、職業意識が発達してくると、好きな活動や嫌いな活動がわかってくるので、領域間の好き嫌いの差が大きくなるということである。これは自信に関しても同様であろう。

ホルランドは職業興味の最も高い領域と低い領域との差を「分化度(differentiation)」と定義している。それに準じて、職業レディネス・テストにおいても、プロフィールを解釈する時に一つの手がかりとして分化度を用いている。ワークシートのWORK2では、A検査の標準得点の最高値と最低値の差を分化度として算出する。そして、分化度が50以上では、興味がよく分化している、30～50ではまあまあ分化している、30未満では興味が分化していないという解釈の規準を提示している。

そこで本章では、分化度という指標を使って、標準化調査で得られたデータを分析し、中学生、高校生のそれぞれで分化度がどのように変化するのかを検討する。職業レディネス・テストを素材として中学生や高校生の職業発達を捉える時、様々な観点からの解釈を行うことができるが、このうちの一つである分化度によって中学生、高校生の職業発達がどのように捉えられるのかを示すことは、職業レディネス・テストを使って解釈を行う利用者に有効な資料となると思う。

9-2 分析対象

調査の方法は第3章「標準化調査の概要」に準ずる。本章では中学生と高校生の全体のデータを取り上げた。分析の対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

標準化調査に協力した全国38校の中学1年～3年生および62校の高等学校の1年生

^{注9-1} 本章のデータの一部はキャリア教育学会(室山・松本,2006)で発表した。

～3年生。人数の内訳は以下の通り。中学生計 10,966 名（1年男子 1,905 名、1年女子 1,816 名、2年男子 1,825 名、2年女子 1,791 名、3年男子 1,866 名、3年女子 1,763 名）。高校生計 17,104 名（1年男子 3,244 名、1年女子 3,175 名、2年男子 3,185 名、2年女子 3,399 名、3年男子 1,980 名、3年女子 1,979 名）。

9-3 分析方法と結果

9-3-1 学校別、各学年男女別の分化度の分布

各検査について、個人毎に RIASEC および DPT の各尺度の粗点を算出した。粗点を「職業レディネス・テスト第3版」の換算表でパーセンタイル値に置き換えた後、検査毎に最も高い尺度から最も低い尺度の値を引き、これを各検査の分化度とした（0～100の値をとる）^{注9-2}。

図表 9-1 および図表 9-2 は、職業レディネス・テストのワークシートの解釈に従い、分化度が「30未満」、「30以上50以下」、「51以上」という規準で分けたときの、中学生と高校生の各学年男女別の人数の割合を示したものである。ワークシートではA検査の職業興味の分化度だけを扱うが、本章では、基礎的志向性を捉えるB検査および職務遂行の自信度を調べるC検査についても分化度を算出した。

まず図表 9-1 の中学生の結果を見ると、A検査とC検査の職業志向性については、男子、女子とも学年が上がるにつれて、分化度の「30未満」の割合が減り、「51以上」の割合が増えてくることわかる。学年とともに分化度が小さい者の割合が減り、分化度が高い者の割合が増すということは、1年生から2年生、3年生と学年が進むにつれ、

図表9-1 中学生における各検査の分化度の分布(%)

	分化度	中学全体 (n=10966)	1年生		2年生		3年生	
			男子 (n=1905)	女子 (n=1816)	男子 (n=1825)	女子 (n=1791)	男子 (n=1866)	女子 (n=1763)
A検査	30未満	13.22	18.46	12.12	16.51	11.71	11.59	8.64
	30～50	29.35	35.51	29.67	30.54	26.18	29.2	24.58
	51以上	57.43	46.03	58.21	52.95	62.11	59.21	66.78
B検査	30未満	31.59	34.71	32.9	35.17	28.33	31.9	26.27
	30～50	33.13	34.28	33.29	31.87	33.62	31.41	34.38
	51以上	35.28	31.01	33.81	32.96	38.05	36.69	39.35
C検査	30未満	13.74	20.11	12.57	17.36	11.45	13.13	7.48
	30～50	29.55	33.19	28.6	30.55	28.13	30.8	25.74
	51以上	56.71	46.7	58.83	52.09	60.42	56.07	66.78

注:数字は、各セルの全体計に対する該当者数の割合を示す。

注9-2 ホランドは米国版のVPI職業興味検査の結果を解釈する際に、検査の粗点を使って最高点と最低点の差を算出し分化度としているが、本章では日本語版VPIおよび職業レディネス・テストのワークシートの分化度の算出に従い、標準得点の最高点と最低点の差として分化度を定義する。

興味や自信の高い領域、低い領域が分化している生徒の割合が大きくなることを示している。

B検査の基礎的志向性に関しては、「51以上」という分化度が高い者の割合は男女とも学年が上になるにつれて高くなった。「30未満」は女子では学年とともに少なくなるが、男子では2年生でやや増えるなど、職業志向性に比べて明確な割合の変化は示されていない。

男女別にみると、どの学年でも分化度「30未満」では女子が男子より少なく、「51以上」では女子が男子よりも多くなっている。これはA検査、B検査、C検査すべて同じ結果である。男子に比べ、女子において分化度が高い者が多いことがわかる。

図表9-2 高校生における各検査の分化度の分布(%)

		1年生		2年生		3年生		
		高校生全体 (n=17104)	男子 (n=3244)	女子 (n=3317)	男子 (n=3185)	女子 (n=3399)	男子 (n=1980)	女子 (n=1979)
A検査	30未満	11.12	13.34	10.34	12.62	9.56	10.08	10.16
	30～50	28.8	32.32	28.1	30.48	26.49	28.08	26.24
	51以上	60.08	54.34	61.56	56.9	63.95	61.84	63.6
B検査	30未満	29.9	32.66	29.21	30.83	28.35	29.87	27.74
	30～50	32.58	32.25	31.59	33.72	31.4	33.68	33.9
	51以上	37.52	35.09	39.2	35.45	40.25	36.45	38.36
C検査	30未満	12.93	15.82	11.51	14.86	10.8	13.25	10.82
	30～50	28.65	29.86	27.97	29.91	28.51	28.52	26.24
	51以上	58.42	54.32	60.52	55.23	60.69	58.23	62.94

注:数字は各セルの全体計に対する該当者数の割合を示す。

次に図表 9-2 の高校生の分化度であるが、男子についてはA検査、B検査、C検査とも学年とともに、分化度が「30未満」の生徒の割合が減り、「51以上」の者の割合が増える。一方、女子では、1年生と2年生では、学年とともに「30未満」の割合は減り、「51以上」の割合は増える。しかし、2年生と3年生を比べるとA検査、C検査において「30未満」が若干増えている。「51以上」の者の割合もC検査では増えるが、A検査、B検査では2年生より3年生で若干減少している。男女を比較すると、どの学年でも分化度が「51以上」の者は女子の方が男子より多く、女子に分化度が高い者が多いことがわかる。分化度「30未満」については、3年生の女子において男子よりも割合がわずかに高いという以外は、女子の方が男子よりも割合が少なかった。この結果から中学生と同様に、高校生においても男子に比べ、女子に分化度の高い者が多いといえる。ただ、高校生の男子が、中学生と同様に学年とともに分化度が小さい者が減り、高い者が増えていくという傾向を示すのに対し、高校生の女子は2年生に比べ3年生の方に分化度が高い者が多いとはいえないという結果が示されている。

なお、中学生、高校生の両方のデータをみると、分化度「30未満」は全体の10%強、「30～50」は全体の30%弱、「51以上」は50～60%程度となっている。ワークシートで

は、「30 未満」は「興味が分化していない」、「30～50」は「まあまあ分化」、「51 以上」は「よく分化している」となっている。各規準に含まれる生徒の割合からみると、「まあまあ分化」の得点の範囲が狭く、「よく分化している」の得点の範囲が広い。職業レディネス・テストのワークシートでは、職業興味のプロフィールをみて、その生徒の興味のある領域、ない領域がどの程度分かれているのかを判断する一つの手がかりとして分化度を用いる。この規準は、他の多くの人と比較した時に個人の分化度がとても高いのか、中間なのか、とても低いのかを厳密に仕分けするために用意されているものではなく、個人のプロフィールが描かれた時に興味の有無が職業領域に関してある程度分かれているかどうかを判断することを目的としている。そこで、プロフィール上では、興味の高い領域と低い領域との差が 51 以上あれば「よく分化している」と解釈するのである。ただ、中学生、高校生の分布に照らして考えるのであれば、分化度がそれほど低くはないが平均より若干低めである場合を「まあまあ分化」、平均以上であれば「よく分化している」という解釈になる。

9-3-2 学校別、各学年男女別の分化度の平均値の検討

前節では、ワークシートの規準にしたがって、それにあてはまる生徒の割合を算出し、中学生および高校生の男子において、学年とともに、分化度の小さい者が減り、分化度の大きい者が増えるという結果を確認した。そこで次に、中学校、高校別に、各学年男女別に、A～C 検査の分化度の平均値を算出した。中学校と高校における各学年男女別に算出した各検査の平均値と標準偏差を図表 9-3 および図表 9-4 に示す。

図表9-3 中学校における学年別男女別各尺度の分化度(最大値—最小値)

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
	n=1905	n=1816	n=1825	n=1791	n=1866	n=1763
	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)
A検査	48.69(19.89)	53.92(19.62)	51.63(20.18)	55.45(19.75)	55.02(19.86)	58.35(19.24)
B検査	39.64(20.89)	41.06(22.06)	40.68(21.37)	44.02(22.06)	42.81(22.28)	44.94(22.04)
C検査	48.72(20.35)	54.29(19.61)	51.43(21.00)	55.31(19.96)	53.28(20.41)	58.65(18.83)

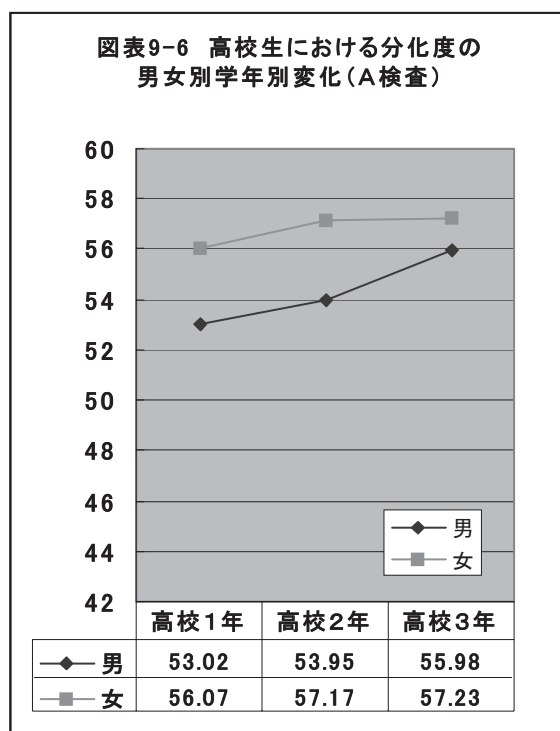
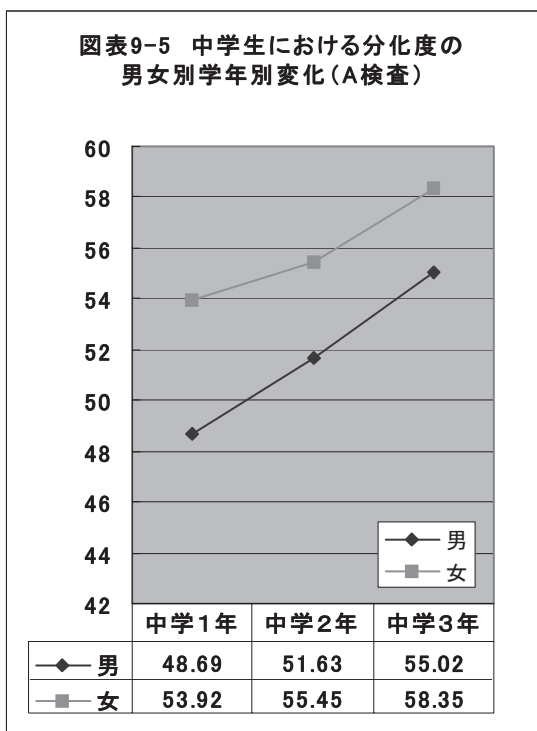
図表9-4 高校生における学年別男女別各尺度の分化度(最大値—最小値)

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
	n=3244	n=3317	n=3185	n=3399	n=1980	n=1979
	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)
A検査	53.02(19.81)	56.07(19.33)	53.95(20.07)	57.17(19.36)	55.98(19.22)	57.23(19.75)
B検査	41.66(21.74)	44.11(21.73)	42.41(21.60)	44.57(21.80)	42.64(20.93)	44.24(21.84)
C検査	52.52(20.63)	55.48(19.61)	52.83(20.39)	55.83(19.22)	54.40(20.09)	56.11(19.28)

(1) 職業興味における分化度

職業志向性のうち、職業興味を調べる A 検査の分化度について、学校別に学年別、男

女別で平均値を算出し、グラフにした（図表 9-5、図表 9-6）。



①中学生における職業興味の分化度

中学生の学年別男女別の結果を図表 9-5 に示す。学年による分化度の変化をみると、学年とともに分化度が大きくなることがわかる（男女あわせた平均値：中学1年 51.24、2年 53.52、3年 56.64）。男子に比べ女子の方が1年生のときから分化度が大きく、やりたい職業とやりたくない職業の区別は女子の方が早くから明確になっているようである。あるいは、A検査には「どちらともいえない」という選択肢があるが、女子の方がやりたいかやりたくないかははっきり回答する傾向があるので^{注9-1}、興味の高い領域と低い領域の得点差が大きくなっている可能性もある。なお男女とも学年とともに分化度が上昇するという結果は、学年が上になるにつれて職業への意識が高まるとすれば、分化度が職業興味の発達を反映しているというホルランドの理論を裏付けるものである。

②高校生における職業興味の分化度

高校生の学年別男女別の結果を図表 9-6 に示す。学年による分化度の変化をみると、学年とともに分化度が大きくなることがわかる（男女あわせた平均値：高校1年 54.5、2年 55.56、3年 56.61）。

注9-1 「職業レディネス・テスト第3版手引き(p.100)」によれば「どちらともいえない」の選択は男子に比べ女子よりも多い。中学生では、男子の平均選択数は 16.63、女子の平均選択数は 14.31 である。高校生では男子が 16.82、女子が 13.82 である。

中学生と同じく高校生女子は1年の時から男子よりも分化度が高い。

1年生から2年生になる時の上がり方に比べ、2年生、3年生ではほとんど変化しない。男子は女子に比べ1年生の時の分化度が低いが、2年生にかけてわずかに上がり、特に2年生から3年生に大きく分化度が高くなる。高校生のデータをみると、女子はそれほど大きく変化しないが、男子において特に2年生から3年生に分化度が高くなる点が特徴である。

③中学生と高校生の職業興味の分化度の比較

上述した中学生と高校生の職業

興味に関する分化度を一つのグラフに示したものが図表 9-7 である。中学生と高校生の値を比較すると、中学3年の分化度が一番高くなっており、高校1年では中学3年よりも分化度が低くなるが、中学2年よりは高い。次に、男女間で比較するとどの学年でも女子の分化度が男子よりも高い（平均値：中学女子 55.86 > 男子 51.77；高校女子 56.76 > 男子 54.07）。

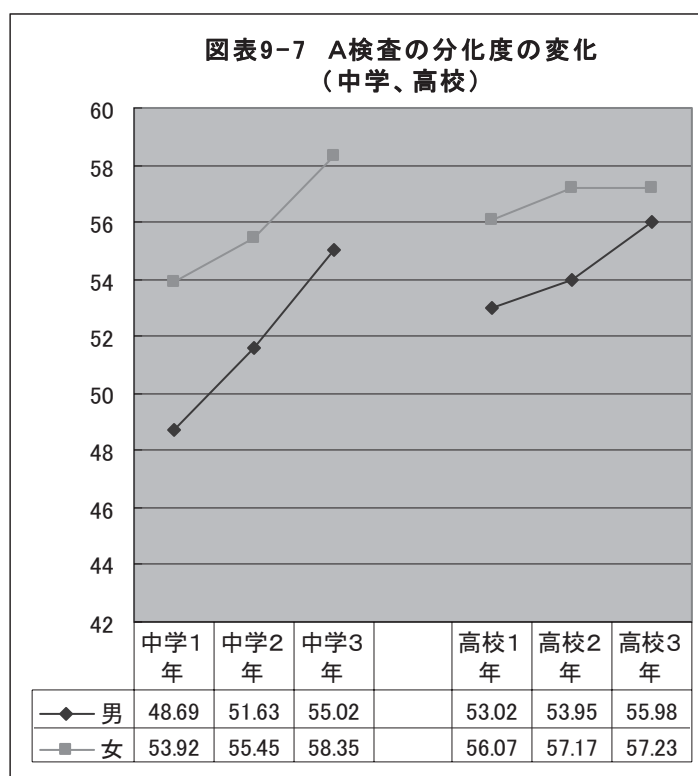
中学生、高校生別に学年×性の2要因の分散分析を行った結果では、中学生で学年と性の主効果が有意となった ($F=67.83, p<.01$; $F=116.72, p<.01$)。学年に関する分散分析の結果、1年生、2年生、3年生の順に分化度は大きくなることがわかった。また、男子より女子の分化度が大きいという結果が確認された。高校生では学年と性の主効果 ($F=13.68, p<.01$; $F=65.01, p<.01$) の他、学年と性の交互作用効果も有意となった ($F=3.50, p<.05$)。

(2) 職務遂行の自信度における分化度

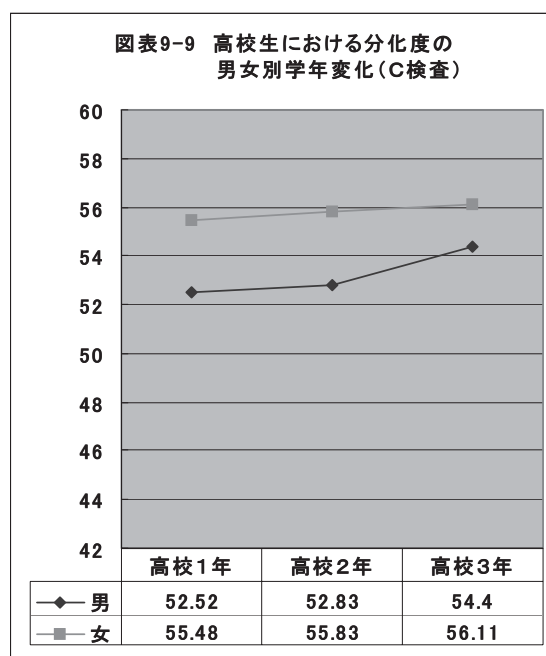
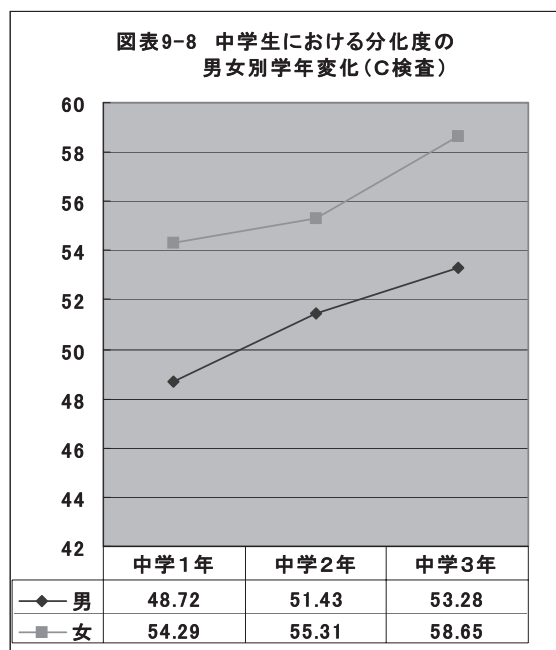
職業志向性に関するもう一つの尺度であるC検査の職務遂行の分化度について、学校別に学年別、男女別で平均値を算出し、グラフにした（図表 9-8、図表 9-9）。

①中学生における職務遂行の自信度の分化度

まず、中学校に関して、学年別男女別にグラフにしたものが図表 9-8 である。職務遂行の自信度の分化度は、概ね職業興味（図表 9-5）と同様の傾向が見られた。細かくみると中学生の女子、中学1、2年の男子に関しては、A検査もC検査も分化度はほぼ同じように変化



し、同程度の水準であるといえる。ただ、中学3年の男子に関しては、興味(M=55.02)よりも自信の分化度(M=53.28)が若干低くなった。



② 高校生における職務遂行の自信度の分化度

高校生の学年別男女別に職務遂行の自信度の分化度をグラフにした(図表9-9)。

女子では学年間で分化度にほとんど変化が見られない。一方、男子では、1、2年生ではあまり変わりが無いが、2年生から3年生にかけて分化度が高くなっている。

なお、A検査の職業興味と比較すると(図表9-6)、高校生の男女に関しては、興味よりも自信の分化度は若干低くなっている。

中学生、高校生別に学年×性の2元配置の分散分析を行ったところ、どちらも学年と性の主効果がそれぞれ有意となった(中学生 $F=44.78, p<.01$; $F=162.36, p<.01$: 高校生 $F=4.92, p<.01$; $F=65.59, p<.01$)。

③ 中学生と高校生の職務遂行の自信度の分化度の比較

上述した中学生と高校生の職業興味に関する分化度を一つのグラフに示したものが図表9-10である。

中学生では分化度が学年によって大きく変化するのに対し、高校生ではそれほど大きな変化をみせない。中学1年生から高校3年生を通して見ると、女子では、中学3年生がかなり高くなり、その後、高校1年生で中学2年生とほぼ同じレベルになり、それが高校3年生まで継続する。男子では、中学1年生から2年生にかけて分化度が高くなり、中学3年生もやや上昇するが、高校1年生で若干低下し、その後、高校3年生で少し高くなる。職務遂行の自信度は職業興味(A検査)と同じような変化をするようだ。男女

間では、女子の方が男子よりも常に分化度が高くなった。

(3) 基礎的志向性における分化度

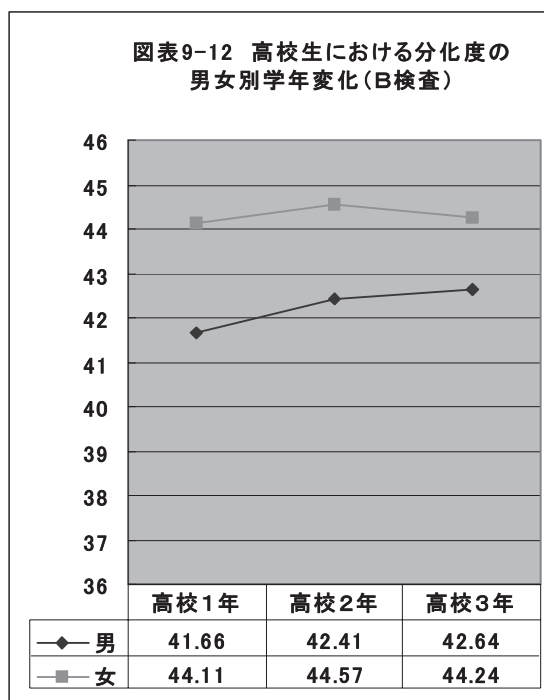
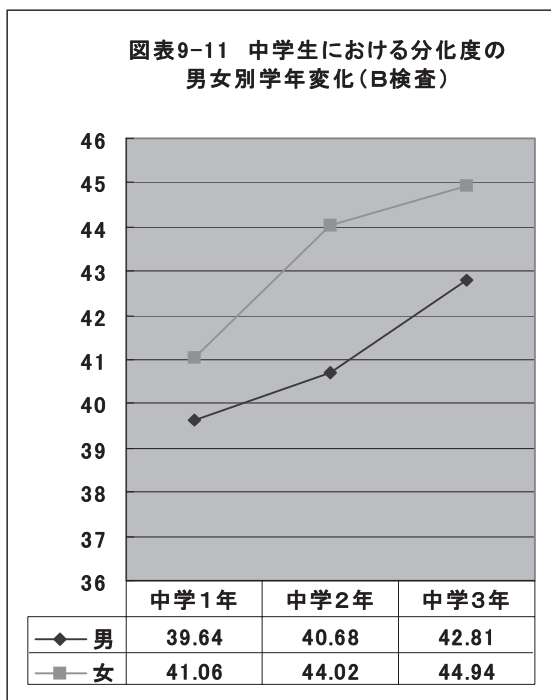
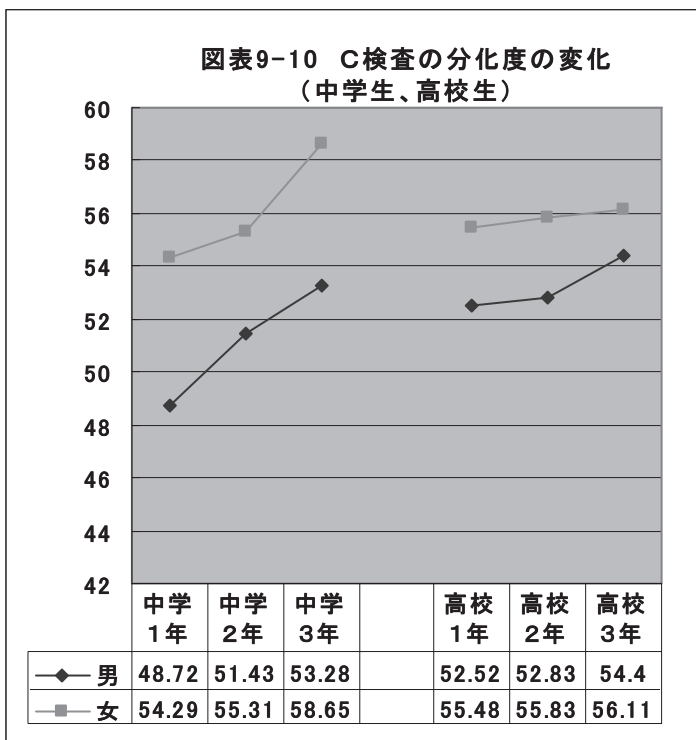
職業志向性を調べるA検査とC検査に対して、B検査では必ずしも職業にかかわらず、日常生活の興味について回答を求める点が特徴である。B検査の分化度について、学校別に学年別、男女別で平均値を算出し、グラフにした(図表9-11、図表9-12)。

①中学生における基礎的志向性の分化度

中学生の男女別学年別の平均値を図表9-11に示す。中学生では学年とともに分化度が高くなる。女子は1年から2年にかけて分化度が上昇している。男子は2年から3年にかけての変化が大きい。女子の方がどの学年でも男子より分化度が大きく、中学2年生での差が一番大きい。

②高校生における基礎的志向性の分化度

高校生の男女別学年別の平均値を図表9-12に示す。高校生では中学生ほど大きな変化

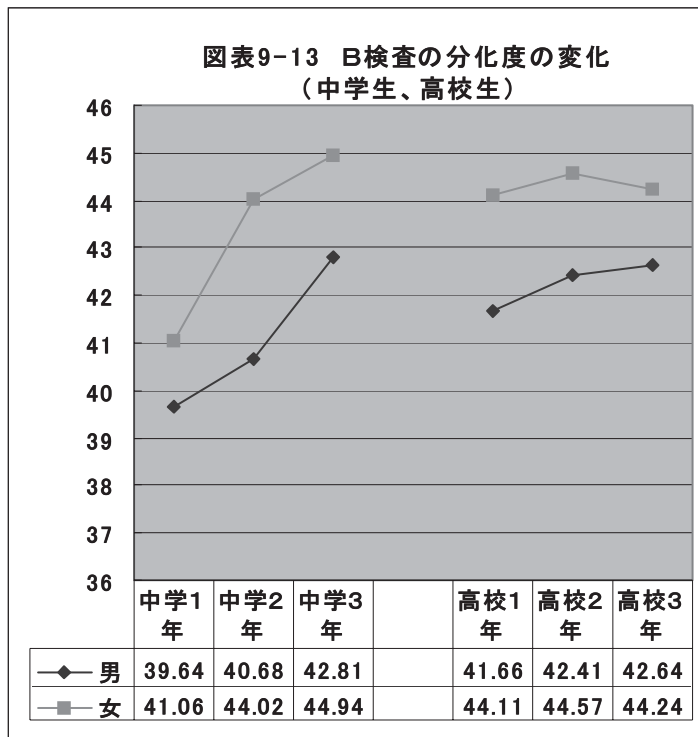


は見られない。女子は2年で最も高く、1、3年はほぼ同程度である。男子は1年から3年にかけて少しずつ上がっていくがその変化は大きくない。

③中学生、高校生の基礎的志向性の分化度の比較

中学生、高校生を通してみると（図表9-13）、中学3年の分化度の高さに比べて高校1年ではやや低下する。女子は男子より全体に基礎的志向性に関しても分化度が高く、中学2年以降はほぼ同じレベル（44～45）で推移している。

男子は、それよりやや遅れており中学3年以降になってレベルがほぼ一定になる（42～43）。分散分析の結果では中学生の場合、学年と性の主効果が有意となった（ $F=23.45, p<.01$; $F=29.54, p<.01$ ）。高校生では、性の主効果のみが有意となった（ $F=36.80, p<.01$ ）。



9-4 まとめ

本章では、職業レディネス・テストの解釈の際に用いる分化度を一つの手がかりとして、中学生、高校生の職業発達を検討した。まず、分化度の分布を調べたところ、中学生の男女と高校生の男子において、職業興味と職務遂行の自信度という職業志向性に関して、学年とともに分化度の低い者が減り、分化度の高い者が増えるという結果が得られた。基礎的志向性に関しても、職業志向性ほど顕著ではないが、分化度が大きい者の割合が学年とともに増加した。高校生の女子においては1年生に比べ2年生の方が、分化度の高い者が多かったが、2年生と3年生を比べると学年が上になると分化度の高い者が多くなるという結果は見出されなかった。男女を比較すると分化度が高い者の割合は女子の方がどの学年でも多く、女子の方が各検査における得点の高低がはっきりしている割合が高いことが示された。

一方、平均値に関して職業志向性、基礎的志向性に関して分化度を調べた結果、中学生では学年とともに分化度が大きくなるという結果が得られた。これは分化度の分布に関する結果を裏付けるものであり、ホランドの理論から予想される仮説とも一致した。

高校では変化の程度は中学生よりも緩やかになるが、職業興味や職務遂行の自信度と

いった職業志向性に関する分化は少しずつ進んでいくようである。基礎的志向性に関してはそれほど大きな変化が見られなくなる。職業に関連した理解は年齢や経験とともに進んでいくが、基礎的志向性は個人のパーソナリティの特徴を反映する部分でもあるので、ある程度の年齢になるとだんだんレベルが固まってくるのであろう。

なお、中学生、高校生を通してみると、中学3年生までは分化度は上昇傾向にあるが、高校1年生で中学2年生程度まで値が下がり、その後、また高校3年生にかけて上昇傾向をたどる。このように高校1年生で中学3年生より分化度が下がる理由にはいろいろ考えられる。例えば、今回の標準化調査の対象校はすべて公立のため、中学3年生は進学のためには受験をする必要があり、他方、高校生は受験を経て入学した生徒である。そこで、中学3年生では受験という大きなイベントを機に、進学先を決めるため、将来何がしたいかをよく考えなくてはならず、その結果、分化度が高くなっている可能性もある。高校生になると、入学直後で新しい環境になり、将来のことについて不確定な要素がでてくるので分化度が下がることもあろう。ただ、これは一つの解釈であり、受験の影響があるかどうかは、中学から高校まで受験をすることなく持ち上がりで進学できる中高一貫校でのデータなどと比較しないと明確にはならない。また、厳密な意味で職業発達を論じるためには、一人の生徒が中学生、高校生の時期を通してどのように変化するかを示すようなデータを追跡する必要がある。これらは今後の課題である。

また、分化度を指標とした時、中学生に比べて高校生での学年間での変化は少ない。しかし、高校生での分化度の学年間変化が緩やかであるといっても、約17,000人という大規模な標本において学年とともに右上がりの傾向は確認されているので、分化度という指標が高校生の職業意識の発達を反映していることは確かであると思う。中学生に比べ高校生では分化度の変化も少し落ち着き、職業意識の発達が分化度以外の指標に現れてくる可能性も考えられる。本章では、発達の一つの目安として、分化度を上げしたが、職業レディネス・テストでは、その他いろいろな観点から一人の生徒の結果を解釈することができる。分化度はそういった様々な指標の一つとして解釈していただく必要があると思う。

この他、分化度に関しては、どの検査においても、各学年で男女差が見られたことが特徴であった。分化度の分布と平均値のいずれにおいても、全般に女子の方が男子より分化度が高い。これは女子の方が男子よりも自らの職業興味をよく理解しているというように解釈することもできるが、一方で、好きと嫌いをはっきり回答する傾向の強さが女子の方が高い結果として捉えることもできる。職業レディネス・テストの手引きを作成する際に分析した結果では、例えば職業興味において「やりたい」、「やりたくない」という回答の間にある「どちらともいえない」という回答は男子の方が多かったことが確認されている（職業レディネス・テスト第3版手引き, 2006）。

以上、各尺度の分化度を手がかりとして、標準化調査のデータにおける学年間の比較、

男女別の違いを検討した。学年が上になると徐々に分化度が高くなるという傾向は、年齢とともに職業への興味や関心が発達するとすれば、分化度はそれをよく反映した指標であることを裏付ける結果であるといえる。なお、学年あるいは年齢とともに職業選択に向けた意識がどのように発達するか、また、それが分化度とどう関連するかについては、本報告書の第 13 章で検討する。

<参考文献>

- Holland,J.L. 1985 Making Vocational Choices. Prentice-Hall. (渡辺三枝子・松本純平・館 暁夫 共訳 1990 「職業選択の理論」 雇用問題研究会)
- 室山晴美・松本純平 2006 職業レディネス・テスト第 3 版の開発Ⅱ 日本キャリア教育学会第 28 回研究大会発表論文集, 100-101.
- 労働政策研究・研修機構 2006 「職業レディネス・テスト第 3 版手引き」 雇用問題研究会

第 10 章 特別集計に関する分析

10-1 本章の目的

職業レディネス・テストでは、職業興味を測る A 検査への回答を使った特別集計を使った解釈を用意している。この方法は「手引き」で解説されているほか、第 3 版で新しく開発したワークシートの「WORK プラス」でも部分的にとりあげられている。A 検査を使った特別集計には、以下の 4 つの視点がある。1. 曖昧な回答の程度、2. 人気のある職業への同調度、3. 職業に対する関心のユニークさ、4. たくさんの職業への興味^{注 10-1}の程度である。特別集計によりこれらの情報を提供しようとした背景をまず説明しておきたい。

テストを実施する目的は、言うまでもないことであるが、テストが提供する情報を得たいためであり、それはテスト結果として提供される。では、テスト結果はどのようにして得られるのだろうか？

テストの結果を得る手続きは、

- ① まず、各検査項目に対して定められた回答をする。
- ② 次に、これらの回答に定められた得点を与える。
- ③ 次に、これらの得点を、定められた検査項目と各尺度との関係に従って集計し、尺度ごとの得点を集計する。(A、C 検査の場合は、RIASEC の 6 つ尺度、B 検査の場合は、DPT の 3 つの尺度)
- ④ 最後に、尺度ごとに、定められた換算表に従って、標準得点を求める。

こうして得られた標準得点が、「結果の見方・生かし方」を使いながらプロフィールに描かれ、いくつかのワークを経験しながら、進路学習や職業情報の探索など、キャリア教育で活用されることになる。より具体的には、RIASEC のプロフィールや DPT のプロフィールとして捉えられた個々の生徒の特徴が、テストの結果として利用されるわけである。しかしながら、テストの実施を通して、テストの受検者が示す個性的な特徴は、実は、テストの結果として集計される情報だけではない。例えば、クラスで、「職業レディネス・テストを実施します」ということを伝えた瞬間の一人ひとりの表情やしぐさなどを詳細に記録できるとするならば、それぞれはすべて進路問題に対して個々人が有している個性的な特徴を反映しているはずである。テスト実施中に各検査項目に回答する時間について観察することができるのであれば、それにも同じようなことがいえる。個々の受検者の回答する様子を観察してみればわかるが、すべての検査項目に対して同じよ

注 10-1 ワークシートの WORK プラスではこのうち、1 と 4 を集計する欄がある。

うなペースで回答する受検者はむしろ稀である。ある項目は、問題を読んでほとんど間を空けずに回答するのに対して、ある項目では、首をかしげたりあごに手を当てて考え出したりして時間をかけた後で回答する。その個性的な様は、回答に時間をかけた項目を記録し、その一つ一つが受検者にとってどんな意味があるのかを話題にしていくことができるのなら、更に受検者の個性に迫れるのではないかと思えるほどである。

受検者がテストの実施の過程で示す個性の特徴を、既定の尺度以外でもなんらかの形で提供できないか、ということがテスト開発の過程の中でたびたび議論された。その結果として取り込まれたのが特別集計である。すなわち、回答用紙の中に残されている回答の傾向を特別に集計し、その特徴をも自己理解の手がかりとして生かしていけないかという問題意識である。

「職業レディネス・テスト」においては、A 検査を使った特別集計と B 検査を使った特別集計が手引きに掲載されている（手引きの 29 ページの「特別集計」の項）。B 検査の特別集計は、下位尺度を用いたもので手引きなどでも詳しい解説があるので、ここでは、A 検査の回答傾向を取り上げることにする。

A 検査を使った特別集計では、次の 4 つの視点が示される。すなわち、①「曖昧な回答がどのくらいあるか」、②「人気のある職業への同調度」、③「職業に対するユニークな関心を持っているか」、④「たくさんの職業に関心を示しているか」である。

職業レディネス・テストを利用しようとする者は、これらの特別集計に関しても情報を得ることができる。具体的には、①および④に関しては、「結果の見方・生かし方」の「ワーク・プラス」において、基準に従って、同世代の回答傾向との比較を通して簡単な解釈ができるようになっている。②および③に関しては、回答用紙の A 検査の回答欄の下にある「チェック 1」と「チェック 2」の数値を得ることができる。同世代の回答傾向との比較を通して簡単な解釈するための基準は、手引きの 30 ページに示されている。

本章では、これらの基準の元になっている統計についてより詳細な分析をして、その集計数値の解釈について考察を加えたい。

10-2 分析対象

調査の方法は第 3 章「標準化調査の概要」に準ずる。本章で分析のため用いるデータは、他の章と同じ、標準化調査のデータである。一部で、検討のため大学生のデータも用いる。標準化調査の際に同時に取得したアンケート調査結果も利用しているので、分析の対象数が他の章と異なる部分がある。

10-3 分析方法と結果

図表 10-2 ワークシートでの「曖昧な回答」の判断の目安

A 検査全体における「__」の数の 解釈	回答の目安	
	男子	女子
曖昧な回答が多い	28 以上	23 以上
曖昧な回答は平均的	6-27	6-22
曖昧な回答が少ない	5 以下	5 以下

(2) 他の変数との関連

「曖昧な回答がどのくらいあるか」を示す 3 グループと他の変数をクロスすることによって、この特別集計の意味することを分析してみる（図表 10-3）。

「曖昧な回答」を、男女別学年別にみると、検査の採点をする時の基準が男女別なので男女の比較は意味がないが、大きな学年差は男女とも見られない。

「曖昧な回答」を、タイプ別にみると、E や A タイプで I や R タイプに比べると「曖昧な回答」が多い者の割合が高い。

「曖昧な回答」を、分化度別にみると^{注 10-2}、分化度の大きい者には、「曖昧な回答」が平均的な者の割合が高いのに対して、分化度の小さい者には、「曖昧な回答」が多い者や少ない者の割合が高く、際立った違いが見られる。

「曖昧な回答」を、進路決定や希望職業の明確さ別にみると、「決まっている」や「全く決まっていない」というような両端の回答を示す者は他のそうでない者に比べると、「曖昧な回答」が多い者の割合が低く、逆に「曖昧な回答」が少ない者の割合が高いという傾向が見られる。

質問紙法では、一般的に「どちらともいえない」という回答は、結果の信頼性を落とすものであるという捉え方がされる。しかし、ここでは、他の学生・生徒と比較して、どの程度「曖昧な回答」をしているのかを捉える 1 つの手がかりを提供するものという位置づけである。受検者自身がそうした状況をどう考え、どう対処していくのかを考えることの方が重要である。

^{注 10-2} 分化度は興味の 6 領域のうち、最も高い得点(パーセンタイル値)から最も低い得点 (パーセンタイル値) を引いた差として定義する。

図表 10-3 「曖昧な回答」と他の変数との関連の検討

		曖昧な回答(割合%)		
		多い	平均的	少ない
	全体計	15.0	69.5	15.4
性別	男	15.4	68.9	15.7
	女	14.7	70.2	15.2
学校別	中学生	15.0	70.2	14.8
	高校生	15.1	69.1	15.8
男女別学年別	男中1	13.9	69.3	16.8
	男中2	16.0	67.4	16.6
	男中3	14.8	71.2	14.1
	男高1	15.9	68.0	16.1
	男高2	15.8	69.2	15.0
	男高3	15.8	68.6	15.6
	女中1	15.3	70.1	14.6
	女中2	15.8	69.7	14.5
	女中3	14.0	73.7	12.3
	女高1	14.7	69.3	16.0
	女高2	14.6	69.5	15.9
	女高3	13.6	70.3	16.1
タイプ別	R	16.6	66.3	17.0
	I	16.9	68.5	14.7
	A	12.7	70.4	16.9
	S	16.6	68.4	15.0
	E	11.6	73.7	14.7
	C	15.6	70.1	14.3
分化度	分化度大	8.9	79.2	11.9
	分化度中	22.9	63.0	14.1
	分化度小	26.3	37.9	35.8
希望進路	決まっている	12.3	67.7	20.0
	大体決まっている	14.8	70.9	14.2
	まだあまり決まっていない	17.4	69.7	12.9
	まったく決まっていない	12.6	67.3	20.1
将来の仕事	よく考えている	12.3	69.0	18.7
	大体考えている	16.0	71.0	13.0
	あまり考えていない	17.2	68.9	13.9
	まったく考えていない	12.3	65.2	22.4

10-3-2 「人気のある職業への同調度」(同調性)

(1) 基準の背景

この特別集計は、A 検査の項目に中で、第 1 列目に配された 6 項目についての回答のうち、「やりたい」という回答の数を集計するものである。

これらの 6 項目は、A 検査を構成する 54 項目について「やりたい」という回答の度数

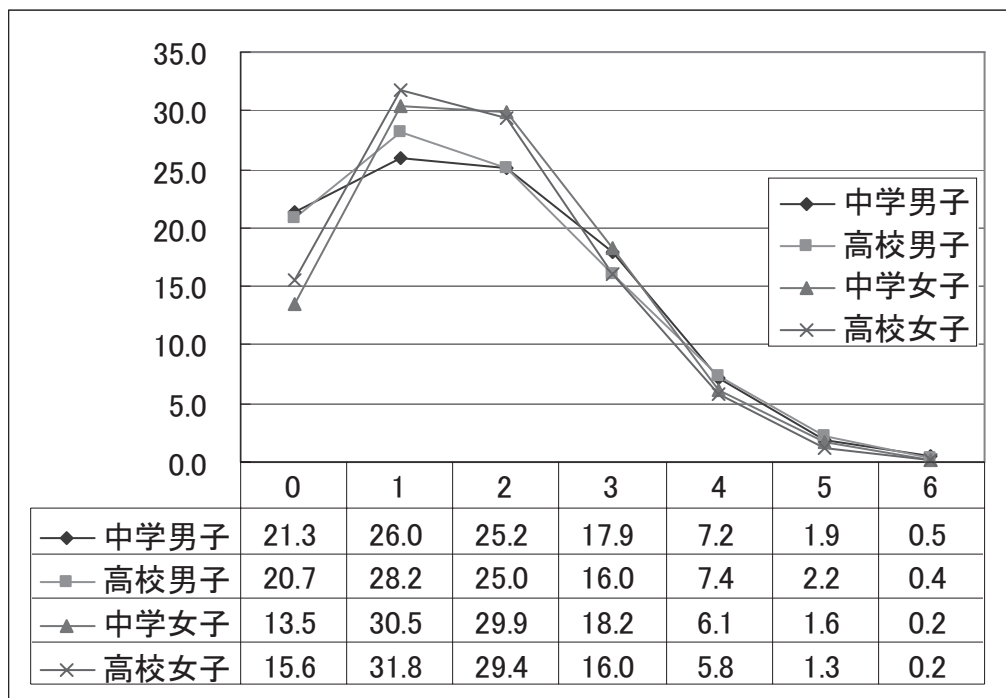
分布が求められ、「やりたい」という回答率の高い項目、すなわち、多くの学生・生徒に「人気のある職業」を第1列に配している。この第1列に対する回答傾向から、「人気のある職業」への同調度をみようとしている。第1列の「やりたい」という回答の数は、最小値が0、最大値が6である。実際の集計では、回答用紙のチェック1の欄を利用する。手引き30ページには、次のように、この得点を大きく分けて2グループにして解釈するようになっている（図表10-4）。

図表 10-4 手引における「人気のある職業への同調度」の判断の目安

A 検査一列目に対する○の数の解釈	男女とも
人気のある職業への同調度がみられる	4以上
人気のある職業への同調度がみられない	3以下

「人気のある職業への同調度」を中学校、高等学校の男女別に集計したグラフが図表10-5である。男女別中高別の4グループについて度数分布をみると、年齢差より男女差が見られるが、男女とも1をピークとする分布である。また、3以上の割合は4つのグループで同じような割合を示している。男子の方が女子に比べると「同調度がみられる」者が多い。

図表 10-5 人気のある職業への同調度の学校、男女別集計



(2) 他の変数との関連

「人気のある職業への同調度」を示す2グループと他の変数をクロスすることによっ

て、この特別集計の意味することを分析してみる。(図表 10-6)

図表 10-6 「人気のある職業への同調度」と他の変数との関連

		同調度の回答(割合%)	
		傾向がある	傾向がない
	全体計	8.7	91.3
性別	男	9.9	90.1
	女	7.5	92.5
学校別	中学生	8.8	91.2
	高校生	8.6	91.4
男女別学年別	男中1	9.7	90.3
	男中2	9.4	90.6
	男中3	9.7	90.3
	男高1	9.8	90.2
	男高2	9.1	90.9
	男高3	11.9	88.1
	女中1	8.9	91.1
	女中2	7.0	93.0
	女中3	8.0	92.0
	女高1	7.6	92.4
タイプ別	女高2	6.2	93.8
	女高3	8.3	91.7
	R	10.8	89.2
	I	7.6	92.4
	A	9.3	90.7
	S	6.8	93.2
分化度	E	10.3	89.7
	C	7.6	92.4
	分化度大	7.4	92.6
	分化度中	9.2	90.8
希望進路	分化度小	13.9	86.1
	決まっている	10.6	89.4
	大体決まっている	8.8	91.2
	まだあまり決まっていない	7.8	92.2
将来の仕事	まったく決まっていない	7.6	92.4
	よく考えている	11.0	89.0
	大体考えている	8.6	91.4
	あまり考えていない	7.0	93.0
	まったく考えていない	6.2	93.8

最初に、中学高校の男女別に同調度の数値をみると、男女とも中2、高2という中間学年での同調性をもっとも低い値を示している。学年進行と職業・進路問題に取り組む際のテンションの質の変化を反映しているのかもしれない。

次に、「同調度」を、タイプ別にみてもみると、S、I、Cタイプに比べると、R、Eタイ

プのほうに「同調度がみられる」者が多い。

「同調度」を、分化度別にみても、分化度の小さい者のほうが、大きい者に比べて「同調度がみられる」者が多い。「同調度」を、進路決定や希望職業の明確さ別にみても、明確さの確かな者の方が、確かでない者に比べて「同調度がみられる」者が多い。「人気のある職業への同調度」における傾向は、この数値が大きい学生・生徒は、職業の世界を見る態度が常識的である可能性が高い。ちなみに、職業レディネス・テストと VPI 職業興味検査との両方を実施した大学生のデータ（工学部 3・4 年生 50 人）によると、この変数と VPI 職業興味検査の中で、関連する尺度である Ac 尺度（黙従尺度）との相関は.260 で統計的には有意な関連と見られている。

ここでは、他の学生、生徒と比較して、「人気のある職業への同調度」における傾向を捉える 1 つの手がかりを提供するものという位置づけである。多くの学生、生徒にとって「人気のある職業」はいわば広い職業の世界を探索する際の入門になるものであると考えられる。受検者自身がそうした職業への態度についてどう考え、どう対処していくのかを考えることの方が重要である。

10-3-3 「職業に対するユニークな関心を持っているか」（ユニーク性）

（1）基準の背景

この特別集計は、A 検査の項目の中で、第 5 列目に配された 6 項目についての回答のうち、「やりたい」という回答の数を集計するものである。

これらの 6 項目は、A 検査を構成する 54 項目について「やりたくない」という回答の度数分布が求められ、「やりたくない」という回答率の高い項目、すなわち、多くの学生、生徒に「人気のない職業」を調べ、6 つの尺度毎に基本的にもっとも「やりたい」という回答比率の高い項目を第 5 列に配している。「人気のない職業」に対して「やりたい」と回答する傾向から、「職業に対するユニークな関心を持っているか」を見ようとしている。最小値が 0、最大値が 6 ということになる。実際の集計では、回答用紙のチェック 2 の欄を利用する。手引き 30 ページには、次のように、この得点を大きく分けて 2 グループにして解釈するようになっている（図表 10-7）。男女別中高別の 4 グループについて度数分布をみると、男女差、中高差は見られない（図表 10-8）。

図表 10-7 手引きにおける「職業に対するユニークな関心」の判断の目安

A 検査 5 列目に対する「○」の数の解釈	男女とも
「職業に対するユニークな関心がみられる」	3 以上
「職業に対するユニークな関心がみられない」	2 以下

(2) 他の変数との関連

「職業に対するユニークな関心を持っているか」を示す 2 グループと他の変数をクロスすることによって、この特別集計の意味することを分析してみる。

(図表 10-9)

「ユニークな関心」を、男女別学年別にみても、男女の差はあまりみられない。中学の方が高校に比べると、「職業に対するユニークな関心がみられる」者の割合が多い。

「ユニークな関心」を、タイプ別にみても、R、S タイプに比べると、E、I タイプの方に「職業に対するユニークな関心がみられる」者の割合が多い。

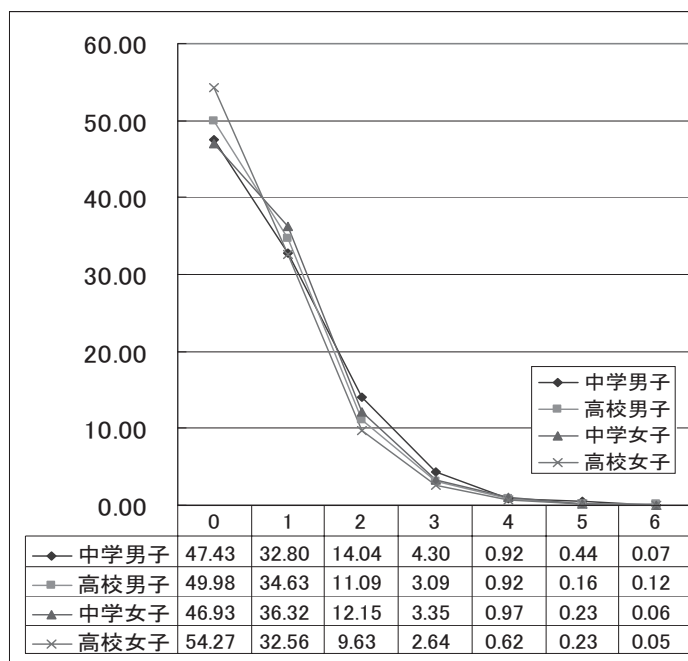
「ユニークな関心」を、分化度別にみても、分化度の小さい者の分布が他に比べ際立っている。すなわち、分化度の小さい者の方が大きい者に比べて「職業に対するユニークな関心がみられる」者の割合が多い。

「ユニークな関心」を、進路決定や希望職業の明確さ別にみても、明確さの確かな者の方が、確かでない者に比べて「職業に対するユニークな関心がみられる」者の割合が多い。

「職業に対するユニークな関心を持っているか」における傾向は、この数値が大きい学生、生徒は、職業の世界を見る態度が常識的である可能性が高い。ちなみに、職業レディネス・テストと VPI 職業興味検査との両方を実施した大学生のデータ（工学部 3、4 年生 50 人）によると、この変数と VPI 職業興味検査の中で、関連する尺度である Inf 尺度(稀有尺度)との相関は.088 で、ほとんど無相関であった。これは、VPI 職業興味検査の Inf 尺度が、人気のない職業への「やりたい」という回答とともに、人気のある職業への「やりたくない」という回答を集計しているのに対して、チェック 2 では、人気のない職業への「やりたい」という回答だけを集計している点や、大学生のデータが、男子工学部学生に限られている点など、今後検討する課題のあることを示している。

ここでは、他の学生、生徒と比較して、「職業に対するユニークな関心を持っているか」における傾向を捉える 1 つの手がかりを提供するものという位置づけである。受検者自身が他とは違った態度を形成していることに気づかないことも少なくない。職業への態

図表 10-8 「ユニークな関心」の学校別、男女別度数



度を手がかりにして、自分らしい感性や独特な知識やスキルの形成について考えるきっかけを持つことは重要である。ただし、「ユニークな関心」を、変な反応、多くの学生、生徒とは違う反応であるとネガティブに捉えることは避けるべきである。

図表 10-9 「ユニークな関心」と他の変数との関連

		ユニークな関心(割合%)	
		傾向がある	傾向がない
	全体計	4.4	95.6
性別	男	4.9	95.1
	女	3.9	96.1
学校別	中学生	5.2	94.8
	高校生	3.9	96.1
男女別学年別	男中1	5.8	94.2
	男中2	5.7	94.3
	男中3	5.7	94.3
	男高1	4.1	95.9
	男高2	4.1	95.9
	男高3	4.9	95.1
	女中1	4.3	95.7
	女中2	4.7	95.3
	女中3	4.8	95.2
	女高1	3.8	96.2
	女高2	3.0	97.0
	女高3	4.1	95.9
タイプ別	R	3.5	96.5
	I	5.4	94.6
	A	4.1	95.9
	S	3.8	96.2
	E	5.5	94.5
	C	4.3	95.7
分化度	分化度大	3.7	96.3
	分化度中	4.1	95.9
	分化度小	8.7	91.3
希望進路	決まっている	6.0	94.0
	大体決まっている	4.8	95.2
	まだあまり決まっていない	3.4	96.6
	まったく決まっていない	3.7	96.3
将来の仕事	よく考えている	6.2	93.8
	大体考えている	4.2	95.8
	あまり考えていない	3.0	97.0
	まったく考えていない	3.3	96.7

10-3-4 「たくさんの職業に関心を示しているか」(関心度)

(1) 基準の背景

(2) 他の変数との関連

「たくさんの職業に関心を示しているか」を示す3グループと他の変数をクロスすることによって、この特別集計の意味することを分析してみる。(図表 10-12)

図表 10-12 「職業への関心」と他の変数との関連

		職業への関心度(割合%)		
		多い	平均的	少ない
	全体計	15.9	67.9	16.1
性別	男	16.1	65.4	18.6
	女	15.8	70.5	13.7
学校別	中学生	17.4	66.8	15.9
	高校生	15.0	68.7	16.3
男女別学年別	男中1	17.4	60.5	22.1
	男中2	17.4	63.9	18.7
	男中3	17.8	66.1	16.1
	男高1	14.6	67.2	18.2
	男高2	14.3	65.2	20.6
	男高3	17.0	68.1	14.8
	女中1	16.9	69.3	13.8
	女中2	17.0	70.1	12.9
	女中3	17.8	71.0	11.2
	女高1	15.8	69.8	14.3
	女高2	13.4	71.8	14.8
	女高3	16.0	70.2	13.8
タイプ別	R	14.1	69.0	16.9
	I	16.1	65.6	18.3
	A	15.2	72.2	12.7
	S	15.6	69.5	14.9
	E	21.4	66.5	12.1
	C	13.9	65.2	21.0
分化度	分化度大	14.8	79.0	6.2
	分化度中	16.2	60.6	23.2
	分化度小	20.8	30.9	48.2
希望進路	決まっている	19.3	66.6	14.1
	大体決まっている	17.3	69.2	13.5
	まだあまり決まっていない	13.7	69.1	17.2
	まったく決まっていない	12.8	62.0	25.3
将来の仕事	よく考えている	20.5	66.6	12.9
	大体考えている	15.6	70.4	14.0
	あまり考えていない	12.8	68.1	19.1
	まったく考えていない	10.7	58.5	30.8

「職業への関心度」の度数分布を、男女別学年別にみても、男女の差はあまり見られず、中学生の方が高校生に比べると「職業への関心度」が高い者の割合が多く、男

女ともに同じような傾向である。男子では高 1、高 2、女子では高 2 が、「職業への関心度」が高い者の割合が少なく、男子高 2 では、「職業への関心度」が低い者の割合も多い。

「職業への関心度」を、タイプ別にみても、R、C タイプに比べると E タイプに、「職業への関心度」が高い者の割合が多い。C タイプは、「職業への関心度」が低い者の割合も多い。

「職業への関心度」を、分化度別にみても、分化度の小さい者は、分布の形は大きく異なっていて、分化度の大きい者に比べると「職業への関心度」が低い者の割合が多く、かつ「職業への関心度」が低い者の割合も多い。

「職業への関心度」を、進路決定や希望職業の明確さ別にみても、進路決定や希望職業の明確な者に比べると、明確でない者は、「職業への関心度」が高い者の割合が少なくかつ「職業への関心度」が低い者の割合が多い。

「職業への関心度」の高さは、積極性や進路選択への意欲を示している。進路選択への原動力として捉えて進路指導の中で利用することができるだろう。もちろん、ここでは、他の学生・生徒と比較して、どの程度「たくさんの職業に関心を示しているか」をしているのかの情報を提供するものという位置づけで、受検者自身がそうした状況をどう考え、どう対処していくのかを考えることの方が重要である。

10-4 まとめ

特別集計について、その背景となるデータや関連するいくつかの変数との関連を見てきた。

「曖昧な回答」傾向については、男女で大きな違いがある。男子は女子に比べると「曖昧な回答」が多い。中学・高校という差より男女差が大きいことは、進路選択においてその態度に男女差が存在することを示唆するものといえる。また、男子には、「曖昧な回答」が 0 という者が 4%程度出現する。これらの中には、少なくともこの種の質問紙法において、曖昧な回答をしないという構えを持って臨んでいる者が 2-3%程度含まれているものと考えられる。プロフィールの解釈のときに留意すべき点である。また、「曖昧な回答」傾向と分化度との関連性が指摘されている。両方の尺度の組み合わせた情報も対象の進路選択に対する態度を理解する際に役立つものと思われる。

「同調度」については、男女差がみられ、男子の方に、「人気のある職業へ同調度が見られる」者の割合が高い。また、男女とも学年を追って一方向への系統的な変化というものはみられないが、中間学年で同調度が見られる者の割合が低いという結果である。このように中間学年に進路選択に対する態度に変化があるということが普遍的なことであるなら、この現象をうまく進路発達と結びつける工夫が必要であろう。「同調度」と分化度との強い関連性および「同調度」が最終学年で相対的に高いという結果は、「人気のあ

る職業への同調度」と進路発達との関係を考えさせるものである。進路選択への関心を高めるような環境は、分化度の高めるような方向だけではなく、一般的な関心をも引き出すのかもしれない。

「ユニークな関心」については、男女差より、中高差のほうが大きい。特に、男子中学生で「職業に対してユニークな関心が見られる」者の割合が大きい。ユニークな関心ということで類推すると、タイプ別にみた場合、Aタイプなどでこの傾向が見られる者の割合が高いことも期待されるが、そのような結果は得られていない。進路希望や将来の仕事の極めて明確な者の中に、「職業に対してユニークな関心が見られる」者の割合が大きいという結果であるので、回答に対する構えの影響が強く出ているのかもしれない。この尺度の解釈には、更に関連する資料での検討が必要である。

「職業への関心」については、この尺度の分布の上で、0という値をとる者の存在に注意すべきであろう。男女差もみられ、男子は、女子に比べると、「職業への関心」の高い者の割合も低い者の割合も大きい。つまり、女子に比べると両端化の傾向が見られる。特に、男子中1、男子中2、男子高2では、その傾向が大きい。また、最終学年でも他の学年に比べるとその傾向が見られる。「職業への関心」を分化度や進路希望・将来の仕事の明確さとの関連などからみていくと、「職業への関心」が、進路選択に関する混乱や無関心を反映しているようである。別な言い方をすると、「職業への関心」が高まることは、進路発達と極めて関連が高いことを示している。

これらの特別集計を VRT の結果として得られる職業興味や自信度のプロフィールや DPT の特徴あるいは、それらから得られる職業や職業の解説などとともに、回答の傾向に見出されたこれら職業への態度についての情報も含めてキャリア教育の中で自己理解や職業理解の素材として活用することが期待されている。

第Ⅲ部 応用分析編

第Ⅲ部では、標準化調査の際に、検査への回答と一緒に実施してもらったアンケートの部分を使って分析した結果を報告する。

第11章 高等学校における学科と職業志向性、基礎的志向性の関連の検討

11-1 本章の目的

今回の標準化調査では、高等学校に関して7つの学科の区分を考え、データを収集した。調査の時点で在籍する高等学校で何を学んでいるか、あるいはそれ以前にどんな高等学校を選んだかには、生徒の職業興味や日常生活での基礎的な志向性が反映されていることが考えられる。

そこで、本章では、高等学校の学科と職業レディネス・テストの標準化調査で実施したA検査、B検査、C検査に対する回答結果との関連を検討したい。なお、結果の記述については、最初に学科ごとに回答結果の特徴を列挙し、続いて、各学科の回答結果を学科で学ぶ学習の内容や学科の特徴との関連から検討するという方法をとった。

11-2 分析対象

(1) サンプルングと分析の対象

高等学校のサンプルングの方法については、「第3章 標準化調査の概要」において述べた通り、全国を6地域ブロックに分け、学校のタイプを7群に分け、学校数・生徒数の分布を作った。その上で、全国で8,000サンプルを目標として、ブロック別、学校タイプ別に学校数を決定した。ただ、実際に学校への依頼を行ったところ、当初の予定よりも応募数が多くなった。学科別に人数を調整し、データが不足した学科については再度追加調査を行って最終的には17,104名のデータを収集した。学科別内訳は図表11-1の通りである。本章ではこのデータを使って分析を行う。

図表 11-1 学科別男女別構成(高校生) (人)

	計	男	女
計	17,104	8,409	8,695
普通科進学率70%未満	7,668	3,723	3,945
普通科進学率70%以上	4,441	2,210	2,231
農業+水産	786	429	357
工業+情報	1,818	1,566	252
商業	1,032	236	796
家庭+看護+福祉	778	8	770
その他+総合	581	237	344

11-3 分析方法と結果

11-3-1 学科別に見た職業興味、職務遂行の自信、基礎的志向性の特徴

A 検査では、54 項目について「やりたい」を 2 点、「どちらともいえない」を 1 点、「やりたくない」を 0 点として採点した。A 検査の 6 領域にはそれぞれ 9 項目が含まれるので最大値は 18 点、最小値は 0 点となる。B 検査では 64 項目について「あてはまる」を 1 点、「あてはまらない」を 0 点として採点した。D 志向と P 志向には各 24 項目、T 志向には 16 項目が含まれるので、D 志向、P 志向は 0～24 点、T 志向は 0～16 点の範囲をとる。C 検査では、「自信がある」を 2 点、「どちらともいえない」を 1 点、「自信がない」を 0 点として採点した。得点の範囲は A 検査と同様である。その上で、7 つの学科別に、A 検査、B 検査、C 検査の各尺度の平均値を算出した。そして、各検査における下位尺度（A 検査、C 検査ではホルランドの 6 領域、B 検査では DPT）での平均値の高さを検討した。

以下、学科別に各検査の平均値の特徴を検討した。学科別の A 検査と C 検査の平均値を図表 11-1～図表 11-7 にまとめた。職業興味や自信については、ホルランドの 6 領域のうち、最も得点が高い領域がその学科の特徴を象徴するという考え方をとり、「～タイプ」という表記を使った。B 検査の結果については、学科別では各志向性の平均値（図表 11-8）を参照した上で、A 検査、C 検査との関連を記述した。なお、B 検査については、11-3-2 において、すべての学科の平均値を図表 11-8 にまとめた上で、学科間の相互の関連を見ながら検討する。

（1）普通科進学率 70%未満

①興味（A 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、S タイプといえる。ただし、A の領域の数値も高いので、S A タイプと捉えることが妥当である。

イ：興味が強i職業領域は、S 領域、A 領域、E 領域の順になる。

ウ：興味分化度は、3.03 となる。^{注 11-1}

エ：最も数値が高かった S 領域の対極にある R 領域の数値は 5.53 であり、比較的高いといえる。S 領域に隣接する A 領域および E 領域の数値は 6.28 および 5.61 であり、高い数値を示している。

②自信（C 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、S タイプといえる。

イ：自信が強い職業領域は、S 領域、R 領域、C 領域の順になる。

^{注 11-1} 本章における A 検査の興味分化度、C 検査の自信分化度は最も得点の高い領域から最も得点の低い領域の差として定義した。なお、第 9 章では分化度をパーセンタイル値を使って算出したが、本章では平均値の差として求めた。

ウ：自信分化度は、3.54 となる。

エ：最も数値が高かった S 領域の対極にある R 領域の数値は 5.34 であり、比較的高いといえる。S 領域に隣接する A 領域および E 領域の数値は 4.97 および 4.39 であり、A 検査に比すと数値が下がっている。

③興味（A 検査）と自信（C 検査）の差

ア：S 領域の数値差は、0.05 であり、ほとんど差を認められない。A 領域および E 領域には、1.31 および 1.22 の有意差が認められる。

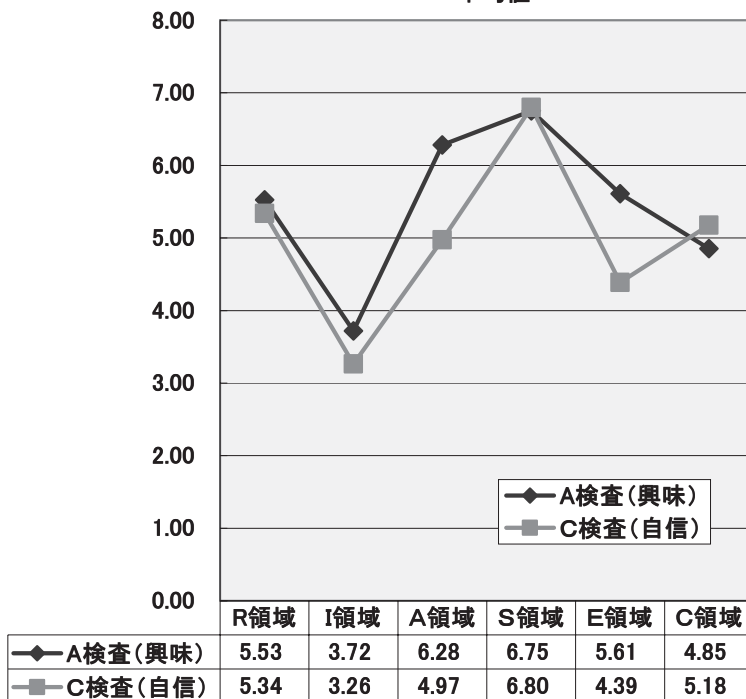
④基礎的志向性（B 検査）

ア：D 志向の平均値は 9.90、P 志向は 14.41、T 志向は 7.02 となった。D 志向、T 志向は 24 項目、T 志向は 16 項目なので、平均値をそのまま比較することができないが、T 志向を 1.5 倍すると 10.53 で、3 つの中では P 志向が高く なっている。

イ：興味（A 検査）では S タイプであり、基礎的志向性（B 検査）では P であり、統計結果による相関関係に合致している。

ウ：自信（C 検査）では S タイプであり、基礎的志向性（B 検査）では P であり、統計結果による相関関係に合致している。

図表11-1 普通科進学率70%未満(A検査、C検査)の平均値



(2) 普通科進学率 70%以上

①興味（A 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、S タイプといえる。ただし、E の領域および A の領域の数値も高いので、S E A タイプと捉えることが妥当である。

イ：興味が強い職業領域は、S 領域、E 領域、A 領域の順になる。

ウ：興味分化度は、1.77 となる。

エ：最も数値が高かった S 領域の対極にある R 領域の数値は 4.80 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。S 領域に隣接する A 領域および E 領域の数値は 6.30 および

6.36 であり、S領域の数値に接近している。

②自信（C検査）

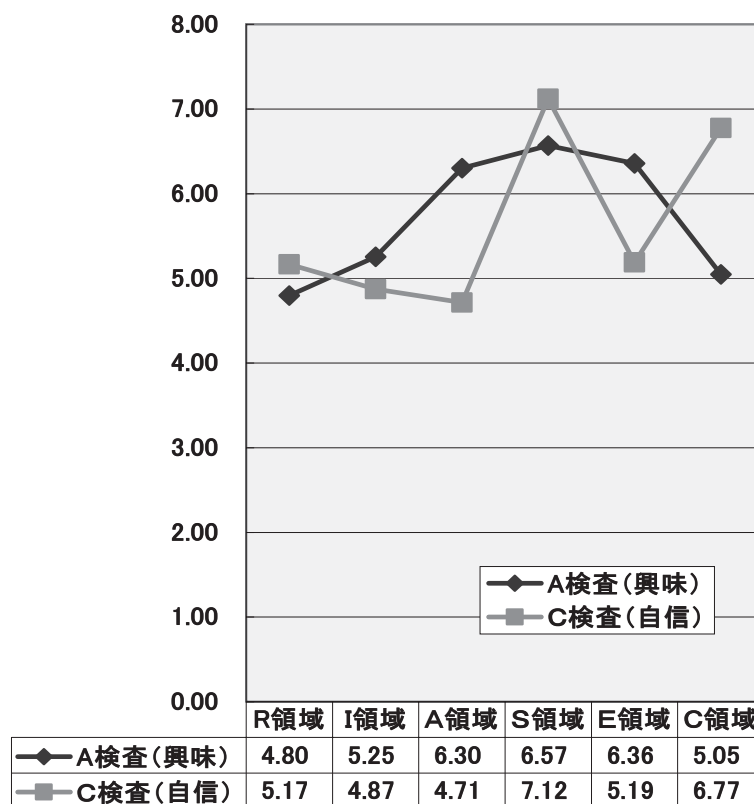
ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Sタイプといえる。ただし、Cの領域の数値も高いので、SCタイプと捉えることが妥当である。

イ：自信が強い職業領域は、S領域、C領域、E領域の順になる。

ウ：自信分化度は、2.41 となる。

エ：最も数値が高かったS領域の対極にあるR領域の数値は5.12であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。S領域に隣接するA領域およびE領域の数値は4.71および5.19であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

図表11-2 普通科進学率70%以上
(A検査、C検査の平均値)



③興味（A検査）と自信（C検査）の差

ア：S領域の数値差は、0.55 であり自信（C検査）の数値が興味（A検査）の数値を上回っている。A領域、E領域およびC領域には、1.59、1.17 および 1.73 の有意差が認められる。特にC領域においては、自信（C検査）が興味（A検査）の数値を大きく上回っている点が、他の領域、他の学科に比して特徴的である。

④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向の平均値は11.63、P志向は14.42、T志向は7.14である。T志向の項目数の違いを考慮してもP志向が最も高い。

イ：興味（A検査）ではSタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係に合致している。

ウ：自信（C検査）ではSタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係に合致している。

(3) 農業+水産科

①興味 (A検査)

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Rタイプといえる。ただし、Aの領域およびEの領域の数値も高いので、R A Sタイプと捉えることが妥当である。

イ：興味強い職業領域は、R領域、S領域、A領域の順になる。

ウ：興味分化度は、2.18となる。

エ：最も数値が高かったR領域の対極にあるS領域

の数値は6.05であり、2位の数値である。R領域に隣接するI領域およびC領域の数値は4.18および4.56であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

②自信 (C検査)

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Sタイプといえる。ただし、Rの領域の数値も高いので、S Rタイプと捉えることが妥当である。

イ：自信強い職業領域は、S領域、R領域、C領域の順になる。

ウ：自信分化度は、2.53となる。

エ：最も数値が高かったS領域の対極にあるR領域の数値は6.07であり、2位の数値である。

S領域に隣接するA領域およびE領域の数値は4.48および4.19であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

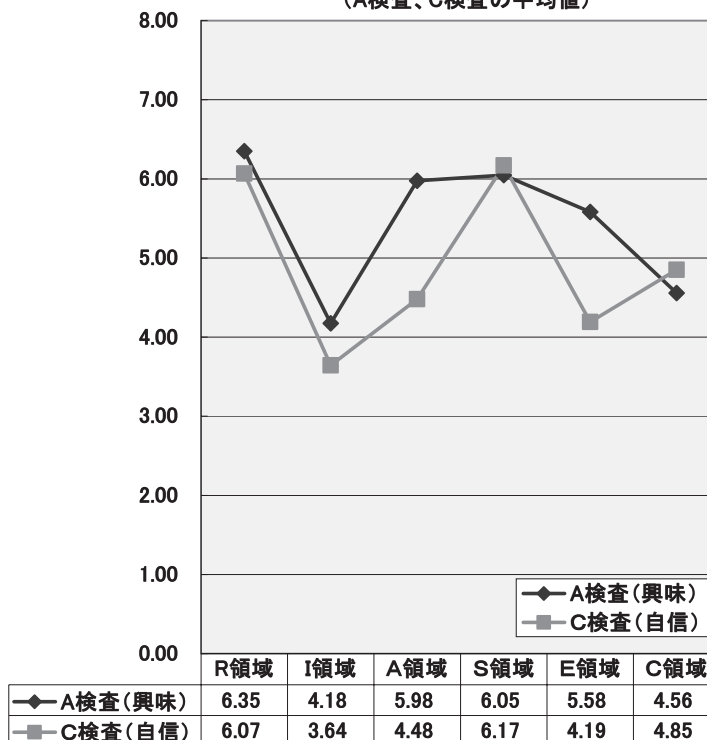
③興味 (A検査) と自信 (C検査) の差

ア：興味 (A検査) と自信 (C検査) の最も数値が高かった領域が、興味ではR領域であり、自信ではR領域とS領域がほとんど差のない数値を示している。興味の型はRタイプ、自信の型はR Sタイプといえる。R領域、S領域の興味と自信の差は、それぞれ、0.28および0.12でほとんど差が見られない。A領域およびE領域には、1.50および1.39の有意差が認められる。

④基礎的志向性 (B検査)

ア：D志向の平均値は9.12、P志向は13.72、T志向は7.3である。T志向の項目数を考慮

図表11-3 農業+水産科
(A検査、C検査の平均値)



しても P 志向がもっとも高い。

イ：興味（A 検査）では R タイプであり、基礎的志向性（B 検査）では P であり、統計結果による相関関係には合致していない。

ウ：自信（C 検査）では S タイプであり、基礎的志向性（B 検査）では P であり、統計結果による相関関係に合致している。

（4）工業+情報科

①興味（A 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、R タイプといえる。他の領域の数値に比較して、R 領域の数値が明確に高く、典型的な R タイプといえる。

イ：興味が強い職業領域は、R 領域、A 領域、E 領域の順になる。

ウ：興味分化度は、3.60 となる。

エ：最も数値が高かった R

領域の対極にある S 領域の数値は 5.03 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。R 領域に隣接する I 領域および C 領域の数値は 5.01 および 4.87 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

②自信（C 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、R タイプといえる。他の領域の数値に比較して、R 領域の数値が明確に高く、典型的な R タイプといえる。

イ：自信が強い職業領域は、R 領域、C 領域、S 領域の順になる。

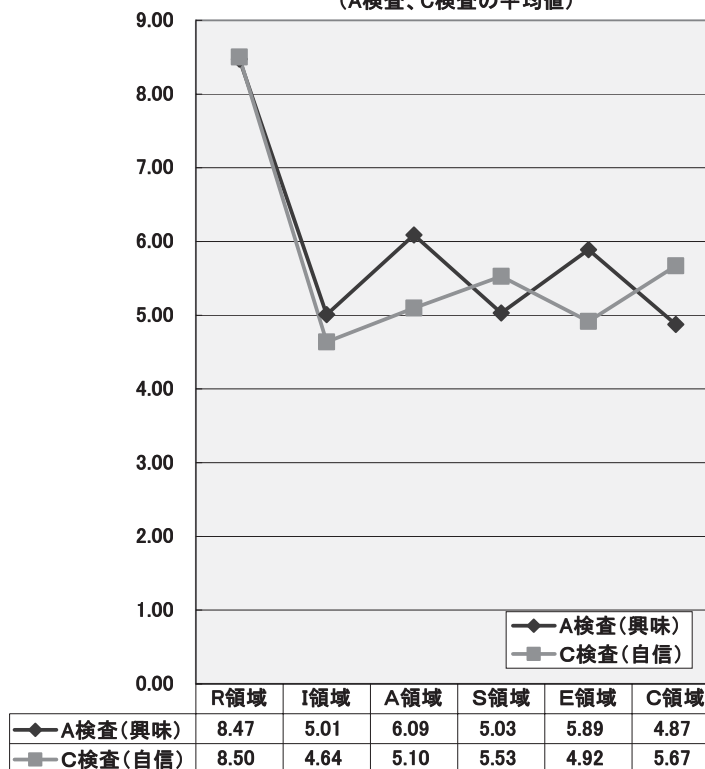
ウ：自信分化度は、3.87 となる。

エ：最も数値が高かった R 領域の対極にある S 領域の数値は 5.53 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。R 領域に隣接する I 領域および C 領域の数値は 4.64 および 5.67 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

③興味（A 検査）と自信（C 検査）の差

ア：R 領域の数値差は、0.03 でありほとんど差を認められない。A 領域および E 領域には、

図表11-4 工業+情報科
(A検査、C検査の平均値)



0.99 および 0.97 の差が認められる。S領域およびC領域で、自信（C検査）の数値が興味（A検査）の数値をそれぞれ、0.99 および 0.97 上回っている。

④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向は 10.20、P志向は 13.38、T志向は 8.15 である。T志向の項目数を考慮しても P志向が最も高い。

イ：興味（A検査）ではRタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係には合致していない。Rと相関関係にあるものはTとなっている。ただし、P志向の平均値（P値）とT志向の平均値（T値）の差は他の学科の示すP値T値の差に比し最も小さくなっている。

ウ：自信（C検査）ではRタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係には合致していない。Rと相関関係にあるものはTとなっている。ただし、P値とT値の差は 5.23 であり、他の学科の示すP値T値の差に比し最も小さくなっている。

（5）商業科

①興味（A検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Cタイプといえる。A領域およびS領域の数値も高く、CSAタイプと捉えるのが妥当といえる。

イ：興味が強い職業領域は、C領域、S領域、A領域の順になる。

ウ：興味分化度は、4.92 となる。

エ：最も数値が高かったC

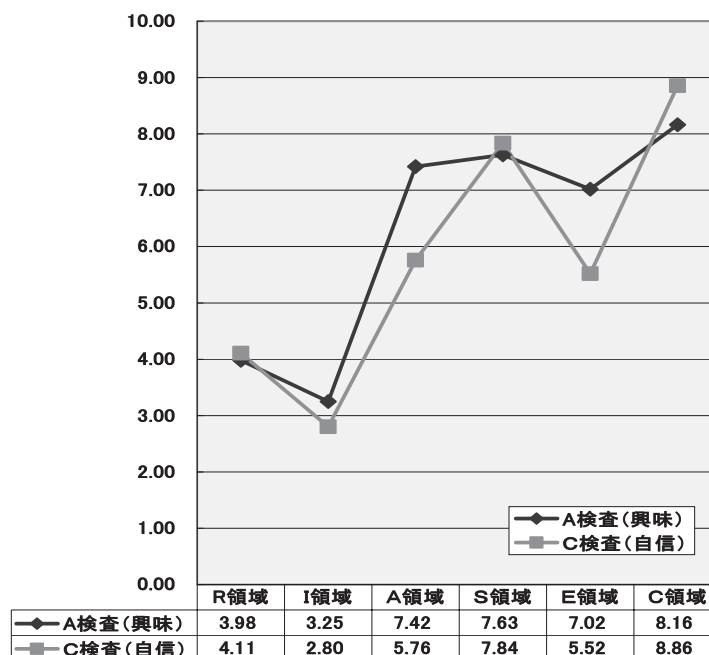
領域の対極にあるA領域の数値は 7.42 であり、3位の数値である。C領域に隣接するR領域およびE領域の数値は 3.98 および 7.01 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。特にR領域の数値との差は著しい。

②自信（C検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Cタイプといえる。

イ：自信が強い職業領域は、C領域、S領域、A領域の順になる。

図表11-5 商業科(A検査、C検査の平均値)



ウ：自信分化度は、6.06 となる。

エ：最も数値が高かったC領域の対極にあるA領域の数値は 5.76 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。C領域に隣接するR領域およびE領域の数値は 4.11 および 5.52 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

③興味（A検査）と自信（C検査）の差

ア：C領域の数値差は、0.69 であり、自信の数値が上回っている。タイプの特徴を表す領域で自信の数値が上回っていることは、他の学科に比して特徴的である。A領域およびE領域には、1.66 および 1.50 の有意差が認められる。

④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向の平均値は 11.59、P志向は 15.02、T志向は 6.9 であった。T志向の項目数を考慮してもP志向がもっとも高い。

イ：興味（A検査）ではCタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPである。統計結果からは、C値との相関関係にあるものは認められていない。

ウ：自信（C検査）ではCタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係には合致していない。Cと相関関係にあるものはDとなっている。ただし、D志向の平均値（D値）は 11.59 であり、他の学科の示すD値に比し、普通科進学率 70%以上のD値である 11.63 の次に高い値を示している。

（6）家政+看護+福祉科

①興味（A検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Sタイプといえる。A領域およびの数値も高く、SAタイプと捉えるのが妥当といえる。

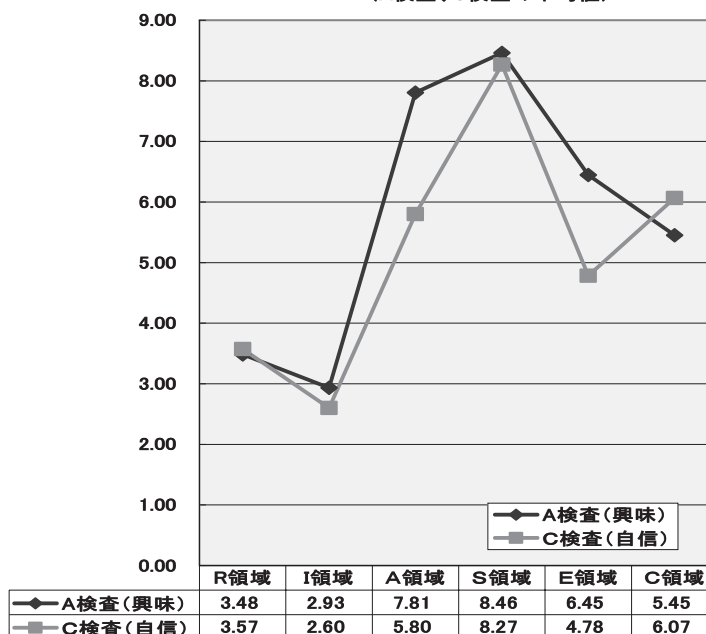
イ：興味強い職業領域は、S領域、A領域、E領域の順になる。

ウ：興味分化度は、5.53 となる。

エ：最も数値が高かったS領域

の対極にあるR領域の数値は 3.48 であり、著しく低い数値を示す。S領域に隣接するA領域およびE領域の数値は 7.81 および 6.45 であり、比較的高い数値を示している。タイプの特徴を示す領域の両隣の数値が高く、対極の領域の数値が低く、興味の分化を

図表11-6 家政+看護+福祉科
(A検査、C検査の平均値)



明確に示している。

②自信（C検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Sタイプといえる。

イ：自信が強い職業領域は、S領域、C領域、A領域の順になる。

ウ：自信分化度は、5.67となる。

エ：最も数値が高かったS領域の対極にあるR領域の数値は3.57であり、著しく低い数値を示す。S領域に隣接するA領域およびE領域の数値は5.80および4.78であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

③興味（A検査）と自信（C検査）の差

ア：S領域の数値差は、0.19であり、興味と自信の数値にほとんど差は認められない。A領域およびE領域には、2.01および1.66の有意差が認められる。

④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向の平均値は11.25、P志向は15.52、T志向は7.88となった。T志向の項目数を考慮してもP志向がもっとも高い。

イ：興味（A検査）ではSタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係に合致している。

ウ：自信（C検査）ではSタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係に合致している。

（7）その他＋総合科

①興味（A検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Aタイプといえる。

イ：興味が強い職業領域は、A領域、E領域、S領域の順になる。

ウ：興味分化度は、3.84となる。

エ：最も数値が高かったA領域の対極にあるC領域の数値は5.47であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。A領域に隣接するI領域およびS領域の数値は3.31および5.98であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

②自信（C検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Cタイプといえる。S領域の数値も6.37と接近しており、CSタイプと捉えるのが妥当といえる。

イ：自信が強い職業領域は、C領域、S領域、A領域の順になる。

ウ：自信分化度は、3.45となる。

エ：最も数値が高かったC領域の対極にあるA領域の数値は5.64であり、3位の数値を示す。C領域に隣接するR領域およびE領域の数値は4.84および4.87であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

③興味（A検査）と自信（C検査）の差

ア：興味（A検査）と自信（C検査）の最も数値が高かった領域が、興味ではA領域であり、自信ではC領域とS領域がほとんど差のない数値を示している。興味の型はAタイプ、自信の型はCSタイプといえる。C領域、S領域の興味と自信の差は、それぞれ、0.91および0.39で若干の差がある。A領域およびE領域には、1.52および1.41の有意差が認められる。興味（A検査）と自信（C検査）の結果でタイプの異なる学科として、農業+水産が挙げられるが、プロフィール上の特徴としては異なる特徴を示していると思われる。

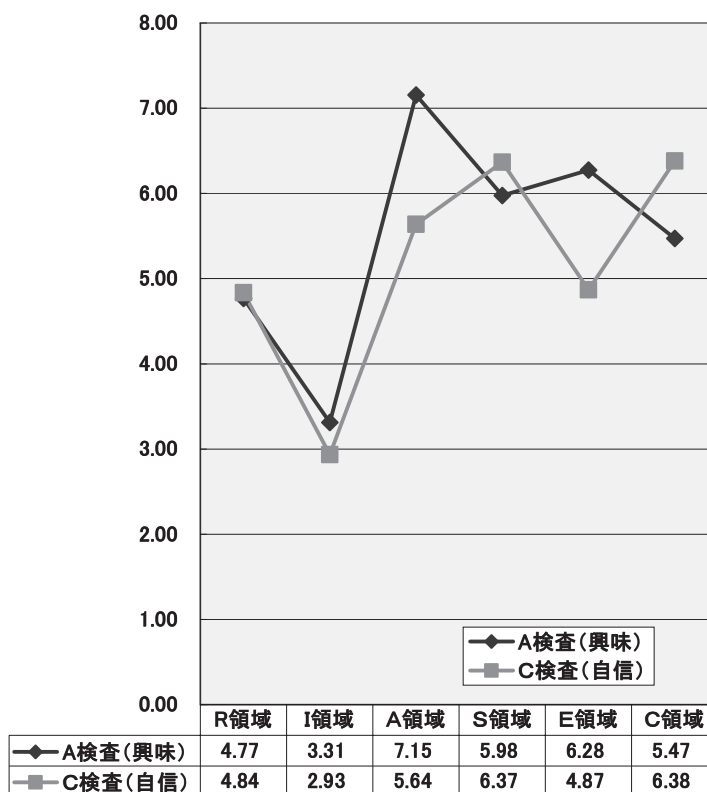
④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向の平均値は、10.63、P志向は14.15、T志向は7.47となった。T志向の項目数を考慮してもP志向がもっとも高い。

イ：興味（A検査）ではAタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPである。統計結果からは、A値との相関関係にあるものは認められていない。

ウ：自信（C検査）ではCタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係には合致していない。Cと相関関係にあるものはDとなっている。しかも、D値は10.63であり、他の学科の示すD値に比し特段高い数値を示しているわけでもなく、P値とD値の差も、他の学科の示す差に比して小さくもない。

図表11-7 その他+総合科
(A検査、C検査の平均値)

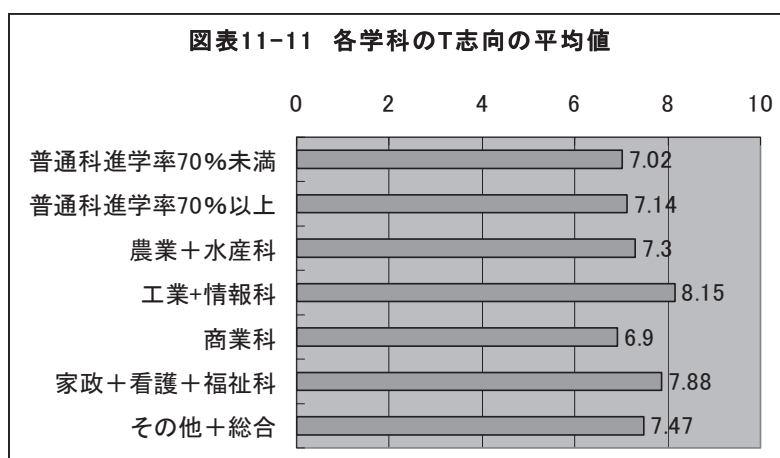
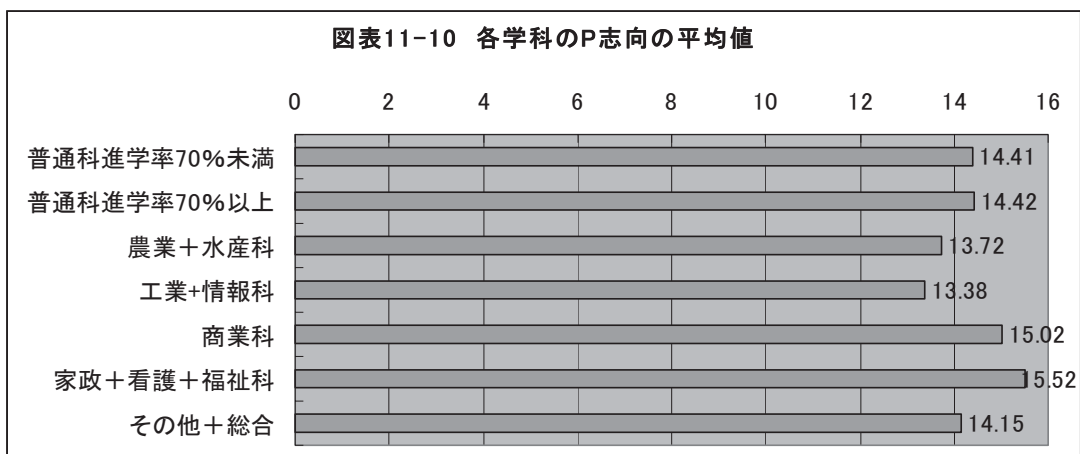
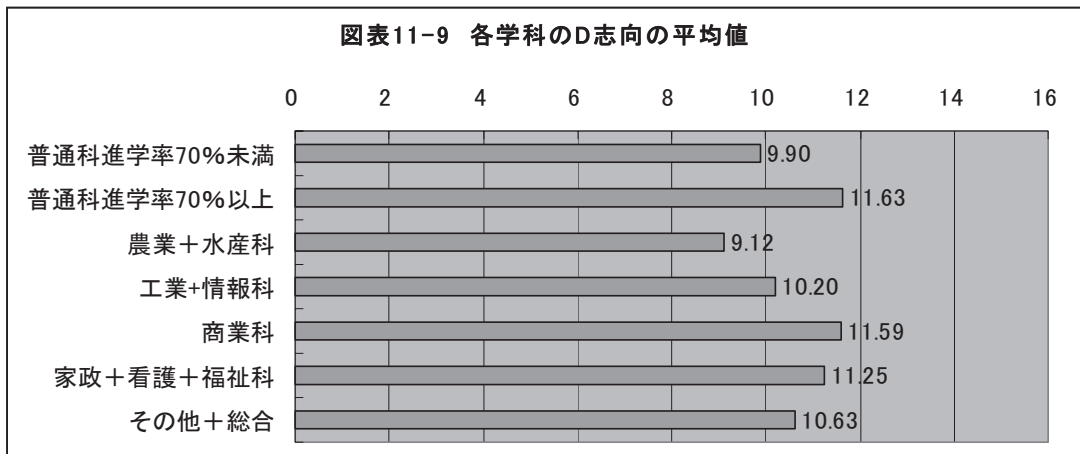


11-3-2 基礎的志向性の学科間比較

図表11-8に各学科の基礎的志向性の平均値を示した。B検査については、前述の通り、T志向の項目数が違うため、平均値の大きさを単純に比較することはできないが、どの学科で

も P の対人志向がもっとも高いという結果となった。高校生の場合、日常生活における基礎的志向性という点では、情報や物よりは人に関連する志向性が相対的に高いようである。ただし、各志向性の相対的な得点の高さには学科によって違いが見られた。

図表 11-9 から図表 11-11 は、D 志向、P 志向、T 志向別に学科の平均値をグラフにしたものである。



図表11-8 各学科の基礎的志向性の平均値

学科	D志向	P志向	T志向
普通科進学率70%未満	9.90	14.41	7.02
普通科進学率70%以上	11.63	14.42	7.14
農業+水産科	9.12	13.72	7.3
工業+情報科	10.20	13.38	8.15
商業科	11.59	15.02	6.9
家政+看護+福祉科	11.25	15.52	7.88
その他+総合	10.63	14.15	7.47

注：D志向、P志向は各24項目、T志向は16項目の合計の平均値である。

D志向では、普通科進学率70%以上がもっとも高く、続いて、商業科、家政+看護+福祉科が11点台である。農業+水産科と普通科進学率70%未満は9点台で低めである。D志向は情報への志向性と関連するので、データを読んだり、加工したり、計算をするといったデスクワーク的な活動と関連が高い。普通科進学率70%以上の高校や商業科でこの志向性が高いのは情報を扱う活動が学校の授業内容を含めて日常生活で多いことを反映していると思われる。

P志向では、15点台が2つあり、家政+看護+福祉科がもっとも高く、続いて、商業科が高い。P志向は対人的な活動への志向であるが、家政+看護+福祉科や商業科で高いことは、これらの学科は、医療、福祉関係や流通、サービス関係の職業と関連するので、日常生活においても対人的な関わりへの志向の高さが表れるようである。他方、工業+情報科と農業+水産科は13点台で低くなっている。ホルランドの6領域間の関連では、人との関わりを好む社会的領域(S領域)は、機械や手工技能系の活動を好む現実的領域(R領域)と関連が低いといわれているが、日常生活の志向性に関しておきかえてみるとP志向とT志向の関係がそれに相当するといえる。ホルランドの6領域でR領域に関心の高い工業+情報科と農業+水産科でP志向が低いことは職業興味と一貫した傾向である。

T志向をみてみると、工業+情報科が8点台でもっとも高く、家政+看護+福祉科が続く。商業科は6点台でもっとも低くなっている。商業科はP志向が高かったのも、対人的な志向性と対物的な志向性は相反するという見解と一致している。家政+看護+福祉科はP志向も高く、この見解とは一致しない。なお、家政+看護+福祉科はD志向も高く、3つの志向性のいずれも高めであることがわかる。

11-3-3 回答結果と学科別の特徴との関連

(1) 普通科と専門学科の比較

普通科進学率70%未満の学校における興味分化度は3.03、自信分化度は3.54であり、普通科進学率70%以上の学校における興味分化度は1.77、自信分化度は2.41である。平均すると興味分化度は2.40、自信分化度は2.98となる。同じように専門学科の5学科の興味分

化度と自信分化度をそれぞれ平均すると、興味分化度は 4.01、自信分化度は 4.32 となる。

この数字を比較すると、明らかに、専門学科の生徒の興味分化度および自信分化度が高いことがわかる。これは、日常の学びの内容が、職業に結びつく科目を多く学んでいるかどうかに影響されると推測される。専門学科は、高校入学のときからの進路目標が明確である生徒が多く、かつ、職業に結びつく科目を日常の学びの中で積み上げている結果、進路発達が早く、明確に興味や自信が分化したものと考えられる。

(2) 農業＋水産学科

農業＋水産学科の職業興味の平均値を見ると、R 領域への関心が高い。R 領域に関連する職業領域をみると、動植物管理、工学関係、熟練技能、生産技術関係、機械管理、機械、装置運転である。このうちの動植物管理が、農業＋水産科の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

(3) 工業＋情報科

工業＋情報科の職業興味も、農業＋水産学科と同じく、R 領域が高い。R 領域に関連する職業領域をみると、動植物管理、工学関係、熟練技能、生産技術関係、機械管理、機械、装置運転である。このうちの工学関係、熟練技能、生産技術関係、機械管理、機械、装置運転が、工業＋情報科の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

また、領域の質問項目である「部品を組み立てて機械を作る」や「自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する」等は、日常の学びに直結した質問項目であり、学習経験が興味や自信に反映していることがわかる。

(4) 商業科

商業科生徒の職業興味の平均値では C 領域が高い。C 領域に関連する職業領域をみると、経理事務関係、警備巡視、一般事務、編集・校正関係、法務関係である。このうちの経理事務関係、一般事務、編集が、商業の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

特に、商業学科では、C 領域に関して、興味より自信の値が高くなっていることも特徴である。これは、「文字や数字を、コンピューターに入力する」、「ワープロやパソコンを使って、書類などを清書する」、「帳簿や伝票に書かれた金額の計算をする」をはじめとして、領域の 9 つの質問項目すべてが、日常の学習活動の中で体験しているものであり、学習経験の裏付けが自信を高めていると考えられる。

また、A 領域、S 領域、E 領域も高い。それぞれ A 領域のデザイン、S 領域の販売、E 領域の経営管理関係、営業、広報・宣伝関係が、商業科の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

(5) 家政+看護+福祉科

家政+看護+福祉科の生徒の職業興味ではS領域が高い。さらにその数値は、他の学科に比べ最も高い。S領域に関連する職業領域をみると、社会福祉、教育、医療、保険、販売、対個人サービスである。このうちの社会福祉、教育、医療、保険が、家政+看護+福祉科の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

また、領域の質問項目である「保育園で乳幼児の世話をしたり、一緒に遊んだりする」「患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする」「家庭を訪問して、お年寄りや身体の不自由な人の世話をする」等は、日常の学びに直結した質問項目であり、学習経験が興味や自信に反映していることがわかる。

(6) その他+総合科

その他+総合科の生徒の職業興味はA領域が高い。同時にE領域の興味も高い。総合学科は、多様な選択科目の中から、自らの興味関心や将来の職業実現を目指して、自主的に科目選択をし、学びを積み上げていく学科である。自分の人生をデザインし、マネジメントしながら、何を学ぶかを日々、迫られている学科であるともいえる。そうした日常の学びの体験が、興味に反映していると考えられる。

11-4 まとめ

本章では、学科別に職業レディネス・テストで測定された職業興味、基礎的志向性、職務遂行の自信度の特徴を検討した。

まず、普通科と専門学科の比較であるが、普通科と専門学科では、専門学科の方が好きな領域や嫌いな領域が明確に分かれ、また、得意な領域、不得意な領域の認識も高いことがわかった。専門学科は卒業後の進路が明確であり、卒業後につく職業に直結するような科目の学習が多いことから、職業への意識や準備度が高まることが推察される。また、高等学校の進学の際に、専門学科を選択した時点で、生徒も自らの興味を検討していることも考えられよう。

次に、専門学科の内容と生徒が興味や自信をもっている職業興味等の関連であるが、この2つの関連は職業興味の特徴、また、その領域に関連する職業からみて納得のいく結果となった。すなわち、農業、水産、工業、情報系では手工技能、生産活動、機械の操作等と関わりの強いR領域が好まれること、商業科では事務系の職務と関連するC領域が高いこと、家政、看護、福祉では人との関わりの濃いS領域への興味が高いこと、その他、総合では創造的や自主性が求められるA領域やE領域への関心が高い。その学科を選び、そこで学習している生徒たちは、自分の興味や将来の仕事に合致した内容の学科を選んで進学していることが確認された。基礎的志向性に関しても、学科の特徴を反映した結果が見出された。

「職業レディネス・テスト」では、職務内容を素材として、興味や関心の方向を測るものであるが、測定された生徒の興味が、その生徒の所属する学科の特徴とよく一致するという事実の確認は、この検査で測定される内容の妥当性を裏付ける結果としても解釈することができよう。

第12章 好きな科目、嫌いな科目と職業興味との関連の検討

12-1 本章の目的

中学校、高等学校では様々な学習をするが、どんな科目が好きなのか、得意なのか、反対にどんな科目が嫌いなのか、苦手なのかということは、その生徒の興味や能力という適性の一面と関連するのではないだろうか。そして、好きな科目、得意な科目を通して、生徒は将来の進路を考えるきっかけを得ることもあるだろうし、教員は生徒の進学や進路を検討する材料とすることもあろう。

そこで、本章では、学校で学ぶ様々な科目の好き嫌いと職業レディネス・テストの結果から得られた生徒の職業興味との関連を検討する。最初に中学校、高等学校での科目の好き嫌いを集計し、全体の傾向をつかむ。その後、職業興味の6領域のタイプ別に、そのタイプであることがどんな教科への興味と関連するののかについて検討したい。

12-2 分析対象

調査の方法は第3章「標準化調査の概要」に準ずる。本章では中学生と高校生の全体のデータを取り上げた。分析の対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

標準化調査に協力したのは、全国38校の中学1年～3年生および62校の高等学校の1年生～3年生である。

人数の内訳は以下の通り。中学生計10,966名（1年男子1,905名、1年女子1,816名、2年男子1,825名、2年女子1,791名、3年男子1,866名、3年女子1,763名）。高校生計17,104名（1年男子3,244名、1年女子3,175名、2年男子3,185名、2年女子3,399名、3年男子1,980名、3年女子1,979名）。

12-3 調査方法と結果

<質問項目>

本章でとりあげた調査項目は、問題用紙の最後にアンケートとして用意されている。内容は以下の通りである。

①アンケートの質問 「学校で勉強している科目の中で、あなたの好きな科目ときらいな科目を教えてください。回答欄に書かれている科目のうち、好きな科目に○、きれいな科目に×をつけてください。いくつでもよいです。回答欄になれば（ ）内に書き込んでください。」

②科目の選択肢 「国語、古典、世界史、日本史、地理、政治・経済、現代社会、数学、理

科、物理、化学、生物、地学、英語、音楽、美術、工芸、書道、保健・体育、技術・家庭、情報」

12-3-1 好きな科目、嫌いな科目の素集計

最初に好きな科目、嫌いな科目の素集計を行った。科目名は任意の科目を表示し選択させている。特に中学生にはなじみがない科目もあるため、ここではある科目に対する好き嫌いの印象がわかる。

中学校、高等学校全体では、保健・体育や技術・家庭が好きだと答えた生徒が多く、実技・実習系の科目が好まれることがわかった。また、男女間で好きな科目・嫌いな科目の違いがはっきりしていることがわかった。

(1) 中学校、高校別にみた好きな科目

中学生の好きな科目、嫌いな科目の素集計の結果を図表 12-1 に示す。また、高校生の好きな科目、嫌いな科目の素集計の結果を図表 12-2 に示す。表では、好き、嫌いそれぞれ頻度が高い5科目に網掛けをした。まず、中学校、高等学校全体で好きな科目の上位5科目を見てみる。中学校では保健・体育、音楽、技術・家庭、美術、理科の順である。高等学校では保健・体育、音楽、技術・家庭、美術、国語の順である。嫌いな科目の上位5科目は、中学校では地理、政治経済、古典、書道、数学の順で、高等学校では古典、数学、物理、政治経済、英語の順である。

中学生の好きな科目嫌いな科目は、当然、中学生の知っている教科に関わる科目名に回答が集中している。国語、数学、理科、英語、保健・体育、音楽、美術、技術・家庭は中学校の教科とほぼ同一の名称なためほとんどの生徒が好き嫌いをはっきり示している。その他の科目名については、中学校の授業の連想で回答していると考えられる。

図表12-1 中学生の科目の好き嫌い(それぞれ上位3位に網掛け)

科目	全体(n=10,966)				男子(n=5,596)				女子(n=5,370)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	4259	38.8	4699	42.9	1732	31.0	2771	49.5	2527	47.1	1928	35.9
古典	1471	13.4	5349	48.8	669	12.0	2878	51.4	802	14.9	2471	46.0
世界史	2822	25.7	4458	40.7	1787	31.9	2031	36.3	1035	19.3	2427	45.2
日本史	3870	35.3	4102	37.4	2386	42.6	1797	32.1	1484	27.6	2305	42.9
地理	2899	26.4	5712	52.1	1845	33.0	2485	44.4	1054	19.6	3227	60.1
政治・経済	1194	10.9	5659	51.6	806	14.4	2747	49.1	388	7.2	2912	54.2
現代社会	1841	16.8	4716	43.0	1137	20.3	2308	41.2	704	13.1	2408	44.8
数学	4769	43.5	4900	44.7	2897	51.8	2005	35.8	1872	34.9	2895	53.9
理科	5348	48.8	4063	37.1	3310	59.1	1537	27.5	2038	38.0	2526	47.0
物理	1970	18.0	4446	40.5	1480	26.4	1932	34.5	490	9.1	2514	46.8
化学	3085	28.1	3777	34.4	2181	39.0	1496	26.7	904	16.8	2281	42.5
生物	3633	33.1	3218	29.3	2223	39.7	1411	25.2	1410	26.3	1807	33.6
地学	1139	10.4	4889	44.6	811	14.5	2370	42.4	328	6.1	2519	46.9
英語	4866	44.4	4600	41.9	2134	38.1	2599	46.4	2732	50.9	2001	37.3
音楽	6275	57.2	3145	28.7	2176	38.9	2405	43.0	4099	76.3	740	13.8
美術	5472	49.9	3834	35.0	2335	41.7	2288	40.9	3137	58.4	1546	28.8
工芸	3254	29.7	3347	30.5	1602	28.6	1880	33.6	1652	30.8	1467	27.3
書道	2507	22.9	5225	47.6	812	14.5	3131	56.0	1695	31.6	2094	39.0
保健・体育	7073	64.5	2412	22.0	3990	71.3	864	15.4	3083	57.4	1548	28.8
技術・家庭	5837	53.2	3024	27.6	2869	51.3	1591	28.4	2968	55.3	1433	26.7
情報	2756	25.1	3571	32.6	1469	26.3	1914	34.2	1287	24.0	1657	30.9

注: %は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-2 高校生の科目の好き嫌い(それぞれ上位3位に網掛け)

科目	全体(n=17,104)				男子(n=8,409)				女子(n=8,695)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	6532	38.2	5317	31.1	2565	30.5	3103	36.9	3967	45.6	2214	25.5
古典	2865	16.8	8513	49.8	1027	12.2	4494	53.4	1838	21.1	4022	46.3
世界史	4557	26.6	7106	41.5	2598	30.9	2990	35.6	1959	22.5	4116	47.3
日本史	4890	28.6	6600	38.6	2695	32.0	2854	33.9	2195	25.2	3746	43.1
地理	3096	18.1	7674	44.9	1922	22.9	3236	38.5	1174	13.5	4438	51.0
政治・経済	2146	12.5	8144	47.6	1303	15.5	3650	43.4	843	9.7	4494	51.7
現代社会	3408	19.9	6614	38.7	1912	22.7	2918	34.7	1496	17.2	3696	42.5
数学	5247	30.7	8474	49.5	2964	35.2	3653	43.4	2283	26.3	4821	55.4
理科	5105	29.8	6099	35.7	3153	37.5	2402	28.6	1952	22.4	3697	42.5
物理	2289	13.4	8206	48.0	1738	20.7	3412	40.6	551	6.3	4794	55.1
化学	3436	20.1	7786	45.5	2287	27.2	3121	37.1	1149	13.2	4665	53.7
生物	4965	29.0	5669	33.1	2527	30.1	2555	30.4	2438	28.0	3114	35.8
地学	1523	8.9	7338	42.9	955	11.4	3326	39.6	568	6.5	4012	46.1
英語	5167	30.2	8108	47.4	2068	24.6	4360	51.8	3099	35.6	3748	43.1
音楽	8498	49.7	3529	20.6	3049	36.3	2443	29.1	5449	62.7	1086	12.5
美術	6666	39.0	4936	28.9	2687	32.0	2783	33.1	3979	45.8	2153	24.8
工芸	4484	26.2	4757	27.8	2176	25.9	2400	28.5	2308	26.5	2357	27.1
書道	3942	23.0	6223	36.4	1297	15.4	3567	42.4	2645	30.4	2656	30.5
保健・体育	9689	56.6	3221	18.8	5275	62.7	1127	13.4	4414	50.8	2094	24.1
技術・家庭	7012	41.0	3678	21.5	2938	34.9	2068	24.6	4074	46.9	1610	18.5
情報	5809	34.0	4738	27.7	2952	35.1	2193	26.1	2857	32.9	2545	29.3

注: %は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

高校生では、必修科目に回答が集中している。それでも、数学で好き嫌いを回答した生徒が8割あるのが最高で、他の科目名では特に回答していない生徒の数が少なくない。中学校と違い選択科目を含めて科目数が増え、学校の授業から少し距離を置き始めるためもあるだろう。

(2) 好きな科目、嫌いな科目にみられる男女差

この素集計を男女別の視点で見ると、中学校、高等学校を通して、男女による興味関心の違いが顕著であることがわかる。

好きな科目の男女差を見てみる。男子の中学校は保健・体育、理科、数学、技術・家庭、日本史、高等学校は保健・体育、理科、音楽、数学、情報の順である。理科、数学、情報が男子の好きな特徴的な科目であるといえる。一方、女子では、中学校は音楽、美術、保健・体育、技術・家庭、英語、高等学校は音楽、保健・体育、技術・家庭、美術、国語の順である。中学生の女子の音楽に対する支持は圧倒的で、中学校全体の音楽の支持にも影響している。音楽と国語、英語、美術が女子の好きな特徴的な科目であると言える。男子は理工系の科目が、女子は語学・芸術系の科目が好きだという一般的な見方が裏付けられたと言える。

嫌いな科目は、男子は、中学校で書道、古典、国語、政治経済、英語、高等学校では古典、英語、数学、政治経済、書道の順である。中学男子では上位3科目を国語の科目が占めている。書道も古典も中学校にはない科目である。書道は恐らく書写の印象であると思われる。高等学校でも、嫌いな書道を選択するはずはないが、中学校の書写の印象を回答していると考えられる。

中学校女子では地理、政治経済、数学、理科、地学の順である。高等学校女子では数学、物理、化学、政治経済、地理の順である。理数科目と地理が特徴的である。

学習はその興味・関心が高いほど理解が進むため、興味・関心のない教科・科目の授業は生徒にとっても苦痛である。教える側の教員にとってもそういった生徒は悩みの種であるが、生徒の興味・関心や特性を念頭に、生徒の側に立った授業の工夫をすることが必要になるだろう。

12-3-2 職業興味のタイプ別に見た好きな科目、嫌いな科目

A 検査の職業興味について、「やりたい」、「どちらともいえない」、「やりたくない」を2点～0点として採点し、職業興味の6領域（RIASEC）に関してそれぞれ合計点を算出した。そして、中学校、高校、男女別に尺度ごとに得点の分布をみて、得点の高い方から順に15%の者を選び、各尺度の名称をつけて、RタイプからCタイプまで6つのタイプを抽出した。タイプ別に好きな科目、嫌いな科目の選択度数を算出した(図表 12-3～図表 12-8)。また、中学男子、中学女子、高校男子、高校女子という属性別に各教科に対する「やりたい」というパーセンテージを6つのタイプ間で比較したグラフを図表 12-9～図表 12-12 に示す。各タイプ別に好き、嫌いそれぞれのパーセンテージの高かった上位5科目に網掛けをした。

タイプ別にみた好きな科目を検証した。嫌いな科目については因果関係が見いだしにくく考察を省いた。Rタイプ男子は保健・体育と技術・家庭、Iタイプは理科系、Aタイプは美術、音楽、国語、Sタイプ女子は音楽、保健・体育、技術・家庭、Eタイプは男子が日本史、女子

が英語、Cタイプは数学と情報をそれぞれ典型的に好むことがわかった。

①Rタイプ（図表 12-3）

まずRタイプの好きな科目である。男子は中学校で保健・体育、理科、技術・家庭、数学、生物の順、高等学校で保健・体育、技術・家庭、理科、音楽、情報の順である。女子は中学校で音楽、美術、保健・体育、技術・家庭、国語の順、高等学校で音楽、保健・体育、技術・家庭、美術、国語の順である。中学男子の保健・体育 81.6%と技術・家庭 67.3%、高校男子の保健・体育 75.2%と技術・家庭 50.9%はその科目の中でRタイプが最高値である（図表 12-9、図表 12-11）。女子ではそういう特色は見いだせない。保健・体育と技術・家庭はRタイプ男子の好む典型的な科目であると言える。

②Iタイプ（図表 12-4）

Iタイプの好きな科目である。男子は中学校で理科、化学、保健・体育、数学、技術・家庭の順、高等学校で理科、保健・体育、化学、生物、数学の順である。女子は中学校で音楽、美術、理科、英語、技術・家庭の順、高等学校で音楽、美術、国語、生物、保健・体育の順である。中学男子の化学、中学女子の理科、高校女子の生物は他のタイプでは5位に入らず、高校男子の数学も他にCタイプだけであり、いかにもIタイプ好みの科目と言える。中学男子では理科 81.3%、化学 64.2%、生物 57.2%、物理 48.8%が、高校男子でも理科 59.6%、化学 49.7%、生物 48.4%、物理 37.7%がすべてその科目の中でIタイプが最も高い数値である（図表 12-9、図表 12-11）。女子も中学で理科 62.9%、生物 43.1%、高校で理科 39.6%、生物 49.2%と科目の中でIタイプが最も高い数値である（図表 12-10）。Iタイプらしい好みは理科系の科目であることがわかる。

③Aタイプ（図表 12-5）

Aタイプの好きな科目である。男子は中学校で保健・体育、美術、技術・家庭、理科、音楽の順、高等学校で保健・体育、美術、音楽、情報、技術・家庭の順である。女子は中学校で音楽、美術、技術・家庭、国語、英語の順、高等学校で美術、音楽、国語、技術・家庭、保健・体育の順である。中学男子の美術はSタイプに、中学女子の国語はRタイプにも登場するが、中学男子の音楽、高校男子の美術は他のタイプでは上位5位に登場せず、美術、音楽、国語がAタイプの好む特徴的な科目だと言える。美術は中学男子の 62.1%、高校男子 56.5%、中学女子 79.3%、高校女子 75.7%が好きと答え、それぞれ美術の中でAタイプが最も高い数値である（図表 12-9～図表 12-12）。音楽も中学男子の 51.3%、高校男子 53.6%、中学女子 81.4%、高校女子 73.2%が好きと答え、中学女子以外それぞれ音楽の中でAタイプが最も高い数値である。国語も高校男子 41.6%、中学女子 56.0%、高校女子 59.4%が好きと答えそれぞれ国語の中でAタイプが最も高い数値である。

図表12-3 Rタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 R(n=817)				中学生女子 R(n=609)				高校生男子 R(n=1,350)				高校生女子 R(n=1,274)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	265	32.4	420	51.4	301	49.4	203	33.3	442	32.7	509	37.7	582	45.7	321	25.2
古典	113	13.8	433	53.0	117	19.2	280	46.0	184	13.6	732	54.2	342	26.8	503	39.5
世界史	279	34.1	291	35.6	151	24.8	249	40.9	464	34.4	469	34.7	333	26.1	554	43.5
日本史	364	44.6	261	31.9	190	31.2	249	40.9	448	33.2	488	36.1	367	28.8	511	40.1
地理	308	37.7	357	43.7	145	23.8	333	54.7	415	30.7	478	35.4	223	17.5	624	49.0
政治・経済	136	16.6	419	51.3	55	9.0	322	52.9	231	17.1	625	46.3	139	10.9	665	52.2
現代社会	187	22.9	342	41.9	90	14.8	272	44.7	404	29.9	442	32.7	247	19.4	536	42.1
数学	453	55.4	296	36.2	242	39.7	293	48.1	532	39.4	565	41.9	430	33.8	589	46.2
理科	553	67.7	182	22.3	299	49.1	224	36.8	685	50.7	294	21.8	409	32.1	409	32.1
物理	280	34.3	248	30.4	92	15.1	253	41.5	392	29.0	491	36.4	130	10.2	620	48.7
化学	393	48.1	178	21.8	145	23.8	219	36.0	486	36.0	427	31.6	245	19.2	600	47.1
生物	414	50.7	158	19.3	212	34.8	164	26.9	529	39.2	345	25.6	441	34.6	371	29.1
地学	167	20.4	325	39.8	75	12.3	265	43.5	234	17.3	528	39.1	117	9.2	546	42.9
英語	328	40.1	393	48.1	297	48.8	247	40.6	327	24.2	758	56.1	409	32.1	605	47.5
音楽	339	41.5	355	43.5	468	76.8	80	13.1	573	42.4	388	28.7	820	64.4	141	11.1
美術	408	49.9	289	35.4	397	65.2	134	22.0	514	38.1	395	29.3	676	53.1	242	19.0
工芸	339	41.5	200	24.5	255	41.9	125	20.5	546	40.4	279	20.7	516	40.5	212	16.6
書道	141	17.3	448	54.8	210	34.5	224	36.8	267	19.8	559	41.4	418	32.8	328	25.7
保健・体育	667	81.6	83	10.2	392	64.4	131	21.5	1015	75.2	106	7.9	773	60.7	215	16.9
技術・家庭	550	67.3	144	17.6	380	62.4	118	19.4	687	50.9	240	17.8	715	56.1	168	13.2
情報	223	27.3	282	34.5	152	25.0	187	30.7	568	42.1	336	24.9	503	39.5	321	25.2
A検査視点	14点以上				9点以上				14点以上				8以上			

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-4 Iタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 I(n=738)				中学生女子 I(n=603)				高校生男子 I(n=1,313)				高校生女子 I(n=1,327)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	268	36.3	318	43.1	326	54.1	175	29.0	406	30.9	434	33.1	666	50.2	268	20.2
古典	158	21.4	309	41.9	163	27.0	207	34.3	239	18.2	595	45.3	441	33.2	423	31.9
世界史	348	47.2	172	23.3	207	34.3	178	29.5	549	41.8	306	23.3	486	36.6	407	30.7
日本史	402	54.5	169	22.9	266	44.1	172	28.5	521	39.7	318	24.2	498	37.5	388	29.2
地理	311	42.1	259	35.1	170	28.2	307	50.9	404	30.8	365	27.8	269	20.3	534	40.2
政治・経済	205	27.8	252	34.1	76	12.6	286	47.4	305	23.2	410	31.2	184	13.9	528	39.8
現代社会	230	31.2	215	29.1	118	19.6	228	37.8	378	28.8	301	22.9	293	22.1	423	31.9
数学	445	60.3	210	28.5	270	44.8	255	42.3	591	45.0	405	30.8	431	32.5	611	46.0
理科	600	81.3	69	9.3	379	62.9	147	24.4	783	59.6	155	11.8	526	39.6	267	20.1
物理	360	48.8	120	16.3	139	23.1	188	31.2	495	37.7	308	23.5	179	13.5	568	42.8
化学	474	64.2	55	7.5	225	37.3	140	23.2	653	49.7	244	18.6	405	30.5	449	33.8
生物	422	57.2	86	11.7	260	43.1	107	17.7	636	48.4	177	13.5	653	49.2	216	16.3
地学	224	30.4	200	27.1	100	16.6	211	35.0	303	23.1	317	24.1	203	15.3	416	31.3
英語	306	41.5	306	41.5	335	55.6	193	32.0	329	25.1	629	47.9	478	36.0	530	39.9
音楽	273	37.0	314	42.5	441	73.1	94	15.6	441	33.6	389	29.6	785	59.2	161	12.1
美術	322	43.6	294	39.8	388	64.3	144	23.9	424	32.3	404	30.8	680	51.2	238	17.9
工芸	258	35.0	195	26.4	222	36.8	132	21.9	387	29.5	288	21.9	432	32.6	218	16.4
書道	122	16.5	396	53.7	198	32.8	210	34.8	216	16.5	515	39.2	406	30.6	331	24.9
保健・体育	465	63.0	152	20.6	320	53.1	188	31.2	718	54.7	214	16.3	599	45.1	324	24.4
技術・家庭	430	58.3	164	22.2	335	55.6	152	25.2	494	37.6	240	18.3	591	44.5	204	15.4
情報	265	35.9	182	24.7	173	28.7	155	25.7	529	40.3	224	17.1	448	33.8	311	23.4
A検査視点	13点以上				8点以上				11点以上				8以上			

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-5 Aタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子		中学生女子		高校生男子		高校生女子									
	A(n=815)		A(n=652)		A(n=1,289)		A(n=1,340)									
	好き	きらい	好き	きらい	好き	きらい	好き	きらい								
	人	%	人	%	人	%	人	%								
国語	319	39.1	333	40.9	365	56.0	186	28.5	536	41.6	355	27.5	796	59.4	189	14.1
古典	139	17.1	386	47.4	157	24.1	239	36.7	228	17.7	640	49.7	406	30.3	496	37.0
世界史	313	38.4	254	31.2	181	27.8	236	36.2	475	36.9	417	32.4	451	33.7	493	36.8
日本史	385	47.2	235	28.8	239	36.7	225	34.5	466	36.2	404	31.3	469	35.0	472	35.2
地理	298	36.6	335	41.1	158	24.2	363	55.7	322	25.0	498	38.6	225	16.8	627	46.8
政治・経済	158	19.4	384	47.1	60	9.2	339	52.0	251	19.5	554	43.0	184	13.7	644	48.1
現代社会	237	29.1	297	36.4	107	16.4	259	39.7	344	26.7	422	32.7	275	20.5	521	38.9
数学	417	51.2	287	35.2	236	36.2	344	52.8	438	34.0	586	45.5	307	22.9	781	58.3
理科	491	60.2	212	26.0	313	48.0	241	37.0	521	40.4	357	27.7	362	27.0	487	36.3
物理	236	29.0	282	34.6	95	14.6	262	40.2	304	23.6	527	40.9	109	8.1	728	54.3
化学	345	42.3	200	24.5	163	25.0	233	35.7	380	29.5	479	37.2	227	16.9	677	50.5
生物	358	43.9	183	22.5	243	37.3	157	24.1	464	36.0	362	28.1	499	37.2	389	29.0
地学	153	18.8	323	39.6	62	9.5	279	42.8	202	15.7	501	38.9	147	11.0	552	41.2
英語	361	44.3	342	42.0	347	53.2	225	34.5	381	29.6	609	47.2	494	36.9	551	41.1
音楽	418	51.3	252	30.9	531	81.4	71	10.9	693	53.8	218	16.9	981	73.2	104	7.8
美術	506	62.1	179	22.0	517	79.3	82	12.6	728	56.5	202	15.7	1014	75.7	93	6.9
工芸	323	39.6	197	24.2	275	42.2	110	16.9	502	38.9	256	19.9	588	43.9	174	13.0
書道	167	20.5	391	48.0	221	33.9	232	35.6	258	20.0	479	37.2	457	34.1	369	27.5
保健・体育	629	77.2	99	12.1	328	50.3	234	35.9	813	63.1	161	12.5	629	46.9	361	26.9
技術・家庭	494	60.6	168	20.6	393	60.3	145	22.2	572	44.4	251	19.5	701	52.3	200	14.9
情報	307	37.7	201	24.7	223	34.2	141	21.6	581	45.1	269	20.9	545	40.7	319	23.8
A検査観点	11点以上		15点以上		11点以上		13以上									

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-6 Sタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子		中学生女子		高校生男子		高校生女子									
	S(n=800)		S(n=730)		S(n=1,365)		S(n=1,137)									
	好き	きらい	好き	きらい	好き	きらい	好き	きらい								
	人	%	人	%	人	%	人	%								
国語	311	38.9	357	44.6	409	56.0	214	29.3	534	39.1	425	31.1	575	49.0	293	25.0
古典	132	16.5	415	51.9	129	17.7	331	45.3	245	17.9	674	49.4	269	22.9	531	45.3
世界史	301	37.6	268	33.5	165	22.6	312	42.7	472	34.6	452	33.1	290	24.7	567	48.3
日本史	399	49.9	219	27.4	232	31.8	291	39.9	508	37.2	411	30.1	294	25.1	519	44.2
地理	309	38.6	327	40.9	181	24.8	409	56.0	386	28.3	471	34.5	217	18.5	562	47.9
政治・経済	164	20.5	381	47.6	70	9.6	395	54.1	279	20.4	561	41.1	129	11.0	596	50.8
現代社会	218	27.3	313	39.1	139	19.0	308	42.2	419	30.7	398	29.2	251	21.4	462	39.4
数学	429	53.6	287	35.9	290	39.7	364	49.9	536	39.3	564	41.3	372	31.7	600	51.2
理科	483	60.4	216	27.0	318	43.6	293	40.1	568	41.6	351	25.7	324	27.6	437	37.3
物理	237	29.6	291	36.4	101	13.8	320	43.8	285	20.9	547	40.1	72	6.1	650	55.4
化学	354	44.3	216	27.0	154	21.1	300	41.1	400	29.3	507	37.1	176	15.0	611	52.1
生物	387	48.4	181	22.6	256	35.1	203	27.8	500	36.6	367	26.9	418	35.6	365	31.1
地学	156	19.5	327	40.9	66	9.0	346	47.4	194	14.2	515	37.7	90	7.7	523	44.6
英語	359	44.9	333	41.6	423	57.9	228	31.2	427	31.3	614	45.0	480	40.9	463	39.5
音楽	395	49.4	276	34.5	613	84.0	70	9.6	667	48.9	280	20.5	838	71.4	90	7.7
美術	419	52.4	258	32.3	429	58.8	215	29.5	513	37.6	402	29.5	540	46.0	292	24.9
工芸	301	37.6	234	29.3	262	35.9	187	25.6	425	31.1	340	24.9	361	30.8	287	24.5
書道	176	22.0	411	51.4	282	38.6	241	33.0	281	20.6	507	37.1	414	35.3	328	28.0
保健・体育	635	79.4	87	10.9	497	68.1	143	19.6	999	73.2	116	8.5	771	65.7	163	13.9
技術・家庭	479	59.9	193	24.1	483	66.2	132	18.1	612	44.8	249	18.2	683	58.2	141	12.0
情報	252	31.5	263	32.9	237	32.5	187	25.6	550	40.3	304	22.3	428	36.5	332	28.3
A検査観点	10点以上		14点以上		10点以上		14以上									

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-7 Eタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 E(n=823)				中学生女子 E(n=670)				高校生男子 E(n=1,146)				高校生女子 E(n=1,312)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	330	40.1	329	40.0	363	54.2	195	29.1	434	37.9	360	31.4	695	53.0	267	20.4
古典	135	16.4	378	45.9	141	21.0	303	45.2	206	18.0	585	51.0	342	26.1	560	42.7
世界史	338	41.1	212	25.8	182	27.2	276	41.2	448	39.1	319	27.8	371	28.3	544	41.5
日本史	431	52.4	193	23.5	248	37.0	252	37.6	472	41.2	297	25.9	408	31.1	507	38.6
地理	309	37.5	325	39.5	155	23.1	395	59.0	332	29.0	393	34.3	257	19.6	600	45.7
政治・経済	180	21.9	329	40.0	87	13.0	364	54.3	313	27.3	402	35.1	216	16.5	558	42.5
現代社会	244	29.6	258	31.3	150	22.4	276	41.2	388	33.9	306	26.7	328	25.0	457	34.8
数学	431	52.4	280	34.0	275	41.0	324	48.4	415	36.2	513	44.8	365	27.8	725	55.3
理科	491	59.7	225	27.3	296	44.2	276	41.2	448	39.1	328	28.6	354	27.0	514	39.2
物理	233	28.3	267	32.4	92	13.7	298	44.5	259	22.6	476	41.5	107	8.2	696	53.0
化学	313	38.0	206	25.0	160	23.9	266	39.7	348	30.4	422	36.8	223	17.0	671	51.1
生物	325	39.5	188	22.8	234	34.9	197	29.4	403	35.2	328	28.6	422	32.2	422	32.2
地学	139	16.9	313	38.0	70	10.4	308	46.0	179	15.6	438	38.2	117	8.9	569	43.4
英語	403	49.0	293	35.6	397	59.3	202	30.1	398	34.7	478	41.7	575	43.8	471	35.9
音楽	379	46.1	299	36.3	552	82.4	63	9.4	559	48.8	235	20.5	918	70.0	119	9.1
美術	384	46.7	289	35.1	439	65.5	148	22.1	449	39.2	329	28.7	713	54.3	226	17.2
工芸	258	31.3	252	30.6	275	41.0	150	22.4	340	29.7	312	27.2	461	35.1	247	18.8
書道	142	17.3	435	52.9	254	37.9	238	35.5	211	18.4	463	40.4	467	35.6	335	25.5
保健・体育	655	79.6	76	9.2	438	65.4	154	23.0	792	69.1	121	10.6	767	58.5	227	17.3
技術・家庭	446	54.2	217	26.4	415	61.9	141	21.0	451	39.4	259	22.6	693	52.8	179	13.6
情報	299	36.3	196	23.8	244	36.4	151	22.5	491	42.8	242	21.1	498	38.0	322	24.5
A検査視点	12点以上				11点以上				12点以上				11以上			

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-8 Cタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 C(n=880)				中学生女子 C(n=697)				高校生男子 C(n=1,243)				高校生女子 C(n=1,342)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	311	35.3	383	43.5	344	49.4	212	30.4	425	34.2	408	32.8	639	47.6	300	22.4
古典	141	16.0	407	46.3	130	18.7	288	41.3	189	15.2	617	49.6	343	25.6	546	40.7
世界史	318	36.1	266	30.2	174	25.0	283	40.6	413	33.2	377	30.3	326	24.3	597	44.5
日本史	444	50.5	202	23.0	235	33.7	253	36.3	430	34.6	363	29.2	384	28.6	524	39.0
地理	350	39.8	332	37.7	167	24.0	369	52.9	331	26.6	396	31.9	246	18.3	609	45.4
政治・経済	216	24.5	328	37.3	95	13.6	324	46.5	307	24.7	375	30.2	217	16.2	561	41.8
現代社会	251	28.5	282	32.0	145	20.8	255	36.6	361	29.0	294	23.7	274	20.4	480	35.8
数学	587	66.7	199	22.6	337	48.4	284	40.7	637	51.2	386	31.1	533	39.7	566	42.2
理科	553	62.8	201	22.8	298	42.8	283	40.6	562	45.2	254	20.4	341	25.4	506	37.7
物理	291	33.1	238	27.0	96	13.8	283	40.6	348	28.0	395	31.8	109	8.1	645	48.1
化学	393	44.7	182	20.7	153	22.0	255	36.6	452	36.4	343	27.6	242	18.0	620	46.2
生物	321	36.5	223	25.3	198	28.4	211	30.3	378	30.4	330	26.5	382	28.5	406	30.3
地学	162	18.4	311	35.3	70	10.0	287	41.2	196	15.8	392	31.5	114	8.5	542	40.4
英語	436	49.5	309	35.1	391	56.1	217	31.1	359	28.9	578	46.5	494	36.8	569	42.4
音楽	337	38.3	352	40.0	520	74.6	103	14.8	436	35.1	363	29.2	833	62.1	136	10.1
美術	332	37.7	377	42.8	355	50.9	241	34.6	346	27.8	448	36.0	513	38.2	394	29.4
工芸	232	26.4	287	32.6	215	30.8	183	26.3	295	23.7	329	26.5	343	25.6	331	24.7
書道	165	18.8	444	50.5	241	34.6	243	34.9	200	16.1	472	38.0	456	34.0	334	24.9
保健・体育	595	67.6	147	16.7	389	55.8	212	30.4	698	56.2	186	15.0	649	48.4	323	24.1
技術・家庭	486	55.2	206	23.4	432	62.0	143	20.5	468	37.7	239	19.2	637	47.5	203	15.1
情報	330	37.5	202	23.0	235	33.7	138	19.8	707	56.9	144	11.6	698	52.0	196	14.6
A検査視点	10点以上				11点以上				10点以上				11以上			

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

④ Sタイプ(図表 12-6)

Sタイプの好きな科目である。中学校男子では保健・体育、理科、技術・家庭、数学、美術の順である。高等学校男子では保健・体育、音楽、技術・家庭、理科、情報の順である。中学校女子では音楽、保健・体育、技術・家庭、美術、英語の順である。高等学校女子では美術、音楽、国語、技術・家庭、保健・体育の順である。中学男子の美術は他にAタイプで登場するだけである。中学女子の音楽 84.0%、保健・体育 68.1%、技術・家庭 66.2%、高校女子の音楽 71.4%、保健・体育 65.7%、技術・家庭 58.2%は高校女子の音楽を除いてその科目の中でSタイプが最高値である。男子ではそういう特色は見いだせない。音楽、保健・体育、技術・家庭はSタイプ女子の好む典型的な科目であると言える。Rタイプと反対の位置づけにあるように思える。

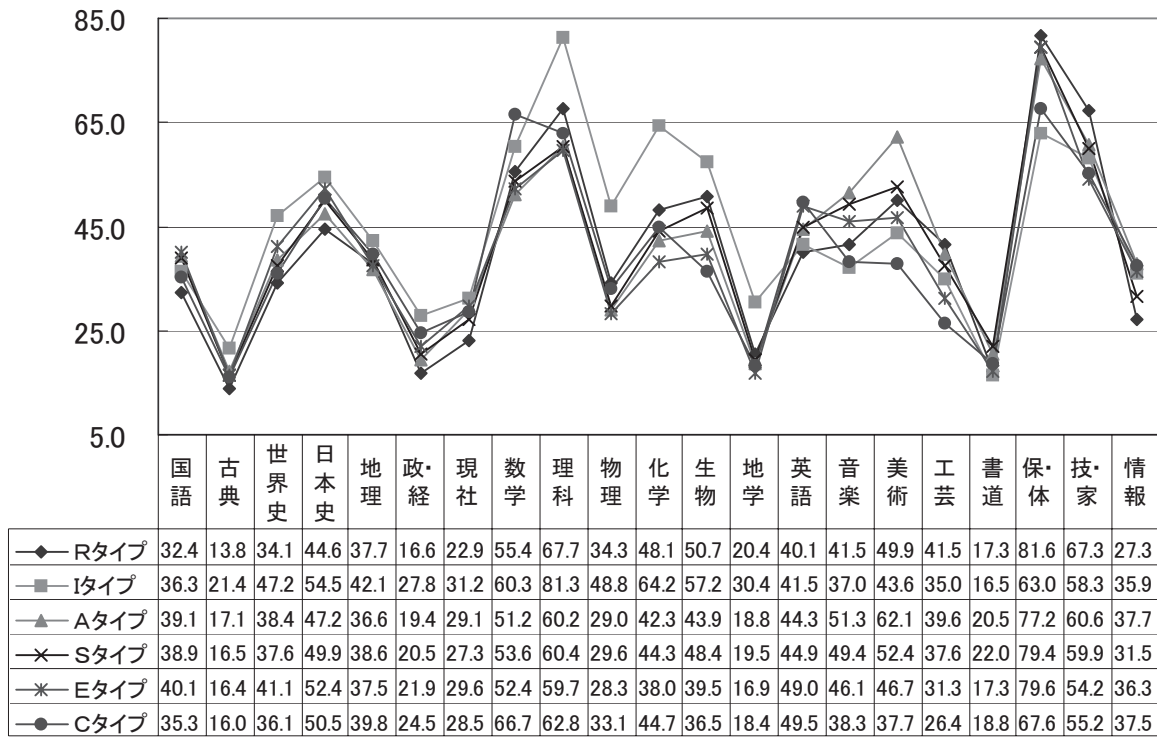
⑤ Eタイプ(図表 12-7)

Eタイプの好きな科目である。男子は中学校で保健・体育、理科、技術・家庭、数学、日本史の順、高等学校で保健・体育、音楽、情報、日本史、技術・家庭の順である。女子は中学校で音楽、美術、保健・体育、技術・家庭、英語の順、高等学校で美術、音楽、国語、技術・家庭、保健・体育の順である。高校男子の日本史が他で登場せず、中学男子でも他にCタイプでしか登場しないため、Eタイプ男子の好む特徴的な科目だと言える。中学女子の英語 59.3%と高校女子の英語 43.8%はそれぞれ科目の中でEタイプが最高値である。Eタイプの女子は比較的英語を好むと言える。

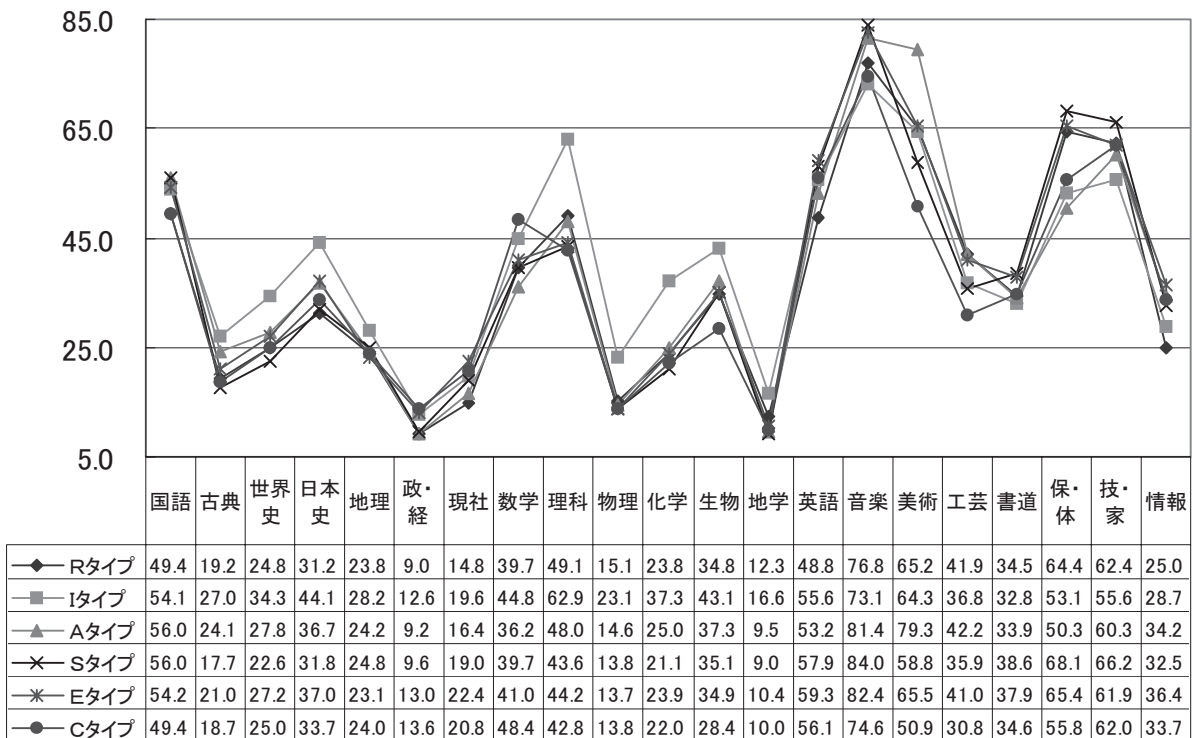
⑥ Cタイプ(図表 12-8)

最後にCタイプである。好きな科目は次の通りである。男子は中学校で保健・体育、数学、理科、技術・家庭、日本史の順、高等学校で情報、保健・体育、数学、理科、技術・家庭の順である。女子は中学校で音楽、技術・家庭、英語、保健・体育、美術の順、高等学校で音楽、情報、保健・体育、国語、技術・家庭の順である。中学男子の日本史は他にEタイプに登場するだけである。高校男子の数学は他にIタイプで登場する。高校女子の情報は他で登場しない。中学生の数学(男子 66.7%、女子 48.4%)、高校生の数学(男子 51.2%、女子 39.7%)と情報(男子 56.9%、女子 52.0%)はその科目の中でCタイプが最も高い数値である。数学、情報を好むところがCタイプの特徴と言える。

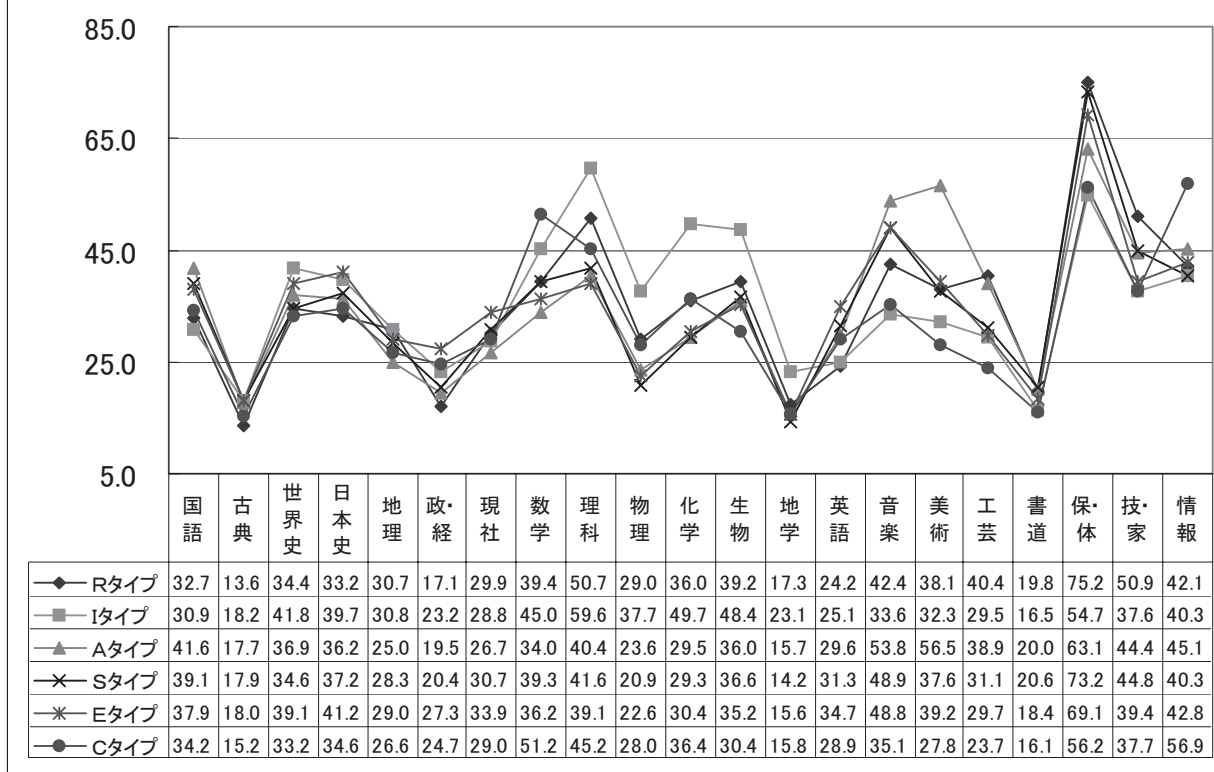
図12-9 中学生男子の職業興味タイプと好きな科目



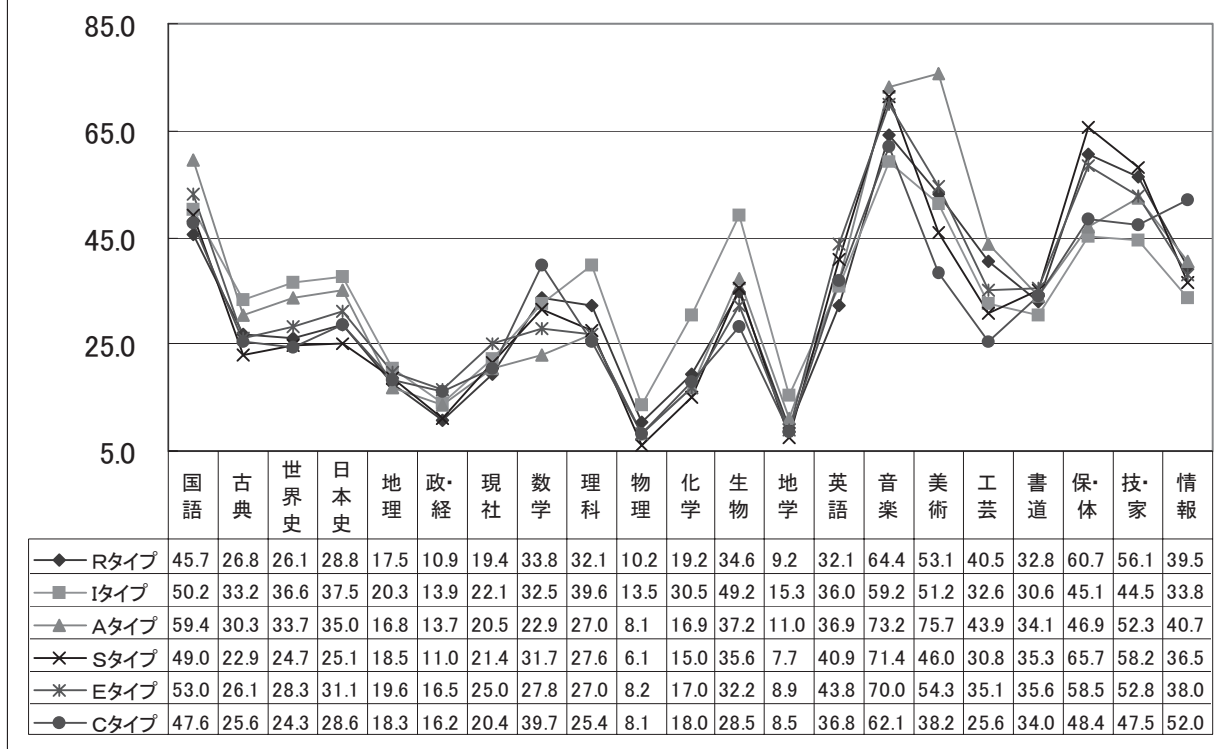
図表12-10 中学生女子の職業興味タイプと好きな科目



図表12-11 高校生男子の職業興味タイプと好きな科目



図表12-12 高校生女子の職業興味タイプと好きな科目



12-3-3 好きな科目別にみたA検査各尺度得点との関連の検討

中学校、高等学校それぞれにおいて各科目別にその科目を「好き」と回答した者のA検査の尺度の平均値と標準偏差を算出した。中学生と高校生の全体の結果を図表 12-13 に、中学生男女別の結果を図表 12-14、高校生男女別の結果を図表 12-15 に示す。それぞれの表で科目ごとに最も平均値の高い上位3つの職業興味に網掛けをした。なお、結果の解釈においては、各尺度の平均値の高い値から上位3領域の頭文字を並べて3レターコードとした。

結果は特に男女間に大きな差が見られ、全体の数値は男女の比率に従って合成された数値だと考えられた。すなわち、男女別にみると、科目に関係なくA検査の各尺度の平均値の高さが反映されている結果となっている。また、全体的な回答傾向として、中学生の科目に対する理解が十分でないと判断し、主に高等学校のデータを使った。

全体の平均値では、物理とRタイプ、地学とIタイプ、美術とAタイプ、政治・経済とEタイプ、情報とCタイプについては、各科目の内容や印象と各タイプの興味関心がよく一致した。その他にも職業興味のA検査の各尺度得点と各科目に対する興味・関心に関係がある様子がわかった。さらに、男子を人文系のREAタイプ、芸術系のRAEタイプ、社会学系のREIタイプ、理科系RIEタイプの4タイプに、女子を普通系のSAEタイプ、芸術系のASEタイプ、情報系のSACタイプの3タイプに分けることができた。以下、科目の分類にしたがって、それぞれの特徴をみる。

①国語科の科目

国語の科目は同じ傾向である。国語は全体ではASE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。古典は全体ではASE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。男子のS得点6.27は全ての科目で最も高い値である。男子で古典を好む生徒は少ないが、古典が好きな少数の生徒はS得点が高いということになる。

②社会科の科目

社会科の科目は、世界史は全体ではAES、男子はREA、女子はASEの順に高い。日本史は全体ではASE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。地理は全体ではRSE、男子はREI、女子はSAEの順に高い。女子のS得点8.91は全ての科目で最も高い値である。女子で地理を好む生徒は少ないが、地理が好きな生徒はS得点が高い。政治経済は全体ではEAS、男子はREI、女子はSAEの順に高い。全体のE得点7.52、男子のE得点7.68、女子のE得点7.27はそれぞれ全ての科目で最も高い値である。政治や経済の内容とEタイプの興味関心がよく一致しているように思う。現代社会は全体ではSEA、男子はREA、女子はSAEの順に高い。

③理数科の科目

理数系の科目を見る。数学は全体ではSCR、男子はREI、女子はSACの順に高い。全体のA得点 6.19、男子のA得点 5.63、女子のA得点 6.91 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。全体のE得点 6.12、女子のE得点 5.88 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。表現や企画の機会の少ない、指示通り単調な作業をやらされる授業が行われていることが予想される。

理科は全体ではRSA、男子はRIE、女子はSAEの順に高い。男子のE得点 6.27 は全ての科目で最も低い値である。

物理は全体ではRIA、男子はRIE、女子はSAEの順に高い。全体のR得点 7.96、女子のR得点 4.57 はそれぞれ全ての科目で最も高い値である。全体のS得点 6.04、男子のS得点 5.36 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。対人興味よりも対物興味がまさる生徒が物理を好んでいると考えられる。物理はその学習内容からもRタイプの興味関心をよく表した科目だと言える。

化学は全体ではRIA、男子はRIE、女子はSAEの順に高い。生物は全体ではSAE、男子はRIE、女子はSAEの順に高い。

地学は全体ではIAR、男子はRIE、女子はASEの順に高い。全体のI得点 7.43、男子のI得点 8.09、女子のI得点 6.32 は全ての科目で最も高い値である。高等学校の中で最も研究的な科目と言うべきである。宇宙や地球といった科学のロマンの印象が強いのかも知れない。

④英語

英語は全体ではASE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。全体のR得点 4.81、男子のR得点 7.60、女子のR得点 2.95 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。対物興味の最も低い科目である

⑤芸術科の科目

芸術の科目を見てみる。音楽は全体ではSAE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。男子のA得点は全ての科目で最も高い値である。全体のI得点 3.81 は全ての科目で最も低い値である。実技中心で研究的なことが少ない授業が行われていることが予想される。美術は全体ではASE、男子はRAE、女子はASEの順に高い。全体のA得点 8.38、男子のA得点 7.43、女子のA得点 9.03 はそれぞれ全ての科目で最も高い値である。また、全体のC得点 4.81、男子のC得点 4.46、女子のC得点 5.06、女子のS得点 7.86 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。科目の内容とAタイプの興味関心がたいへんよく一致していると考えられる。工芸は全体ではASR、男子はRAE、女子はASEの順に高い。男子のR得点 9.54 は全ての科目で最も高い値である。工芸を履修選択している生徒は少ないはずだが、男子については、中学校の技術や工業からの連想で回答したものと思われる。書道は全体ではSAE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。全体のS得点 7.69 は全ての科目で最も高い値

である。書道も選択履修している生徒は少ないが、中学校国語科の書写のイメージが強いと考えられる。

⑥保健・体育

保健・体育は全体ではS E A、男子はR E A、女子はS A Eの順に高い。男子のI得点4.95、女子のI得点2.90はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。実技中心の授業の様子と一致している。

⑦技術・家庭

技術・家庭は全体ではS A E、男子はR E A、女子はS A Eの順に高い。情報は全体ではA S C、男子はR E A、女子はS A Cの順に高い。全体のC得点6.67、男子のC得点6.22、女子のC得点7.14はそれぞれ全ての科目で最も高い値である。科目の内容とIタイプの興味関心がよく一致していると考えられる。

以上の結果をまとめると、男子をR A Eタイプ、R E Aタイプ、R E Iタイプ、R I Eタイプの4タイプに、女子をS A Eタイプ、A S Eタイプ、S A Cタイプの3タイプに分けることができる。第Ⅱ部第6章によると高校生の男子は平均値ではR E Aタイプであるが、そのR E Aタイプが「国語、古典、世界史、日本史、現社、英語、音楽、書道、保健・体育、技術・家庭、情報」を好む人文学系、R A Eタイプが「美術、工芸」を好む芸術系、R E Iタイプが「地理、政治経済、数学」を好む社会学系、R I Eタイプが「理科、物理、化学、生物、地学」を好む理科系のタイプとすることができる。

女子は、平均値ではS A Eタイプとなっている。そのS A Eタイプが「国語、古典、日本史、地理、政治経済、現社、理科、物理、化学、生物、英語、音楽、書道、保健・体育、技術・家庭」を好む普通系、A S Eタイプが「世界史、地学、美術、工芸」を好む芸術系、S A Cタイプが「数学、情報」を好む情報系のタイプだと言える。

ちなみに中学生では男子が国語、日本史、現代社会、数学、英語、工芸、書道、保健・体育、技術・家庭、情報がR E I、古典、世界史、地理、理科、物理、化学、生物、地学がR I E、政治・経済がI R E、音楽と美術がR E Aを示している。女子は、現代社会、数学、英語、書道、保健・体育、技術・家庭がS A E、国語、古典、世界史、日本史、地理、政治・経済、理科、物理、化学、生物、地学、音楽、美術、工芸、情報がA S Eを示しており、高校生のデータに比べると、科目の情報不足等から正確な興味関心を示していないか、興味関心が未分化であるかのどちらかであることがわかる。

図表12-13 中学生全体と高校生全体における各科目を「好き」と回答した者の興味(A検査)各尺度の平均値(mean)と標準偏差(SD)

科目	尺度	中学生全体						高校生全体					
		R	I	A	S	E	C	R	I	A	S	E	C
国語	mean	5.12	5.04	7.65	7.30	6.75	5.29	5.04	4.20	7.34	7.24	6.35	5.36
	SD	(4.95)	(4.89)	(4.94)	(4.74)	(4.48)	(4.48)	(4.98)	(4.53)	(4.88)	(4.73)	(4.50)	(4.58)
古典	mean	5.64	6.48	8.15	7.16	7.17	5.63	5.10	5.24	7.68	7.59	6.62	5.79
	SD	(5.02)	(5.24)	(5.02)	(4.74)	(4.66)	(4.62)	(5.00)	(4.95)	(5.00)	(4.77)	(4.58)	(4.75)
世界史	mean	6.39	6.63	7.18	6.54	7.13	5.38	6.10	5.55	7.11	6.60	6.66	5.28
	SD	(5.13)	(5.15)	(4.90)	(4.60)	(4.56)	(4.54)	(5.26)	(4.94)	(4.89)	(4.69)	(4.53)	(4.55)
日本史	mean	6.13	6.19	7.02	6.51	6.95	5.40	5.90	5.28	6.94	6.70	6.61	5.35
	SD	(5.11)	(5.06)	(4.90)	(4.65)	(4.54)	(4.51)	(5.15)	(4.86)	(4.87)	(4.65)	(4.55)	(4.59)
地理	mean	6.51	6.12	6.83	6.56	6.86	5.55	7.00	5.50	6.64	6.93	6.83	5.56
	SD	(5.15)	(5.02)	(4.83)	(4.59)	(4.41)	(4.57)	(5.33)	(4.98)	(4.73)	(4.71)	(4.56)	(4.62)
政治・経済	mean	6.48	7.12	7.02	6.63	7.76	6.46	6.04	5.63	6.93	6.79	7.52	6.41
	SD	(5.18)	(5.46)	(4.91)	(4.70)	(4.63)	(4.82)	(5.26)	(5.01)	(4.87)	(4.75)	(4.82)	(4.97)
現代社会	mean	6.34	6.33	7.26	6.93	7.55	5.97	6.23	5.01	6.78	7.15	6.92	5.71
	SD	(5.17)	(5.26)	(4.92)	(4.78)	(4.64)	(4.71)	(5.37)	(4.85)	(4.79)	(4.78)	(4.67)	(4.69)
数学	mean	6.14	5.65	6.60	6.38	6.64	5.77	6.27	5.04	6.19	6.83	6.12	6.27
	SD	(5.07)	(4.99)	(4.80)	(4.56)	(4.39)	(4.57)	(5.18)	(4.92)	(4.55)	(4.72)	(4.42)	(4.77)
理科	mean	6.44	6.35	6.77	6.28	6.53	5.21	7.04	6.11	6.61	6.68	6.24	5.55
	SD	(5.16)	(5.12)	(4.89)	(4.62)	(4.44)	(4.42)	(5.32)	(5.15)	(4.73)	(4.72)	(4.46)	(4.53)
物理	mean	7.57	7.78	6.81	6.22	6.95	5.63	7.96	7.07	6.53	6.04	6.46	5.85
	SD	(5.21)	(5.23)	(4.87)	(4.64)	(4.47)	(4.57)	(5.25)	(5.25)	(4.71)	(4.59)	(4.55)	(4.61)
化学	mean	7.21	7.31	6.80	6.22	6.75	5.46	7.22	6.97	6.63	6.43	6.43	5.92
	SD	(5.18)	(5.11)	(4.87)	(4.58)	(4.45)	(4.48)	(5.27)	(5.28)	(4.78)	(4.70)	(4.58)	(4.67)
生物	mean	6.72	6.56	7.08	6.66	6.69	5.01	6.24	5.85	7.03	7.14	6.25	5.25
	SD	(5.23)	(5.04)	(4.94)	(4.72)	(4.46)	(4.33)	(5.23)	(5.12)	(4.87)	(4.79)	(4.51)	(4.50)
地学	mean	7.48	7.95	7.23	6.60	7.11	5.73	7.25	7.43	7.33	6.73	6.88	5.75
	SD	(5.26)	(5.40)	(4.98)	(4.65)	(4.66)	(4.64)	(5.42)	(5.34)	(5.03)	(4.80)	(4.65)	(4.72)
英語	mean	5.10	4.97	7.27	7.07	6.85	5.45	4.81	4.04	6.79	7.45	6.54	5.34
	SD	(4.90)	(4.83)	(4.88)	(4.67)	(4.47)	(4.56)	(4.92)	(4.51)	(4.71)	(4.68)	(4.55)	(4.61)
音楽	mean	4.75	4.45	7.71	7.36	6.56	4.98	5.03	3.81	7.42	7.55	6.47	5.18
	SD	(4.84)	(4.64)	(4.86)	(4.69)	(4.41)	(4.42)	(5.00)	(4.39)	(4.74)	(4.71)	(4.43)	(4.56)
美術	mean	5.48	5.01	8.17	6.90	6.64	4.80	5.53	4.29	8.38	6.94	6.52	4.81
	SD	(5.05)	(4.81)	(4.91)	(4.68)	(4.43)	(4.27)	(5.09)	(4.54)	(4.80)	(4.70)	(4.41)	(4.36)
工芸	mean	6.42	5.50	7.96	6.92	6.82	4.87	6.85	4.76	7.98	6.92	6.64	5.00
	SD	(5.24)	(4.93)	(4.91)	(4.74)	(4.47)	(4.32)	(5.31)	(4.76)	(4.84)	(4.76)	(4.47)	(4.46)
書道	mean	4.92	4.77	7.84	7.69	6.76	5.43	5.17	3.98	7.07	7.69	6.38	5.47
	SD	(4.83)	(4.72)	(4.86)	(4.73)	(4.40)	(4.52)	(5.04)	(4.51)	(4.80)	(4.68)	(4.47)	(4.65)
保健・体育	mean	6.08	4.90	6.71	6.70	6.70	4.92	6.25	4.01	6.31	7.07	6.39	4.90
	SD	(5.15)	(4.72)	(4.70)	(4.65)	(4.42)	(4.34)	(5.24)	(4.45)	(4.59)	(4.72)	(4.43)	(4.42)
技術・家庭	mean	5.96	5.08	7.28	6.99	6.60	5.24	5.96	4.10	7.08	7.39	6.36	5.32
	SD	(5.20)	(4.84)	(4.85)	(4.71)	(4.39)	(4.45)	(5.29)	(4.57)	(4.72)	(4.78)	(4.41)	(4.57)
情報	mean	5.82	5.64	7.76	6.91	7.38	5.93	6.01	4.50	7.05	6.80	6.41	6.67
	SD	(5.01)	(5.11)	(4.99)	(4.80)	(4.56)	(4.65)	(5.25)	(4.74)	(4.79)	(4.75)	(4.51)	(4.76)

注: 各科目で平均値が高い上位3タイプに網掛け

図表12-14 中学生男女別にみた各科目を「好き」と回答した者の興味(A検査)各尺度の平均値(mean)と標準偏差(SD)

科目	中学生男子						中学生女子					
	R	I	A	S	E	C	R	I	A	S	E	C
国語	7.75 (5.08)	6.68 (5.06)	6.14 (4.55)	5.63 (4.27)	7.06 (4.63)	5.27 (4.47)	3.31 (3.94)	3.92 (4.44)	8.68 (4.93)	8.44 (4.71)	6.53 (4.36)	5.31 (4.49)
古典	7.89 (5.04)	7.87 (5.34)	6.55 (4.62)	5.85 (4.31)	7.39 (4.74)	5.60 (4.65)	3.76 (4.14)	5.33 (4.85)	9.48 (4.96)	8.25 (4.82)	6.99 (4.59)	5.66 (4.61)
世界史	7.91 (5.04)	7.36 (5.17)	6.05 (4.46)	5.51 (4.17)	7.23 (4.56)	5.25 (4.42)	3.76 (4.10)	5.35 (4.86)	9.13 (5.02)	8.30 (4.77)	6.96 (4.56)	5.62 (4.73)
日本史	7.82 (5.00)	7.03 (5.06)	5.85 (4.46)	5.40 (4.19)	7.04 (4.55)	5.31 (4.45)	3.40 (3.96)	4.83 (4.74)	8.90 (4.98)	8.28 (4.78)	6.79 (4.53)	5.54 (4.60)
地理	8.13 (5.05)	6.96 (5.09)	5.83 (4.49)	5.42 (4.16)	6.92 (4.46)	5.53 (4.48)	3.69 (3.96)	4.64 (4.52)	8.59 (4.88)	8.55 (4.63)	6.78 (4.33)	5.58 (4.72)
政治・経済	7.85 (5.14)	8.03 (5.48)	6.23 (4.65)	5.73 (4.33)	7.75 (4.65)	6.33 (4.78)	3.63 (3.96)	5.21 (4.89)	8.68 (5.02)	8.49 (4.89)	7.77 (4.59)	6.72 (4.91)
現代社会	8.04 (5.11)	7.35 (5.30)	6.41 (4.68)	5.71 (4.25)	7.64 (4.60)	5.86 (4.62)	3.60 (3.94)	4.67 (4.76)	8.63 (5.00)	8.91 (4.92)	7.40 (4.70)	6.16 (4.85)
数学	7.86 (4.96)	6.59 (5.03)	5.53 (4.39)	5.08 (4.03)	6.68 (4.42)	5.65 (4.45)	3.47 (3.94)	4.20 (4.57)	8.27 (4.92)	8.39 (4.62)	6.57 (4.34)	5.96 (4.74)
理科	8.13 (5.02)	7.20 (5.10)	5.57 (4.40)	5.06 (4.06)	6.55 (4.43)	5.14 (4.32)	3.69 (4.10)	4.99 (4.83)	8.73 (5.03)	8.26 (4.80)	6.50 (4.45)	5.33 (4.58)
物理	8.59 (5.06)	8.18 (5.18)	5.88 (4.46)	5.33 (4.16)	6.89 (4.41)	5.52 (4.43)	4.47 (4.39)	6.59 (5.19)	9.63 (4.95)	8.90 (4.95)	7.14 (4.66)	5.97 (4.98)
化学	8.46 (5.03)	7.81 (5.10)	5.80 (4.41)	5.26 (4.15)	6.71 (4.39)	5.34 (4.37)	4.17 (4.21)	6.10 (4.93)	9.23 (5.08)	8.52 (4.76)	6.84 (4.58)	5.75 (4.72)
生物	8.48 (5.08)	7.46 (5.03)	5.82 (4.44)	5.41 (4.21)	6.67 (4.46)	4.88 (4.20)	3.93 (4.15)	5.14 (4.72)	9.08 (5.02)	8.62 (4.81)	6.72 (4.45)	5.22 (4.52)
地学	8.58 (5.13)	8.49 (5.35)	6.21 (4.60)	5.69 (4.26)	7.05 (4.59)	5.63 (4.49)	4.73 (4.53)	6.60 (5.30)	9.74 (5.01)	8.87 (4.82)	7.27 (4.83)	5.98 (4.99)
英語	7.66 (4.98)	6.45 (5.01)	5.93 (4.53)	5.42 (4.18)	7.19 (4.59)	5.60 (4.60)	3.11 (3.78)	3.80 (4.34)	8.33 (4.89)	8.36 (4.63)	6.58 (4.36)	5.34 (4.52)
音楽	7.66 (5.14)	6.04 (4.96)	6.34 (4.60)	5.63 (4.27)	6.94 (4.57)	4.87 (4.35)	3.20 (3.87)	3.60 (4.22)	8.44 (4.83)	8.27 (4.64)	6.36 (4.31)	5.04 (4.45)
美術	8.27 (5.04)	6.46 (5.00)	6.66 (4.65)	5.48 (4.29)	6.91 (4.51)	4.82 (4.25)	3.40 (3.93)	3.92 (4.36)	9.30 (4.80)	7.95 (4.68)	6.44 (4.36)	4.79 (4.29)
工芸	9.00 (5.03)	6.84 (5.07)	6.47 (4.61)	5.53 (4.35)	6.91 (4.48)	4.84 (4.21)	3.91 (4.09)	4.19 (4.42)	9.41 (4.76)	8.27 (4.72)	6.73 (4.46)	4.91 (4.43)
書道	8.10 (5.02)	6.76 (5.01)	6.51 (4.58)	6.03 (4.37)	7.10 (4.49)	5.58 (4.54)	3.40 (3.91)	3.82 (4.26)	8.47 (4.86)	8.49 (4.69)	6.60 (4.35)	5.36 (4.51)
保健・体育	8.09 (5.04)	5.97 (4.88)	5.72 (4.43)	5.23 (4.16)	6.81 (4.51)	4.84 (4.28)	3.48 (3.98)	3.50 (4.12)	7.99 (4.74)	8.59 (4.57)	6.57 (4.29)	5.02 (4.42)
技術・家庭	8.51 (5.11)	6.44 (5.03)	5.96 (4.52)	5.32 (4.19)	6.70 (4.47)	5.17 (4.38)	3.50 (3.96)	3.76 (4.25)	8.55 (4.81)	8.60 (4.63)	6.51 (4.31)	5.30 (4.52)
情報	7.93 (4.92)	7.04 (5.22)	6.47 (4.68)	5.41 (4.22)	7.47 (4.63)	5.90 (4.58)	3.41 (3.90)	4.05 (4.49)	9.22 (4.92)	8.63 (4.85)	7.27 (4.47)	5.97 (4.73)

注:各科目について、平均値の高い上位3領域に網掛けをした。

図表12-15 高校生男女別にみた各科目を「好き」と回答した者の興味(A検査)各尺度の平均値(mean)と標準偏差(SD)

科目	高校生男子						高校生女子					
	R	I	A	S	E	C	R	I	A	S	E	C
国語	7.95 (5.08)	5.47 (4.72)	6.53 (4.66)	5.71 (4.41)	6.73 (4.58)	5.02 (4.42)	3.16 (3.90)	3.38 (4.20)	7.86 (4.95)	8.24 (4.66)	6.10 (4.44)	5.58 (4.67)
古典	7.81 (5.24)	6.64 (5.10)	6.80 (4.77)	6.27 (4.61)	7.15 (4.67)	5.58 (4.50)	3.59 (4.14)	4.46 (4.69)	8.17 (5.06)	8.32 (4.69)	6.32 (4.50)	5.91 (4.88)
世界史	8.05 (5.19)	6.16 (4.98)	6.25 (4.56)	5.42 (4.30)	6.82 (4.59)	5.01 (4.39)	3.50 (4.09)	4.73 (4.77)	8.25 (5.08)	8.17 (4.74)	6.44 (4.43)	5.63 (4.73)
日本史	7.88 (5.10)	6.00 (4.94)	6.08 (4.55)	5.55 (4.34)	6.86 (4.62)	5.01 (4.39)	3.46 (4.06)	4.39 (4.60)	7.99 (5.05)	8.11 (4.62)	6.29 (4.45)	5.76 (4.80)
地理	8.93 (5.02)	6.13 (5.02)	5.97 (4.47)	5.72 (4.32)	6.95 (4.58)	5.26 (4.42)	3.83 (4.17)	4.46 (4.74)	7.73 (4.94)	8.91 (4.65)	6.64 (4.52)	6.05 (4.90)
政治・経済	7.76 (5.23)	6.45 (5.09)	6.28 (4.62)	5.79 (4.49)	7.68 (4.85)	6.09 (4.81)	3.38 (4.06)	4.37 (4.61)	7.95 (5.06)	8.35 (4.71)	7.27 (4.77)	6.91 (5.18)
現代社会	8.47 (5.24)	5.93 (4.95)	6.18 (4.58)	5.85 (4.46)	7.16 (4.70)	5.42 (4.55)	3.37 (4.01)	3.82 (4.44)	7.55 (4.93)	8.80 (4.65)	6.61 (4.62)	6.07 (4.85)
数学	8.24 (5.05)	6.10 (4.98)	5.63 (4.40)	5.49 (4.30)	6.31 (4.49)	5.93 (4.55)	3.71 (4.11)	3.68 (4.47)	6.91 (4.65)	8.58 (4.67)	5.88 (4.32)	6.73 (5.00)
理科	8.87 (5.06)	6.84 (5.11)	5.85 (4.49)	5.50 (4.29)	6.27 (4.50)	5.37 (4.37)	4.08 (4.31)	4.92 (4.99)	7.84 (4.84)	8.59 (4.75)	6.19 (4.39)	5.85 (4.75)
物理	9.03 (5.01)	7.45 (5.17)	6.03 (4.58)	5.36 (4.34)	6.40 (4.59)	5.74 (4.47)	4.57 (4.51)	5.86 (5.34)	8.11 (4.80)	8.18 (4.69)	6.62 (4.42)	6.19 (5.01)
化学	8.68 (5.09)	7.40 (5.21)	5.89 (4.53)	5.47 (4.36)	6.43 (4.63)	5.69 (4.48)	4.31 (4.34)	6.11 (5.31)	8.10 (4.91)	8.36 (4.75)	6.43 (4.49)	6.35 (4.99)
生物	8.61 (5.05)	6.86 (5.13)	6.18 (4.59)	5.74 (4.38)	6.45 (4.62)	4.94 (4.30)	3.77 (4.17)	4.81 (4.89)	7.92 (4.99)	8.59 (4.76)	6.05 (4.39)	5.57 (4.67)
地学	9.06 (5.15)	8.09 (5.21)	6.50 (4.79)	5.77 (4.56)	6.96 (4.71)	5.68 (4.57)	4.21 (4.40)	6.32 (5.39)	8.72 (5.12)	8.33 (4.76)	6.74 (4.54)	5.87 (4.95)
英語	7.60 (5.17)	5.33 (4.78)	6.20 (4.57)	5.83 (4.43)	7.04 (4.69)	5.14 (4.48)	2.95 (3.71)	3.19 (4.10)	7.18 (4.76)	8.54 (4.53)	6.22 (4.41)	5.48 (4.69)
音楽	8.22 (5.17)	5.16 (4.73)	7.02 (4.57)	5.95 (4.43)	7.08 (4.57)	4.62 (4.30)	3.24 (3.90)	3.05 (4.00)	7.64 (4.82)	8.45 (4.62)	6.13 (4.31)	5.49 (4.67)
美術	8.52 (5.03)	5.40 (4.72)	7.43 (4.71)	5.57 (4.34)	6.84 (4.53)	4.46 (4.17)	3.52 (4.03)	3.53 (4.25)	9.03 (4.75)	7.86 (4.70)	6.31 (4.32)	5.06 (4.47)
工芸	9.54 (4.97)	5.74 (4.90)	6.90 (4.67)	5.54 (4.37)	6.69 (4.50)	4.65 (4.23)	4.32 (4.28)	3.84 (4.42)	8.99 (4.77)	8.22 (4.75)	6.60 (4.44)	5.32 (4.65)
書道	8.72 (5.08)	5.57 (4.83)	6.41 (4.68)	5.93 (4.39)	6.76 (4.54)	4.93 (4.34)	3.42 (3.99)	3.20 (4.13)	7.39 (4.83)	8.56 (4.58)	6.19 (4.43)	5.74 (4.77)
保健・体育	8.49 (5.05)	4.95 (4.64)	5.77 (4.44)	5.57 (4.28)	6.56 (4.48)	4.51 (4.22)	3.56 (4.07)	2.90 (3.92)	6.95 (4.68)	8.86 (4.60)	6.18 (4.36)	5.38 (4.61)
技術・家庭	9.23 (5.00)	5.53 (4.84)	6.39 (4.57)	5.75 (4.42)	6.65 (4.49)	5.00 (4.41)	3.61 (4.11)	3.07 (4.05)	7.58 (4.76)	8.57 (4.69)	6.15 (4.33)	5.56 (4.66)
情報	8.42 (5.09)	5.73 (4.89)	6.38 (4.56)	5.44 (4.39)	6.65 (4.59)	6.22 (4.59)	3.53 (4.14)	3.23 (4.22)	7.74 (4.93)	8.21 (4.69)	6.16 (4.41)	7.14 (4.89)

注:各科目で平均値が高い上位3タイプに網掛け

12-4 まとめ

本章では、中学生、高校生が学校で学ぶ授業の科目の好き嫌いと職業レディネス・テストで測定される興味の領域への反応との関連を検討した。

好きな科目、嫌いな科目の素集計の結果をみると、中学生、高校生、男女別により好きな科目に違いは見られるが、概ね、保健・体育、技術・家庭科と音楽、美術の人気は全般に高い。

なお、科目の好き嫌いには男女差が大きく、男子は理数系や歴史の人気の比較的高いが、女子は英語や国語など文科系の科目の人気の高いようである。

A検査の職業興味の6領域のタイプ別に好きな科目との関連をみた結果では、6領域の特徴をほぼ反映するような結果が得られた。すなわち物作りや身体作業に領域に関心の高いRタイプでは、保健・体育や技術・家庭という実技系の科目の他、理科など技術系の仕事に関連の高い科目への興味が見られた。研究や知的活動に関心の高いIタイプでは、どのタイプでの人気の高い科目の他に、理科、化学、数学、生物などへの興味が見られた。Iタイプと理数系の科目の関連が高かった理由としては、職業レディネス・テストのIタイプの項目には理数系の職業が多く含まれていることにも関連すると思われる。対人的な活動に関心の高いSタイプでは、女子において中学生、高校生の両方で、保健・体育、技術・家庭、音楽への興味との関連が高く見られた。男子に関してはあまり明確な傾向は見られない。企画、運営に関連する活動に関心の高いEタイプでは、男子では日本史、女子では英語への興味との関連が見られた。定型的で秩序立った作業に関心が高いCタイプでは、数学と情報への興味との関連が高かった。

科目別に、職業興味の6領域の平均値を算出した結果では、男女別にみても、6領域に関するもともとの平均値の大きさが影響して、科目との関連では明確な結果は得られなかった。つまり、中学生の場合、男子ではどんな科目でもR I E尺度への平均値が高くなり、女子の場合には、A S E尺度への平均値が高くなる。そこで全体的な平均値をみると、概ね、理数系の科目への関心はI領域、社会系の科目への関心はE領域、その他の科目はA領域の平均値が高いという結果となっている。I領域とE領域については尺度の特徴と関連がありそうだ。

高校の場合においても、科目の好き嫌いにかかわらず、職業興味の6領域における平均値の男女差の影響がみられた。男子ではR、I、E、A領域への平均値が全般に高い。また女子では、A、S、E、C領域への関心が高くなっていた。ただ、男女あわせた全体でみると各科目の内容や印象と各タイプの興味関心がよく一致した。すなわち、物理とRタイプ、地学とIタイプ、美術とAタイプ、政治・経済とEタイプ、情報とCタイプなどである。

以上、職業レディネス・テストの興味検査を中心として、中学生、高校生の科目の好き嫌いとの関連を検討した結果、中学生、高校生全般に人気の高い特定の科目があることがわかった。その一方で、興味の6領域に対する生徒の関心の方向と、学校で学ぶ科目の内容にはある程度解釈可能な妥当な関連が見出された。

第13章 進路決定度、希望職業の有無と分化度との関連の検討

13-1 本章の目的

標準化調査では、回答用紙の最後にアンケートとして、将来の進路についての意思決定の度合いと、将来の仕事についての意思決定の度合いを4段階で選ばせる項目を入れた。この項目への回答は、生徒自身が自分の進路や将来の仕事についての準備度を自己評価した結果である。

ところで、ホルランドの理論に従えば、職業興味の最も高い領域と最も低い領域の差を分化度と定義し、分化度が高いほど、職業意識の発達が進んでいるとされる。職業興味の分化度が学年、男女という属性に関連してどう変化するかについては本報告書の第9章で別途検討したが、本章では、アンケート項目への回答結果を使って、生徒自身の職業意識の認識のレベルと分化度がどう関連するのかを検討したい。

本章では、まず、将来の進路決定度と希望職業の決定度についての回答結果を概観し、中学生、高校生の将来への準備に関する自己評価の様相を理解する。続いて、分化度との関連を調べる。

13-2 分析対象

調査の方法は第3章「標準化調査の概要」に準ずる。本章では中学生と高校生の全体のデータを取り上げた。分析の対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

標準化調査に協力した全国38校の中学1年～3年生および62校の高等学校の1年生～3年生。

人数の内訳は以下の通り。中学生計10,966名（1年男子1,905名、1年女子1,816名、2年男子1,825名、2年女子1,791名、3年男子1,866名、3年女子1,763名）。高校生計17,104名（1年男子3,244名、1年女子3,175名、2年男子3,185名、2年女子3,399名、3年男子1,980名、3年女子1,979名）。

13-3 分析方法と結果

<調査項目>

本章でとりあげた項目は、問題用紙の最後にアンケートとして添付されている項目のうちの2つである。内容は以下の通りである。

①アンケート設問：「進路についての決定度」

「あなたは、将来の進路についてどのくらい考えていますか？回答欄の中から一つだけ選

んで○をつけてください。」

選択肢：(1) 希望する進路が決まっている、(2) だいたい決まっている、(3) まだあまり決まっていない、(4) 全く決まっていない

②アンケート設問：「仕事についての検討」

「将来の仕事について、どのくらい考えていますか？回答欄の中から一つだけ選んで○をつけてください。」

選択肢：(1) よく考えている、(2) だいたい考えている、(3) あまり考えていない、(4) 全く考えていない

13-3-1 アンケート回答の素集計

中学校における各設問への回答者数の割合を図表 13-1 に、高校生における各設問への回答者数の割合を図表 13-2 に示す。

図表13-1 中学生における各設問への回答の割合(%)

生徒総数	中学生												
	1年生			2年生		3年生		学年別			男女別		全体
	男子	女子	n	男子	女子	男子	女子	1年	2年	3年	男子	女子	
n=1905	n=1816	n=1825	n=1791	n=1866	n=1763	n=3721	n=3616	n=3629	n=5596	n=5370	n=10966		
Q22 将来の進路について一つだけ選んで○	n=1888	n=1806	n=1816	n=1788	n=1855	n=1761	n=3694	n=3604	n=3616	n=5559	n=5355	n=10914	
希望する進路が決まっている	21.8	17.8	12.6	12.5	17.6	16.6	19.8	12.5	17.2	17.4	15.6	16.5	
だいたい決まっている	34.8	35.8	34.7	38.8	40.5	42.1	35.3	36.7	41.3	36.6	38.9	37.7	
まだあまり決まっていない	31.0	36.3	38.6	38.7	33.5	35.0	33.6	38.6	34.2	34.3	36.7	35.5	
全く決まっていない	12.5	10.1	14.2	10.1	8.4	6.3	11.3	12.1	7.4	11.7	8.8	10.3	
Q23 将来の仕事について一つだけ選んで○	n=1889	n=1809	n=1816	n=1788	n=1856	n=1760	n=3698	n=3604	n=3616	n=5561	n=5357	n=10918	
よく考えている	30.7	29.9	21.6	21.9	22.9	24.3	30.3	21.7	23.6	25.1	25.4	25.2	
だいたい考えている	37.9	42.2	37.0	42.3	37.2	41.0	40.0	39.6	39.1	37.4	41.9	39.6	
あまり考えていない	23.5	23.8	32.9	30.1	30.7	30.2	23.6	31.5	30.4	28.9	28.0	28.5	
全く考えていない	8.0	4.1	8.6	5.7	9.2	4.6	6.1	7.2	6.9	8.6	4.8	6.7	

図表13-2 高校生における各設問への回答の割合(%)

生徒総数	高校生											
	1年生		2年生		3年生		学年別			男女別		全体
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	1年	2年	3年	男子	女子	
n=3244	n=3317	n=3185	n=3399	n=1980	n=1979	n=6561	n=6584	n=3959	n=8409	n=8695	n=17104	
Q22 将来の進路について一つだけ選んで○	n=3220	n=3306	n=3168	n=3387	n=1951	n=1966	n=6526	n=6555	n=3917	n=8339	n=8656	n=16988
希望する進路が決まっている	13.8	15.5	13.5	16.2	29.2	31.9	14.6	14.9	30.6	17.3	19.5	18.4
だいたい決まっている	31.5	37.7	33.8	39.0	40.4	40.9	34.7	36.5	40.6	34.5	39.0	36.8
まだあまり決まっていない	40.1	36.9	40.1	35.0	24.2	22.5	38.5	37.5	23.3	36.4	32.9	34.6
全く決まっていない	14.6	9.9	12.6	9.7	6.2	4.7	12.2	11.1	5.4	11.9	8.7	10.2
Q23 将来の仕事について一つだけ選んで○	n=3221	n=3307	n=3169	n=3390	n=1953	n=1967	n=6528	n=6559	n=3920	n=8343	n=8664	n=17007
よく考えている	24.0	28.0	24.6	29.7	36.5	42.1	26.0	27.2	39.3	27.2	31.8	29.5
だいたい考えている	35.1	41.6	37.7	42.2	38.9	39.8	38.4	40.0	39.3	37.0	41.4	39.2
あまり考えていない	31.5	25.3	30.2	24.0	20.3	15.9	28.4	27.0	18.1	28.4	22.7	25.5
全く考えていない	9.4	5.1	7.6	4.2	4.3	2.2	7.3	5.8	3.2	7.5	4.1	5.8

(1)中学生、高校生、学年別男女別にみた進路決定度と希望職業の有無

①中学生の学年別男女別にみた進路決定度

進路決定度について、中学校学年別男女別に回答者の割合をグラフにした(図表 13-3)。

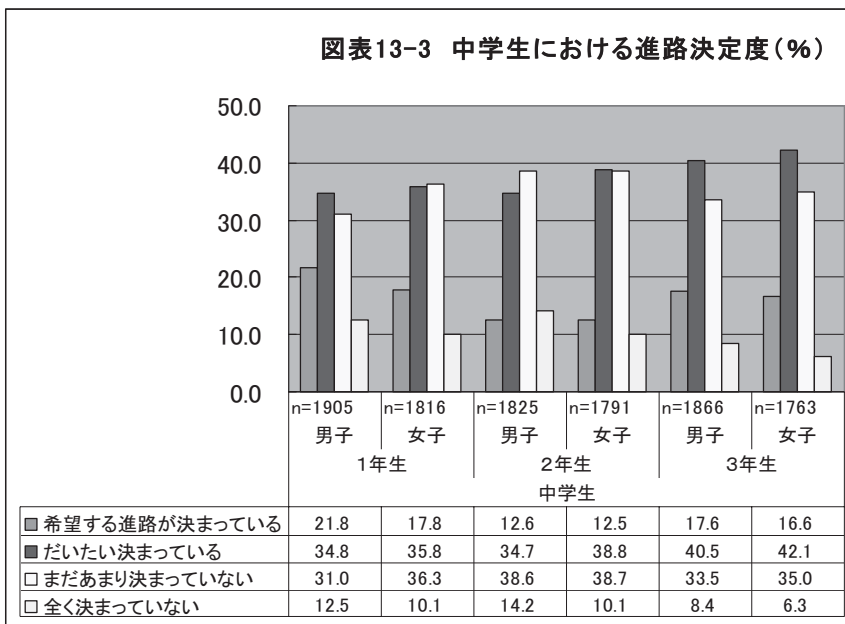
中学1年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で56.6%、女子で53.6%と男子がやや多い。

中学2年生では、将来

の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で47.3%、女子で51.3%と1年生に比べると男子が9.3ポイント、女子が2.3ポイント下がっている。

中学3年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で58.1%、女子で58.7%と2年生に比べると男子10.8ポイント、女子7.4ポイント高くなっている。

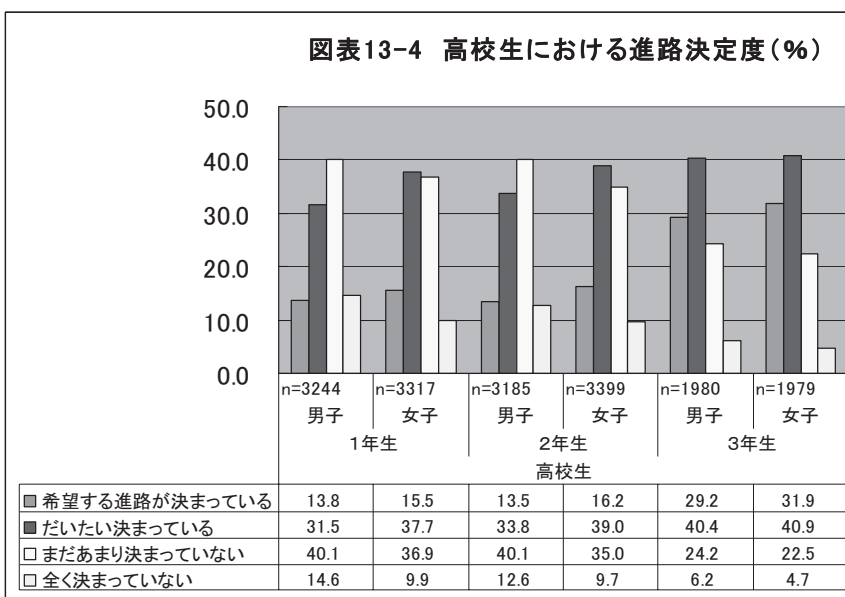
2年生で低くなり3年生で高くなる傾向が示され、2年生の男子に特に進路意志決定が低くなる傾向が現れている。



②高校生の学年別男女別にみた進路決定度

進路決定度について、高等学校学年別男女別に回答者の割合をグラフにした(図表 13-4)。

高校1年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で45.3%、女子で53.2%と女子が7ポイント近く高い。



高校2年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で47.3%、女子で55.2%と1年生に比べると男女ともに若干ではあるが2ポイント上がっている。

高校3年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で69.6%、女子で72.8%と2年生に比べると男子で22.3ポイント、女子が17.6ポイント高くなっている。高校では1年生から2年生、と若干高くなり3年生で大きく進路意志決定が明確になる。また、1年から3年を通して、男子よりも女子が高い傾向を示した。

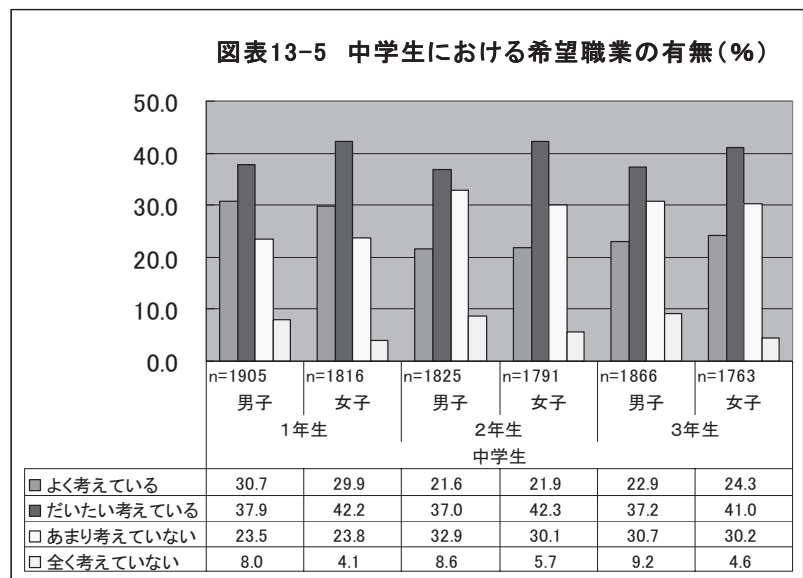
③中学生の学年別男女別にみた希望職業の有無

希望職業の有無について、中学校学年別男女別に回答者の割合をグラフにした(図表13-5)。

中学1年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で68.6%、女子で72.1%と女子がやや多い。

中学2年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で58.6%、女子で64.2%と1年生に比べると男女ともに8～10ポイント下がっている。

中学3年生では、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で60.1%、女子で65.3%と2年生に比べると男女ともに1～2ポイント程度上がり、1年生で高く2年生で低くなり3年生でやや高めに持ち直すといった結果となった。また、1年から3年を通して、男子よりも女子が高い傾向を示し、2年生の男子に特に仕事に対する関心が低くなる傾向が現れている。



④高校生 of 学年別男女別にみた希望職業の検討

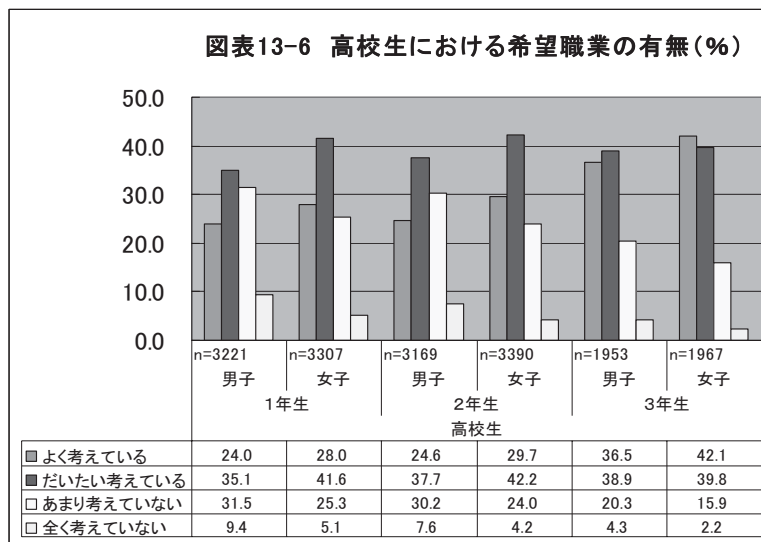
希望職業の有無について、高等学校学年別男女別に回答者の割合をグラフにした(図表13-6)。

高校1年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で59.1%、女子で69.6%と女子が10ポイント以上高い。

高校2年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で62.3%、女子で71.9%と1年生に比べると男女ともに約2～3ポイント上がっている。

高校3年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で75.4%、

女子で81.9%と2年生に比べると男子で13.1ポイント、女子が10ポイント高くなっている。高校では1年生から2年生、と若干高くなり3年生で大きく希望職業が明確になる。また、中学生と同様に1年から3年を通して、男子よりも女子が高い傾向を示した。



13-3-2 進路決定度における学年と男女差の検討

(1) 分析方法

将来の進路についての回答項目から、「決まっている」を4点、「ほぼ決まっている」を3点、「まだあまり決まっていない」を2点、「全く決まっていない」を1点として進路決定度の尺度として得点化し、この尺度得点の平均値について、学年、性別の影響を検証するために、学年要因（1学年、2学年、3学年：3水準）、性別要因（男・女）からなる2要因の分散分析を行った。

(2) 中学生の結果

中学生の進路決定度における平均値と標準偏差を図表 13-7 に示す。

中学生については、学年の主効果は有意となったが ($F=43.62, p<0.0001$)、性別の主効果には有意差が認められなかった ($F=0.99, N.S.$)。学年の各水準間について多重比較を行ったところ、3年 2.68、1年 2.64、2年 2.50 の順で平均得点に有意な差が認められた。学年と性別の関連では、交互作用は有意となり ($F=4.66, p<0.01$)、男子では3年 2.67 と1年 2.66 に差がなく、いずれも2年 2.46 よりも高い ($F=32.65, p<0.0001$)。女子では、3年 2.69、1年 2.61、2年 2.54 の順で平均得点に有意な差が認められた ($F=14.70, p<0.0001$)。学年ごとの男女差についての t 検定の結果では、1年生では男女間の差はなく ($t=1.51, N.S.$)、2年生では女子 2.54 が男子 2.46 よりも有意に大きく ($t=-2.76, p<.01$)、3年生では男女間の差がない ($t=-0.66, N.S.$) といった結果となった。

図表13-7 中学生における進路決定度に関する平均値(MEAN)と標準偏差(SD)

進路	1年生		2年生		3年生		学年計			男女計	
	男子 n=1888	女子 n=1806	男子 n=1816	女子 n=1788	男子 n=1855	女子 n=1761	1年生 n=3694	2年生 n=3604	3年生 n=3616	男子 n=5559	女子 n=5355
MEAN	2.66	2.61	2.46	2.54	2.67	2.69	2.64	2.50	2.68	2.60	2.61
SD	(0.95)	(0.89)	(0.89)	(0.84)	(0.86)	(0.82)	(0.92)	(0.86)	(0.84)	(0.91)	(0.85)

(3) 高校生の結果

高校生の進路決定度についての平均値と標準偏差を図表 13-8 に示す。

高校生については、学年の主効果は有意となり ($F=364.35, p<0.0001$)、性別の主効果も同様に有意となった ($F=85.96, p<0.0001$)。学年の各水準間について多重比較を行ったところ、3年 2.96、2年 2.55、1年 2.52 の順で平均得点に学年間で有意な差が認められた。性別については、女子 2.69 が男子 2.57 よりも有意に高いことが確認できた。学年と性別の関連では、交互作用には有意差が得られなかった ($F=2.09, N.S.$)。

図表13-8 高校生における進路決定度に関する平均値(MEAN)と標準偏差(SD)

進路	1年生		2年生		3年生		学年計			男女計	
	男子 n=3220	女子 n=3306	男子 n=3168	女子 n=3387	男子 n=1951	女子 n=1966	1年生 n=6526	2年生 n=6555	3年生 n=3917	男子 n=8339	女子 n=8659
MEAN	2.44	2.59	2.48	2.62	2.93	3.00	2.52	2.55	2.96	2.57	2.69
SD	(0.90)	(0.87)	(0.88)	(0.87)	(0.88)	(0.86)	(0.89)	(0.88)	(0.87)	(0.91)	(0.91)

13-3-3 希望職業の有無における学年と男女差の検討

(1) 分析方法

将来の仕事についての回答項目から、「よく考えている」を4点、「だいたい考えている」を3点、「あまり考えていない」を2点、「全く考えていない」を1点として希望職業の有無の尺度として得点化し、この尺度得点の平均値について、学年、性別の影響を検証するために、学年要因(1学年、2学年、3学年:3水準)、性別要因(男・女)からなる2要因の分散分析を行った。

(2) 中学生の結果

中学生の希望職業の有無に関する平均値と標準偏差を図表 13-9 に示す。

中学生については、学年の主効果は有意となり ($F=46.92, p<0.0001$)、性別の主効果も同様に有意となった ($F=27.99, p<0.0001$)。学年の各水準間について多重比較を行ったところ、1年 2.95 が2年 2.76、3年 2.79 よりも有意に高く、2年と3年の平均得点の差には有意差が認められなかった。性別については、女子 2.88 が男子 2.79 よりも有意に高いことが確認できた。学年と性別の関連では、交互作用は有意差が得られなかった ($F=0.60, N.S.$)。

図表13-9 中学生における希望職業の有無に関する平均値(MEAN)と標準偏差(SD)

職業	1年生		2年生		3年生		学年計			男女計	
	男子 n=1889	女子 n=1809	男子 n=1816	女子 n=1788	男子 n=1856	女子 n=1760	1年生 n=3698	2年生 n=3604	3年生 n=3616	男子 n=5561	女子 n=5357
MEAN	2.91	2.98	2.72	2.80	2.74	2.85	2.95	2.76	2.79	2.79	2.88
SD	(0.92)	(0.84)	(0.90)	(0.84)	(0.91)	(0.84)	(0.88)	(0.87)	(0.88)	0.92	0.84

(3) 高校生の結果

高校生の希望職業の有無に関する平均値と標準偏差を図表 13-10 に示す。

高校生については、学年の主効果は有意となり ($F=173.04, p<0.0001$)、性別の主効果も同様に有意となった ($F=171.81, p<0.0001$)。学年の各水準間について多重比較を行ったところ、3年 3.15、2年 2.89、1年 2.83 の順で平均得点に学年間で有意な差が認められた。性別については、女子 3.01 が男子 2.69 よりも有意に高いことが確認できた。学年と性別の関連では、交互作用には有意差が得られなかった ($F=1.01, N.S.$)。

図表13-10 高校生における希望職業の有無に関する平均値(MEAN)と標準偏差(SD)

職業	1年生		2年生		3年生		学年計			男女計	
	男子 n=3221	女子 n=3307	男子 n=3169	女子 n=3390	男子 n=1953	女子 n=1967	1年生 n=6528	2年生 n=6559	3年生 n=3920	男子 n=8343	女子 n=8664
MEAN	2.74	2.92	2.79	2.97	3.08	3.22	2.83	2.89	3.15	2.69	3.01
SD	(0.93)	(0.86)	(0.90)	(0.84)	(0.86)	(0.79)	(0.90)	(0.87)	(0.83)	(0.88)	(0.84)

13-3-4 進路決定度、希望職業の有無と A 検査、B 検査、C 検査との分化度の関連

(1) 進路決定度、希望職業の有無と A 検査の分化度との関連

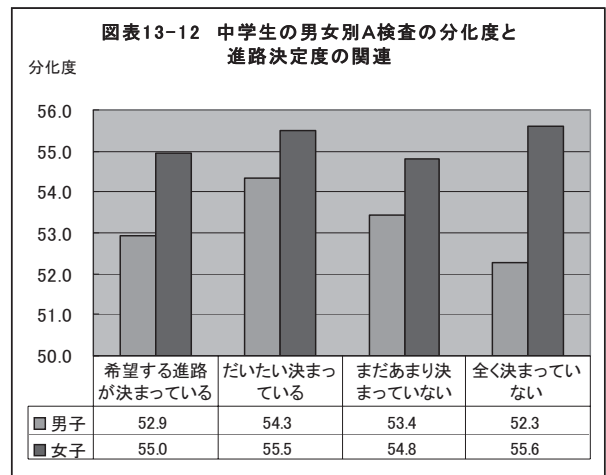
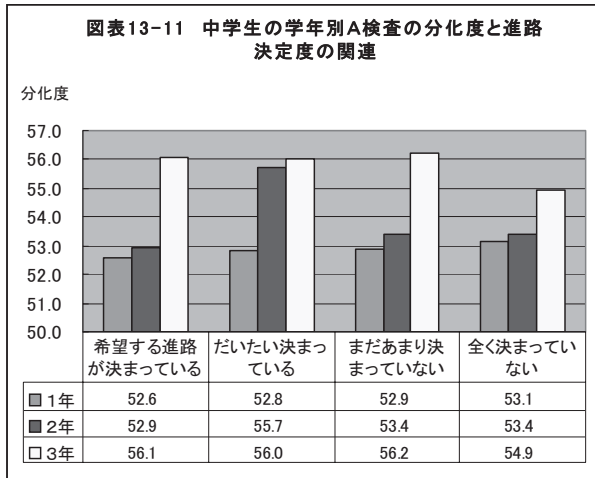
A 検査の興味の 6 領域の中で最も高いパーセンタイル順位と最も低いパーセンタイル順位の差を分化度として算出し、進路決定度と希望職業の有無との関連について中高別、学年別、性別から考察した。

①進路決定度と分化度の学年による変化

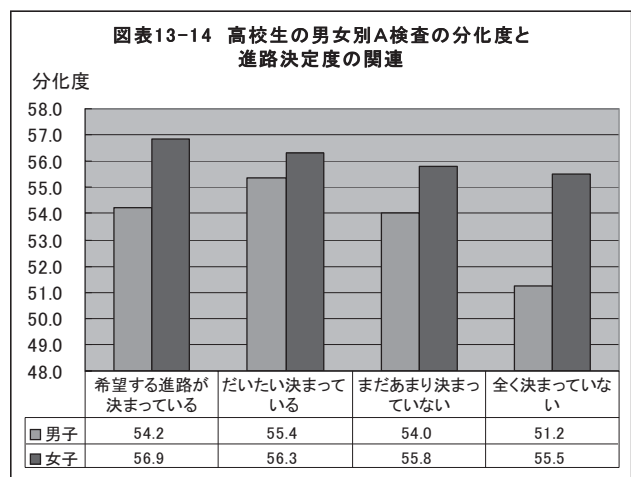
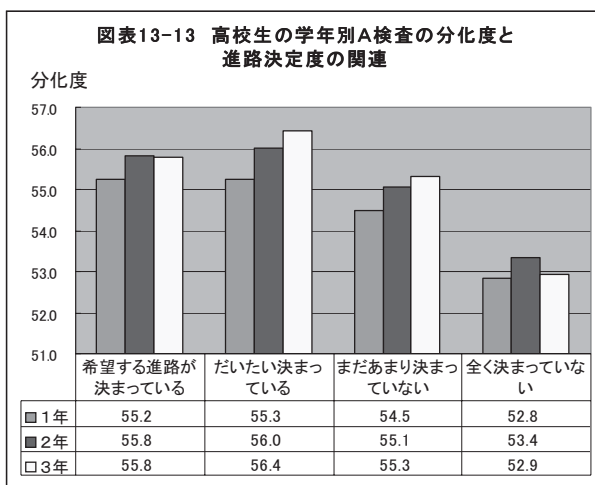
中学生について進路決定度の学年間で比較すると、どの回答に対しても 1、2 年生に比べて 3 年生の分化度が高い。中学生では学年の進行と共に分化度が増加し、職業に対する認識が急速に高まる中学生の時期に、職業興味の発達が進んでいくと解釈することができる。

決定度との関連をみると、「進路が決まっている」と答えた生徒では 3 年生の分化度が一番高い (図表 13-11)。「全く決まっていない」や「まだあまり決まっていない」も同様に 3 年生が最も高いが、「だいたい決まっている」と回答した生徒では 2 年生の分化度が高くなっており、3 年とほぼ同程度である。1 年生では回答と分化度に明確な関連がみられないが、2 年生では分化度が高い場合は、「だいたい決まっている」という回答をしている (図表 13-11)。

男女間では女子の方が分化度は大きく職業興味が明確であると考えられる（図表 13-12）。



高校生については、「希望する進路が決まっている」と「だいたい決まっている」という回答を選択した者が、「まだあまり決まっていない」、「全く決まっていない」を選択した者に比べて分化度が全般に高いようである。学年ごとに見ると全ての学年で「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」に向かって分化度は増加している（図表 13-13）。全般的に分化度は学年と共に上昇しているが、「希望する進路が決まっている」の分化度が全ての学年で最も高い値にはならなかった。「だいたい決まっている」が全ての学年で最も分化度が高くなり、「希望する進路が決まっている」を選んだ生徒は必ずしも分化度が高いわけではないといった結果となった。高校生においても中学生と同様に「だいたい決めている」と回答した生徒に分化度が高い傾向がある。男女間では女子の方が分化度は大きく職業興味が明確であると考えられる（図表 13-14）。

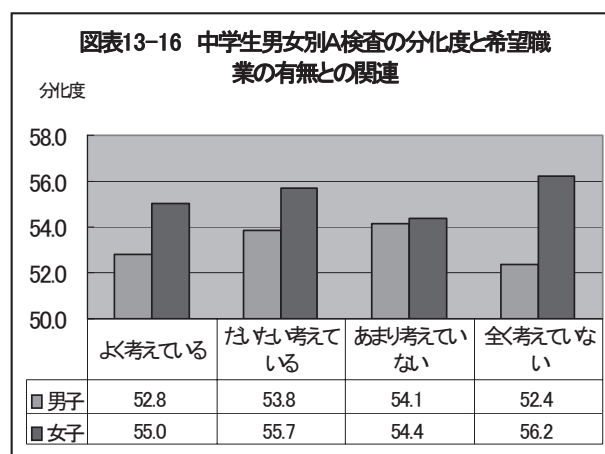
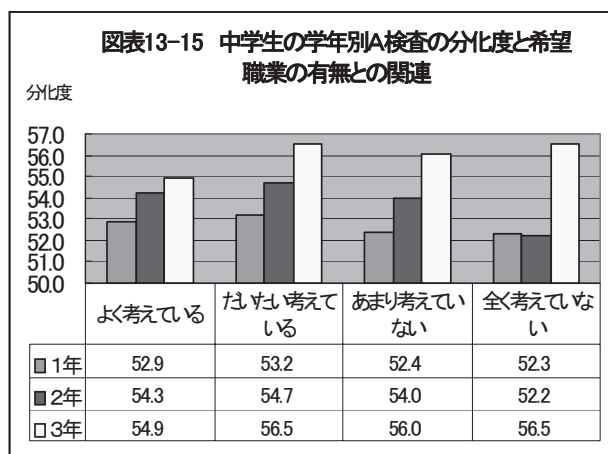


②希望職業の有無と分化度の学年による変化

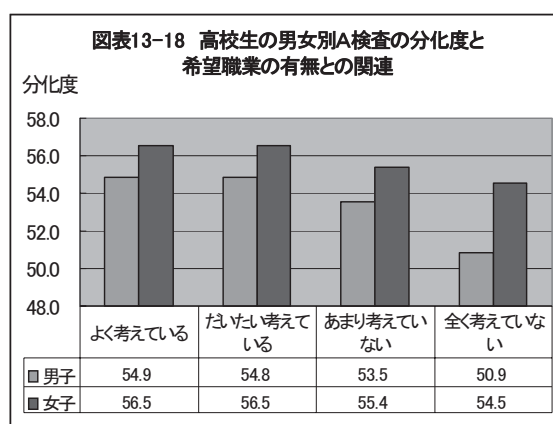
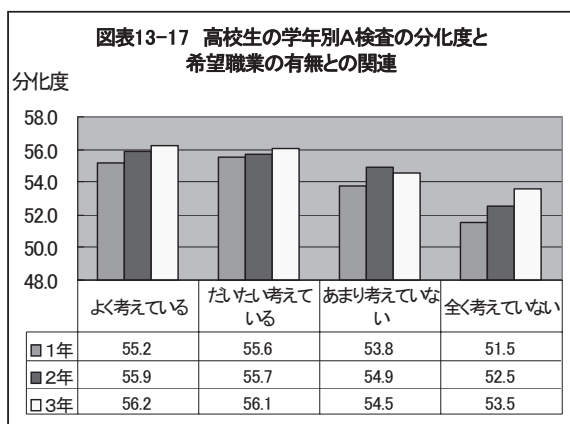
中学生について希望職業の有無と各学年の関連を見ると、将来の仕事について「だいたい

考えている」と回答した生徒の分化度は全ての学年で最も高い値を示している(図表 13-15)。

「よく考えている」の回答は必ずしも分化度が高いとは言えず、3年では回答項目の中で最も分化度が低くなっている。中学3年で将来の仕事をよく考えていると答えている生徒は職業興味の分化度が低く、仕事に対する好き嫌いが明確になっていない状況で少ない職業情報の中で断定的に職業選択を行っているのではないかと推測される。1、2年生では「全く考えていない」から「だいたい考えている」に向かって分化度が増加傾向を示しているが、3年生では「全く考えていない」と「だいたい考えている」が最も高い値となっている。中学3年生にとって目前に迫った高校選択や受験が進路選択の重要な課題であり、希望職業の有無と分化度との関連性は認められない結果となった。中学校での進路指導において1、2年生での職業調べや職業体験の実践や3年生での受験指導の現状が実態として現れていると考えることができる。男女間では女子の方が分化度は大きく希望職業が明確であると考えられる(図表 13-16)。



高校生について希望職業の有無と学年間の変化を見ると、将来の仕事について「全く考えていない」から「よく考えている」まで、1年から3年へと分化度は増加している(図表 13-17)。1年の「よく考えている」が「だいたい考えている」よりも高くはないが、その他は全て序列に従って分化度が高くなっている。高校生では将来の仕事についてよく考えているほど、学年が進むほど職業興味の分化度が高い傾向にあることがわかる。これにより高校生では、職業興味の成熟を表している分化度が、希望職業の有無の明確さと一致していることが確認できた。分化度が学年と共に高まり、将来の職業についてよく考えている生徒ほど分化度が高くなると言える。男女間では、中学生と同様に、女子の方が分化度は大きく希望職業が明確であると考えられる(図表 13-18)。

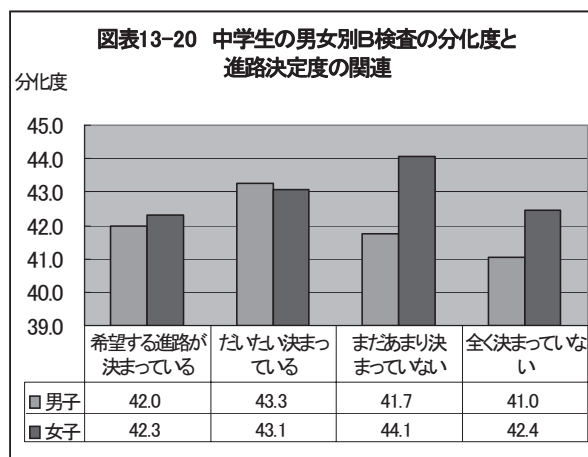
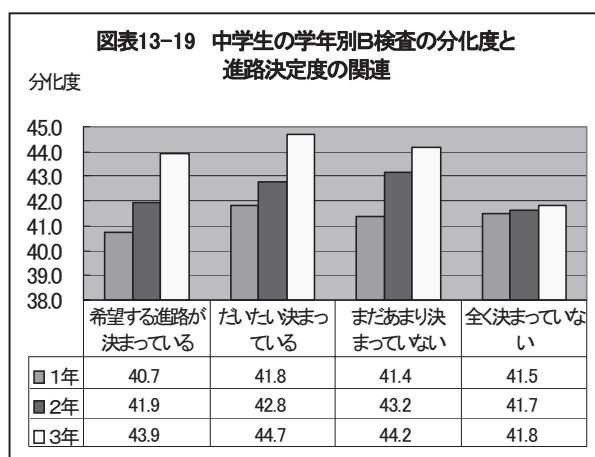


(2) 進路決定度、希望職業の有無とB検査の分化度との関連

B検査の基礎的志向性のD：対情報関係志向、P：対人関係志向、T：対物関係志向の中で最も高いパーセンタイル順位と最も低いパーセンタイル順位の差を分化度として算出し、進路決定度と希望職業の有無との関連について中高別、学年別、性別から考察した。

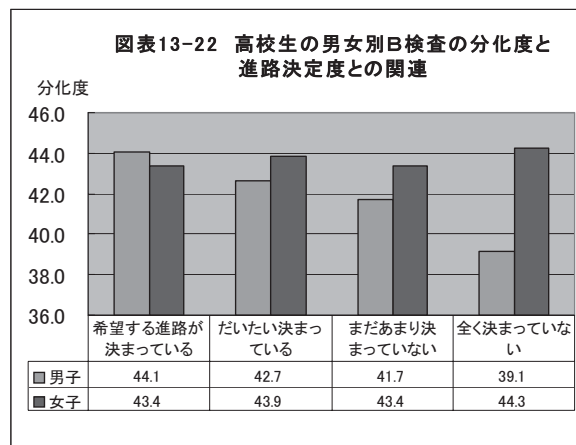
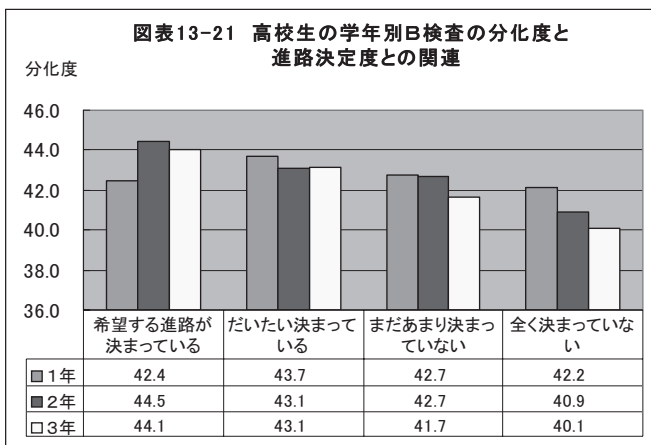
①進路決定度と分化度の学年による変化

中学生について進路決定度の学年間の変化を見ると、「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」まで、1年から3年へと分化度は増加している（図表 13-19）。「希望する進路が決まっている」が低い分化度であるが、その他は全て序列に従って分化度が高くなっている。基礎的志向性の分化度では、学年進行と共に将来の進路がだいたい決まっている生徒が高くなり、決まっていない生徒の分化度が低くなる傾向にある。男女間では特に分化度の差に明確な違いは認められなかった（図表 13-20）。



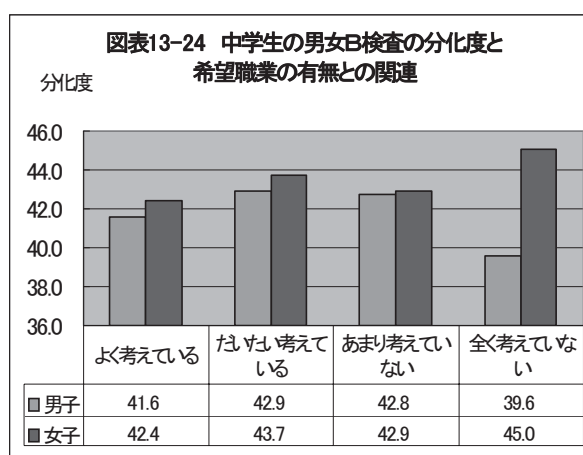
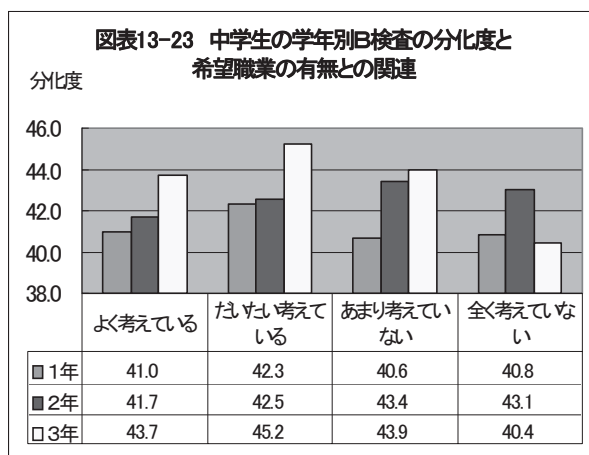
高校生について、進路決定度の学年間の変化を見ると、各学年間では特に明確な差は認められないが、2年生、3年生では「全く決まっていない」から「希望する進路が決まってい

る」まで分化度は高くなっていき、基礎的志向性の分化度は将来の進路決定度と一致することが分かった（図表 13-21）。1 年生では中学生と同様に「希望する進路が決まっている」が低い分化度であり、「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」へと分化度は増加している。男女別では、女子については進路決定度の「全く決まっていない」から「決まっている」までの分化度に差がみられない。男子については、進路が決まっているという回答ほど、分化度は高くなった（図表 13-22）。

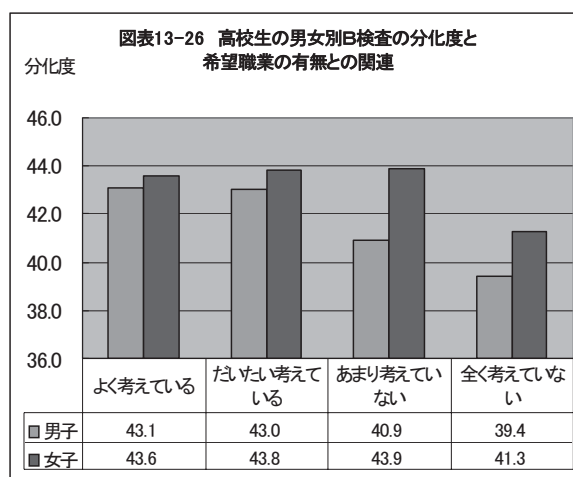
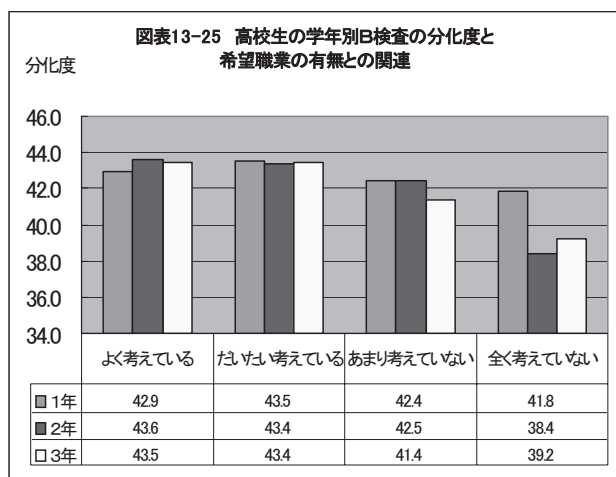


②希望職業の有無と分化度の学年による変化

中学生について希望職業の有無と各学年の関連を見ると、将来の仕事について「よく考えている」と「だいたい考えている」の回答した生徒の分化度は1年生から2年生ではほとんど変化が見られないが、2年生から3年生では大きく増加している（図表 13-23）。「あまり考えていない」と「全く考えていない」の分化度では、1年生から2年生で大きく増加している。2年生では将来に仕事を考えていない生徒に分化度が高く、3年生では逆に将来の仕事を考えている生徒に分化度が高く現れる傾向があった。男女間では女子の方が分化度は大きく基礎的志向性が明確であると考えられる（図表 13-24）。



高校生について希望職業の有無と学年間の変化を見ると、1年から3年への分化度の増加は認められないが、将来の仕事について「全く考えていない」から「よく考えている」まで、学年ごとに分化度は増加している（図表 13-25）。1年の「よく考えている」が「だいたい考えている」よりも高くはないが、その他は全て序列に従って分化度が高くなっている。高校生では将来の仕事についてよく考えているほど、基礎的志向性の分化度が高くなる傾向にある。男女間では女子の方が分化度は大きく基礎的志向性が明確であると考えられる（図表 13-26）。



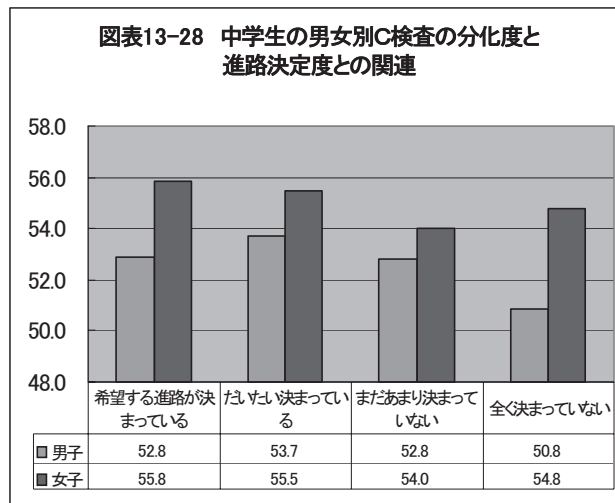
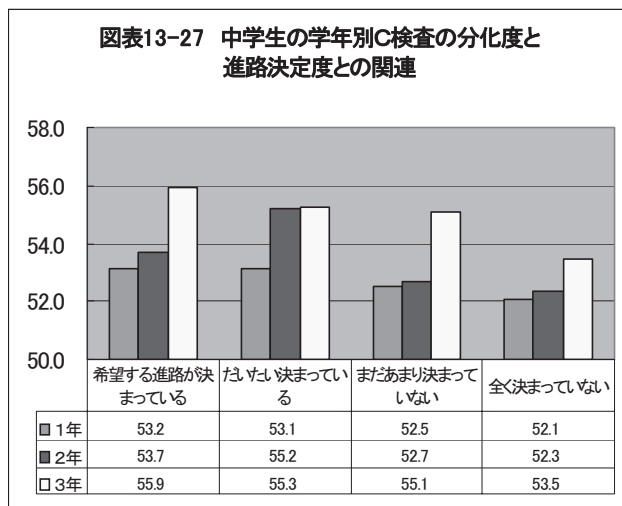
（3）進路決定度、希望職業の有無とC検査の分化度との関連

C検査の興味のある6領域の中で職業に対する自信の傾向の最も高いパーセンタイル順位と最も低いパーセンタイル順位の差を分化度として算出し、進路決定度と希望職業の有無との関連について中高別、学年別、性別から考察した。

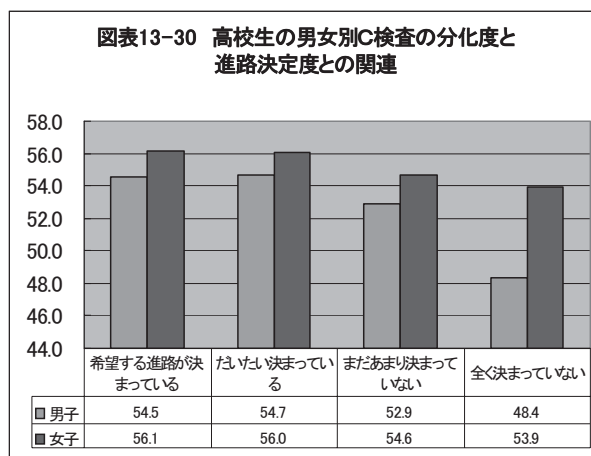
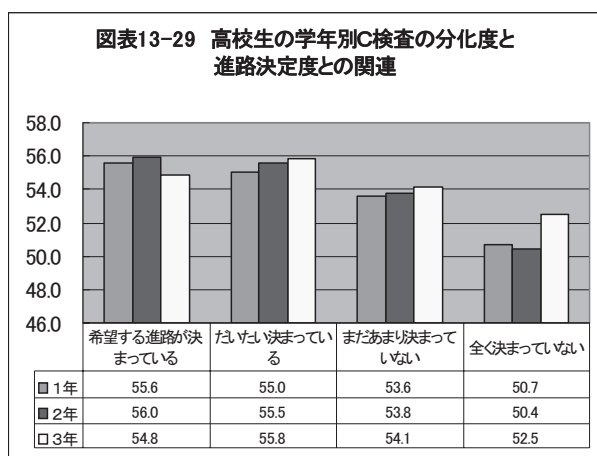
①進路決定度と分化度の学年による変化

中学生について進路決定度の学年間の変化を見ると、「全く決まっていない」から「希望する進路が決まっている」まで1年生と3年生では分化度は増加している（図表 13-27）。2年生では「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」まで分化度は増加し、「希望する進路が決まっている」が「だいたい決まっている」より低い分化度である。中学生では職業に対する自信が進路決定度とほぼ一致するが、2年生では「希望する進路が決まっている」と回答した生徒の職業に対する自信の分化度が一番高い値とならなかったのは、発達段階の特徴ととらえることができる。1年生ではまだ進路発達の段階が未成熟なため、職業に対する自信が進路決定度と一致し、2年生では発達段階が急速に進むために分化度の高い生徒が「だいたい決まっている」と回答し、将来の進路に対する現実吟味が進むほどに「希望する進路が決まっている」と回答しにくくなるのではないかと考えられる。3年生では進路意志決定が迫られ

るため、職業に対する自信の分化度と進路決定度とが一致するようになる。男女間では女子の方が分化度は大きく職業に対する自信の傾向が明確であると考えられる（図表 13-28）。

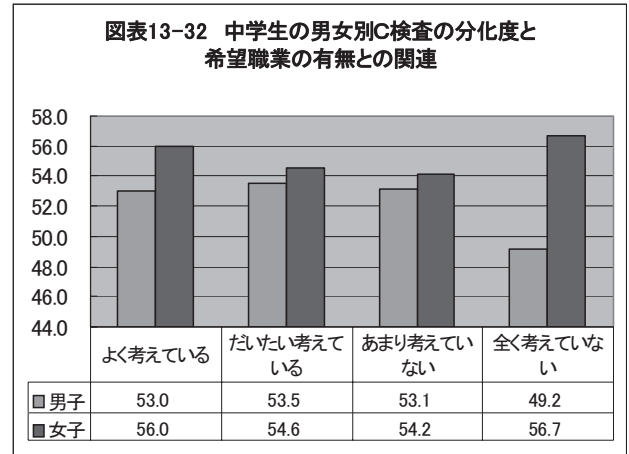
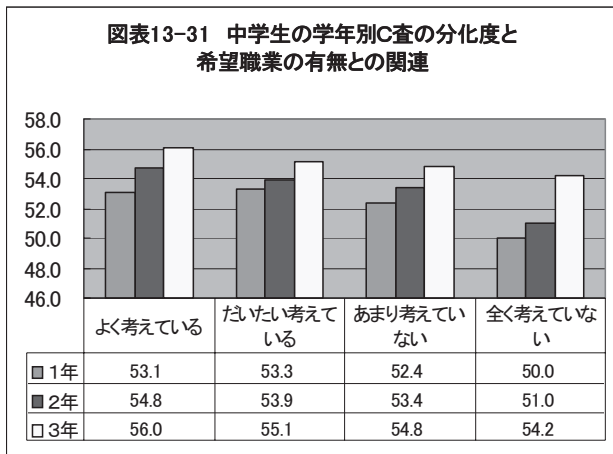


高校生について、進路決定度の学年間の変化を見ると、「全く決まっていない」から「希望する進路が決まっている」まで1年生と2年生では分化度は増加している（図表 13-29）。3年生では「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」まで分化度は増加し、「希望する進路が決まっている」が「だいたい決まっている」より低い分化度となっている。高等学校では進路は多様となり、能力や学力が高いほど選択肢も増大する。職業領域への自信を明確に持って目標を高く設定すると将来の進路についてはだいたい決まるが、明確な決定は逆に困難となってくる。これは高校生の進路決定の現状を表している結果といえる。男女間では女子の方が分化度は大きく職業に対する自信の傾向が明確であると考えられる（図表 13-30）。

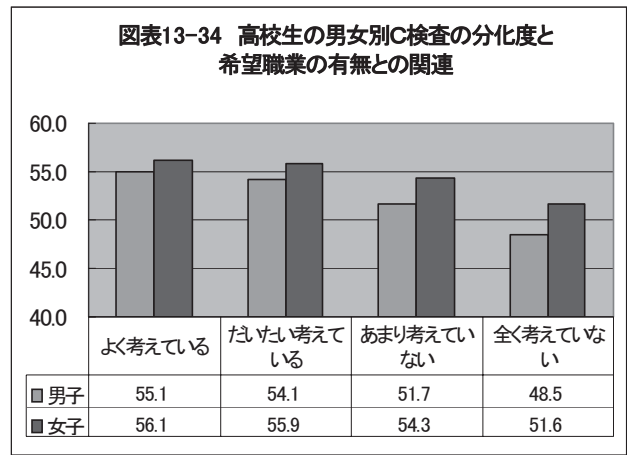
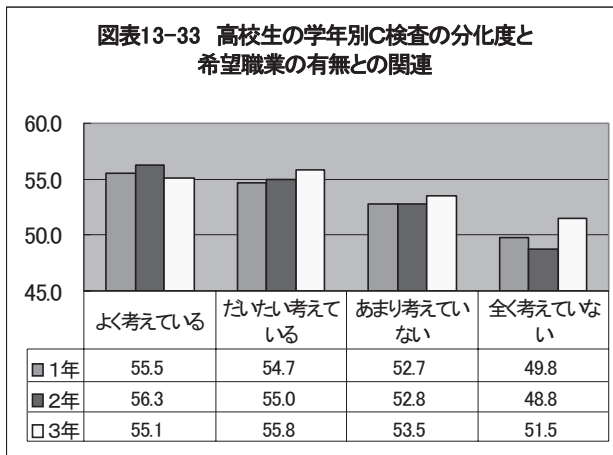


②希望職業の有無と分化度の学年による変化

中学生について希望職業の有無と各学年の関連を見ると、将来の仕事について「全く考えていない」から「よく考えている」まで、1年から3年へと分化度は増加している(図表 13-31)。1年の「よく考えている」が「だいたい考えている」よりも高くはないが、その他は全て序列に従って分化度が高くなっている。中学生では将来の仕事についてよく考えているほど、職業に対する自信の分化度が高くなる傾向にある。男女間では女子の方が分化度は大きく職業に対する自信の傾向が明確であると考えられる(図表 13-32)。



高校生について希望職業の有無と学年間の変化を見ると、中学生と同様に将来の仕事について「全く考えていない」から「よく考えている」まで各学年で増加し、1年から3年へと分化度はだいたい増加する傾向にある(図表 13-33)。3年の「よく考えている」が「だいたい考えている」よりも若干低い値だが、その他は序列に従って分化度が高くなる傾向にある。男女別にみると、男女とも希望職業をよく考えているほど分化度が高い(図表 13-34)。また、女子の方が男子より、どの回答についても分化度は高くなっている。



13-4 まとめ

本章では、希望する進路についての決定度と将来、就きたい職業について考えている程度というアンケート結果と職業レディネス・テストのA、B、C検査との関連を検討した。

アンケートの素集計の結果では、高校生については、希望する進路や就きたい職業への意思決定は学年とともに上昇する傾向がみられた。しかし、中学生では2年生にいったん落ち込み、3年生で高くなるということがわかった。中学生において進路への意識が学年とともに上昇せず、2年生でいったん落ち込み、3年生で増加するという点は興味深い。また、男女では女子の方が男子よりも意思決定のレベルが高いことがわかった。

分化度との関連では、アンケートの回答で将来の進路や職業をよく考えているほど分化度が高い、という単純な関係は見られなかった。なお、4段階の回答を、「決まっている」あるいは「考えている」というレベルからみて高い方の2段階、低い方の2段階として2分して考えれば、決まっている方が決まっていない方より分化度は高い傾向はみられた。しかし、アンケートの回答を4段階でみると「進路が決まっている」あるいは「よく考えている」という一番高いレベルよりは「だいたい決まっている」、「だいたい考えている」という上から二つ目のレベルの方が、分化度が高い傾向があった。進路や職業について、早いうちから「明確に決まっている」という回答をしている生徒が果たして本当に職業発達のレベルが高いといえるのかどうか、検討しなくてはならない問題であると思われる。

また、分化度に関しては男女差が顕著であった。女子の方が男子よりも分化度が高い。ただ進路決定度や希望職業との有無との関連をみると、特に中学生に関して、男子よりも分化度との関連づけが難しい解釈となった。女子の場合、希望職業や進路決定度で「全く考えていない」、「全く決まっていない」という回答をしている生徒が最も分化度が高いという結果も見られた（図表 13-12、図表 13-16、図表 13-22、図表 13-24、図表 13-32）。ただ、全体の傾向として、進路決定度や希望職業についての意識を「決まっている」、「よく考えている」という最も高いレベルから「あまり決まっていない」、「あまり考えていない」という3番目までの選択肢でみると、2番目に高い回答で分化度が高くなっており、3番目にはそれよりやや低くなるという山形の傾向を示しており、4番目の「全く考えていない」、「全く決まっていない」という選択肢で分化度が急に高くなっていることから、4番目の選択肢を選んだ生徒の職業興味等の個々の回答傾向を検討する必要があると思われる。4番目の選択肢に関しては、これを選んでいる生徒は進路決定度に関しては全体の8～9%、希望する職業の有無に関しては4～5%程度と他の選択肢を選んでいる生徒に比べて少ない。そのため、個人の回答傾向が全体の平均値に影響を与えている可能性が高い。また、第10章の特別集計のところ記述されているが、進路決定度が低かったり、希望職業を考えていないという回答をした生徒は、職業興味の各項目に対する○の数、すなわち「やりたい」という回答が全体に少ない。そのため特定の領域での最低点が低くなり、みかけ上の分化度が高くなる可能性

もあるが、これが中学生女子で特に見られる点は、個々のデータを確認しないと明確な結論は得られない。これについては、今後、詳しく検討していくべき課題としたい。

総括 得られた知見と今後の課題

1. 得られた知見

(1) 本報告書の分析の視点

本報告書は2003年の秋から3年半にわたって行われた「職業レディネス・テストの改訂」という研究の締めくくりとしてまとめたものである。

検査の改訂にあたっては、全国の中学生、高校生を対象として大規模な標準化調査を実施した。得られたデータは現代の中学生、高校生の職業興味を含む職業的な発達、発達における男女差などを反映した大変貴重な資料である。ところが、標準化調査は、言うまでもなく「職業レディネス・テストの改訂」という研究目的のために実施されているので、第3版の発行に至る過程では、中学生、高校生の職業興味や職業発達という視点からのデータ分析は十分に行われていなかった。第3版を開発する過程では、それぞれの検査を構成する尺度の項目をどうするのか、具体的にはどういう項目を差し替えるのか、また、差し替えた結果として妥当性や信頼性が保証されるのかという点の検証に重点がおかれる。さらに換算点の作成として、中学生や高校生の男女別、学年別の各尺度の平均値の算出が行われる。この段階での分析には、検査の結果から得られる中学生や高校生の職業興味、基礎的志向性等の個々のレベルや発達を検討する視点は含まれない。そこで、本報告書では、第Ⅰ部において、検査の改訂の全体について概観した後、第Ⅱ部、第Ⅲ部で標準化調査のデータに基づいた中学生、高校生の職業興味の現状の分析を様々な角度から行った。第Ⅰ部は第Ⅱ部、第Ⅲ部の解釈を助けるための基礎知識という位置づけであり、本報告書の中心は第Ⅱ部、第Ⅲ部での分析にある。

(2) 第Ⅱ部のまとめ

第Ⅱ部はアセスメントツールとしての「職業レディネス・テスト」の結果を通して、中学生、高校生の職業興味や職業意識の発達に関して何が明らかにされるのか、という観点から分析を行っている。

第5章、第6章では、中学生と高校生の職業興味、基礎的志向性、職務遂行の自信度のレベルが分析され、興味等における男女差や学年に関する変化が検討された。

第7章では、高校生に関して、第2版の時点で集められたデータと2005年のデータとを比較し、全般的に興味や自信の低下があり、特に企業的領域や慣習的領域で興味関心や自信度が下がっている傾向が明らかにされている。

第8章では、興味と自信との関係が検討される。興味と自信との関係の検討は「職業レディネス・テスト」の解釈においても重視されるところで、この2つが一致している領域や不一致の領域、一致の程度などは非常に重要なチェックポイントである。従来は、結果の解釈

の際に、興味があっても自信が伴わない研究的領域、芸術的領域や自信があっても興味が低くなりがちな慣習的領域という暗黙の見解があったが、今回の調査の結果の分析はこの解釈をまさに裏付ける結果となった。

第9章においても、ホルランドの理論で提唱されている「分化度」という概念が発達的に変化する職業興味と対応していることが実証された。すなわち、中学生と高校生の学年で見ると、やりたい領域とやりたくない領域との差として定義される分化度は、学年とともに右上がりに高くなっていくことが示された。

第10章の特別集計は解釈の際に使われる整理の方法であるが、「やりたい」という回答、「どちらともいえない」という回答の頻度が検討されている。これも、職業レディネス・テストを解釈する際の資料として活用することができるだろう。

第Ⅱ部においては、職業レディネス・テストを実施した後にワークシートで行うような解釈の視点が妥当であるかどうかを中心に検証を行ったが、得られた結果は全般に解釈の方向が正当であることを裏付けるような結果となっている。

(3) 第Ⅲ部のまとめ

第Ⅲ部は応用的な分析として、第Ⅱ部のような「職業レディネス・テスト」の得点そのものの分析というよりは、得点とその他の独立変数との関係で分析を行った。

第11章は、高等学校の学科との関連で職業興味等の結果をみたものである。高等学校の学科は生徒の職業興味と深い関連があることが確認されている。得られた結果もホルランドの6領域の特徴と学科での学習内容とがよく一致するという関連を示している。

第12章では、中学校、高等学校で学ぶ科目の好き嫌いとは職業レディネス・テストの興味等の関連を検討している。学校で学ぶ科目の好き、嫌いは職業レディネス・テストとの関連とは別に単独でも興味深い結果である。また、職業レディネス・テストで得られた興味のタイプとの関連をみると、タイプの特徴が好きな科目にもよく表れていることがわかる。

第13章では、生徒本人が考える将来の進路や就きたい仕事への意思決定のレベルと実際に検査で測られる「分化度」との関連を検討した。将来の進路や希望する職業を考えている生徒は、そうでない生徒よりも分化度が高いと言う結果は、分化度の概念の妥当性を裏付けるものである。ただ、「よく考えている」と「だいたい考えている」に関しては、必ずしも分化度の高さと正比例しない結果も見られ、本人の認識と実際の職業意識のずれが示唆された結果となった。

以上、第Ⅲ部を通して、概ね結論づけられることは、検査で得られた中学生、高校生の職業興味やレベルが、他の指標との関連として検討したとき、極めて解釈可能な妥当な結果を示したということである。このことは、検査で測定される「職業レディネス」が、中学生、高校生の学習への志向や日々の活動とよく関連することを示している。

(4) 全体を通して

以上、職業レディネス・テストの回答の結果に関する様々な分析をまとめたが、全体を通してみると、「職業レディネス・テスト」に組み込まれている尺度は職業興味、基礎的志向性、職務遂行の自信度という3つを測定するものであるが、その結果は必ずしもその尺度のレベルを反映するだけにとどまっていないということが示唆されているように思われる。

職業興味 の6領域に関するプロフィールの裏側には、その生徒が好きな科目や嫌いな科目、好きな活動や嫌いな活動との関連を示唆する手がかりが隠れているようである。また、プロフィール全体の高さ、分化度は、他の多くの生徒たちのそれと比べたときの、特定の生徒の意欲や職業意識の高さを知るための資料として読むこともできよう。

さらに、男女差や学年差が中学生のうちから明確に確認されたことは、職業興味や職務遂行の自信度には、中学生の頃から男女差があり、それがだんだんに発達していくことをよく裏付けている。「職業レディネス・テスト」は中学生、高校生という若年の生徒を対象とした検査であり、その職業興味が変化していく過程をとらえるものであるため、固定的に解釈しないように、ということが手引きに述べられているが、本報告書で得られた結果はまさにそれを実証的に捉えているものである。

2. 今後の課題

(1) 第3版の継続的なメンテナンス

「職業レディネス・テスト」の改訂は終了し、新しい版が公表されたが、いうまでもなく、検査は開発しただけで完了というものではない。2006年に完成し、公表された「職業レディネス・テスト第3版」が中学校や高等学校において、どのように使われ、活用されるのか、開発に関わった担当者には、その点を注意深く見ていく責任がある。また、実際に現場で使われていく中で、キャリアガイダンスや進路指導における効果的な使い方やよい解釈の方法について、事例を集めたり、ヒアリングを行う必要があるだろう。反対に、検査の問題点や次に改良しなくてはならない点についても継続して検討していくことが重要であると考えている。

(2) カードソート法の検討

他方、検査の発展についても現在、少しずつ検討を進めている最中である。アセスメントツールの中には、カードソート法という手法をとるものがあり、特に若年者にとってはペーパーテストタイプではなく、ゲーム的な要素があるため興味を喚起できるという利点がある。そこで、「職業レディネス・テスト」のカード版の開発の検討を行っている。これはA、B、C検査の項目をカードにし、一枚一枚について興味や自信の有無について分類してもらうというような方法をとる。大学生を対象として、ペーパー版とカード版の両方を実施し、検査の信頼性がどちらの方法でも保たれるかどうかなどの検討を進めているが、今のところ、概

ねカードソート法でも同じような結果が得られるのではないかという感触を得ているところである。ペーパー版とカード版での実施について結果が大きくずれないという保証が得られれば、カードソート法という方法で検査を提供することが可能になる。それとともに、カードの利点を生かした様々な使い方の可能性も広がる。このような方法での実施の可能性については、今後も引き続き検討を重ね、報告していきたい。

付 録

1. 調査票、調査項目

- (1) 職業レディネス・テスト標準化調査票
- (2) 標準化調査回答用紙
- (3) 職業レディネス・テスト第3版項目

2. 基礎統計資料

- (1) 標準化規準集団の構成
- (2) 各尺度における学校、学年、男女別平均値と標準偏差
- (3) 第3版各検査項目に対する中学生の全体、学年別、男女別の回答度数
- (4) 第3版各検査項目に対する高校生の全体、学年別、男女別の回答度数

1-(1) 標準化調査票

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

職業レディネス・テスト（2005） 検査用紙

「職業レディネス・テスト」はおもに、中学生、高校生のために、職業への興味を調べ、将来の進路や仕事について考える手がかりを提供することを目的として開発された検査です。

この検査の結果から、職業に関連するあなたの興味の方向や自信度がわかり、将来の進路選択に役立つ手がかりが得られます。

次のページからの質問に対して、あなたが思った通りの答えをしてください。「テスト」という名前がついていますが、どの答えが正しいとか、誤りであるということはありませんし、学校の成績とも関連がありません。回答もれがあると正しく採点ができないので、抜かさなないように気をつけてやってください。

Aテスト

仕事への興味チェック

[答え方]

次に、いろいろな「仕事の内容」について書かれた文章があります。それぞれの仕事について、あなたはやってみたいと思いますか？「やりたい」、「どちらともいえない」、「やりたくない」のどれかで教えてください。

[回答の記入方法]

回答用紙には、問題番号ごとに右のような回答欄が印刷してあります。

番号ごとに「やりたい」、「どちらともいえない」、「やりたくない」のどれか一つの欄に○をつけてください。

	1	2	3
やりたい	どちらともいえない	やりたくない	
1	○		
2			
3			
4			
5			
6			

(例1) ペットの犬の毛をカットしたり、洗ったりする



- 1 家具や照明など、部屋のインテリアのデザインをする。
- 2 大学や研究所で、科学の研究をする。
- 3 ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする。
- 4 ワープロやパソコンを使って、書類などを清書する。
- 5 自分の店を経営する。
- 6 映画や演劇に出て、いろいろな役を演じる。

- 7 ミシンなどを使って洋服を作る。
- 8 環境をよくするために大気や水の汚れを測定し、分析する。
- 9 客の希望にあわせて、髪をカットしたりセットしたりする。
- 10 帳簿^{ちようぼ}や伝票に書かれた金額の計算をする。
- 11 テレビやラジオの番組を企画し、番組づくりを取り仕切る。
- 12 小説を書き、出版したり、雑誌に載^のせたりする。

- 13 木材を加工し、組み立てて、家を建てる。
- 14 農業試験場で、農作物の品種改良の研究をする。
- 15 スーパーで代金を入力し、お金を受け取ったり、おつりを渡す。
- 16 文字や数字を、書類に正確に記入する。
- 17 客を集めるため、広告や催し物などを企画する。
- 18 ニュースを読んだり、テレビやラジオの番組の司会をする。

- 19 くだものや花などを栽培する。
- 20 宇宙ロケットを開発する。
- 21 保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする。
- 22 銀行で現金を支払ったり、受け取ったりする。
- 23 外国で珍しい品物を探し出して輸入する。
- 24 テレビドラマや映画のシナリオを書く。

- 25 工事現場で、ブルドーザーやクレーンを運転する。
- 26 海水の成分や海流について調査研究する。
- 27 家庭を訪問して、お年寄りや身体の不自由な人の世話をする。
- 28 依頼に来た客に代わって、役所へ出す書類を作成する。
- 29 新しい組織を作って、リーダーになる。
- 30 俳優やタレントに演技の指導をする。

- 31 トラックを運転して貨物を運ぶ。
- 32 病原体を発見するための実験や研究をする。
- 33 店で客の相談にのり、商品売る。
- 34 文字や数字を、コンピュータに入力する。
- 35 世の中のできごとをいち早く取材し、新聞にその記事を書く。
- 36 曲を作ったり、編曲したりする。

- 37 自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する。
- 38 新しい薬を開発する。
- 39 病院で、患者の治療や病気の予防の仕事をする。
- 40 コンピュータを使って、複雑な計算をする。
- 41 社長として、会社の経営の仕事にあたる。
- 42 楽器を演奏して、観客に聴かせる。

- 43 部品を組み立てて機械を作る。
- 44 博物館などで、歴史、民俗などの資料を集め、研究する。
- 45 患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする。
- 46 会社で書類のコピーをとったり、電話の取次ぎをする。
- 47 店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売上げを伸ばす。
- 48 洋服やアクセサリーのデザインをする。
- 49 船に乗って、魚や貝などの漁をする。
- 50 新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる。
- 51 飛行機の中で、乗客にサービスをする。
- 52 従業員の毎月の給料を計算する。
- 53 流行しそうな商品を仕入れ、売り出しの方法を考える。
- 54 雑誌やパンフレットなどにイラストをかく。
- 55 火薬を使って花火を作り、安全に打ち上げる。
- 56 気象衛星きしょうえいせいの画像や観測データを使って、天気の詳細ししょうの予想を行う。
- 57 犯罪や交通事故などから人々の安全を守る。
- 58 法律の専門知識を使って依頼人の相談を受け、利益を守る。
- 59 アニメーションに合わせてセリフをいったり、外国語映画の吹き替えを行う。
- 60 飛行機が安全に飛べるように、点検や整備をする。
- 61 古い地層から化石や骨を集め、恐竜や昔の生き物の生活を調べる。
- 62 悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する。
- 63 ツアー旅行に同行し、宿や観光の手配など参加者の世話をする。
- 64 インターネットのホームページのデザインをする。
- 65 ホテルやレストランなどで、客に出す料理を作る。
- 66 客の状態に合わせて、指圧やマッサージなどを行う。
- 67 火事の現場に駆けつけ、逃げ遅れた人を助けたり、消火活動を行う。
- 68 国民の代表として国会で法律、予算、条約等について話し合い、採決する。
- 69 人物や風景、物の写真を撮り、雑誌やポスターに発表する。
- 70 動物園や水族館で、動物や魚など生き物の世話をする。
- 71 空港で旅行者の飛行機への搭乗とうじょう手続きや荷物の受け渡しを行う。
- 72 マンガをかいて雑誌にのせたり、コミック本を出版する。

Bテスト
生活場面での興味チェック

[答え方]

次に、書かれている文章について、あなたにあてはまるか、あてはまらないかを答えて下さい。

[回答の記入方法]

回答用紙には、問題番号ごとに右のような回答欄が印刷してあります。番号ごとに「あてはまる」、「あてはまらない」のどちらか一つの欄に○をつけてください。

	あてはまる	あてはまらない
1	○	
2		
3		
4		
5		
6		

(例1) 学校の宿題でわからないことは参考書で調べる →

- 1 計画的に物事を進めるタイプだ。
- 2 たくさんの人数で遊べるゲームが好きだ。
- 3 図面をみて物を組み立てるのが得意だ。
- 4 人とすぐに仲良くなれる。
- 5 短い間にたくさんの情報を集めることが得意だ。
- 6 面倒見がいいといわれる。

- 7 図書館や本屋によくでかける。
- 8 人前で発言するのが得意だ。
- 9 星や動植物をじっくり観察するのが好きだ。
- 10 グループで行動するのが好きだ。
- 11 何かを始めるときは計画を立ててから取り組む。
- 12 しゃこうてき 社交的な性格だと思う。

- 13 新聞はテレビ欄以外はあまり見ない。
- 14 他の人の世話をするのが好きだ。
- 15 指先を使って物を組み立てるのが得意だ。
- 16 人と交渉こうしょうするのが得意だ。
- 17 情報を集めるのが好きだ。
- 18 グループで作業するような授業は楽しい。

- 19 本を読むのが好きだ。
- 20 職人の物作りの様子を見るのは楽しい。
- 21 動物の飼育や植物の世話が好きだ。
- 22 人からよく相談をうける。
- 23 自分の持ち物や道具の手入れはきちんとしている。
- 24 場の雰囲気きふうを盛り上げるのが得意だ。

- 25 将来はいろいろな情報を集める仕事をしたい。
- 26 友だちは多いほど楽しい。
- 27 大工道具やドライバーなどの道具類はうまく使える。
- 28 たくさんの人が集まる場所は苦手だ。
- 29 新聞や雑誌にはよく目を通す。
- 30 困っている人をみるとつい声をかけたくなる。

- 31 何かを説明するときにはわかりやすく情報を整理する。
- 32 劇をやるなら舞台にあがって演技をしたい。
- 33 自然公園やアスレチックに行くのが好きだ。
- 34 世の中の役に立つことをしたい。
- 35 文章を書くのが得意だ。
- 36 新しい友だちをつくるのは得意だ。

- 37 一人で行動していてもあまり苦くにならない。
- 38 乗り物でよく人に席をゆずる。
- 39 工作や物作りが好きだ。
- 40 人を説得するのは上手な方だ。
- 41 慎重しんちょうな性格だと思う。
- 42 休みの日に家で一人で過ごすのはつまらない。

- 43 みんなの意見をまとめるのが得意だ。
44 自分から人に話しかけることが多い。
45 博物館や科学館に行くのが好きだ。
46 一人である仲間には自分から声をかける。
47 テレビではニュースや報道番組をよく見る。
48 コンピュータを自分で組み立ててみたい。
- 49 落ち着いていると言われる。
50 友だちとのおしゃべりやメールのやりとりが好きだ。
51 物を作り出すような仕事をしたい。
52 手先が器用だと思う。
53 パソコンを使うのが得意だ。
54 人が喜んでいるのを見ると自分もうれしくなる。
- 55 世の中で起きている事件や出来事に関心がある。
56 人からよく元気な人だと思われる。
57 美術や図工の時間は楽しい。
58 友だちや家族の役に立つとうれしい。
59 何か失敗したらまずその原因を考える。
60 交際範囲こうさいはんいは広い方だ。
- 61 劇をやるならストーリーを考える役割をしたい。
62 小さい子どもの相手をするのが得意だ。
63 パズルや考えるゲームが好きだ。
64 人より目立つことが好きだ。
65 外国の人の意見や考え方について知りたい。
66 新しい情報には敏感びんかんでいたい。
- 67 いったん始めたことは忍耐にんたい強くやりとげる方だ。
68 人と話をするのは楽しい。
69 デパートの手作りコーナーなどを見るのが好きだ。
70 何かを調べたりまとめるような授業は楽しい。
71 流行に関する情報は雑誌やインターネットでチェックする。
72 山や海に出かけるのが好きだ。

- 73 遠い国の人々の暮らしに興味がある。
- 74 いろいろな人と関わられるような仕事をしたい。
- 75 こわれた物があると何とか直せないか試してみる。
- 76 相手の立場に立って考えることができる。
- 77 必要な情報はいつもきちんと整理しておきたい。
- 78 戸外でのスポーツや作業が好きだ。

- 79 わからないことがあると気になって後で調べることが多い。
- 80 話し合いの場ではよく発言する方だ。
- 81 自分で野菜や果物を栽培したい。
- 82 面白い話を聞いたらすぐに他の人に教えてあげたい。
- 83 何か買うときはみかけより実用性を重視する。
- 84 牧場や農場で働いてみたい。

- 85 税金や制度など社会の仕組みについてよく理解したい。
- 86 立場の弱い人には親切にすべきだと思う。
- 87 物理や化学（理科）の実験が得意だ。
- 88 自分の意見をきちんと主張できる。
- 89 わからないことがあるとインターネットや本で調べる。
- 90 外国に旅行するなら自然の豊かな国がいい。

- 91 政治や経済のことは自分には関係ないと思う。
- 92 人付き合いは苦にならない。
- 93 草花や昆虫の名前をたくさん知っている。
- 94 人に感謝されるとうれしい。
- 95 代表やリーダーを決める時、よく推せんされる。
- 96 机や本棚を自分で作ってみたい。

Cテスト
仕事への自信チェック

[答え方]

次に、いろいろな「仕事の内容」について書かれた文章があります。あなたはその仕事を将来やるとしたら、うまくできる自信がありますか？「自信がある」、「どちらともいえない」、「自信がない」のどれかで答えてください。

[回答の記入方法]

回答用紙には、問題番号ごとに右のような欄が印刷してあります。番号ごとに「自信がある」、「どちらともいえない」、「自信がない」のどれか一つの欄に○をつけてください。

		ど ち ら と も い え な い		
		自 信 が あ る		自 信 が な い
1	○			
2				
3				
4				
5				
6				

(例1) ペットの犬の毛をカットしたり、洗ったりする



- 1 家具や照明など、部屋のインテリアのデザインをする。
- 2 大学や研究所で、科学の研究をする。
- 3 ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする。
- 4 ワープロやパソコンを使って、書類などを清書する。
- 5 自分の店を経営する。
- 6 映画や演劇に出て、いろいろな役を演じる。

- 7 ミシンなどを使って洋服を作る。
- 8 環境をよくするために大気や水の汚れを測定し、分析する。
- 9 客の希望にあわせて、髪をカットしたりセットしたりする。
- 10 帳簿^{ちようぼ}や伝票に書かれた金額の計算をする。
- 11 テレビやラジオの番組を企画し、番組づくりを取り仕切る。
- 12 小説を書き、出版したり、雑誌に載^のせたりする。

- 13 木材を加工し、組み立てて、家を建てる。
- 14 農業試験場で、農作物の品種改良の研究をする。
- 15 スーパーで代金を入力し、お金を受け取ったり、おつりを渡す。
- 16 文字や数字を、書類に正確に記入する。
- 17 客を集めるため、広告や催し物などを企画する。
- 18 ニュースを読んだり、テレビやラジオの番組の司会をする。

- 19 くだものや花などを栽培する。
- 20 宇宙ロケットを開発する。
- 21 保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする。
- 22 銀行で現金を支払ったり、受け取ったりする。
- 23 外国で珍しい品物を探し出して輸入する。
- 24 テレビドラマや映画のシナリオを書く。

- 25 工事現場で、ブルドーザーやクレーンを運転する。
- 26 海水の成分や海流について調査研究する。
- 27 家庭を訪問して、お年寄りや身体の不自由な人の世話をする。
- 28 依頼に来た客に代わって、役所へ出す書類を作成する。
- 29 新しい組織を作って、リーダーになる。
- 30 俳優やタレントに演技の指導をする。

- 31 トラックを運転して貨物を運ぶ。
- 32 病原体を発見するための実験や研究をする。
- 33 店で客の相談にのり、商品を売る。
- 34 文字や数字を、コンピュータに入力する。
- 35 世の中のできごとをいち早く取材し、新聞にその記事を書く。
- 36 曲を作ったり、編曲したりする。

- 37 自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する。
- 38 新しい薬を開発する。
- 39 病院で、患者の治療や病気の予防の仕事をする。
- 40 コンピュータを使って、複雑な計算をする。
- 41 社長として、会社の経営の仕事にあたる。
- 42 楽器を演奏して、観客に聴かせる。

- 43 部品を組み立てて機械を作る。
- 44 博物館などで、歴史、民俗などの資料を集め、研究する。
- 45 患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする。
- 46 会社で書類のコピーをとったり、電話の取次ぎをする。
- 47 店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売上げを伸ばす。
- 48 洋服やアクセサリーのデザインをする。

- 49 船に乗って、魚や貝などの漁をする。
- 50 新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる。
- 51 飛行機の中で、乗客にサービスをする。
- 52 従業員の毎月の給料を計算する。
- 53 流行しそうな商品を仕入れ、売り出しの方法を考える。
- 54 雑誌やパンフレットなどにイラストをかく。

- 55 火薬を使って花火を作り、安全に打ち上げる。
- 56 気象衛星きしょうえいせいの画像や観測データを使って、天気の詳細しじょうの予想を行う。
- 57 犯罪や交通事故などから人々の安全を守る。
- 58 法律の専門知識を使って依頼人の相談を受け、利益を守る。
- 59 アニメーションに合わせてセリフをいったり、外国語映画の吹き替えを行う。
- 60 飛行機が安全に飛べるように、点検や整備をする。

- 61 古い地層から化石や骨を集め、恐竜や昔の生き物の生活を調べる。
- 62 悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する。
- 63 ツアー旅行に同行し、宿や観光の手配など参加者の世話をする。
- 64 インターネットのホームページのデザインをする。
- 65 ホテルやレストランなどで、客に出す料理を作る。
- 66 客の状態に合わせて、指圧やマッサージなどを行う。

- 67 火事の現場に駆けつけ、逃げ遅れた人を助けたり、消火活動を行う。
- 68 国民の代表として国会で法律、予算、条約等について話し合い、採決する。
- 69 人物や風景、物の写真を撮り、雑誌やポスターに発表する。
- 70 動物園や水族館で、動物や魚など生き物の世話をする。
- 71 空港で旅行者の飛行機への搭乗とうじょう手続きや荷物の受け渡しを行う。
- 72 マンガをかいて雑誌にのせたり、コミック本を出版する。

アンケート

最後にアンケートにお答えください。記入は回答用紙をお願いします。

1. あなたが将来してみたいと思う仕事やなってみたいという職業があったら回答欄に3つまで書いてください。
2. 学校で勉強している科目の中で、あなたの好きな科目ときらいな科目を教えてください。回答欄に書かれている科目のうち、好きな科目に○、きらいな科目に×をつけてください。いくつでもよいです。回答欄になれば（ ）内に書き込んでください。
3. あなたは、将来の進路についてどのように考えていますか？ 回答欄の中から一つだけ選んで○をつけてください。
4. 将来の仕事について、どのくらい考えていますか？ 回答欄の中から一つだけ選んで○をつけてください。
5. そのほか、この検査をやって、思ったこと、感じたことがあったら、書いてください。

1-(2) 標準化調査回答用紙

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
職業レディネス・テスト(2005)回答用紙

おもて

学校名		学科名(高校のみ記入)		検査日	年 月 日
フリガナ氏名		年 組 番 (男・女)		備考	

回 答 欄

Aテスト

Bテスト

どちらともいえない やりたい		どちらともいえない やりたくない		どちらともいえない やりたい		どちらともいえない やりたくない		あてはまらない あてはまる		あてはまらない あてはまる		あてはまらない あてはまる		あてはまらない あてはまる	
1		13		43		1		13		43		73			
2		14		44		2		14		44		74			
3		15		45		3		15		45		75			
4		16		46		4		16		46		76			
5		17		47		5		17		47		77			
6		18		48		6		18		48		78			
7		19		49		7		19		49		79			
8		20		50		8		20		50		80			
9		21		51		9		21		51		81			
10		22		52		10		22		52		82			
11		23		53		11		23		53		83			
12		24		54		12		24		54		84			
25		31		61		25		31		61		91			
26		32		62		26		32		62		92			
27		33		63		27		33		63		93			
28		34		64		28		34		64		94			
29		35		65		29		35		65		95			
30		36		66		30		36		66		96			
37		37		67		37		37		67					
38		38		68		38		38		68					
39		39		69		39		39		69					
40		40		70		40		40		70					
41		41		71		41		41		71					
42		42		72		42		42		72					

裏へ続く→

1-(3)-1 A 検査、C 検査の各領域別項目

領域	項目番号	領域別項目	職業名
R領域	1	部品を組み立てて機械を作る。	機械組立工
	7	火薬を使って花火を作り、安全に打ち上げる。	花火師*
	13	木材を加工し、組み立てて、家を建てる。	建築大工
	19	火事の現場に駆けつけ、逃げ遅れた人を助けたり、消火活動を行う。	消防士*
	25	工事現場で、ブルドーザーやクレーンを運転する。	建設機械オペレーター
	31	トラックを運転して貨物を運ぶ。	トラック運転手
	37	自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する。	自動車整備工
	43	飛行機が安全に飛べるように、点検や整備をする。	航空機整備士*
	49	船に乗って、魚や貝などの漁をする。	漁師
I領域	2	古い地層から化石や骨を集め、恐竜や昔の生き物の生活を調べる。	古生物学者*
	8	環境をよくするために大気や水の汚れを測定し、分析する。	化学試験分析員
	14	農業試験場で、農作物の品種改良の研究をする。	植物学研究者
	20	海水の成分や海流について調査研究する。	海洋学研究者
	26	新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる。	研究者
	32	病原体を発見するための実験や研究をする。	細菌学研究者
	38	新しい薬を開発する。	薬学者
	44	博物館などで、歴史・民俗などの資料を集め、研究する。	学芸員
50	大学や研究所で、科学の研究をする。	科学研究者	
A領域	3	家具や照明など、部屋のインテリアのデザインをする。	インテリアデザイナー※
	9	小説を書き、出版したり、雑誌に載せたりする。	文芸作家
	15	人物や風景、物の写真をとり、雑誌やポスターに発表する。	商業カメラマン*
	21	テレビドラマや映画のシナリオを書く。	シナリオライター
	27	マンガをかいて雑誌にのせたり、コミック本を出版する。	マンガ家*
	33	インターネットのホームページのデザインをする。	WEBデザイナー*
	39	曲を作ったり、編曲したりする。	作曲家
45	洋服やアクセサリーのデザインをする。	服飾デザイナー	
51	雑誌やパンフレットなどにイラストをかく。	イラストレーター	
S領域	4	保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする。	保育士
	10	客の状態に合わせて、指圧やマッサージなどを行う。	指圧マッサージ師*
	16	ツアー旅行に同行し、宿や観光の手配など参加者の世話をする。	旅行会社添乗員*
	22	ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする。	ホテルフロント係
	28	患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする。	看護師
	34	家庭を訪問して、お年寄りや身体の不自由な人の世話をする。	介護福祉士
	40	病院で、患者の治療や病気の予防の仕事をする。	医師
	46	悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する。	児童相談員*
52	飛行機の中で、乗客にサービスをする。	航空客室乗務員	
E領域	5	自分の店を経営する。	商店経営者
	11	テレビやラジオの番組を企画し、番組づくりを取り仕切る。	放送ディレクター
	17	客を集めるため、広告や催し物などを企画する。	販売促進員
	23	新しい組織を作ってリーダーになる。	チームリーダー
	29	世の中のできごとをいち早く取材し、新聞にその記事を書く。	新聞記者
	35	ニュースを読んだり、テレビやラジオの番組の司会をする。	アナウンサー※
	41	社長として、会社の経営の仕事にあたる。	会社社長
	47	店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売上げを伸ばす。	店長
53	流行しそうな商品を仕入れ、売出しの方法を考える。	営業課長	
C領域	6	文字や数字を、コンピュータに入力する。	コンピュータ・オペレータ
	12	帳簿や伝票に書かれた金額の計算をする。	経理事務員
	18	文字や数字を、書類に正確に記入する。	庶務係事務員
	24	銀行で現金を支払ったり、受け取ったりする。	銀行出納係
	30	依頼に来た客に代わって、役所へ出す書類を作成する。	行政書士
	36	ワープロやパソコンを使って、書類などを清書する。	事務機器操作員
	42	コンピュータを使って、複雑な計算をする。	コンピュータ・プログラマー
	48	会社で書類のコピーをとったり、電話の取次ぎをする。	一般事務員
54	従業員の毎月の給料を計算する。	給与事務員	

*は新規項目 ※は第2版と領域の分類が異なる項目

1-(3)-2 B 検査の下位尺度と項目

尺度	項目番号	尺度別項目	尺度	項目番号	尺度別項目
D1	1	短い間にたくさんの情報を集めることが得意だ。	P2	5	グループで行動するのが好きだ。
	9	情報を集めるのが好きだ。		13	友だちは多いほど楽しい。
	17	流行に関する情報は雑誌やインターネットでチェックする。		21	グループで作業するような授業は楽しい。
	25	パソコンを使うのが得意だ。		29	たくさんの人数で遊べるゲームが好きだ。
	33	将来はいろいろな情報を集める仕事をしたい。		37	人と話をするのは楽しい。
	41	何かを調べたりまとめるような授業は楽しい。		45	友だちとおしゃべりやメールのやりとりが好きだ。
	49	何かを説明するときにはわかりやすく情報を整理する。		53	休みの日に家で一人で過ごすのはつまらない。
	57	新聞や雑誌にはよく目を通す。		61	人とすぐに仲良くなれる。
D2	4	本を読むのが好きだ。	P3	8	友だちや家族の役に立つとうれしい。
	12	図書館や本屋によくでかける。		16	人が喜んでいるのを見ると自分もうれしくなる。
	20	テレビではニュースや報道番組をよく見る。		24	立場の弱い人には親切にすべきだと思う。
	28	世の中で起きている事件や出来事に関心がある。		32	困っている人を見るとつい声をかけたくなる。
	36	税金や制度など社会の仕組みについてよく理解したい。		40	人に感謝されるとうれしい。
	44	わからないことがあるとインターネットや本で調べる。		48	世の中の役に立つことをしたい。
	52	外国の人の意見や考え方について知りたい。		56	他の人の世話をするのが好きだ。
	60	遠い国の人々の暮らしに興味がある。		64	いろいろな人と関われるような仕事をしたい。
D3	7	計画的に物事を進めるタイプだ。	T1	3	指先を使って物を組み立てるのが得意だ。
	15	何かを始めるときは計画を立ててから取り組む。		11	工作や物作りが好きだ。
	23	慎重な性格だと思う。		19	手先が器用だと思う。
	31	いったん始めたことは忍耐強くやりとげる方だ。		27	物を作り出すような仕事をしたい。
	39	自分の持ち物や道具の手入れはきちんとしている。		35	大工道具やドライバーなどの道具類はうまく使える。
	47	何か失敗したらまずその原因を考える。		43	机や本棚を自分で作ってみたい。
	55	必要な情報はいつもきちんと整理しておきたい。		51	美術や図工の時間は楽しい。
	63	落ち着いていると言われる。		59	こわれた物があると何とか直せないか試してみる。
P1	2	話し合いの場ではよく発言する方だ。	T2	6	自分で野菜や果物を栽培したい。
	10	人前で発言するのが得意だ。		14	動物の飼育や植物の世話が好きだ。
	18	場の雰囲気盛り上げるのが得意だ。		22	牧場や農場で働いてみたい。
	26	新しい友だちをつくるのは得意だ。		30	自然公園やアスレチックに行くのが好きだ。
	34	人より目立つことが好きだ。		38	星や動植物をじっくり観察するのが好きだ。
	42	自分から人に話しかけることが多い。		46	山や海に出かけるのが好きだ。
	50	人から良く元気な人だと思われる。		54	外国に旅行するなら自然の豊かな国がいい。
	58	劇をやるなら舞台にあがって演技をしたい。		62	博物館や科学館に行くのが好きだ。

2-(1) 標準化規準集団の構成

(1) 調査対象校の分布

学校・学科タイプ		中学校(38校)		高校 (62校)						
		300人未満	300人以上	普通 進学率 70%未満	普通 進学率 70%以上	農業・ 水産	工業・ 情報	商業	家庭・ 看護 福祉	その 他・総 合
地域	北海道・ 東北	3	3	5	4	0	0	0	1	0
	関東	4	6	6	6	1	1	4	2	1
	東海・中 部・北陸	4	4	4	2	1	2	1	0	1
	近畿	2	4	4	1	0	1	1	1	0
	中国・四 国	3	1	2	1	0	0	0	0	0
	九州・沖 縄	1	3	4	2	1	1	0	1	0
合計		17	21	25	16	3	5	6	5	2

(2) 学年別性別構成(人)

		計	男	女
中 高 計		27,092	13,675	13,417
中学校	計	10,966	5,596	5,370
	1年生	3,721	1,905	1,816
	2年生	3,616	1,825	1,791
	3年生	3,629	1,866	1,763
高 校	計	17,104	8,409	8,695
	1年生	6,561	3,244	3,317
	2年生	6,584	3,185	3,399
	3年生	3,959	1,980	1,979

(3) 学校規模別性別構成(中学生)(人)

	計	男	女
計	10,966	5,596	5,370
300人未満	2,677	1,394	1,283
300人以上	8,289	4,202	4,087

(4) 学科別性別構成(高校生)(人)

	計	男	女
計	17,104	8,409	8,695
普通科進学率 70%未満	7,668	3,723	3,945
普通科進学率 70%以上	4,441	2,210	2,231
農業+水産	786	429	357
工業+情報	1,818	1,566	252
商業	1,032	236	796
家庭+看護+ 福祉	778	8	770
その他+総合	581	237	344

(2)各尺度における学校、学年、男女別平均値と標準偏差

2-(2)-1 中学校の学校規模別、平均値と標準偏差 (SD)

検査名	尺度	中学校		中学校(規模別)			
		計(n=10,966)		300人未満(n=2,677)		300人以上(n=8,289)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
A検査	R	5.47	5.01	5.54	4.99	5.45	5.01
	I	4.94	4.80	5.18	4.79	4.86	4.80
	A	6.82	4.82	7.03	4.90	6.76	4.79
	S	6.44	4.63	6.43	4.63	6.44	4.63
	E	6.34	4.38	6.23	4.33	6.38	4.39
	C	4.97	4.39	5.08	4.43	4.94	4.37
B検査	D	10.24	4.97	10.41	4.99	10.18	4.97
	P	14.85	5.05	14.61	4.96	14.93	5.07
	T	7.51	3.87	7.67	3.81	7.45	3.89
C検査	R	5.34	5.10	5.36	5.08	5.34	5.10
	I	4.37	4.72	4.60	4.75	4.29	4.70
	A	5.74	4.57	5.87	4.69	5.70	4.53
	S	6.50	4.68	6.47	4.66	6.51	4.68
	E	5.25	4.44	5.14	4.38	5.29	4.45
	C	5.31	4.80	5.40	4.82	5.27	4.79

2-(2)-2 中学校の学年別、平均値と標準偏差 (SD)

検査名	尺度	1年生(n=3721)		2年生(n=3616)		3年生(n=3629)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
A検査	R	5.29	4.90	5.48	5.03	5.66	5.09
	I	5.15	4.81	4.87	4.79	4.80	4.80
	A	6.94	4.89	6.81	4.85	6.72	4.70
	S	6.28	4.69	6.38	4.52	6.66	4.67
	E	6.27	4.35	6.33	4.31	6.43	4.47
	C	4.66	4.25	4.89	4.36	5.38	4.52
B検査	D	10.12	4.99	10.18	5.03	10.41	4.90
	P	15.19	4.96	14.69	5.08	14.67	5.10
	T	7.92	3.83	7.36	3.89	7.22	3.84
C検査	R	5.16	4.96	5.26	5.11	5.62	5.22
	I	4.54	4.74	4.27	4.67	4.28	4.73
	A	6.09	4.74	5.71	4.54	5.41	4.39
	S	6.29	4.72	6.42	4.61	6.81	4.69
	E	5.35	4.49	5.19	4.37	5.21	4.44
	C	4.83	4.59	5.19	4.80	5.90	4.95

2-(2)-3 高等学校の学科別、平均値と標準偏差 (SD)

検査名	尺度	高等学校															
		計(n=17,104)		普通科進学率70%未満		普通科進学率70%以上		農業+水産(n=786)		工業+情報(n=1818)		商業(n=1,032)		家政+看護+福祉		その他+総合(n=581)	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
A検査	R	5.48	5.06	5.53	5.15	4.80	4.59	6.35	5.19	8.47	5.16	3.98	4.34	3.48	4.03	4.77	4.89
	I	4.20	4.57	3.72	4.31	5.25	4.96	4.18	4.54	5.01	4.71	3.25	3.93	2.93	3.89	3.31	4.27
	A	6.42	4.67	6.28	4.65	6.30	4.70	5.98	4.20	6.09	4.66	7.42	4.70	7.81	4.59	7.15	4.74
	S	6.59	4.65	6.75	4.68	6.57	4.59	6.05	4.43	5.03	4.35	7.63	4.53	8.46	4.73	5.98	4.42
	E	5.98	4.38	5.61	4.27	6.36	4.54	5.58	4.03	5.89	4.43	7.02	4.40	6.45	4.26	6.28	4.23
	C	5.14	4.52	4.85	4.38	5.05	4.40	4.56	4.13	4.87	4.46	8.16	5.09	5.45	4.62	5.47	4.73
B検査	D	10.53	4.97	9.90	4.94	11.63	4.81	9.12	4.84	10.20	5.15	11.59	4.86	11.25	4.56	10.63	4.73
	P	14.35	5.05	14.41	4.99	14.42	5.10	13.72	5.10	13.38	5.21	15.02	4.96	15.52	4.55	14.15	4.91
	T	7.23	3.88	7.02	3.84	7.14	3.92	7.30	3.86	8.15	3.88	6.90	3.84	7.88	3.80	7.47	3.80
C検査	R	5.49	5.09	5.34	5.14	5.17	4.78	6.07	5.14	8.50	5.17	4.11	4.44	3.57	4.11	4.84	5.01
	I	3.78	4.38	3.26	4.10	4.87	4.77	3.64	4.29	4.64	4.71	2.80	3.61	2.60	3.57	2.93	3.89
	A	5.00	4.26	4.97	4.30	4.71	4.15	4.48	3.72	5.10	4.36	5.76	4.39	5.80	4.30	5.64	4.33
	S	6.83	4.69	6.80	4.70	7.12	4.65	6.17	4.55	5.53	4.55	7.84	4.57	8.27	4.71	6.37	4.52
	E	4.75	4.23	4.39	4.15	5.19	4.35	4.19	3.93	4.92	4.37	5.52	4.31	4.78	3.89	4.87	4.13
	C	5.93	4.88	5.18	4.65	6.77	4.89	4.85	4.41	5.67	4.95	8.86	5.00	6.07	4.73	6.38	5.12

2-(2)-4 高等学校の学年別、平均値と標準偏差 (SD)

検査名	尺度	1年生(n=6,561)		2年生(n=6,584)		3年生(n=3,959)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
A検査	R	5.48	5.02	5.28	5.00	5.81	5.19
	I	4.17	4.52	4.18	4.59	4.27	4.60
	A	6.53	4.68	6.35	4.65	6.37	4.69
	S	6.51	4.63	6.54	4.65	6.83	4.70
	E	6.05	4.38	5.85	4.32	6.07	4.44
	C	5.26	4.56	4.90	4.44	5.34	4.57
B検査	D	10.15	4.96	10.48	4.97	11.26	4.89
	P	14.45	5.00	14.15	5.10	14.52	5.02
	T	7.07	3.89	7.16	3.85	7.62	3.88
C検査	R	5.43	5.06	5.34	5.01	5.83	5.27
	I	3.74	4.36	3.79	4.37	3.81	4.41
	A	5.20	4.34	4.87	4.18	4.90	4.25
	S	6.66	4.68	6.85	4.65	7.09	4.78
	E	4.80	4.25	4.67	4.18	4.78	4.28
	C	5.84	4.87	5.83	4.82	6.26	5.00

2-(2)-5 中高別、男女別平均値と標準偏差 (SD)

検査名	尺度	中学校(男女別)				高等学校(男女別)			
		男(n=5,596)		女(n=5,370)		男(n=8,409)		女(n=8,695)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
A検査	R	8.13	4.86	2.71	3.40	8.08	4.98	2.96	3.66
	I	6.39	4.95	3.43	4.13	5.37	4.78	3.06	4.04
	A	5.23	4.26	8.48	4.80	5.62	4.41	7.20	4.78
	S	4.60	3.90	8.35	4.56	4.98	4.14	8.16	4.59
	E	6.49	4.49	6.19	4.26	6.21	4.47	5.75	4.27
	C	4.88	4.33	5.07	4.45	4.79	4.33	5.48	4.67
B検査	D	9.98	5.19	10.50	4.72	10.53	5.13	10.54	4.80
	P	13.79	5.27	15.95	4.55	13.42	5.23	15.25	4.69
	T	7.87	3.96	7.13	3.73	7.54	3.96	6.93	3.78
C検査	R	8.04	5.05	2.54	3.33	8.12	5.05	2.95	3.63
	I	5.79	5.00	2.88	3.88	4.95	4.70	2.64	3.70
	A	4.60	4.16	6.93	4.67	4.62	4.12	5.38	4.36
	S	4.93	4.14	8.14	4.65	5.55	4.40	8.07	4.64
	E	5.56	4.61	4.93	4.23	5.15	4.42	4.36	4.00
	C	5.35	4.86	5.26	4.73	5.69	4.88	6.17	4.87

(3) 第3版各検査項目に対する中学生の全体、学年別、男女別の回答度数

2-(3)-1 第3版A検査各項目に対する中学生の回答度数(全体、学年別、男女別)

中学生A検査頻度(全体)								中学生A検査頻度(1年)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数	項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない			やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	2924	2681	5360	26.67	24.45	48.88	1	1	950	896	1874	25.54	24.09	50.38	1
2	2709	2408	5848	24.71	21.96	53.33	1	2	1043	842	1836	28.03	22.63	49.34	0
3	3311	4002	3651	30.2	36.5	33.3	2	3	1110	1314	1296	29.84	35.32	34.84	1
4	4215	3119	3628	38.45	28.45	33.1	4	4	1404	1019	1298	37.73	27.39	34.88	0
5	3471	4151	3331	31.69	37.9	30.41	13	5	1195	1369	1151	32.17	36.85	30.98	6
6	2566	3234	5164	23.4	29.5	47.1	2	6	790	1108	1822	21.24	29.78	48.98	1
7	2213	2965	5786	20.18	27.04	52.77	2	7	719	1002	2000	19.32	26.93	53.75	0
8	1452	3760	5749	13.25	34.3	52.45	5	8	536	1401	1782	14.41	37.67	47.92	2
9	1720	2969	6271	15.69	27.09	57.22	6	9	599	1030	2088	16.12	27.71	56.17	4
10	1485	3164	6299	13.56	28.9	57.54	18	10	472	1000	2241	12.71	26.93	60.36	8
11	2115	3964	4880	19.3	36.17	44.53	7	11	681	1355	1679	18.33	36.47	45.2	6
12	1337	3408	6216	12.2	31.09	56.71	5	12	413	1145	2161	11.11	30.79	58.11	2
13	2436	3208	5321	22.22	29.26	48.53	1	13	791	1131	1798	21.26	30.4	48.33	1
14	981	2767	7216	8.95	25.24	65.82	2	14	310	955	2455	8.33	25.67	65.99	1
15	2489	3414	5055	22.71	31.16	46.13	8	15	837	1141	1740	22.51	30.69	46.8	3
16	1929	3183	5853	17.59	29.03	53.38	1	16	616	1079	2026	16.55	29	54.45	0
17	2002	4091	4867	18.27	37.33	44.41	6	17	684	1376	1659	18.39	37	44.61	2
18	1354	3226	6382	12.35	29.43	58.22	4	18	382	1095	2242	10.27	29.44	60.29	2
19	2014	3017	5930	18.37	27.52	54.1	5	19	675	1021	2025	18.14	27.44	54.42	0
20	1421	2662	6881	12.96	24.28	62.76	2	20	515	961	2244	13.84	25.83	60.32	1
21	1755	3175	6019	16.03	29	54.97	17	21	608	1103	2006	16.36	29.67	53.97	4
22	2218	4017	4730	20.23	36.63	43.14	1	22	656	1342	1723	17.63	36.07	46.3	0
23	1539	3212	6209	14.04	29.31	56.65	6	23	553	1092	2071	14.88	29.39	55.73	5
24	1428	3807	5722	13.03	34.74	52.22	9	24	434	1216	2067	11.68	32.71	55.61	4
25	1601	2356	7007	14.6	21.49	63.91	2	25	527	725	2469	14.16	19.48	66.35	0
26	1309	2552	7103	11.94	23.28	64.78	2	26	424	932	2365	11.39	25.05	63.56	0
27	2063	2805	6089	18.83	25.6	55.57	9	27	830	994	1894	22.32	26.73	50.94	3
28	1848	3226	5892	16.85	29.42	53.73	0	28	621	1042	2058	16.69	28	55.31	0
29	1190	3340	6434	10.85	30.46	58.68	2	29	384	1081	2254	10.33	29.07	60.61	2
30	578	2737	7649	5.27	24.96	69.76	2	30	142	895	2683	3.82	24.06	72.12	1
31	1494	2565	6906	13.63	23.39	62.98	1	31	450	805	2466	12.09	21.63	66.27	0
32	1505	2383	7076	13.73	21.73	64.54	2	32	524	838	2357	14.09	22.53	63.38	2
33	2650	3185	5130	24.17	29.05	46.79	1	33	951	1028	1742	25.56	27.63	46.82	0
34	1999	3960	5006	18.23	36.11	45.65	1	34	691	1419	1611	18.57	38.13	43.29	0
35	2051	3111	5784	18.74	28.42	52.84	20	35	741	1074	1900	19.95	28.91	51.14	6
36	2326	3621	5010	21.23	33.05	45.72	9	36	675	1239	1805	18.15	33.32	48.53	2
37	1766	2380	6815	16.11	21.71	62.17	5	37	526	782	2410	14.15	21.03	64.82	3
38	1892	2710	6361	17.26	24.72	58.02	3	38	612	903	2205	16.45	24.27	59.27	1
39	2786	3526	4637	25.45	32.2	42.35	17	39	939	1177	1601	25.26	31.67	43.07	4
40	1819	3227	5916	16.59	29.44	53.97	4	40	622	1089	2009	16.72	29.27	54.01	1
41	1804	3384	5770	16.46	30.88	52.66	8	41	606	1157	1955	16.3	31.12	52.58	3
42	1293	2117	7549	11.8	19.32	68.88	7	42	409	720	2589	11	19.37	69.63	3
43	1290	2782	6868	11.79	25.43	62.78	26	43	390	912	2409	10.51	24.58	64.92	10
44	1587	2853	6524	14.47	26.02	59.5	2	44	591	974	2155	15.89	26.18	57.93	1
45	3649	2782	4522	33.32	25.4	41.29	13	45	1214	852	1652	32.65	22.92	44.43	3
46	2175	3545	5244	19.84	32.33	47.83	2	46	722	1242	1756	19.41	33.39	47.2	1
47	2165	3560	5236	19.75	32.48	47.77	5	47	718	1164	1837	19.31	31.3	49.39	2
48	1065	3200	6698	9.71	29.19	61.1	3	48	332	1027	2361	8.92	27.61	63.47	1
49	2008	2542	6414	18.31	23.18	58.5	2	49	737	873	2111	19.81	23.46	56.73	0
50	1832	2708	6425	16.71	24.7	58.6	1	50	629	984	2108	16.9	26.44	56.65	0
51	2603	2832	5519	23.76	25.85	50.38	12	51	998	961	1754	26.88	25.88	47.24	8
52	2176	3400	5387	19.85	31.01	49.14	3	52	720	1095	1904	19.36	29.44	51.2	2
53	2198	3640	5123	20.05	33.21	46.74	5	53	659	1205	1854	17.72	32.41	49.87	3
54	1172	2944	6846	10.69	26.86	62.45	4	54	391	962	2366	10.51	25.87	63.62	2

中学生A検査頻度(2年)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	938	897	1781	25.94	24.81	49.25	0
2	866	804	1945	23.96	22.24	53.8	1
3	1069	1360	1187	29.56	37.61	32.83	0
4	1359	1051	1204	37.6	29.08	33.31	2
5	1149	1406	1056	31.82	38.94	29.24	5
6	815	1044	1757	22.54	28.87	48.59	0
7	769	954	1893	21.27	26.38	52.35	0
8	455	1196	1963	12.59	33.09	54.32	2
9	569	955	2090	15.74	26.43	57.83	2
10	468	1067	2076	12.96	29.55	57.49	5
11	687	1338	1591	19	37	44	0
12	444	1087	2085	12.28	30.06	57.66	0
13	798	1027	1791	22.07	28.4	49.53	0
14	346	931	2339	9.57	25.75	64.68	0
15	790	1127	1695	21.87	31.2	46.93	4
16	599	1066	1951	16.57	29.48	53.95	0
17	647	1339	1628	17.9	37.05	45.05	2
18	448	1028	2140	12.39	28.43	59.18	0
19	682	973	1957	18.88	26.94	54.18	4
20	459	848	2308	12.7	23.46	63.85	1
21	600	1053	1956	16.63	29.18	54.2	7
22	737	1351	1527	20.39	37.37	42.24	1
23	485	1071	2059	13.42	29.63	56.96	1
24	444	1273	1895	12.29	35.24	52.46	4
25	527	787	2301	14.58	21.77	63.65	1
26	445	816	2354	12.31	22.57	65.12	1
27	675	928	2008	18.69	25.7	55.61	5
28	570	1104	1942	15.76	30.53	53.71	0
29	386	1127	2103	10.67	31.17	58.16	0
30	199	915	2501	5.5	25.31	69.18	1
31	497	842	2277	13.74	23.29	62.97	0
32	481	757	2378	13.3	20.93	65.76	0
33	863	1080	1673	23.87	29.87	46.27	0
34	628	1308	1679	17.37	36.18	46.45	1
35	671	1004	1932	18.6	27.83	53.56	9
36	781	1153	1679	21.62	31.91	46.47	3
37	571	810	2233	15.8	22.41	61.79	2
38	623	913	2078	17.24	25.26	57.5	2
39	905	1152	1553	25.07	31.91	43.02	6
40	571	1073	1969	15.8	29.7	54.5	3
41	575	1101	1937	15.91	30.47	53.61	3
42	406	673	2534	11.24	18.63	70.14	3
43	407	969	2231	11.28	26.86	61.85	9
44	491	977	2147	13.58	27.03	59.39	1
45	1223	930	1459	33.86	25.75	40.39	4
46	684	1182	1749	18.92	32.7	48.38	1
47	689	1226	1698	19.07	33.93	47	3
48	333	1072	2210	9.21	29.65	61.13	1
49	668	831	2116	18.48	22.99	58.53	1
50	585	865	2165	16.18	23.93	59.89	1
51	842	940	1832	23.3	26.01	50.69	2
52	701	1201	1714	19.39	33.21	47.4	0
53	731	1225	1659	20.22	33.89	45.89	1
54	378	942	2295	10.46	26.06	63.49	1

中学生A検査頻度(3年)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	1036	888	1705	28.55	24.47	46.98	0
2	800	762	2067	22.04	21	56.96	0
3	1132	1328	1168	31.2	36.6	32.19	1
4	1452	1049	1126	40.03	28.92	31.04	2
5	1127	1376	1124	31.07	37.94	30.99	2
6	961	1082	1585	26.49	29.82	43.69	1
7	725	1009	1893	19.99	27.82	52.19	2
8	461	1163	2004	12.71	32.06	55.24	1
9	552	984	2093	15.21	27.11	57.67	0
10	545	1097	1982	15.04	30.27	54.69	5
11	747	1271	1610	20.59	35.03	44.38	1
12	480	1176	1970	13.24	32.43	54.33	3
13	847	1050	1732	23.34	28.93	47.73	0
14	325	881	2422	8.96	24.28	66.76	1
15	862	1146	1620	23.76	31.59	44.65	1
16	714	1038	1876	19.68	28.61	51.71	1
17	671	1376	1580	18.5	37.94	43.56	2
18	524	1103	2000	14.45	30.41	55.14	2
19	657	1023	1948	18.11	28.2	53.69	1
20	447	853	2329	12.32	23.51	64.18	0
21	547	1019	2057	15.1	28.13	56.78	6
22	825	1324	1480	22.73	36.48	40.78	0
23	501	1049	2079	13.81	28.91	57.29	0
24	550	1318	1760	15.16	36.33	48.51	1
25	547	844	2237	15.08	23.26	61.66	1
26	440	804	2384	12.13	22.16	65.71	1
27	558	883	2187	15.38	24.34	60.28	1
28	657	1080	1892	18.1	29.76	52.14	0
29	420	1132	2077	11.57	31.19	57.23	0
30	237	927	2465	6.53	25.54	67.93	0
31	547	918	2163	15.08	25.3	59.62	1
32	500	788	2341	13.78	21.71	64.51	0
33	836	1077	1715	23.04	29.69	47.27	1
34	680	1233	1716	18.74	33.98	47.29	0
35	639	1033	1952	17.63	28.5	53.86	5
36	870	1229	1526	24	33.9	42.1	4
37	669	788	2172	18.43	21.71	59.85	0
38	657	894	2078	18.1	24.63	57.26	0
39	942	1197	1483	26.01	33.05	40.94	7
40	626	1065	1938	17.25	29.35	53.4	0
41	623	1126	1878	17.18	31.04	51.78	2
42	478	724	2426	13.18	19.96	66.87	1
43	493	901	2228	13.61	24.88	61.51	7
44	505	902	2222	13.92	24.86	61.23	0
45	1212	1000	1411	33.45	27.6	38.95	6
46	769	1121	1739	21.19	30.89	47.92	0
47	758	1170	1701	20.89	32.24	46.87	0
48	400	1101	2127	11.03	30.35	58.63	1
49	603	838	2187	16.62	23.1	60.28	1
50	618	859	2152	17.03	23.67	59.3	0
51	763	931	1933	21.04	25.67	53.29	2
52	755	1104	1769	20.81	30.43	48.76	1
53	808	1210	1610	22.27	33.35	44.38	1
54	403	1040	2185	11.11	28.67	60.23	1

中学生A検査頻度【男子】							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらともいえない	やりたくない	やりたい	どちらともいえない	やりたくない	
1	2492	1665	1439	44.53	29.75	25.71	0
2	2029	1501	2066	36.26	26.82	36.92	0
3	956	2054	2585	17.09	36.71	46.2	1
4	979	1857	2758	17.5	33.2	49.3	2
5	1905	2081	1603	34.08	37.23	28.68	7
6	1241	1660	2693	22.18	29.67	48.14	2
7	1576	1795	2224	28.17	32.08	39.75	1
8	978	2191	2425	17.48	39.17	43.35	2
9	620	1486	3487	11.09	26.57	62.35	3
10	566	1516	3504	10.13	27.14	62.73	10
11	1034	2049	2511	18.48	36.63	44.89	2
12	691	1887	3015	12.35	33.74	53.91	3
13	2002	2019	1575	35.78	36.08	28.15	0
14	702	1826	3067	12.55	32.64	54.82	1
15	853	1734	3004	15.26	31.01	53.73	5
16	560	1544	3491	10.01	27.6	62.39	1
17	774	2014	2806	13.84	36	50.16	2
18	580	1604	3410	10.37	28.67	60.96	2
19	1545	1834	2213	27.63	32.8	39.57	4
20	1033	1751	2812	18.46	31.29	50.25	0
21	685	1572	3330	12.26	28.14	59.6	9
22	584	1964	3048	10.44	35.1	54.47	0
23	1043	1808	2741	18.65	32.33	49.02	4
24	652	1925	3015	11.66	34.42	53.92	4
25	1366	1796	2432	24.42	32.11	43.48	2
26	973	1668	2953	17.39	29.82	52.79	2
27	949	1520	3121	16.98	27.19	55.83	6
28	379	1557	3660	6.77	27.82	65.4	0
29	615	1749	3231	10.99	31.26	57.75	1
30	219	1350	4026	3.91	24.13	71.96	1
31	1260	1853	2482	22.52	33.12	44.36	1
32	972	1465	3157	17.38	26.19	56.44	2
33	1013	1609	2974	18.1	28.75	53.15	0
34	547	1867	3182	9.77	33.36	56.86	0
35	825	1579	3178	14.78	28.29	56.93	14
36	1082	1868	2639	19.36	33.42	47.22	7
37	1617	1801	2173	28.92	32.21	38.87	5
38	1164	1530	2899	20.81	27.36	51.83	3
39	1041	1674	2870	18.64	29.97	51.39	11
40	573	1609	3411	10.24	28.77	60.99	3
41	1237	1919	2436	22.12	34.32	43.56	4
42	849	1306	3436	15.19	23.36	61.46	5
43	1037	1769	2780	18.56	31.67	49.77	10
44	1051	1749	2796	18.78	31.25	49.96	0
45	681	1322	3588	12.18	23.65	64.17	5
46	569	1723	3303	10.17	30.8	59.03	1
47	1310	1850	2434	23.42	33.07	43.51	2
48	326	1534	3734	5.83	27.42	66.75	2
49	1667	1789	2138	29.8	31.98	38.22	2
50	1281	1703	2612	22.89	30.43	46.68	0
51	660	1377	3551	11.81	24.64	63.55	8
52	501	1612	3481	8.96	28.82	62.23	2
53	980	1811	2803	17.52	32.37	50.11	2
54	639	1589	3366	11.42	28.41	60.17	2

中学生A検査頻度【女子】							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらともいえない	やりたくない	やりたい	どちらともいえない	やりたくない	
1	432	1016	3921	8.05	18.92	73.03	1
2	680	907	3782	12.67	16.89	70.44	1
3	2355	1948	1066	43.86	36.28	19.85	1
4	3236	1262	870	60.28	23.51	16.21	2
5	1566	2070	1728	29.19	38.59	32.21	6
6	1325	1574	2471	24.67	29.31	46.01	0
7	637	1170	3562	11.86	21.79	66.34	1
8	474	1569	3324	8.83	29.23	61.93	3
9	1100	1483	2784	20.5	27.63	51.87	3
10	919	1648	2795	17.14	30.73	52.13	8
11	1081	1915	2369	20.15	35.69	44.16	5
12	646	1521	3201	12.03	28.33	59.63	2
13	434	1189	3746	8.08	22.15	69.77	1
14	279	941	4149	5.2	17.53	77.28	1
15	1636	1680	2051	30.48	31.3	38.22	3
16	1369	1639	2362	25.49	30.52	43.99	0
17	1228	2077	2061	22.88	38.71	38.41	4
18	774	1622	2972	14.42	30.22	55.37	2
19	469	1183	3717	8.74	22.03	69.23	1
20	388	911	4069	7.23	16.97	75.8	2
21	1070	1603	2689	19.96	29.9	50.15	8
22	1634	2053	1682	30.43	38.24	31.33	1
23	496	1404	3468	9.24	26.15	64.61	2
24	776	1882	2707	14.46	35.08	50.46	5
25	235	560	4575	4.38	10.43	85.2	0
26	336	884	4150	6.26	16.46	77.28	0
27	1114	1285	2968	20.76	23.94	55.3	3
28	1469	1669	2232	27.36	31.08	41.56	0
29	575	1591	3203	10.71	29.63	59.66	1
30	359	1387	3623	6.69	25.83	67.48	1
31	234	712	4424	4.36	13.26	82.38	0
32	533	918	3919	9.93	17.09	72.98	0
33	1637	1576	2156	30.49	29.35	40.16	1
34	1452	2093	1824	27.04	38.98	33.97	1
35	1226	1532	2606	22.86	28.56	48.58	6
36	1244	1753	2371	23.17	32.66	44.17	2
37	149	579	4642	2.77	10.78	86.44	0
38	728	1180	3462	13.56	21.97	64.47	0
39	1745	1852	1767	32.53	34.53	32.94	6
40	1246	1618	2505	23.21	30.14	46.66	1
41	567	1465	3334	10.57	27.3	62.13	4
42	444	811	4113	8.27	15.11	76.62	2
43	253	1013	4088	4.73	18.92	76.35	16
44	536	1104	3728	9.99	20.57	69.45	2
45	2968	1460	934	55.35	27.23	17.42	8
46	1606	1822	1941	29.91	33.94	36.15	1
47	855	1710	2802	15.93	31.86	52.21	3
48	739	1666	2964	13.76	31.03	55.21	1
49	341	753	4276	6.35	14.02	79.63	0
50	551	1005	3813	10.26	18.72	71.02	1
51	1943	1455	1968	36.21	27.12	36.68	4
52	1675	1788	1906	31.2	33.3	35.5	1
53	1218	1829	2320	22.69	34.08	43.23	3
54	533	1355	3480	9.93	25.24	64.83	2

2-(3)-2 第3版B検査各項目に対する中学生の回答度数（全体、学年別、男女別）

中学生B検査頻度(全体)						中学生B検査頻度(1年生)						中学生B検査頻度(2年生)					
項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数	項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数	項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数
	あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない			あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない			あてはまる	あてまらない			
1	3099	7853	28.3	71.7	14	1	1033	2683	27.8	72.2	5	1	1017	2595	28.16	71.84	4
2	3349	7609	30.56	69.44	8	2	1218	2499	32.77	67.23	4	2	1048	2567	28.99	71.01	1
3	4610	6348	42.07	57.93	8	3	1570	2147	42.24	57.76	4	3	1486	2129	41.11	58.89	1
4	6771	4190	61.77	38.23	5	4	2345	1373	63.07	36.93	3	4	2147	1469	59.38	40.62	0
5	7439	3516	67.91	32.09	11	5	2591	1126	69.71	30.29	4	5	2449	1164	67.78	32.22	3
6	3777	7184	34.46	65.54	5	6	1328	2391	35.71	64.29	2	6	1229	2386	34	66	1
7	3510	7447	32.03	67.97	9	7	1225	2494	32.94	67.06	2	7	1139	2475	31.52	68.48	2
8	8853	2105	80.79	19.21	8	8	3003	713	80.81	19.19	5	8	2891	723	79.99	20.01	2
9	5101	5857	46.55	53.45	8	9	1688	2029	45.41	54.59	4	9	1704	1910	47.15	52.85	2
10	2479	8481	22.62	77.38	6	10	864	2855	23.23	76.77	2	10	789	2827	21.82	78.18	0
11	6383	4574	58.25	41.75	9	11	2270	1448	61.05	38.95	3	11	2032	1581	56.24	43.76	3
12	5304	5658	48.39	51.61	4	12	1833	1887	49.27	50.73	1	12	1767	1849	48.87	51.13	0
13	9526	1438	86.88	13.12	2	13	3329	392	89.47	10.53	0	13	3151	464	87.16	12.84	1
14	5562	5397	50.75	49.25	7	14	2030	1688	54.6	45.4	3	14	1786	1828	49.42	50.58	2
15	4479	6479	40.87	59.13	8	15	1557	2163	41.85	58.15	1	15	1470	2143	40.69	59.31	3
16	8605	2349	78.56	21.44	12	16	2845	869	76.6	23.4	7	16	2823	791	78.11	21.89	2
17	4617	6337	42.15	57.85	12	17	1448	2269	38.96	61.04	4	17	1520	2092	42.08	57.92	4
18	3756	7186	34.33	65.67	24	18	1357	2354	36.57	63.43	10	18	1206	2404	33.41	66.59	6
19	4174	6782	38.1	61.9	10	19	1372	2345	36.91	63.09	4	19	1389	2226	38.42	61.58	1
20	4793	6170	43.72	56.28	3	20	1575	2145	42.34	57.66	1	20	1568	2048	43.36	56.64	0
21	8407	2547	76.75	23.25	12	21	2870	846	77.23	22.77	5	21	2784	828	77.08	22.92	4
22	2521	8423	23.04	76.96	22	22	900	2812	24.25	75.75	9	22	814	2796	22.55	77.45	6
23	4381	6568	40.01	59.99	17	23	1347	2366	36.28	63.72	8	23	1464	2150	40.51	59.49	2
24	8474	2485	77.32	22.68	7	24	2859	860	76.88	23.12	2	24	2720	893	75.28	24.72	3
25	4005	6949	36.56	63.44	12	25	1471	2245	39.59	60.41	5	25	1325	2287	36.68	63.32	4
26	6290	4658	57.45	42.55	18	26	2373	1344	63.84	36.16	4	26	2026	1586	56.09	43.91	4
27	4529	6433	41.32	58.68	4	27	1513	2206	40.68	59.32	2	27	1521	2094	42.07	57.93	1
28	6268	4692	57.19	42.81	6	28	2072	1645	55.74	44.26	4	28	2016	1600	55.75	44.25	0
29	8891	2068	81.13	18.87	7	29	3111	607	83.67	16.33	3	29	2929	686	81.02	18.98	1
30	5960	4999	54.38	45.62	7	30	2205	1515	59.27	40.73	1	30	1932	1681	53.47	46.53	3
31	4897	6055	44.71	55.29	14	31	1716	1997	46.22	53.78	8	31	1607	2008	44.45	55.55	1
32	6640	4304	60.67	39.33	22	32	2326	1387	62.64	37.36	8	32	2124	1483	58.89	41.11	9
33	1578	9386	14.39	85.61	2	33	452	3268	12.15	87.85	1	33	545	3071	15.07	84.93	0
34	3271	7682	29.86	70.14	13	34	1129	2584	30.41	69.59	8	34	1056	2558	29.22	70.78	2
35	3785	7175	34.53	65.47	6	35	1298	2421	34.9	65.1	2	35	1208	2408	33.41	66.59	0
36	3132	7827	28.58	71.42	7	36	966	2751	25.99	74.01	4	36	1048	2567	28.99	71.01	1
37	9805	1150	89.5	10.5	11	37	3365	350	90.58	9.42	6	37	3201	413	88.57	11.43	2
38	4008	6949	36.58	63.42	9	38	1367	2352	36.76	63.24	2	38	1283	2330	35.51	64.49	3
39	5726	5232	52.25	47.75	8	39	1966	1753	52.86	47.14	2	39	1881	1734	52.03	47.97	1
40	9843	1111	89.86	10.14	12	40	3315	401	89.21	10.79	5	40	3212	399	88.95	11.05	5
41	4968	5986	45.35	54.65	12	41	1794	1922	48.28	51.72	5	41	1628	1985	45.06	54.94	3
42	6626	4335	60.45	39.55	5	42	2417	1302	64.99	35.01	2	42	2176	1440	60.18	39.82	0
43	4871	6086	44.46	55.54	9	43	1895	1823	50.97	49.03	3	43	1521	2092	42.1	57.9	3
44	5324	5632	48.59	51.41	10	44	1858	1857	50.01	49.99	6	44	1728	1885	47.83	52.17	3
45	8681	2280	79.2	20.8	5	45	2859	860	76.88	23.12	2	45	2865	749	79.28	20.72	2
46	6526	4428	59.58	40.42	12	46	2437	1277	65.62	34.38	7	46	2099	1515	58.08	41.92	2
47	6653	4300	60.74	39.26	13	47	2200	1515	59.22	40.78	6	47	2204	1410	60.99	39.01	2
48	6718	4237	61.32	38.68	11	48	2259	1459	60.76	39.24	3	48	2177	1435	60.27	39.73	4
49	3567	7391	32.55	67.45	8	49	1139	2579	30.63	69.37	3	49	1185	2430	32.78	67.22	1
50	6744	4212	61.56	38.44	10	50	2408	1307	64.82	35.18	6	50	2206	1410	61.01	38.99	0
51	6167	4794	56.26	43.74	5	51	2230	1487	59.99	40.01	4	51	1975	1640	54.63	45.37	1
52	3453	7504	31.51	68.49	9	52	1115	2600	30.01	69.99	6	52	1107	2508	30.62	69.38	1
53	6804	4152	62.1	37.9	10	53	2550	1167	68.6	31.4	4	53	2237	1375	61.93	38.07	4
54	8110	2829	74.14	25.86	27	54	2882	825	77.74	22.26	14	54	2636	971	73.08	26.92	9
55	5970	4988	54.48	45.52	8	55	2051	1668	55.15	44.85	2	55	1904	1708	52.71	47.29	4
56	4527	6436	41.29	58.71	3	56	1497	2224	40.23	59.77	0	56	1492	2124	41.26	58.74	0
57	5851	5105	53.4	46.6	10	57	1910	1807	51.39	48.61	4	57	1937	1676	53.61	46.39	3
58	3641	7318	33.22	66.78	7	58	1237	2483	33.25	66.75	1	58	1142	2471	31.61	68.39	3
59	7745	3215	70.67	29.33	6	59	2718	999	73.12	26.88	4	59	2527	1088	69.9	30.1	1
60	5364	5596	48.94	51.06	6	60	1776	1943	47.75	52.25	2	60	1766	1848	48.87	51.13	2
61	6990	3964	63.81	36.19	12	61	2526	1192	67.94	32.06	3	61	2278	1336	63.03	36.97	2
62	3426	7536	31.25	68.75	4	62	1391	2329	37.39	62.61	1	62	1125	2489	31.13	68.87	2
63	3143	7817	28.68	71.32	6	63	960	2758	25.82	74.18	3	63	1063	2553	29.4	70.6	0
64	6226	4734	56.81	43.19	6	64	2091	1629	56.21	43.79	1	64	2004	1610	55.45	44.55	2

中学生B検査頻度(3年生)					
項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数
	あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない	
1	1049	2575	28.95	71.05	5
2	1083	2543	29.87	70.13	3
3	1554	2072	42.86	57.14	3
4	2279	1348	62.83	37.17	2
5	2399	1226	66.18	33.82	4
6	1220	2407	33.64	66.36	2
7	1146	2478	31.62	68.38	5
8	2959	669	81.56	18.44	1
9	1709	1918	47.12	52.88	2
10	826	2799	22.79	77.21	4
11	2081	1545	57.39	42.61	3
12	1704	1922	46.99	53.01	3
13	3046	582	83.96	16.04	1
14	1746	1881	48.14	51.86	2
15	1452	2173	40.06	59.94	4
16	2937	689	81	19	3
17	1649	1976	45.49	54.51	4
18	1193	2428	32.95	67.05	8
19	1413	2211	38.99	61.01	5
20	1650	1977	45.49	54.51	2
21	2753	873	75.92	24.08	3
22	807	2815	22.28	77.72	7
23	1570	2052	43.35	56.65	7
24	2895	732	79.82	20.18	2
25	1209	2417	33.34	66.66	3
26	1891	1728	52.25	47.75	10
27	1495	2133	41.21	58.79	1
28	2180	1447	60.1	39.9	2
29	2851	775	78.63	21.37	3
30	1823	1803	50.28	49.72	3
31	1574	2050	43.43	56.57	5
32	2190	1434	60.43	39.57	5
33	581	3047	16.01	83.99	1
34	1086	2540	29.95	70.05	3
35	1279	2346	35.28	64.72	4
36	1118	2509	30.82	69.18	2
37	3239	387	89.33	10.67	3
38	1358	2267	37.46	62.54	4
39	1879	1745	51.85	48.15	5
40	3316	311	91.43	8.57	2
41	1546	2079	42.65	57.35	4
42	2033	1593	56.07	43.93	3
43	1455	2171	40.13	59.87	3
44	1738	1890	47.91	52.09	1
45	2957	671	81.5	18.5	1
46	1990	1636	54.88	45.12	3
47	2249	1375	62.06	37.94	5
48	2282	1343	62.95	37.05	4
49	1243	2382	34.29	65.71	4
50	2130	1495	58.76	41.24	4
51	1962	1667	54.06	45.94	0
52	1231	2396	33.94	66.06	2
53	2017	1610	55.61	44.39	2
54	2592	1033	71.5	28.5	4
55	2015	1612	55.56	44.44	2
56	1538	2088	42.42	57.58	3
57	2004	1622	55.27	44.73	3
58	1262	2364	34.8	65.2	3
59	2500	1128	68.91	31.09	1
60	1822	1805	50.23	49.77	2
61	2186	1436	60.35	39.65	7
62	910	2718	25.08	74.92	1
63	1120	2506	30.89	69.11	3
64	2131	1495	58.77	41.23	3

中学生B検査頻度(男子)					
項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数
	あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない	
1	1645	3946	29.42	70.58	5
2	1721	3868	30.79	69.21	7
3	2625	2965	46.96	53.04	6
4	3340	2254	59.71	40.29	2
5	3615	1974	64.68	35.32	7
6	1718	3873	30.73	69.27	5
7	1799	3790	32.19	67.81	7
8	4041	1550	72.28	27.72	5
9	2521	3071	45.08	54.92	4
10	1323	4268	23.66	76.34	5
11	3600	1990	64.4	35.6	6
12	2491	3102	44.54	55.46	3
13	4821	774	86.17	13.83	1
14	2437	3154	43.59	56.41	5
15	2271	3319	40.63	59.37	6
16	3880	1710	69.41	30.59	6
17	1914	3674	34.25	65.75	8
18	1732	3853	31.01	68.99	11
19	2152	3438	38.5	61.5	6
20	2737	2857	48.93	51.07	2
21	4051	1540	72.46	27.54	5
22	1255	4326	22.49	77.51	15
23	2401	3188	42.96	57.04	7
24	4034	1557	72.15	27.85	5
25	2008	3583	35.91	64.09	5
26	3146	2439	56.33	43.67	11
27	2826	2768	50.52	49.48	2
28	3206	2388	57.31	42.69	2
29	4587	1005	82.03	17.97	4
30	2919	2670	52.23	47.77	7
31	2672	2916	47.82	52.18	8
32	2772	2811	49.65	50.35	13
33	868	4727	15.51	84.49	1
34	1680	3910	30.05	69.95	6
35	2792	2799	49.94	50.06	5
36	1844	3746	32.99	67.01	6
37	4771	817	85.38	14.62	8
38	1934	3655	34.6	65.4	7
39	2871	2721	51.34	48.66	4
40	4724	865	84.52	15.48	7
41	2367	3222	42.35	57.65	7
42	3249	2346	58.07	41.93	1
43	2860	2730	51.16	48.84	6
44	2793	2796	49.97	50.03	7
45	3783	1809	67.65	32.35	4
46	3478	2111	62.23	37.77	7
47	3377	2213	60.41	39.59	6
48	3370	2220	60.29	39.71	6
49	1669	3923	29.85	70.15	4
50	3056	2535	54.66	45.34	5
51	2975	2617	53.2	46.8	4
52	1545	4046	27.63	72.37	5
53	3564	2026	63.76	36.24	6
54	4065	1514	72.86	27.14	17
55	2892	2697	51.74	48.26	7
56	1418	4176	25.35	74.65	2
57	2578	3012	46.12	53.88	6
58	1410	4180	25.22	74.78	6
59	4198	1393	75.08	24.92	5
60	2444	3146	43.72	56.28	6
61	3576	2013	63.98	36.02	7
62	2053	3540	36.71	63.29	3
63	1433	4162	25.61	74.39	1
64	2690	2900	48.12	51.88	6

中学生B検査頻度(女子)					
項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数
	あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない	
1	1454	3907	27.12	72.88	9
2	1628	3741	30.32	69.68	1
3	1985	3383	36.98	63.02	2
4	3431	1936	63.93	36.07	3
5	3824	1542	71.26	28.74	4
6	2059	3311	38.34	61.66	0
7	1711	3657	31.87	68.13	2
8	4812	555	89.66	10.34	3
9	2580	2786	48.08	51.92	4
10	1156	4213	21.53	78.47	1
11	2783	2584	51.85	48.15	3
12	2813	2556	52.39	47.61	1
13	4705	664	87.63	12.37	1
14	3125	2243	58.22	41.78	2
15	2208	3160	41.13	58.87	2
16	4725	639	88.09	11.91	6
17	2703	2663	50.37	49.63	4
18	2024	3333	37.78	62.22	13
19	2022	3344	37.68	62.32	4
20	2056	3313	38.29	61.71	1
21	4356	1007	81.22	18.78	7
22	1266	4097	23.61	76.39	7
23	1980	3380	36.94	63.06	10
24	4440	928	82.71	17.29	2
25	1997	3366	37.24	62.76	7
26	3144	2219	58.62	41.38	7
27	1703	3665	31.73	68.27	2
28	3062	2304	57.06	42.94	4
29	4304	1063	80.19	19.81	3
30	3041	2329	56.63	43.37	0
31	2225	3139	41.48	58.52	6
32	3868	1493	72.15	27.85	9
33	710	4659	13.22	86.78	1
34	1591	3772	29.67	70.33	7
35	993	4376	18.5	81.5	1
36	1288	4081	23.99	76.01	1
37	5034	333	93.8	6.2	3
38	2074	3294	38.64	61.36	2
39	2855	2511	53.21	46.79	4
40	5119	246	95.41	4.59	5
41	2601	2764	48.48	51.52	5
42	3377	1989	62.93	37.07	4
43	2011	3356	37.47	62.53	3
44	2531	2836	47.16	52.84	3
45	4898	471	91.23	8.77	1
46	3048	2317	56.81	43.19	5
47	3276	2087	61.09	38.91	7
48	3348	2017	62.4	37.6	5
49	1898	3468	35.37	64.63	4
50	3688	1677	68.74	31.26	5
51	3192	2177	59.45	40.55	1
52	1908	3458	35.56	64.44	4
53	3240	2126	60.38	39.62	4
54	4045	1315	75.47	24.53	10
55	3078	2291	57.33	42.67	1
56	3109	2260	57.91	42.09	1
57	3273	2093	61	39	4
58	2231	3138	41.55	58.45	1
59	3547	1822	66.06	33.94	1
60	2920	2450	54.38	45.62	0
61	3414	1951	63.63	36.37	5
62	1373	3996	25.57	74.43	1
63	1710	3655	31.87	68.13	5
64	3536	1834	65.85	34.15	0

2-(3)-2 第3版C検査各項目に対する中学生の回答度数（全体、学年別、男女別）

中学生C検査頻度(全体)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	自信がある	どちらともいえない	自信がない	自信がある	どちらともいえない	自信がない	
1	2739	2491	5726	25	22.74	52.26	10
2	2192	2726	6040	20	24.88	55.12	8
3	2405	3723	4834	21.94	33.96	44.1	4
4	4889	2527	3540	44.62	23.06	32.31	10
5	2211	3572	5172	20.18	32.61	47.21	11
6	2799	2863	5291	25.55	26.14	48.31	13
7	1640	2994	6323	14.97	27.32	57.71	9
8	1357	3024	6579	12.38	27.59	60.03	6
9	1211	2612	7132	11.05	23.84	65.11	11
10	1662	3150	6123	15.2	28.81	55.99	31
11	1387	3229	6343	12.66	29.46	57.88	7
12	1752	2789	6419	15.99	25.45	58.57	6
13	2249	2734	5977	20.52	24.95	54.53	6
14	951	2575	7432	8.68	23.5	67.82	8
15	2083	3703	5163	19.02	33.82	47.15	17
16	1876	3448	5626	17.13	31.49	51.38	16
17	1845	3648	5456	16.85	33.32	49.83	17
18	1971	2864	6120	17.99	26.14	55.86	11
19	1739	2602	6614	15.87	23.75	60.37	11
20	1303	2752	6904	11.89	25.11	63	7
21	1306	2773	6868	11.93	25.33	62.74	19
22	2650	3622	4684	24.19	33.06	42.75	10
23	1326	2667	6957	12.11	24.36	63.53	16
24	1787	3720	5450	16.31	33.95	49.74	9
25	1877	2472	6609	17.13	22.56	60.31	8
26	1082	2495	7378	9.88	22.77	67.35	11
27	1372	2803	6774	12.53	25.6	61.87	17
28	1836	3044	6071	16.77	27.8	55.44	15
29	1115	3077	6762	10.18	28.09	61.73	12
30	737	2855	7364	6.73	26.06	67.21	10
31	2035	2706	6219	18.57	24.69	56.74	6
32	1136	2316	7506	10.37	21.14	68.5	8
33	2154	3230	5567	19.67	29.5	50.84	15
34	2252	3169	5535	20.55	28.92	50.52	10
35	1744	2930	6273	15.93	26.77	57.3	19
36	2198	2808	5950	20.06	25.63	54.31	10
37	1782	2313	6863	16.26	21.11	62.63	8
38	1165	2483	7310	10.63	22.66	66.71	8
39	1825	3388	5731	16.68	30.96	52.37	22
40	1395	2890	6669	12.74	26.38	60.88	12
41	1177	2773	7004	10.74	25.31	63.94	12
42	1392	2206	7353	12.71	20.14	67.14	15
43	1158	2787	6995	10.59	25.48	63.94	26
44	1538	2864	6554	14.04	26.14	59.82	10
45	2784	3127	5031	25.44	28.58	45.98	24
46	2204	3402	5348	20.12	31.06	48.82	12
47	1744	3320	5888	15.92	30.31	53.76	14
48	1600	3234	6113	14.62	29.54	55.84	19
49	2103	2775	6080	19.19	25.32	55.48	8
50	1363	2434	7163	12.44	22.21	65.36	6
51	2163	2895	5885	19.77	26.46	53.78	23
52	2353	3718	4882	21.48	33.95	44.57	13
53	1828	3574	5552	16.69	32.63	50.68	12
54	1507	3240	6207	13.76	29.58	56.66	12

中学生C検査頻度(1年生)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	自信がある	どちらともいえない	自信がない	自信がある	どちらともいえない	自信がない	
1	898	827	1992	24.16	22.25	53.59	4
2	850	940	1929	22.86	25.28	51.87	2
3	888	1206	1626	23.87	32.42	43.71	1
4	1638	808	1272	44.06	21.73	34.21	3
5	834	1164	1720	22.43	31.31	46.26	3
6	847	951	1919	22.79	25.59	51.63	4
7	542	997	2179	14.58	26.82	58.61	3
8	495	1062	2163	13.31	28.55	58.15	1
9	466	916	2336	12.53	24.64	62.83	3
10	525	1015	2166	14.17	27.39	58.45	15
11	502	1039	2178	13.5	27.94	58.56	2
12	498	934	2288	13.39	25.11	61.51	1
13	792	937	1991	21.29	25.19	53.52	1
14	320	873	2525	8.61	23.48	67.91	3
15	752	1221	1740	20.25	32.88	46.86	8
16	635	1119	1962	17.09	30.11	52.8	5
17	659	1210	1844	17.75	32.59	49.66	8
18	547	943	2229	14.71	25.36	59.94	2
19	560	911	2247	15.06	24.5	60.44	3
20	486	926	2308	13.06	24.89	62.04	1
21	525	957	2236	14.12	25.74	60.14	3
22	813	1204	1702	21.86	32.37	45.76	2
23	495	893	2329	13.32	24.02	62.66	4
24	536	1165	2018	14.41	31.33	54.26	2
25	586	773	2361	15.75	20.78	63.47	1
26	371	862	2484	9.98	23.19	66.83	4
27	614	1016	2083	16.54	27.36	56.1	8
28	593	930	2191	15.97	25.04	58.99	7
29	381	1016	2322	10.24	27.32	62.44	2
30	196	926	2597	5.27	24.9	69.83	2
31	590	853	2277	15.86	22.93	61.21	1
32	397	771	2551	10.67	20.73	68.59	2
33	801	1045	1869	21.56	28.13	50.31	6
34	760	1050	1908	20.44	28.24	51.32	3
35	683	991	2037	18.4	26.7	54.89	10
36	648	922	2147	17.43	24.8	57.76	4
37	554	743	2422	14.9	19.98	65.13	2
38	419	820	2480	11.27	22.05	66.68	2
39	686	1117	1912	18.47	30.07	51.47	6
40	501	936	2281	13.47	25.17	61.35	3
41	426	945	2347	11.46	25.42	63.13	3
42	459	744	2513	12.35	20.02	67.63	5
43	364	896	2448	9.82	24.16	66.02	13
44	587	961	2170	15.79	25.85	58.36	3
45	1014	940	1759	27.31	25.32	47.37	8
46	732	1160	1825	19.69	31.21	49.1	4
47	603	1098	2016	16.22	29.54	54.24	4
48	449	1038	2228	12.09	27.94	59.97	6
49	766	921	2033	20.59	24.76	54.65	1
50	486	865	2369	13.06	23.25	63.68	1
51	860	979	1873	23.17	26.37	50.46	9
52	776	1215	1726	20.88	32.69	46.44	4
53	624	1155	1939	16.78	31.07	52.15	3
54	474	1034	2210	12.75	27.81	59.44	3

中学生C検査頻度(2年生)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	自信がある	どちらとも いえません	自信がない	自信がある	どちらとも いえません	自信がない	
1	871	807	1934	24.11	22.34	53.54	4
2	705	899	2009	19.51	24.88	55.6	3
3	763	1282	1570	21.11	35.46	43.43	1
4	1568	887	1158	43.4	24.55	32.05	3
5	725	1181	1707	20.07	32.69	47.25	3
6	907	914	1790	25.12	25.31	49.57	5
7	552	985	2076	15.28	27.26	57.46	3
8	427	949	2238	11.82	26.26	61.93	2
9	401	861	2351	11.1	23.83	65.07	3
10	532	1023	2055	14.74	28.34	56.93	6
11	443	1094	2077	12.26	30.27	57.47	2
12	577	887	2150	15.97	24.54	59.49	2
13	690	911	2014	19.09	25.2	55.71	1
14	319	855	2441	8.82	23.65	67.52	1
15	659	1239	1713	18.25	34.31	47.44	5
16	581	1151	1879	16.09	31.87	52.04	5
17	576	1199	1838	15.94	33.19	50.87	3
18	642	917	2053	17.77	25.39	56.84	4
19	568	830	2214	15.73	22.98	61.3	4
20	397	921	2296	10.99	25.48	63.53	2
21	412	959	2236	11.42	26.59	61.99	9
22	864	1178	1571	23.91	32.6	43.48	3
23	411	886	2312	11.39	24.55	64.06	7
24	562	1224	1827	15.55	33.88	50.57	3
25	599	825	2189	16.58	22.83	60.59	3
26	356	832	2424	9.86	23.03	67.11	4
27	428	923	2262	11.85	25.55	62.61	3
28	576	1053	1981	15.96	29.17	54.88	6
29	365	1032	2214	10.11	28.58	61.31	5
30	235	939	2439	6.5	25.99	67.51	3
31	676	866	2072	18.71	23.96	57.33	2
32	350	772	2491	9.69	21.37	68.95	3
33	696	1066	1850	19.27	29.51	51.22	4
34	740	1051	1822	20.48	29.09	50.43	3
35	538	980	2093	14.9	27.14	57.96	5
36	720	920	1973	19.93	25.46	54.61	3
37	573	763	2278	15.86	21.11	63.03	2
38	364	823	2427	10.07	22.77	67.16	2
39	596	1143	1869	16.52	31.68	51.8	8
40	427	955	2229	11.82	26.45	61.73	5
41	357	931	2325	9.88	25.77	64.35	3
42	425	729	2458	11.77	20.18	68.05	4
43	366	950	2293	10.14	26.32	63.54	7
44	468	958	2185	12.96	26.53	60.51	5
45	903	1069	1636	25.03	29.63	45.34	8
46	714	1090	1808	19.77	30.18	50.06	4
47	551	1107	1953	15.26	30.66	54.08	5
48	498	1077	2033	13.8	29.85	56.35	8
49	681	901	2031	18.85	24.94	56.21	3
50	419	794	2402	11.59	21.96	66.45	1
51	689	966	1953	19.1	26.77	54.13	8
52	758	1251	1603	20.99	34.63	44.38	4
53	608	1182	1821	16.84	32.73	50.43	5
54	476	1048	2087	13.18	29.02	57.8	5

中学生C検査頻度(3年生)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	自信がある	どちらとも いえません	自信がない	自信がある	どちらとも いえません	自信がない	
1	970	857	1800	26.74	23.63	49.63	2
2	637	887	2102	17.57	24.46	57.97	3
3	754	1235	1638	20.79	34.05	45.16	2
4	1683	832	1110	46.43	22.95	30.62	4
5	652	1227	1745	17.99	33.86	48.15	5
6	1045	998	1582	28.83	27.53	43.64	4
7	546	1012	2068	15.06	27.91	57.03	3
8	435	1013	2178	12	27.94	60.07	3
9	344	835	2445	9.49	23.04	67.47	5
10	605	1112	1902	16.72	30.73	52.56	10
11	442	1096	2088	12.19	30.23	57.58	3
12	677	968	1981	18.67	26.7	54.63	3
13	767	886	1972	21.16	24.44	54.4	4
14	312	847	2466	8.61	23.37	68.03	4
15	672	1243	1710	18.54	34.29	47.17	4
16	660	1178	1785	18.22	32.51	49.27	6
17	610	1239	1774	16.84	34.2	48.96	6
18	782	1004	1838	21.58	27.7	50.72	5
19	611	861	2153	16.86	23.75	59.39	4
20	420	905	2300	11.59	24.97	63.45	4
21	369	857	2396	10.19	23.66	66.15	7
22	973	1240	1411	26.85	34.22	38.93	5
23	420	888	2316	11.59	24.5	63.91	5
24	689	1331	1605	19.01	36.72	44.28	4
25	692	874	2059	19.09	24.11	56.8	4
26	355	801	2470	9.79	22.09	68.12	3
27	330	864	2429	9.11	23.85	67.04	6
28	667	1061	1899	18.39	29.25	52.36	2
29	369	1029	2226	10.18	28.39	61.42	5
30	306	990	2328	8.44	27.32	64.24	5
31	769	987	1870	21.21	27.22	51.57	3
32	389	773	2464	10.73	21.32	67.95	3
33	657	1119	1848	18.13	30.88	50.99	5
34	752	1068	1805	20.74	29.46	49.79	4
35	523	959	2143	14.43	26.46	59.12	4
36	830	966	1830	22.89	26.64	50.47	3
37	655	807	2163	18.07	22.26	59.67	4
38	382	840	2403	10.54	23.17	66.29	4
39	543	1128	1950	15	31.15	53.85	8
40	467	999	2159	12.88	27.56	59.56	4
41	394	897	2332	10.87	24.76	64.37	6
42	508	733	2382	14.02	20.23	65.75	6
43	428	941	2254	11.81	25.97	62.21	6
44	483	945	2199	13.32	26.05	60.63	2
45	867	1118	1636	23.94	30.88	45.18	8
46	758	1152	1715	20.91	31.78	47.31	4
47	590	1115	1919	16.28	30.77	52.95	5
48	653	1119	1852	18.02	30.88	51.1	5
49	656	953	2016	18.1	26.29	55.61	4
50	458	775	2392	12.63	21.38	65.99	4
51	614	950	2059	16.95	26.22	56.83	6
52	819	1252	1553	22.6	34.55	42.85	5
53	596	1237	1792	16.44	34.12	49.43	4
54	557	1158	1910	15.37	31.94	52.69	4

中学生C検査頻度【男子】							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	自信がある	どちらとも いえない	自信がない	自信がある	どちらとも いえない	自信がない	
1	2317	1567	1708	41.43	28.02	30.54	4
2	1662	1695	2233	29.73	30.32	39.95	6
3	832	1724	3037	14.88	30.82	54.3	3
4	1590	1410	2588	28.45	25.23	46.31	8
5	1364	1903	2320	24.41	34.06	41.52	9
6	1438	1434	2715	25.74	25.67	48.59	9
7	1289	1886	2413	23.07	33.75	43.18	8
8	946	1846	2800	16.92	33.01	50.07	4
9	471	1257	3863	8.42	22.48	69.09	5
10	708	1508	3358	12.7	27.05	60.24	22
11	721	1624	3247	12.89	29.04	58.07	4
12	1004	1528	3060	17.95	27.32	54.72	4
13	1887	1772	1932	33.75	31.69	34.56	5
14	690	1677	3222	12.35	30.01	57.65	7
15	825	1779	2979	14.78	31.86	53.36	13
16	575	1655	3354	10.3	29.64	60.06	12
17	810	1802	2976	14.5	32.25	53.26	8
18	974	1459	3156	17.43	26.1	56.47	7
19	1398	1651	2538	25.02	29.55	45.43	9
20	997	1782	2811	17.84	31.88	50.29	6
21	571	1298	3714	10.23	23.25	66.52	13
22	871	1750	2968	15.58	31.31	53.1	7
23	895	1508	3181	16.03	27.01	56.97	12
24	896	1858	2836	16.03	33.24	50.73	6
25	1640	1755	2195	29.34	31.4	39.27	6
26	822	1655	3111	14.71	29.62	55.67	8
27	645	1468	3470	11.55	26.29	62.15	13
28	451	1458	3677	8.07	26.1	65.83	10
29	613	1611	3362	10.97	28.84	60.19	10
30	328	1445	3816	5.87	25.85	68.28	7
31	1717	1800	2074	30.71	32.19	37.1	5
32	799	1434	3357	14.29	25.65	60.05	6
33	896	1565	3126	16.04	28.01	55.95	9
34	659	1453	3476	11.79	26	62.2	8
35	769	1421	3393	13.77	25.45	60.77	13
36	1044	1425	3121	18.68	25.49	55.83	6
37	1632	1692	2266	29.19	30.27	40.54	6
38	783	1462	3345	14.01	26.15	59.84	6
39	734	1534	3316	13.14	27.47	59.38	12
40	486	1404	3697	8.7	25.13	66.17	9
41	848	1633	3107	15.18	29.22	55.6	8
42	946	1275	3364	16.94	22.83	60.23	11
43	954	1755	2873	17.09	31.44	51.47	14
44	1039	1702	2851	18.58	30.44	50.98	4
45	639	1293	3646	11.46	23.18	65.36	18
46	657	1602	3327	11.76	28.68	59.56	10
47	1105	1736	2745	19.78	31.08	49.14	10
48	547	1601	3433	9.8	28.69	61.51	15
49	1762	1819	2008	31.53	32.55	35.93	7
50	1027	1583	2981	18.37	28.31	53.32	5
51	605	1367	3610	10.84	24.49	64.67	14
52	768	1784	3033	13.75	31.94	54.31	11
53	893	1792	2902	15.98	32.07	51.94	9
54	890	1724	2972	15.93	30.86	53.2	10

中学生C検査頻度【女子】							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	自信がある	どちらとも いえない	自信がない	自信がある	どちらとも いえない	自信がない	
1	422	924	4018	7.87	17.23	74.91	6
2	530	1031	3807	9.87	19.21	70.92	2
3	1573	1999	1797	29.3	37.23	33.47	1
4	3299	1117	952	61.46	20.81	17.73	2
5	847	1669	2852	15.78	31.09	53.13	2
6	1361	1429	2576	25.36	26.63	48.01	4
7	351	1108	3910	6.54	20.64	72.83	1
8	411	1178	3779	7.66	21.94	70.4	2
9	740	1355	3269	13.8	25.26	60.94	6
10	954	1642	2765	17.8	30.63	51.58	9
11	666	1605	3096	12.41	29.9	57.69	3
12	748	1261	3359	13.93	23.49	62.57	2
13	362	962	4045	6.74	17.92	75.34	1
14	261	898	4210	4.86	16.73	78.41	1
15	1258	1924	2184	23.44	35.86	40.7	4
16	1301	1793	2272	24.25	33.41	42.34	4
17	1035	1846	2480	19.31	34.43	46.26	9
18	997	1405	2964	18.58	26.18	55.24	4
19	341	951	4076	6.35	17.72	75.93	2
20	306	970	4093	5.7	18.07	76.23	1
21	735	1475	3154	13.7	27.5	58.8	6
22	1779	1872	1716	33.15	34.88	31.97	3
23	431	1159	3776	8.03	21.6	70.37	4
24	891	1862	2614	16.6	34.69	48.71	3
25	237	717	4414	4.42	13.36	82.23	2
26	260	840	4267	4.84	15.65	79.5	3
27	727	1335	3304	13.55	24.88	61.57	4
28	1385	1586	2394	25.82	29.56	44.62	5
29	502	1466	3400	9.35	27.31	63.34	2
30	409	1410	3548	7.62	26.27	66.11	3
31	318	906	4145	5.92	16.87	77.2	1
32	337	882	4149	6.28	16.43	77.29	2
33	1258	1665	2441	23.45	31.04	45.51	6
34	1593	1716	2059	29.68	31.97	38.36	2
35	975	1509	2880	18.18	28.13	53.69	6
36	1154	1383	2829	21.51	25.77	52.72	4
37	150	621	4597	2.79	11.57	85.64	2
38	382	1021	3965	7.12	19.02	73.86	2
39	1091	1854	2415	20.35	34.59	45.06	10
40	909	1486	2972	16.94	27.69	55.38	3
41	329	1140	3897	6.13	21.24	72.62	4
42	446	931	3989	8.31	17.35	74.34	4
43	204	1032	4122	3.81	19.26	76.93	12
44	499	1162	3703	9.3	21.66	69.03	6
45	2145	1834	1385	39.99	34.19	25.82	6
46	1547	1800	2021	28.82	33.53	37.65	2
47	639	1584	3143	11.91	29.52	58.57	4
48	1053	1633	2680	19.62	30.43	49.94	4
49	341	956	4072	6.35	17.81	75.84	1
50	336	851	4182	6.26	15.85	77.89	1
51	1558	1528	2275	29.06	28.5	42.44	9
52	1585	1934	1849	29.53	36.03	34.44	2
53	935	1782	2650	17.42	33.2	49.38	3
54	617	1516	3235	11.49	28.24	60.26	2

(4)第3版各検査項目に対する高校生の全体、学年別、男女別の回答度数

2-(4)-1 第3版A検査各項目に対する高校生の回答度数(全体、学年別、男女別)

高校全体A検査頻度【全体】								高校生学年別A検査頻度【1年生】							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数	項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない			やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	4445	4270	8387	25.99	24.97	49.04	2	1	1666	1654	3240	25.4	25.21	49.39	1
2	3201	3826	10070	18.72	22.38	58.9	7	2	1177	1493	3889	17.94	22.76	59.29	2
3	5397	6624	5077	31.57	38.74	29.69	6	3	2076	2507	1977	31.65	38.22	30.14	1
4	6761	5233	5105	39.54	30.6	29.86	5	4	2605	1969	1984	39.72	30.02	30.25	3
5	5228	6643	5221	30.59	38.87	30.55	12	5	2017	2557	1982	30.77	39	30.23	5
6	3885	5437	7772	22.73	31.81	45.47	10	6	1600	2052	2905	24.4	31.29	44.3	4
7	3516	4513	9072	20.56	26.39	53.05	3	7	1348	1694	3518	20.55	25.82	53.63	1
8	1796	5077	10229	10.5	29.69	59.81	2	8	679	2000	3881	10.35	30.49	59.16	1
9	2406	4348	10342	14.07	25.43	60.49	8	9	940	1670	3950	14.33	25.46	60.21	1
10	3136	5100	8844	18.36	29.86	51.78	24	10	1093	1975	3481	16.69	30.16	53.15	12
11	3009	5865	8223	17.6	34.3	48.1	7	11	1152	2302	3105	17.56	35.1	47.34	2
12	2176	5465	9458	12.73	31.96	55.31	5	12	861	2118	3580	13.13	32.29	54.58	2
13	3749	4944	8409	21.92	28.91	49.17	2	13	1421	1936	3204	21.66	29.51	48.83	0
14	1428	3972	11700	8.35	23.23	68.42	4	14	545	1540	4474	8.31	23.48	68.21	2
15	4031	5136	7922	23.59	30.05	46.36	15	15	1506	1981	3067	22.98	30.23	46.8	7
16	3119	4925	9051	18.25	28.81	52.95	9	16	1144	1901	3511	17.45	29	53.55	5
17	3238	6366	7490	18.94	37.24	43.82	10	17	1238	2458	2862	18.88	37.48	43.64	3
18	2237	5470	9389	13.08	32	54.92	8	18	879	2118	3560	13.41	32.3	54.29	4
19	2753	4803	9537	16.11	28.1	55.79	11	19	1102	1842	3611	16.81	28.1	55.09	6
20	1624	3748	11729	9.5	21.92	68.59	3	20	625	1435	4500	9.53	21.88	68.6	1
21	2257	4669	10163	13.21	27.32	59.47	15	21	864	1814	3882	13.17	27.65	59.18	1
22	4262	6282	6556	24.92	36.74	38.34	4	22	1566	2413	2580	23.88	36.79	39.34	2
23	2047	4780	10273	11.97	27.95	60.08	4	23	800	1885	3874	12.2	28.74	59.06	2
24	2410	6190	8497	14.1	36.21	49.7	7	24	974	2409	3176	14.85	36.73	48.42	2
25	2671	3933	10495	15.62	23	61.38	5	25	1028	1495	4035	15.68	22.8	61.53	3
26	1510	3554	12036	8.83	20.78	70.39	4	26	566	1370	4624	8.63	20.88	70.49	1
27	2042	3721	11325	11.95	21.78	66.27	16	27	846	1473	4236	12.91	22.47	64.62	6
28	2742	4890	9466	16.04	28.6	55.36	6	28	1018	1897	3643	15.52	28.93	55.55	3
29	1475	4773	10849	8.63	27.92	63.46	7	29	598	1816	4144	9.12	27.69	63.19	3
30	1086	4336	11673	6.35	25.36	68.28	9	30	414	1704	4439	6.31	25.99	67.7	4
31	2532	4366	10202	14.81	25.53	59.66	4	31	1001	1643	3914	15.26	25.05	59.68	3
32	1837	3340	11924	10.74	19.53	69.73	3	32	700	1293	4566	10.67	19.71	69.61	2
33	3387	5019	8690	19.81	29.36	50.83	8	33	1350	1944	3263	20.59	29.65	49.76	4
34	3088	5637	8376	18.06	32.96	48.98	3	34	1199	2205	3156	18.28	33.61	48.11	1
35	2289	4698	10094	13.4	27.5	59.09	23	35	901	1793	3856	13.76	27.37	58.87	11
36	3793	5978	7323	22.19	34.97	42.84	10	36	1545	2194	2819	23.56	33.46	42.99	3
37	3167	3615	10317	18.52	21.14	60.34	5	37	1186	1387	3985	18.08	21.15	60.77	3
38	2448	4026	10624	14.32	23.55	62.14	6	38	945	1543	4070	14.41	23.53	62.06	3
39	4093	5276	7710	23.97	30.89	45.14	25	39	1657	2074	2817	25.31	31.67	43.02	13
40	2572	4817	9705	15.05	28.18	56.77	10	40	934	1846	3776	14.25	28.16	57.6	5
41	2484	4884	9725	14.53	28.57	56.89	11	41	967	1900	3688	14.75	28.99	56.26	6
42	1698	3353	12043	9.93	19.62	70.45	10	42	729	1296	4532	11.12	19.77	69.12	4
43	2195	4355	10535	12.85	25.49	61.66	19	43	799	1674	4081	12.19	25.54	62.27	7
44	2202	4065	10835	12.88	23.77	63.36	2	44	737	1569	4254	11.23	23.92	64.85	1
45	5729	5141	6217	33.53	30.09	36.38	17	45	2266	1904	2382	34.58	29.06	36.36	9
46	3902	5317	7879	22.82	31.1	46.08	6	46	1445	2051	3061	22.04	31.28	46.68	4
47	3108	5485	8503	18.18	32.08	49.74	8	47	1251	2095	3213	19.07	31.94	48.99	2
48	1790	4933	10370	10.47	28.86	60.67	11	48	679	1896	3981	10.36	28.92	60.72	5
49	2384	4017	10699	13.94	23.49	62.57	4	49	957	1571	4032	14.59	23.95	61.46	1
50	2209	3661	11228	12.92	21.41	65.67	6	50	850	1494	4215	12.96	22.78	64.26	2
51	3384	4279	9422	19.81	25.05	55.15	19	51	1387	1583	3584	21.16	24.15	54.68	7
52	3067	5207	8828	17.93	30.45	51.62	2	52	1204	2010	3346	18.35	30.64	51.01	1
53	3529	5883	7684	20.64	34.41	44.95	8	53	1360	2264	2933	20.74	34.53	44.73	4
54	1799	4955	10342	10.52	28.98	60.49	8	54	701	1935	3922	10.69	29.51	59.8	3

高校生学年別A検査頻度【2年生】							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	1623	1650	3311	24.65	25.06	50.29	0
2	1198	1450	3932	18.21	22.04	59.76	4
3	2036	2603	1942	30.94	39.55	29.51	3
4	2521	2032	2030	38.3	30.87	30.84	1
5	1926	2646	2007	29.27	40.22	30.51	5
6	1346	2108	3126	20.46	32.04	47.51	4
7	1313	1737	3534	19.94	26.38	53.68	0
8	676	1919	3989	10.27	29.15	60.59	0
9	920	1737	3923	13.98	26.4	59.62	4
10	1196	1934	3446	18.19	29.41	52.4	8
11	1158	2277	3145	17.6	34.6	47.8	4
12	785	2063	3735	11.92	31.34	56.74	1
13	1348	1924	3311	20.48	29.23	50.3	1
14	510	1500	4573	7.75	22.79	69.47	1
15	1529	1967	3084	23.24	29.89	46.87	4
16	1183	1866	3532	17.98	28.35	53.67	3
17	1226	2434	2920	18.63	36.99	44.38	4
18	796	2038	3747	12.1	30.97	56.94	3
19	984	1853	3743	14.95	28.16	56.88	4
20	619	1431	4534	9.4	21.73	68.86	0
21	869	1798	3908	13.22	27.35	59.44	9
22	1616	2424	2544	24.54	36.82	38.64	0
23	736	1791	4057	11.18	27.2	61.62	0
24	900	2275	3405	13.68	34.57	51.75	4
25	921	1519	4144	13.99	23.07	62.94	0
26	589	1372	4621	8.95	20.84	70.21	2
27	731	1420	4425	11.12	21.59	67.29	8
28	1038	1884	3660	15.77	28.62	55.61	2
29	547	1841	4195	8.31	27.97	63.72	1
30	408	1607	4567	6.2	24.42	69.39	2
31	900	1676	4008	13.67	25.46	60.87	0
32	725	1276	4583	11.01	19.38	69.61	0
33	1234	1918	3429	18.75	29.14	52.1	3
34	1176	2168	3240	17.86	32.93	49.21	0
35	879	1870	3829	13.36	28.43	58.21	6
36	1333	2374	2873	20.26	36.08	43.66	4
37	1157	1389	4038	17.57	21.1	61.33	0
38	964	1547	4072	14.64	23.5	61.86	1
39	1572	2009	3000	23.89	30.53	45.59	3
40	993	1899	3690	15.09	28.85	56.06	2
41	844	1866	3873	12.82	28.35	58.83	1
42	558	1286	4736	8.48	19.54	71.98	4
43	810	1680	4085	12.32	25.55	62.13	9
44	891	1528	4165	13.53	23.21	63.26	0
45	2158	2042	2379	32.8	31.04	36.16	5
46	1498	2066	3019	22.76	31.38	45.86	1
47	1076	2141	3364	16.35	32.53	51.12	3
48	635	1832	4113	9.65	27.84	62.51	4
49	846	1502	4235	12.85	22.82	64.33	1
50	862	1378	4341	13.1	20.94	65.96	3
51	1217	1702	3659	18.5	25.87	55.62	6
52	1150	1996	3438	17.47	30.32	52.22	0
53	1291	2276	3014	19.62	34.58	45.8	3
54	650	1839	4093	9.88	27.94	62.18	2

高校生学年別A検査頻度【3年生】							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	1156	966	1836	29.21	24.41	46.39	1
2	826	883	2249	20.87	22.31	56.82	1
3	1285	1514	1158	32.47	38.26	29.26	2
4	1635	1232	1091	41.31	31.13	27.56	1
5	1285	1440	1232	32.47	36.39	31.13	2
6	939	1277	1741	23.73	32.27	44	2
7	855	1082	2020	21.61	27.34	51.05	2
8	441	1158	2359	11.14	29.26	59.6	1
9	546	941	2469	13.8	23.79	62.41	3
10	847	1191	1917	21.42	30.11	48.47	4
11	699	1286	1973	17.66	32.49	49.85	1
12	530	1284	2143	13.39	32.45	54.16	2
13	980	1084	1894	24.76	27.39	47.85	1
14	373	932	2653	9.42	23.55	67.03	1
15	996	1188	1771	25.18	30.04	44.78	4
16	792	1158	2008	20.01	29.26	50.73	1
17	774	1474	1708	19.57	37.26	43.17	3
18	562	1314	2082	14.2	33.2	52.6	1
19	667	1108	2183	16.85	27.99	55.15	1
20	380	882	2695	9.6	22.29	68.11	2
21	524	1057	2373	13.25	26.73	60.02	5
22	1080	1445	1432	27.29	36.52	36.19	2
23	511	1104	2342	12.91	27.9	59.19	2
24	536	1506	1916	13.54	38.05	48.41	1
25	722	919	2316	18.25	23.22	58.53	2
26	355	812	2791	8.97	20.52	70.52	1
27	465	828	2664	11.75	20.92	67.32	2
28	686	1109	2163	17.33	28.02	54.65	1
29	330	1116	2510	8.34	28.21	63.45	3
30	264	1025	2667	6.67	25.91	67.42	3
31	631	1047	2280	15.94	26.45	57.6	1
32	412	771	2775	10.41	19.48	70.11	1
33	803	1157	1998	20.29	29.23	50.48	1
34	713	1264	1980	18.02	31.94	50.04	2
35	509	1035	2409	12.88	26.18	60.94	6
36	915	1410	1631	23.13	35.64	41.23	3
37	824	839	2294	20.82	21.2	57.97	2
38	539	936	2482	13.62	23.65	62.72	2
39	864	1193	1893	21.87	30.2	47.92	9
40	645	1072	2239	16.3	27.1	56.6	3
41	673	1118	2164	17.02	28.27	54.72	4
42	411	771	2775	10.39	19.48	70.13	2
43	586	1001	2369	14.81	25.3	59.88	3
44	574	968	2416	14.5	24.46	61.04	1
45	1305	1195	1456	32.99	30.21	36.8	3
46	959	1200	1799	24.23	30.32	45.45	1
47	781	1249	1926	19.74	31.57	48.69	3
48	476	1205	2276	12.03	30.45	57.52	2
49	581	944	2432	14.68	23.86	61.46	2
50	497	789	2672	12.56	19.93	67.51	1
51	780	994	2179	19.73	25.15	55.12	6
52	713	1201	2044	18.01	30.34	51.64	1
53	878	1343	1737	22.18	33.93	43.89	1
54	448	1181	2327	11.32	29.85	58.82	3

高校生男女別A検査頻度(男子)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	3683	2589	2136	43.8	30.79	25.4	1
2	2138	2370	3898	25.43	28.19	46.37	3
3	1945	3305	3155	23.14	39.32	37.54	4
4	2037	3014	3357	24.23	35.85	39.93	1
5	2711	3352	2340	32.26	39.89	27.85	6
6	1715	2687	4000	20.41	31.98	47.61	7
7	2263	2656	3488	26.92	31.59	41.49	2
8	1145	2957	4305	13.62	35.17	51.21	2
9	961	2187	5257	11.43	26.02	62.55	4
10	1175	2500	4721	13.99	29.78	56.23	13
11	1505	3011	3890	17.9	35.82	46.28	3
12	915	2843	4649	10.88	33.82	55.3	2
13	2884	3015	2508	34.3	35.86	29.83	2
14	911	2569	4926	10.84	30.56	58.6	3
15	1464	2603	4334	17.43	30.98	51.59	8
16	846	2287	5271	10.07	27.21	62.72	5
17	1252	3100	4052	14.9	36.89	48.22	5
18	791	2637	4977	9.41	31.37	59.21	4
19	1999	2890	3515	23.79	34.39	41.83	5
20	1104	2522	4781	13.13	30	56.87	2
21	1045	2393	4964	12.44	28.48	59.08	7
22	1095	3087	4223	13.03	36.73	50.24	4
23	1344	2708	4354	15.99	32.22	51.8	3
24	947	3101	4357	11.27	36.89	51.84	4
25	2161	2857	3387	25.71	33.99	40.3	4
26	1068	2410	4929	12.7	28.67	58.63	2
27	971	2088	5340	11.56	24.86	63.58	10
28	646	2300	5459	7.69	27.36	64.95	4
29	748	2557	5100	8.9	30.42	60.68	4
30	385	2120	5900	4.58	25.22	70.2	4
31	1962	2935	3509	23.34	34.92	41.74	3
32	1124	2095	5188	13.37	24.92	61.71	2
33	1394	2537	4474	16.59	30.18	53.23	4
34	869	2604	4935	10.34	30.97	58.69	1
35	885	2296	5211	10.55	27.36	62.09	17
36	1510	3021	3871	17.97	35.96	46.07	7
37	2858	2668	2880	34	31.74	34.26	3
38	1396	2447	4562	16.61	29.11	54.28	4
39	1953	2562	3882	23.26	30.51	46.23	12
40	854	2473	5076	10.16	29.43	60.41	6
41	1629	2792	3982	19.39	33.23	47.39	6
42	1115	1993	5295	13.27	23.72	63.01	6
43	1754	2762	3883	20.88	32.88	46.23	10
44	1169	2431	4808	13.9	28.91	57.18	1
45	1709	2419	4272	20.35	28.8	50.86	9
46	1105	2505	4796	13.15	29.8	57.05	3
47	1721	2830	3852	20.48	33.68	45.84	6
48	407	2164	5833	4.84	25.75	69.41	5
49	1853	2715	3839	22.04	32.29	45.66	2
50	1481	2291	4632	17.62	27.26	55.12	5
51	1042	2080	5274	12.41	24.77	62.82	13
52	687	2412	5309	8.17	28.69	63.14	1
53	1521	2919	3966	18.09	34.73	47.18	3
54	791	2535	5081	9.41	30.15	60.44	2

高校生男女別A検査頻度(女子)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	762	1681	6251	8.76	19.34	5.95	1
2	1063	1456	6172	12.23	16.75	35.54	4
3	3452	3319	1922	39.71	38.18	22.11	2
4	4724	2219	1748	54.36	25.53	28.97	4
5	2517	3291	2881	28.97	37.88	15.76	6
6	2170	2750	3772	24.97	31.64	58.51	3
7	1253	1857	5584	14.41	21.36	54.36	1
8	651	2120	5924	7.49	24.38	8.37	0
9	1445	2161	5085	16.63	24.86	36.42	4
10	1961	2600	4123	22.58	29.94	13.95	11
11	1504	2854	4333	17.31	32.84	36.75	4
12	1261	2622	4809	14.51	30.17	26.83	3
13	865	1929	5901	9.95	22.19	39.71	0
14	517	1403	6774	5.95	16.14	34.02	1
15	2567	2533	3588	29.55	29.16	12.38	7
16	2273	2638	3780	26.15	30.35	59.85	4
17	1986	3266	3438	22.85	37.58	33.16	5
18	1446	2833	4412	16.64	32.6	26.27	4
19	754	1913	6022	8.68	22.02	81.76	6
20	520	1226	6948	5.98	14.1	55.33	1
21	1212	2276	5199	13.95	26.2	24.38	8
22	3167	3195	2333	36.42	36.75	39.71	0
23	703	2072	5919	8.09	23.83	49.86	1
24	1463	3089	4140	16.83	35.54	68.13	3
25	510	1076	7108	5.87	12.38	7.49	1
26	442	1144	7107	5.08	13.16	56.2	2
27	1071	1633	5985	12.33	18.79	5.87	6
28	2096	2590	4007	24.11	29.79	32.6	2
29	727	2216	5749	8.36	25.49	24.86	3
30	701	2216	5773	8.07	25.5	14.51	5
31	570	1431	6693	6.56	16.46	32.84	1
32	713	1245	6736	8.2	14.32	17.31	1
33	1993	2482	4216	22.93	28.56	26.2	4
34	2219	3033	3441	25.53	34.89	30.17	2
35	1404	2402	4883	16.16	27.64	37.88	6
36	2283	2957	3452	26.27	34.02	75.87	3
37	309	947	7437	3.55	10.89	67.87	2
38	1052	1579	6062	12.1	18.16	22.19	2
39	2140	2714	3828	24.65	31.26	16.63	13
40	1718	2344	4629	19.77	26.97	9.95	4
41	855	2092	5743	9.84	24.07	16.14	5
42	583	1360	6748	6.71	15.65	77.92	4
43	441	1593	6652	5.08	18.34	47.63	9
44	1033	1634	6027	11.88	18.79	50.77	1
45	4020	2722	1945	46.28	31.33	37.58	8
46	2797	2812	3083	32.18	32.35	16.83	3
47	1387	2655	4651	15.96	30.54	39.56	2
48	1383	2769	4537	15.92	31.87	16.64	6
49	531	1302	6860	6.11	14.98	22.85	2
50	728	1370	6596	8.37	15.76	38.18	1
51	2342	2199	4148	26.95	25.31	25.53	6
52	2380	2795	3519	27.38	32.15	27.64	1
53	2008	2964	3718	23.11	34.11	20.11	5
54	1008	2420	5261	11.6	27.85	16.16	6

2-(4)-2 第3版B検査各項目に対する高校生の回答度数（全体、学年別、男女別）

高校全体B検査頻度(全体)						高校全体B検査頻度(1年生)						高校全体B検査頻度(2年生)					
項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数	項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数	項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数
	あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない			あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない			あてはまる	あてまらない			
1	4930	12156	28.85	71.15	18	1	1839	4716	28.05	71.95	6	1	1916	4660	29.14	70.86	8
2	4414	12679	25.82	74.18	11	2	1589	4968	24.23	75.77	4	2	1717	4864	26.09	73.91	3
3	7437	9658	43.5	56.5	9	3	2794	3764	42.6	57.4	3	3	2772	3808	42.13	57.87	4
4	10047	7051	58.76	41.24	6	4	3732	2826	56.91	43.09	3	4	3896	2687	59.18	40.82	1
5	10507	6589	61.46	38.54	8	5	4228	2331	64.46	35.54	2	5	3919	2662	59.55	40.45	3
6	5642	11452	33.01	66.99	10	6	2092	4465	31.9	68.1	4	6	2149	4432	32.65	67.35	3
7	6207	10885	36.32	63.68	12	7	2205	4352	33.63	66.37	4	7	2383	4196	36.22	63.78	5
8	14434	2660	84.44	15.56	10	8	5375	1183	81.96	18.04	3	8	5622	958	85.44	14.56	4
9	7984	9110	46.71	53.29	10	9	2960	3596	45.15	54.85	5	9	3071	3510	46.66	53.34	3
10	3135	13959	18.34	81.66	10	10	1183	5374	18.04	81.96	4	10	1208	5373	18.36	81.64	3
11	9485	7607	55.49	44.51	12	11	3571	2987	54.45	45.55	3	11	3597	2983	54.67	45.33	4
12	7689	9405	44.98	55.02	10	12	2903	3655	44.27	55.73	3	12	2920	3661	44.37	55.63	3
13	13915	3183	81.38	18.62	6	13	5507	1052	83.96	16.04	2	13	5273	1309	80.11	19.89	2
14	8300	8799	48.54	51.46	5	14	3192	3368	48.66	51.34	1	14	3148	3434	47.83	52.17	2
15	7278	9818	42.57	57.43	8	15	2622	3937	39.98	60.02	2	15	2796	3785	42.49	57.51	3
16	14286	2801	83.61	16.39	17	16	5394	1158	82.33	17.67	9	16	5495	1085	83.51	16.49	4
17	7966	9116	46.63	53.37	22	17	2948	3604	44.99	55.01	9	17	3043	3532	46.28	53.72	9
18	5721	11359	33.5	66.5	24	18	2181	4366	33.31	66.69	14	18	2117	4462	32.18	67.82	5
19	6923	10169	40.5	59.5	12	19	2550	4006	38.9	61.1	5	19	2615	3965	39.74	60.26	4
20	7905	9188	46.25	53.75	11	20	2894	3663	44.14	55.86	4	20	3036	3544	46.14	53.86	4
21	12615	4478	73.8	26.2	11	21	5001	1553	76.3	23.7	7	21	4738	1844	71.98	28.02	2
22	3981	13096	23.31	76.69	27	22	1478	5074	22.56	77.44	9	22	1495	5080	22.74	77.26	9
23	8595	8488	50.31	49.69	21	23	3075	3481	46.9	53.1	5	23	3330	3246	50.64	49.36	8
24	13701	3393	80.15	19.85	10	24	5184	1374	79.05	20.95	3	24	5240	1340	79.64	20.36	4
25	4831	12265	28.26	71.74	8	25	1938	4622	29.54	70.46	1	25	1761	4819	26.76	73.24	4
26	8039	9050	47.04	52.96	15	26	3368	3187	51.38	48.62	6	26	2901	3679	44.09	55.91	4
27	7412	9679	43.37	56.63	13	27	2747	3808	41.91	58.09	6	27	2795	3784	42.48	57.52	5
28	10653	6442	62.32	37.68	9	28	3853	2705	58.75	41.25	3	28	4122	2459	62.63	37.37	3
29	13159	3934	76.98	23.02	11	29	5148	1409	78.51	21.49	4	29	4973	1609	75.55	24.45	2
30	8490	8601	49.68	50.32	13	30	3124	3433	47.64	52.36	4	30	3295	3284	50.08	49.92	5
31	7751	9336	45.36	54.64	17	31	2956	3596	45.12	54.88	9	31	2872	3706	43.66	56.34	6
32	10487	6605	61.36	38.64	12	32	3910	2647	59.63	40.37	4	32	4038	2540	61.39	38.61	6
33	2834	14263	16.58	83.42	7	33	1089	5470	16.6	83.4	2	33	1031	5550	15.67	84.33	3
34	5481	11612	32.07	67.93	11	34	1926	4633	29.36	70.64	2	34	2157	4422	32.79	67.21	5
35	6087	11005	35.61	64.39	12	35	2277	4281	34.72	65.28	3	35	2333	4244	35.47	64.53	7
36	5445	11647	31.86	68.14	12	36	1952	4604	29.77	70.23	5	36	2035	4545	30.93	69.07	4
37	15155	1937	88.67	11.33	12	37	5860	695	89.4	10.6	6	37	5792	788	88.02	11.98	4
38	7044	10048	41.21	58.79	12	38	2622	3935	39.99	60.01	4	38	2716	3864	41.28	58.72	4
39	8103	8990	47.41	52.59	11	39	3138	3419	47.86	52.14	4	39	3014	3566	45.81	54.19	4
40	15838	1247	92.7	7.3	19	40	5987	569	91.32	8.68	5	40	6120	458	93.04	6.96	6
41	6097	10988	35.69	64.31	19	41	2400	4153	36.62	63.38	8	41	2259	4317	34.35	65.65	8
42	8278	8818	48.42	51.58	8	42	3349	3209	51.07	48.93	3	42	3049	3533	46.32	53.68	2
43	6253	10835	36.59	63.41	16	43	2350	4206	35.85	64.15	5	43	2303	4275	35.01	64.99	6
44	7997	9095	46.79	53.21	12	44	2951	3608	44.99	55.01	2	44	3096	3482	47.07	52.93	6
45	14150	2948	82.76	17.24	6	45	5626	933	85.78	14.22	2	45	5366	1216	81.53	18.47	2
46	9987	7095	58.47	41.53	22	46	3707	2844	56.59	43.41	10	46	3842	2735	58.42	41.58	7
47	11150	5943	65.23	34.77	11	47	4132	2423	63.04	36.96	6	47	4291	2291	65.19	34.81	2
48	10371	6720	60.68	39.32	13	48	3848	2710	58.68	41.32	3	48	4009	2570	60.94	39.06	5
49	5945	11150	34.78	65.22	9	49	2125	4435	32.39	67.61	1	49	2320	4259	35.26	64.74	5
50	9821	7270	57.46	42.54	13	50	3870	2687	59.02	40.98	4	50	3718	2862	56.5	43.5	4
51	9012	8085	52.71	47.29	7	51	3367	3193	51.33	48.67	1	51	3458	3123	52.55	47.45	3
52	6388	10706	37.37	62.63	10	52	2220	4338	33.85	66.15	3	52	2517	4065	38.24	61.76	2
53	8707	8380	50.96	49.04	17	53	3547	3010	54.09	45.91	4	53	3151	3428	47.89	52.11	5
54	12006	5073	70.3	29.7	25	54	4576	1979	69.81	30.19	6	54	4597	1972	69.98	30.02	15
55	9738	7350	56.99	43.01	16	55	3560	2997	54.29	45.71	4	55	3786	2793	57.55	42.45	5
56	7867	9231	46.01	53.99	6	56	2915	3642	44.46	55.54	4	56	3033	3550	46.07	53.93	1
57	9257	7841	54.14	45.86	6	57	3501	3059	53.37	46.63	1	57	3549	3032	53.93	46.07	3
58	5219	11875	30.53	69.47	10	58	1953	4607	29.77	70.23	1	58	2002	4576	30.43	69.57	6
59	11313	5782	66.18	33.82	9	59	4327	2232	65.97	34.03	2	59	4333	2248	65.84	34.16	3
60	8915	8178	52.16	47.84	11	60	3248	3311	49.52	50.48	2	60	3486	3095	52.97	47.03	3
61	9671	7419	56.59	43.41	14	61	3997	2559	60.97	39.03	5	61	3496	3084	53.13	46.87	4
62	4133	12962	24.18	75.82	9	62	1547	5012	23.59	76.41	2	62	1622	4958	24.65	75.35	4
63	6319	10774	36.97	63.03	11	63	2312	4246	35.25	64.75	3	63	2401	4178	36.49	63.51	5
64	10271	6823	60.09	39.91	10	64	3825	2733	58.33	41.67	3	64	3949	2632	60.01	39.99	3

高校全体B検査頻度(3年生)					
項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数
	あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない	
1	1175	2780	29.71	70.29	4
2	1108	2847	28.02	71.98	4
3	1871	2086	47.28	52.72	2
4	2419	1538	61.13	38.87	2
5	2360	1596	59.66	40.34	3
6	1401	2555	35.41	64.59	3
7	1619	2337	40.93	59.07	3
8	3437	519	86.88	13.12	3
9	1953	2004	49.36	50.64	2
10	744	3212	18.81	81.19	3
11	2317	1637	58.6	41.4	5
12	1866	2089	47.18	52.82	4
13	3135	822	79.23	20.77	2
14	1960	1997	49.53	50.47	2
15	1860	2096	47.02	52.98	3
16	3397	558	85.89	14.11	4
17	1975	1980	49.94	50.06	4
18	1423	2531	35.99	64.01	5
19	1758	2198	44.44	55.56	3
20	1975	1981	49.92	50.08	3
21	2876	1081	72.68	27.32	2
22	1008	2942	25.52	74.48	9
23	2190	1761	55.43	44.57	8
24	3277	679	82.84	17.16	3
25	1132	2824	28.61	71.39	3
26	1770	2184	44.76	55.24	5
27	1870	2087	47.26	52.74	2
28	2678	1278	67.69	32.31	3
29	3038	916	76.83	23.17	5
30	2071	1884	52.36	47.64	4
31	1923	2034	48.6	51.4	2
32	2539	1418	64.16	35.84	2
33	714	3243	18.04	81.96	2
34	1398	2557	35.35	64.65	4
35	1477	2480	37.33	62.67	2
36	1458	2498	36.86	63.14	3
37	3503	454	88.53	11.47	2
38	1706	2249	43.14	56.86	4
39	1951	2005	49.32	50.68	3
40	3731	220	94.43	5.57	8
41	1438	2518	36.35	63.65	3
42	1880	2076	47.52	52.48	3
43	1600	2354	40.47	59.53	5
44	1950	2005	49.3	50.7	4
45	3158	799	79.81	20.19	2
46	2438	1516	61.66	38.34	5
47	2727	1229	68.93	31.07	3
48	2514	1440	63.58	36.42	5
49	1500	2456	37.92	62.08	3
50	2233	1721	56.47	43.53	5
51	2187	1769	55.28	44.72	3
52	1651	2303	41.76	58.24	5
53	2009	1942	50.85	49.15	8
54	2833	1122	71.63	28.37	4
55	2392	1560	60.53	39.47	7
56	1919	2039	48.48	51.52	1
57	2207	1750	55.77	44.23	2
58	1264	2692	31.95	68.05	3
59	2653	1302	67.08	32.92	4
60	2181	1772	55.17	44.83	6
61	2178	1776	55.08	44.92	5
62	964	2992	24.37	75.63	3
63	1606	2350	40.6	59.4	3
64	2497	1458	63.14	36.86	4

高校全体B検査頻度(男子)					
項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数
	あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない	
1	2655	5745	31.61	68.39	9
2	1935	6467	23.03	76.97	7
3	3976	4429	47.31	52.69	4
4	4673	3733	55.59	44.41	3
5	5124	3281	60.96	39.04	4
6	2478	5926	29.49	70.51	5
7	3242	5161	38.58	61.42	6
8	6434	1971	76.55	23.45	4
9	4033	4373	47.98	52.02	3
10	1459	6946	17.36	82.64	4
11	5220	3183	62.12	37.88	6
12	3452	4952	41.08	58.92	5
13	6827	1578	81.23	18.77	4
14	3582	4825	42.61	57.39	2
15	3642	4764	43.33	56.67	3
16	6404	1992	76.27	23.73	13
17	3467	4932	41.28	58.72	10
18	2446	5951	29.13	70.87	12
19	3479	4921	41.42	58.58	9
20	4167	4235	49.6	50.4	7
21	6087	2315	72.45	27.55	7
22	1840	6556	21.92	78.08	13
23	4533	3864	53.98	46.02	12
24	6347	2056	75.53	24.47	6
25	2394	6013	28.48	71.52	2
26	3856	4546	45.89	54.11	7
27	4533	3869	53.95	46.05	7
28	5219	3186	62.09	37.91	4
29	6503	1902	77.37	22.63	4
30	3769	4634	44.85	55.15	6
31	3958	4443	47.11	52.89	8
32	4332	4068	51.57	48.43	9
33	1611	6794	19.17	80.83	4
34	2619	5786	31.16	68.84	4
35	4291	4110	51.08	48.92	8
36	3068	5333	36.52	63.48	8
37	7132	1273	84.85	15.15	4
38	3230	5174	38.43	61.57	5
39	4080	4322	48.56	51.44	7
40	7438	959	88.58	11.42	12
41	2905	5494	34.59	65.41	10
42	3788	4617	45.07	54.93	4
43	3744	4655	44.58	55.42	10
44	4155	4247	49.45	50.55	7
45	6343	2062	75.47	24.53	4
46	5021	3378	59.78	40.22	10
47	5578	2824	66.39	33.61	7
48	4960	3443	59.03	40.97	6
49	2961	5444	35.23	64.77	4
50	4110	4290	48.93	51.07	9
51	4297	4108	51.12	48.88	4
52	2795	5610	33.25	66.75	4
53	4555	3846	54.22	45.78	8
54	5737	2657	68.35	31.65	15
55	4828	3570	57.49	42.51	11
56	2790	5616	33.19	66.81	3
57	4254	4152	50.61	49.39	3
58	2161	6245	25.71	74.29	3
59	5938	2464	70.67	29.33	7
60	3792	4610	45.13	54.87	7
61	4686	3715	55.78	44.22	8
62	2157	6249	25.66	74.34	3
63	2962	5441	35.25	64.75	6
64	4350	4052	51.77	48.23	7

高校全体B検査頻度(女子)					
項目番号	実数		パーセンテージ		欠損値の度数
	あてはまる	あてまらない	あてはまる	あてまらない	
1	2275	6411	26.19	73.81	9
2	2479	6212	28.52	71.48	4
3	3461	5229	39.83	60.17	5
4	5374	3318	61.83	38.17	3
5	5383	3308	61.94	38.06	4
6	3164	5526	36.41	63.59	5
7	2965	5724	34.12	65.88	6
8	8000	689	92.07	7.93	6
9	3951	4737	45.48	54.52	7
10	1676	7013	19.29	80.71	6
11	4265	4424	49.09	50.91	6
12	4237	4453	48.76	51.24	5
13	7088	1605	81.54	18.46	2
14	4718	3974	54.28	45.72	3
15	3636	5054	41.84	58.16	5
16	7882	809	90.69	9.31	4
17	4499	4184	51.81	48.19	12
18	3275	5408	37.72	62.28	12
19	3444	5248	39.62	60.38	3
20	3738	4953	43.01	56.99	4
21	6528	2163	75.11	24.89	4
22	2141	6540	24.66	75.34	14
23	4062	4624	46.76	53.24	9
24	7354	1337	84.62	15.38	4
25	2437	6252	28.05	71.95	6
26	4183	4504	48.15	51.85	8
27	2879	5810	33.13	66.87	6
28	5434	3256	62.53	37.47	5
29	6656	2032	76.61	23.39	7
30	4721	3967	54.34	45.66	7
31	3793	4893	43.67	56.33	9
32	6155	2537	70.81	29.19	3
33	1223	7469	14.07	85.93	3
34	2862	5826	32.94	67.06	7
35	1796	6895	20.67	79.33	4
36	2377	6314	27.35	72.65	4
37	8023	664	92.36	7.64	8
38	3814	4874	43.9	56.1	7
39	4023	4668	46.29	53.71	4
40	8400	288	96.69	3.31	7
41	3192	5494	36.75	63.25	9
42	4490	4201	51.66	48.34	4
43	2509	6180	28.88	71.12	6
44	3842	4848	44.21	55.79	5
45	7807	886	89.81	10.19	2
46	4966	3717	57.19	42.81	12
47	5572	3119	64.11	35.89	4
48	5411	3277	62.28	37.72	7
49	2984	5706	34.34	65.66	5
50	5711	2980	65.71	34.29	4
51	4715	3977	54.25	45.75	3
52	3593	5096	41.35	58.65	6
53	4152	4534	47.8	52.2	9
54	6269	2416	72.18	27.82	10
55	4910	3780	56.5	43.5	5
56	5077	3615	58.41	41.59	3
57	5003	3689	57.56	42.44	3
58	3058	5630	35.2	64.8	7
59	5375	3318	61.83	38.17	2
60	5123	3568	58.95	41.05	4
61	4985	3704	57.37	42.63	6
62	1976	6713	22.74	77.26	6
63	3357	5333	38.63	61.37	5
64	5921	2771	68.12	31.88	3

2-(4)-3 第3版C検査各項目に対する高校生の回答度数（全体、学年別、男女別）

高校生C検査頻度(全体)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらともいえない	やりたくない	やりたい	どちらともいえない	やりたくない	
1	3994	4457	8629	23.38	26.09	50.52	24
2	2423	4679	9981	14.18	27.39	58.43	21
3	3264	6253	7568	19.1	36.6	44.3	19
4	7742	4490	4852	45.32	26.28	28.4	20
5	2707	5989	8378	15.85	35.08	49.07	30
6	4575	5185	7323	26.78	30.35	42.87	21
7	2304	5307	9471	13.49	31.07	55.44	22
8	1587	4715	10780	9.29	27.6	63.11	22
9	1342	3882	11859	7.86	22.72	69.42	21
10	3130	5748	8193	18.34	33.67	47.99	33
11	1614	4883	10588	9.45	28.58	61.97	19
12	2964	5094	9015	17.36	29.84	52.8	31
13	3135	4762	9190	18.35	27.87	53.78	17
14	1170	4072	11841	6.85	23.84	69.31	21
15	2709	5970	8391	15.87	34.97	49.16	34
16	3040	5742	8299	17.8	33.62	48.59	23
17	2531	6142	8410	14.82	35.95	49.23	21
18	3590	5489	8002	21.02	32.14	46.85	23
19	2439	4608	10027	14.28	26.99	58.73	30
20	1447	4427	11209	8.47	25.91	65.61	21
21	1287	4071	11713	7.54	23.85	68.61	33
22	4520	5984	6579	26.46	35.03	38.51	21
23	1573	4035	11478	9.21	23.62	67.18	18
24	3146	6480	7454	18.42	37.94	43.64	24
25	3170	4558	9360	18.55	26.67	54.78	16
26	1035	3843	12205	6.06	22.5	71.45	21
27	1199	3637	12237	7.02	21.3	71.67	31
28	2820	5323	8931	16.52	31.18	52.31	30
29	1242	4883	10958	7.27	28.58	64.15	21
30	1448	5115	10520	8.48	29.94	61.58	21
31	3538	5016	8532	20.71	29.36	49.94	18
32	1245	3614	12226	7.29	21.15	71.56	19
33	2477	5355	9248	14.5	31.35	54.15	24
34	3692	5357	8035	21.61	31.36	47.03	20
35	1735	4437	10896	10.17	26	63.84	36
36	3650	5144	8282	21.38	30.12	48.5	28
37	2739	4073	10267	16.04	23.85	60.11	25
38	1189	3730	12163	6.96	21.84	71.2	22
39	2033	5113	9924	11.91	29.95	58.14	34
40	1814	4761	10506	10.62	27.87	61.51	23
41	1376	4282	11413	8.06	25.08	66.86	33
42	1681	3802	11595	9.84	22.26	67.89	26
43	1773	4825	10461	10.39	28.28	61.32	45
44	1980	4882	10218	11.59	28.58	59.82	24
45	3624	5717	7727	21.23	33.5	45.27	36
46	3570	5806	7708	20.9	33.99	45.12	20
47	2183	5653	9236	12.79	33.11	54.1	32
48	3049	5697	8327	17.86	33.37	48.77	31
49	2593	4799	9692	15.18	28.09	56.73	20
50	1437	3560	12086	8.41	20.84	70.75	21
51	2555	4496	10015	14.97	26.34	58.68	38
52	3337	6159	7585	19.54	36.06	44.41	23
53	2333	6174	8572	13.66	36.15	50.19	25
54	2622	5823	8636	15.35	34.09	50.56	23

高校生C検査頻度(1年生)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらともいえない	やりたくない	やりたい	どちらともいえない	やりたくない	
1	1496	1651	3401	22.85	25.21	51.94	13
2	917	1729	3905	14	26.39	59.61	10
3	1283	2355	2913	19.58	35.95	44.47	10
4	2940	1674	1935	44.89	25.56	29.55	12
5	1105	2282	3160	16.88	34.86	48.27	14
6	1768	1980	2803	26.99	30.22	42.79	10
7	896	1971	3684	13.68	30.09	56.24	10
8	600	1815	4135	9.16	27.71	63.13	11
9	555	1508	4487	8.47	23.02	68.5	11
10	1121	2162	3265	17.12	33.02	49.86	13
11	639	1879	4034	9.75	28.68	61.57	9
12	1120	1895	3532	17.11	28.94	53.95	14
13	1202	1770	3580	18.35	27.01	54.64	9
14	418	1581	4552	6.38	24.13	69.49	10
15	1068	2262	3217	16.31	34.55	49.14	14
16	1131	2109	3311	17.26	32.19	50.54	10
17	978	2286	3287	14.93	34.9	50.18	10
18	1281	2106	3162	19.56	32.16	48.28	12
19	954	1758	3837	14.57	26.84	58.59	12
20	550	1681	4320	8.4	25.66	65.94	10
21	529	1613	4408	8.08	24.63	67.3	11
22	1651	2259	2643	25.19	34.47	40.33	8
23	597	1582	4374	9.11	24.14	66.75	8
24	1196	2437	2917	18.26	37.21	44.53	11
25	1196	1707	3650	18.25	26.05	55.7	8
26	404	1471	4676	6.17	22.45	71.38	10
27	538	1459	4552	8.21	22.28	69.51	12
28	1051	1977	3519	16.05	30.2	53.75	14
29	499	1883	4169	7.62	28.74	63.64	10
30	550	1904	4095	8.4	29.07	62.53	12
31	1373	1847	3332	20.96	28.19	50.85	9
32	491	1407	4654	7.49	21.47	71.03	9
33	1007	2109	3434	15.37	32.2	52.43	11
34	1401	1969	3181	21.39	30.06	48.56	10
35	700	1705	4140	10.7	26.05	63.25	16
36	1356	1953	3240	20.71	29.82	49.47	12
37	1073	1493	3983	16.38	22.8	60.82	12
38	485	1422	4644	7.4	21.71	70.89	10
39	875	2034	3636	13.37	31.08	55.55	16
40	655	1819	4077	10	27.77	62.23	10
41	542	1680	4325	8.28	25.66	66.06	14
42	669	1509	4372	10.21	23.04	66.75	11
43	669	1821	4049	10.23	27.85	61.92	22
44	689	1797	4061	10.52	27.45	62.03	14
45	1498	2141	2903	22.9	32.73	44.37	19
46	1358	2160	3034	20.73	32.97	46.31	9
47	855	2145	3548	13.06	32.76	54.18	13
48	1088	2174	3283	16.62	33.22	50.16	16
49	1024	1812	3715	15.63	27.66	56.71	10
50	546	1428	4578	8.33	21.79	69.87	9
51	1046	1764	3735	15.98	26.95	57.07	16
52	1265	2341	2944	19.31	35.74	44.95	11
53	944	2286	3319	14.41	34.91	50.68	12
54	997	2169	3385	15.22	33.11	51.67	10

高校生C検査頻度(2年生)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	1479	1752	3347	22.48	26.63	50.88	6
2	890	1845	3843	13.53	28.05	58.42	6
3	1203	2420	2956	18.29	36.78	44.93	5
4	2946	1770	1864	44.77	26.9	28.33	4
5	975	2312	3289	14.83	35.16	50.02	8
6	1640	2008	2930	24.93	30.53	44.54	6
7	830	2082	3665	12.62	31.66	55.72	7
8	602	1849	4128	9.15	28.1	62.75	5
9	487	1542	4549	7.4	23.44	69.15	6
10	1197	2222	3153	18.21	33.81	47.98	12
11	606	1915	4057	9.21	29.11	61.68	6
12	1099	2015	3461	16.71	30.65	52.64	9
13	1140	1870	3570	17.33	28.42	54.26	4
14	462	1524	4591	7.02	23.17	69.8	7
15	951	2377	3244	14.47	36.17	49.36	12
16	1121	2307	3148	17.05	35.08	47.87	8
17	968	2410	3200	14.72	36.64	48.65	6
18	1361	2132	3085	20.69	32.41	46.9	6
19	849	1809	3916	12.91	27.52	59.57	10
20	540	1733	4304	8.21	26.35	65.44	7
21	459	1594	4520	6.98	24.25	68.77	11
22	1746	2337	2492	26.56	35.54	37.9	9
23	561	1551	4468	8.53	23.57	67.9	4
24	1176	2518	2882	17.88	38.29	43.83	8
25	1133	1792	3655	17.22	27.23	55.55	4
26	381	1520	4677	5.79	23.11	71.1	6
27	401	1393	4779	6.1	21.19	72.71	11
28	1066	2119	3390	16.21	32.23	51.56	9
29	473	1887	4217	7.19	28.69	64.12	7
30	527	2023	4030	8.01	30.74	61.25	4
31	1275	2015	3289	19.38	30.63	49.99	5
32	482	1402	4695	7.33	21.31	71.36	5
33	905	2027	3645	13.76	30.82	55.42	7
34	1371	2120	3087	20.84	32.23	46.93	6
35	645	1762	4164	9.82	26.81	63.37	13
36	1364	1994	3216	20.75	30.33	48.92	10
37	981	1613	3984	14.91	24.52	60.57	6
38	463	1442	4674	7.04	21.92	71.04	5
39	739	1973	3861	11.24	30.02	58.74	11
40	698	1900	3981	10.61	28.88	60.51	5
41	478	1598	4498	7.27	24.31	68.42	10
42	578	1448	4551	8.79	22.02	69.2	7
43	617	1899	4054	9.39	28.9	61.7	14
44	772	1958	3849	11.73	29.76	58.5	5
45	1311	2243	3018	19.95	34.13	45.92	12
46	1369	2303	2906	20.81	35.01	44.18	6
47	811	2155	3605	12.34	32.8	54.86	13
48	1164	2223	3188	17.7	33.81	48.49	9
49	909	1880	3790	13.82	28.58	57.61	5
50	563	1367	4647	8.56	20.78	70.66	7
51	911	1731	3932	13.86	26.33	59.81	10
52	1266	2415	2897	19.25	36.71	44.04	6
53	824	2418	3335	12.53	36.76	50.71	7
54	945	2292	3341	14.37	34.84	50.79	6

高校生C検査頻度(3年生)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	1019	1054	1881	25.77	26.66	47.57	5
2	616	1105	2233	15.58	27.95	56.47	5
3	778	1478	1699	19.67	37.37	42.96	4
4	1856	1046	1053	46.93	26.45	26.62	4
5	627	1395	1929	15.87	35.31	48.82	8
6	1167	1197	1590	29.51	30.27	40.21	5
7	578	1254	2122	14.62	31.71	53.67	5
8	385	1051	2517	9.74	26.59	63.67	6
9	300	832	2823	7.59	21.04	71.38	4
10	812	1364	1775	20.55	34.52	44.93	8
11	369	1089	2497	9.33	27.53	63.14	4
12	745	1184	2022	18.86	29.97	51.18	8
13	793	1122	2040	20.05	28.37	51.58	4
14	290	967	2698	7.33	24.45	68.22	4
15	690	1331	1930	17.46	33.69	48.85	8
16	788	1326	1840	19.93	33.54	46.54	5
17	585	1446	1923	14.8	36.57	48.63	5
18	948	1251	1755	23.98	31.64	44.39	5
19	636	1041	2274	16.1	26.35	57.56	8
20	357	1013	2585	9.03	25.61	65.36	4
21	299	864	2785	7.57	21.88	70.54	11
22	1123	1388	1444	28.39	35.09	36.51	4
23	415	902	2636	10.5	22.82	66.68	6
24	774	1525	1655	19.58	38.57	41.86	5
25	841	1059	2055	21.26	26.78	51.96	4
26	250	852	2852	6.32	21.55	72.13	5
27	260	785	2906	6.58	19.87	73.55	8
28	703	1227	2022	17.79	31.05	51.16	7
29	270	1113	2572	6.83	28.14	65.03	4
30	371	1188	2395	9.38	30.05	60.57	5
31	890	1154	1911	22.5	29.18	48.32	4
32	272	805	2877	6.88	20.36	72.76	5
33	565	1219	2169	14.29	30.84	54.87	6
34	920	1268	1767	23.26	32.06	44.68	4
35	390	970	2592	9.87	24.54	65.59	7
36	930	1197	1826	23.53	30.28	46.19	6
37	685	967	2300	17.33	24.47	58.2	7
38	241	866	2845	6.1	21.91	71.99	7
39	419	1106	2427	10.6	27.99	61.41	7
40	461	1042	2448	11.67	26.37	61.96	8
41	356	1004	2590	9.01	25.42	65.57	9
42	434	845	2672	10.98	21.39	67.63	8
43	487	1105	2358	12.33	27.97	59.7	9
44	519	1127	2308	13.13	28.5	58.37	5
45	815	1333	1806	20.61	33.71	45.68	5
46	843	1343	1768	21.32	33.97	44.71	5
47	517	1353	2083	13.08	34.23	52.69	6
48	797	1300	1856	20.16	32.89	46.95	6
49	660	1107	2187	16.69	28	55.31	5
50	328	765	2861	8.3	19.35	72.36	5
51	598	1001	2348	15.15	25.36	59.49	12
52	806	1403	1744	20.39	35.49	44.12	6
53	565	1470	1918	14.29	37.19	48.52	6
54	680	1362	1910	17.21	34.46	48.33	7

高校生C検査頻度(男子)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	3258	2717	2422	38.8	32.36	28.84	12
2	1661	2832	3905	19.78	33.72	46.5	11
3	1465	2843	4089	17.45	33.86	48.7	12
4	2886	2430	3080	34.37	28.94	36.68	13
5	1673	3089	3629	19.94	36.81	43.25	18
6	2110	2565	3722	25.13	30.55	44.33	12
7	1720	3149	3528	20.48	37.5	42.02	12
8	1078	2840	4476	12.84	33.83	53.32	15
9	601	1899	5896	7.16	22.62	70.22	13
10	1288	2773	4329	15.35	33.05	51.6	19
11	872	2554	4971	10.38	30.42	59.2	12
12	1471	2583	4335	17.53	30.79	51.67	20
13	2503	3038	2858	29.8	36.17	34.03	10
14	798	2605	4993	9.5	31.03	59.47	13
15	1109	2860	4424	13.21	34.08	52.71	16
16	933	2652	4812	11.11	31.58	57.31	12
17	1111	2928	4358	13.23	34.87	51.9	12
18	1579	2685	4132	18.81	31.98	49.21	13
19	1891	2847	3656	22.53	33.92	43.55	15
20	1045	2822	4530	12.44	33.61	53.95	12
21	668	2097	5622	7.96	25	67.03	22
22	1505	2779	4110	17.93	33.11	48.96	15
23	1038	2285	5074	12.36	27.21	60.43	12
24	1376	3132	3885	16.39	37.32	46.29	16
25	2630	2952	2817	31.31	35.15	33.54	10
26	768	2612	5018	9.15	31.1	59.75	11
27	598	2002	5794	7.12	23.85	69.03	15
28	814	2475	5105	9.7	29.49	60.82	15
29	691	2615	5091	8.23	31.14	60.63	12
30	553	2470	5372	6.59	29.42	63.99	14
31	2772	3043	2583	33.01	36.23	30.76	11
32	810	2319	5268	9.65	27.62	62.74	12
33	1094	2623	4681	13.03	31.23	55.74	11
34	1212	2419	4766	14.43	28.81	56.76	12
35	793	2149	5447	9.45	25.62	64.93	20
36	1573	2527	4290	18.75	30.12	51.13	19
37	2459	2963	2972	29.29	35.3	35.41	15
38	783	2303	5308	9.33	27.44	63.24	15
39	1094	2468	4826	13.04	29.42	57.53	21
40	658	2331	5405	7.84	27.77	64.39	15
41	988	2564	4837	11.78	30.56	57.66	20
42	1133	2216	5043	13.5	26.41	60.09	17
43	1431	3043	3909	17.07	36.3	46.63	26
44	1064	2820	4513	12.67	33.58	53.75	12
45	1256	2389	4746	14.97	28.47	56.56	18
46	1199	2604	4596	14.28	31	54.72	10
47	1316	2867	4210	15.68	34.16	50.16	16
48	844	2752	4798	10.05	32.79	57.16	15
49	2026	3011	3361	24.12	35.85	40.02	11
50	1049	2325	5021	12.5	27.7	59.81	14
51	870	2138	5381	10.37	25.49	64.14	20
52	1114	2943	4341	13.27	35.04	51.69	11
53	1122	2992	4281	13.37	35.64	50.99	14
54	1321	2914	4162	15.73	34.7	49.57	12

高校生C検査頻度(女子)							
項目番号	実数			パーセンテージ			欠損値の度数
	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	やりたい	どちらとも いえない	やりたくない	
1	736	1740	6207	8.48	20.04	71.48	12
2	762	1847	6076	8.77	21.27	69.96	10
3	1799	3410	3479	20.71	39.25	40.04	7
4	4856	2060	1772	55.89	23.71	20.4	7
5	1034	2900	4749	11.91	33.4	54.69	12
6	2465	2620	3601	28.38	30.16	41.46	9
7	584	2158	5943	6.72	24.85	68.43	10
8	509	1875	6304	5.86	21.58	72.56	7
9	741	1983	5963	8.53	22.83	68.64	8
10	1842	2975	3864	21.22	34.27	44.51	14
11	742	2329	5617	8.54	26.81	64.65	7
12	1493	2511	4680	17.19	28.92	53.89	11
13	632	1724	6332	7.27	19.84	72.88	7
14	372	1467	6848	4.28	16.89	78.83	8
15	1600	3110	3967	18.44	35.84	45.72	18
16	2107	3090	3487	24.26	35.58	40.15	11
17	1420	3214	4052	16.35	37	46.65	9
18	2011	2804	3870	23.15	32.29	44.56	10
19	548	1761	6371	6.31	20.29	73.4	15
20	402	1605	6679	4.63	18.48	76.89	9
21	619	1974	6091	7.13	22.73	70.14	11
22	3015	3205	2469	34.7	36.89	28.42	6
23	535	1750	6404	6.16	20.14	73.7	6
24	1770	3348	3569	20.38	38.54	41.08	8
25	540	1606	6543	6.21	18.48	75.3	6
26	267	1231	7187	3.07	14.17	82.75	10
27	601	1635	6443	6.92	18.84	74.24	16
28	2006	2848	3826	23.11	32.81	44.08	15
29	551	2268	5867	6.34	26.11	67.55	9
30	895	2645	5148	10.3	30.44	59.25	7
31	766	1973	5949	8.82	22.71	68.47	7
32	435	1295	6958	5.01	14.91	80.09	7
33	1383	2732	4567	15.93	31.47	52.6	13
34	2480	2938	3269	28.55	33.82	37.63	8
35	942	2288	5449	10.85	26.36	62.78	16
36	2077	2617	3992	23.91	30.13	45.96	9
37	280	1110	7295	3.22	12.78	84	10
38	406	1427	6855	4.67	16.42	78.9	7
39	939	2645	5098	10.82	30.47	58.72	13
40	1156	2430	5101	13.31	27.97	58.72	8
41	388	1718	6576	4.47	19.79	75.74	13
42	548	1586	6552	6.31	18.26	75.43	9
43	342	1782	6552	3.94	20.54	75.52	19
44	916	2062	5705	10.55	23.75	65.7	12
45	2368	3328	2981	27.29	38.35	34.36	18
46	2371	3202	3112	27.3	36.87	35.83	10
47	867	2786	5026	9.99	32.1	57.91	16
48	2205	2945	3529	25.41	33.93	40.66	16
49	567	1788	6331	6.53	20.58	72.89	9
50	388	1235	7065	4.47	14.22	81.32	7
51	1685	2358	4634	19.42	27.18	53.41	18
52	2223	3216	3244	25.6	37.04	37.36	12
53	1211	3182	4291	13.95	36.64	49.41	11
54	1301	2909	4474	14.98	33.5	51.52	11

労働政策研究報告書 No.87

中学生、高校生の職業レディネスの発達

— 職業レディネス・テスト標準化調査の分析を通して —

発行年月日 2007年 5月10日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井4-8-23

(編集) 研究調整部研究調整課 TEL 03-5991-5104

(販売) 研究調整部成果普及課 TEL 03-5903-6263

FAX 03-5903-6115

印刷・製本 大東印刷工業株式会社

©2007

* 労働政策研究報告書全文はホームページで提供しております。

(URL:<http://www.jil.go.jp/>)